

心を耕す積極的な生徒指導を  
推進する特別活動の取組事例

平成29年3月  
広島県教育委員会



## はじめに

近年、核家族化や都市化の進行といった社会の変化の影響や、家庭や地域の教育力の低下、規範意識や人間関係の希薄化などを背景として、子供たちをめぐる様々な課題が生じています。そのような中、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養うことを目的とした特別活動のより一層の充実が求められています。

昨年度、生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校の実施要項に、各教科や特別活動等において、体験活動を充実させることで、社会性をはぐくみ、児童生徒間の絆を強め、望ましい集団を育成することを明記し、指導にあたっては、ねらいを明確にし、他の教育活動との関連を十分に図り、組織的、計画的に実施すると決めました。この実施要項を踏まえ、各校において、児童生徒自らが課題を発見、解決するといった主体的な活動を推進するとともに社会奉仕活動や異年齢交流等を通じて児童生徒の自己肯定感を育成する取組を実施していただき2年目になりました。

今年度も、各校での取組を「心を耕す積極的な生徒指導を推進する特別活動の取組事例」としてまとめました。

本取組事例を参考にいただき、今後の特別活動のより一層の充実に役立つことを願っています。

平成29年6月

広島県教育委員会

# 目次

## 学級活動

○学級や学校の生活づくり	頁
広島市立己斐小学校	2
呉市立阿賀小学校	4
○適応と成長及び健康安全	
広島市立井口台小学校	7
大竹市立大竹小学校	9
尾道市立栗原小学校	11
広島市立五日市中学校	13
安芸高田市立吉田中学校	14

## 児童会・生徒会活動

○児童会・生徒会の計画や運営	
広島市立可部小学校	17
広島市立吉島小学校	19
広島市立舟入小学校	21
広島市立福木小学校	23
広島市立八木小学校	25
広島市立尾長小学校	27
広島市立段原小学校	29
広島市立川内小学校	31
広島市立伴小学校	33
広島市立中野東小学校	35
竹原市立竹原西小学校	37
東広島市立郷田小学校	39
東広島市立寺西小学校	41
熊野町立熊野第四小学校	43
安芸高田市立吉田小学校	45
北広島町立壬生小学校	47
三原市立本郷小学校	49
尾道市立吉和小学校	51
尾道市立久保小学校	53
尾道市立因島南小学校	55
三次市立十日市小学校	57
庄原市立庄原小学校	59
広島市立城山北中学校	61
広島市立亀崎中学校	63
大竹市立大竹中学校	65
廿日市市立佐伯中学校	67
三次市立十日市中学校	69
三次市立八次中学校	71
県立安西高等学校	73

○異年齢集団による交流	頁
広島市立戸坂小学校	75
広島市立東浄小学校	77
広島市立草津小学校	79
広島市立真亀小学校	81
広島市立吉島東小学校	84
広島市立竹屋小学校	87
広島市立神崎小学校	89
広島市立天満小学校	91
広島市立観音小学校	93
広島市立梅林小学校	95
広島市立亀崎小学校	97
広島市立河内小学校	99
広島市立八幡東小学校	101
広島市立五日市中央小学校	103
広島市立五日市小学校	105
広島市立上温品小学校	107
広島市立温品小学校	109
広島市立比治山小学校	111
広島市立字品小学校	113
廿日市市立友和小学校	115
廿日市市立大野東小学校	117
府中町立府中中央小学校	119
府中町立府中小学校	121
尾道市立栗原北小学校	123
府中市立府中小学校	125
広島市立大州中学校	127
東広島市立中央中学校	129
廿日市市立大野東中学校	131
廿日市市立野坂中学校	133
熊野町立熊野中学校	135

○児童・生徒の諸活動 についての連絡調整	
広島市立庚午中学校	138
広島市立観音中学校	140
福山市立神辺中学校	142
東広島市立向陽中学校	144

○学校行事への協力	
広島市立落合東小学校	147
広島市立可部南小学校	149
広島市立中山小学校	151
広島市立上安小学校	153
広島市立矢野小学校	155
三原市立田野浦小学校	157
福山市立加茂中学校	159
海田町立海田中学校	161
尾道市立栗原中学校	163

○ボランティア活動などの社会参加	
安芸高田市立小田東小学校	166
広島市立可部中学校	168
広島市立三和中学校	170
廿日市市立廿日市中学校	172
府中町立府中緑ヶ丘中学校	174
尾道市立久保中学校	175
庄原市立庄原中学校	177
県立松永高等学校	178
県立府中東高等学校	180

## 学校行事

○儀式的行事	
尾道市立高須小学校	183
県立熊野高等学校	185

○文化的行事	
福山市立手城小学校	188
廿日市市立廿日市小学校	190
廿日市市立平良小学校	192
安芸太田町立加計小学校	194
広島市立戸坂中学校	196
広島市立己斐中学校	198
広島市立五日市観音中学校	200
福山市立新市中央中学校	202
尾道市立吉和中学校	204
県立沼南高等学校	206

○健康安全・体育の行事	頁
広島市立庚午小学校	209
北広島町立八重小学校	211
広島市立吉島中学校	213
広島市立江波中学校	215
広島市立福木中学校	217
広島市立亀山中学校	219
広島市立瀬野川東中学校	221
福山市立東中学校	223
福山市立大門中学校	225
呉市立阿賀中学校	227
呉市立昭和北中学校	229
竹原市立竹原中学校	231
三原市立第二中学校	233
尾道市立高西中学校	235
府中市立府中中学校	237
県立黒瀬高等学校	239

○旅行・集団宿泊の行事	
広島市立亀山小学校	242
県立河内高等学校	244

○勤労生産・奉仕の行事	
廿日市市立阿品台西小学校	247
広島市立古田中学校	249
広島市立落合中学校	251
広島市立国泰寺中学校	253
安芸高田市立高宮中学校	255
三原市立本郷中学校	257
県立福山商業高等学校	259

# 学級活動

学級や学校の生活づくり

指定校番号	28017	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立己斐小学校	校長	竹川 智子	生徒指導主事	吉實 亮
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『スマイルタイムで学級力向上』

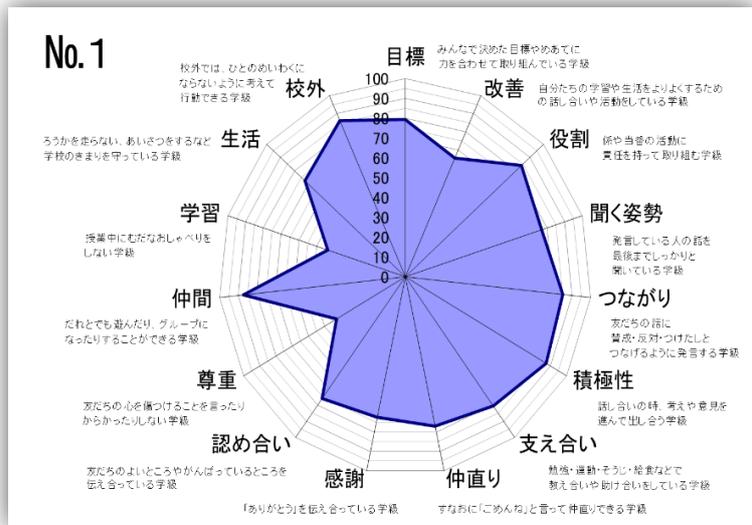
取組のねらい『学級力向上』

学級力・学年力向上のために、「スマイルタイム」をもつことや「スマイルミーティング」の取組をすることにより、自治的・主体的に学級の課題を話し合い、解決していこうとする意欲や力を育てる。

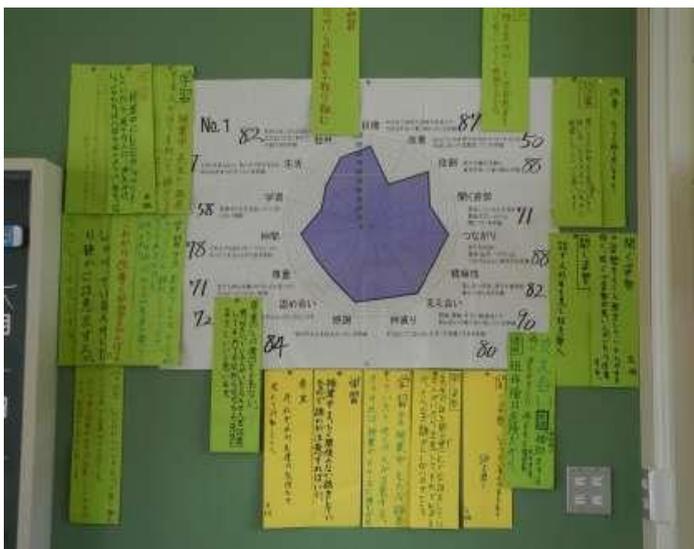
取組の具体的内容 『スマイルタイム』

右図（レーダーチャート）は、児童一人一人が自分達の学級をアンケートによって評価したもので、アンケートの結果を入力すれば、目標・改善・役割・聞く姿勢・・・等、全部で15の観点別に分けて、グラフ化されている。

己斐小学校では、このスマイルタイム（学級力を高めるための一連の活動）を実施し、レーダーチャートをもとに、学級の強みや弱みを客観的にとらえることができている。



取組の課題・創意工夫 『スマイルミーティング』



7月までに2回以上実施した学級も多く、各学級で自らの課題を共有して具体的な解決方法を考え、学級の取組として掲示したり振り返ったりしている。

左写真はレーダーチャート発表後に、学級会（スマイルミーティング）をもち、自分たちの弱い項目の原因について考え、その対策について話し合い、短冊にまとめて掲示したものである。例えば、学習面が低い（私語が多いと感じている）学級は、声を掛け合うといった意識面だけにとどまらず、自らペナルティを科したりポイント制にしたりと、工夫

しながら学級力の向上を目指している。

課題は、アンケート記載時、直前の活動内容や教員の声かけがレーダーチャートの結果に影響を及ぼすことも多く、客観的なデータがとりにくい点があげられる。

## 取組の成果（効果）『自治的・主体的』

児童は数年前から、スマイルタイムを定期的に行っており、児童の学級力に対する意識は高い。前回と比べながら、「今回は野外活動でがんばったから、『つながり』があがったね!」「まだ、〇〇って言っている人がいるから『尊重』が低いままだ!」と学級会で積極的に意見を言う児童が増えてきた。

学校評価アンケートの「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか。」という項目では87%の児童が肯定的な回答をしている。また、学級に問題が起こると、まず自分たちの力で解決しようといった気持ちが芽生えており、効果が上がってきている。

## 今後の展開『サイクル』

年間を通して考えると、特に後期はドッジボール大会や長縄大会、学習発表会等、学級が協力して取り組む行事が多い。行事の前や後に効果的に学級力アンケートを実施し、子ども自らが学級の実態に目を向けて課題を見付けさせ、子どもたちが自治的・主体的に課題解決ができるようにさせる。また、学級力アンケート実施後に、必ず「スマイルミーティング」をもち、課題を確認し、課題解決のための具体的な取組を実施する。(具体的な取組は、意識できるように掲示しておく。)そして、その取組を自分たちで評価していくサイクルを繰り返して、学級力を高めていく。形式的にならないようにするための手立てとして、例えば、はがき新聞を活用して、個人の振り返りを書かせるような取組を行うようにする。



## 他校へのアドバイス『見える化』

学級力向上プロジェクトは、早稲田大学教職大学院の田中教授が研究されている新しい学級経営の手法である。(書籍化されており、第2巻には己斐小学校の取組も掲載されている) 今まで、漠然と「落ち着いたクラス」「荒れているクラス」と表現していたものが、数値化することにより、児童だけではなく教員側からも、担当している学級の長所・短所を可視化することができる。

また何より、児童が主体的に関わる事により、学級の問題を自律的に改善することができ、いじめ防止等に繋がるのではないかと考え、取組を継続している。



指定校番号	28040	学級活動	<input type="radio"/>	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	-----------------------	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀小学校	校長	山下 伸一	生徒指導主事	堀江 大志
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『クラスチャレンジ』

取組のねらい『キーワード：望ましい行動を増やす』

- ア 学級全体が一つの目標に向かって努力することで、学級内での適切な行動を増やし、いじめ等の問題行動を減らしていく。
- イ 一人では達成できない目標を、他者と協力しながら学級全体で達成していく経験を通して、児童相互の絆を深める場とする。

取組の具体的内容『キーワード：学校全体で取り組む』

1 取組の流れ

- ① 学年・学級の良さ、課題などについて学年または学級で話し合い、学級をこれまで以上に高めていくための「チャレンジ目標」（取組期間等も含めて）を設定する。「チャレンジ目標」については、教室入り口に掲示する。（用紙は生徒指導部が準備）
- ② 達成した場合の褒賞について担任が学級に伝える。
- ③ 「チャレンジ目標」を達成するための取組を行う。
- ④ 帰りの会や掲示物、校内放送を活用し、進捗状況を児童にフィードバックする。
- ⑤ 取組最終日、結果について学級全体で共有する。
- ⑥ 達成した場合、学級へ褒賞を与える。そうでない場合は、要因について話し合い、再度チャレンジさせる。

2 目標について

- ア チャレンジ目標を達成することで、学級が高まるような目標
- イ 実現可能性のある目標
- ウ 達成したことが、だれであっても明確に分かるような具体的な目標（数値目標が望ましい）
- エ 学級の児童全員に活躍の場が与えられるような目標



- (例) 「長縄跳び〇〇回」「チャイムスタート出来た授業〇〇回」「宿題忘れ0人〇〇回」「全員発表の授業〇〇回」「名札忘れ0人〇〇回」「遅刻0人〇〇回」など

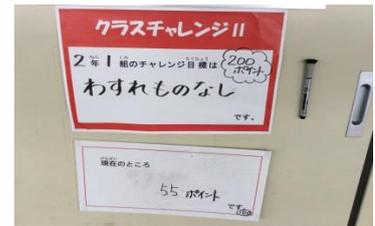
※ 「くれチャレンジマッチ・スタジアム」や「ぴっかぴかトイレキャンペーン」「全校交通安全運動」についても取り組ませても良い。

3 褒賞について

- ア 褒賞については、達成した喜びを学級全体が感じられるような内容を示す。  
(例)「金曜日に出される宿題なし」「お楽しみ会の実施」「担任から全員へ表彰状」「臨時席替え」など
- イ 期間中に達成した学級を、月一回の生活朝会で表彰する。
- ウ 全学級達成した場合、校長より全校児童へ褒賞が贈られる。

## 取組の課題・創意工夫『キーワード：取組の見える化』

- ア 全学級の「チャレンジ目標」を集約した掲示板を下足場に設置し、他の学年の取組についても児童が知ることができるようにした。
- イ 取組の進捗状況が一目で分かるよう、「チャレンジ目標」だけでなく、「途中経過」についても掲示した。
- ウ 全ての学級が、教室入り口に「目標」「途中経過」を掲示した。自分の学級だけでなく、他の学級の様子も知ることによって、お互い刺激し合えるようにした。
- エ 「チャレンジ目標」を達成した学級は、給食時間の放送を通じて学校全体に紹介した。さらに学級へ表彰状を与えたり、取組を集約した掲示物にシールを貼ったりした。
- オ 「クラスチャレンジ」の取組について、「学校だより」「掲示板」を通し、保護者や地域の方へ伝えた。



## 取組の成果（効果）『キーワード：望ましい中間的集団をつくる』

本校ではアセス（学校適応感尺度）を年2回実施している。その中でいじめられていないと感じている指標「非侵害的欲求」の学校平均は、平成27年7月の55.3に対し、直近の結果は、62.7と7ポイント以上の向上が見られた。学校全体の雰囲気が、望ましい行動へ向かおうとしていることの表れであると考えている。

## 今後の展開『キーワード：取組の継続』

目標を達成した学級が、給食時の放送で紹介された際、大きな喜びの声が職員室まで伝わることもあり、児童がみんなで取り組み、達成することの喜びを感じていることがうかがえた。

今後は、この取組を定着させ、「目標を立てること」「それに向かってみんなで力を合わせ努力すること」が心地よく、当たり前と感じられるよう、継続していきたいと考えている。

## 他校へのアドバイス『キーワード：取組の再構成』

生徒指導の充実を目指して、新たな取組を増やすことも大切であるが、これまでの行事や取組を生徒指導の充実という視点で捉え直し、再構成し、取り組んでいくことは、取組の重点化、焦点化につながり、より有効なのではないかと考える。

学級で目標を立ててみんなで取り組んでいくことは、特に珍しく新しい取組ではない。しかし、それを学校全体で取り組み、経過、結果について公開していくことで、意欲を維持・向上していくことができた。学校全体で取り組むことが大きな力になることを実感できた取組であった。

# 学級活動

適応と成長及び健康安全

指定校番号	28033	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立井口台小学校	校長	中島 孝子	生徒指導主事	松岡 亮平
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『豊かにかかわり合う学級活動のための土壌作りの充実』

**取組のねらい** 『キーワード 豊かなかかわり』

本校の児童は、自分なりの考えを持っていたとしても、周りの目を気にするあまり、遠慮したり本音を隠したりする傾向が見られた。さらに、友だちが伝えようとするに関心を持たず、聞こうとしなかったり、相手を傷つけるような言葉を発したりする傾向も見られた。

そのため、児童に、自分の意見を素直に表現できる共感的な人間関係を育成するとともに、自分の意見を主張するだけでなく、相手を尊重しようとする態度を身につけさせ、何事にもやりがいや達成感を感じさせることができるようにする。

**取組の具体的内容** 『キーワード フリートーク』

全学級でフリートークを実施した。フリートークとは、話題に沿って、児童が自分の考えを述べ合う話し合い活動のことである。フリートークを通して、話す力、聴く力、話し合う力を育てることができると言われていたが、本校では、いじめ・不登校等予防的生徒指導の推進を図るためのライフスキル教育の一環として、友だちに共感したり、よさを感じたりするような仲間関係を育てていくことを一番のねらいとして行っている。基本的に、教員はフリートークに加わらず、児童たちだけで話し合う。

以下がフリートークの具体的な実施内容である。

- ① 1人の人〔リーダー〕が話題を出す。例えば、「好きな〇〇はなんですか?」「△△と□□どちらを選びますか?」「もし、〇〇だったら、どうしたいですか?」「どうしたら、〇〇できますか?」などの内容で行う。

「今日のテーマは『こたつとストーブのどちらが好きですか?』です。このテーマにしたのは、最近とても寒いので、みんながどっちを使ってあたたまっているかを聞いてみたいからです。わたしは、こたつの方が好きです。なぜかという、こたつに入るとぼかぼかしてあったかいからです。おたずねはありますか?」

- ② みんなで話題について自分の思ったことや考えたことを話し合う。

「私は、●●さんとちがって、ストーブが好きです。なぜかという、●●さんはあったまるまで、5分かかると言ったけど、うちの家のストーブはすぐあたたまるからストーブが好きです。」

- ③ 話し合いについてふりかえりをする。

「私（リーダー）が心に残ったのは、☆☆君の話です。理由は・・・だからです。みなさんはどうですか?」

「ぼくが心に残ったのは、★★さんの話です。理由は・・・だからです。」

- ④ 教員がフリートークについて感想を述べる。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 楽しむフリートークで仲間作り』

教員は、話す力、聴く力をつけようとしすぎないように、あくまでも、仲間関係を育てる視点に立ち、フリートークを児童たちが楽しめる形で続けていった。そのため、教師は「児童のありのままを聴く」「児童の話を楽しんで聴く」「児童の思いを想像しながら聴く」ことに徹した。また、聴き方の良い児童や伝わりやすい話し方をした児童を価値付けたりすることで、児童に相手意識や仲間意識を育み、話し合いやすい学級風土を作り上げられるよう工夫した。

### 取組の成果（効果）『キーワード フリートークに対する評価』

「フリートークで、進んで友達の話の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりすることができた。」という項目に対して、「よくできた」と答えた児童が、平成26年度…41%・平成27年度…44%・平成28年度…51%と徐々に増加している。普段の授業とは違い、和気あいあいとした雰囲気の中で進められるため、自分の意見や考えが述べやすいと感じている児童が存在しているように思われる。その一方で「あまりできなかった」もしくは「できなかった」と答えた児童は、平成26年度…20%・平成27年度…20%・平成28年度…19%と横ばい傾向にあり、積極的に参加できていないと実感している児童が存在しているという実態もある。意見を述べることだけが大切なのではなく、人の意見をしっかりと聴くことで参加していることも大切なことであると教員が価値付けていくことで、フリートークを楽しむことができる児童を増やしていきたい。

また、教員対象に行ったアンケートの中には、「フリートークが日々の授業にも成果として表れており、意見を発表したり聴いたりする行動や姿勢に成果が出ている」と回答しているものもあった。

### 今後の展開『キーワード より効果的なフリートークの活用』

フリートークを本校で取り入れて3年目だが、話題が似たようなものになってしまうという課題がある。継続して行っていくことで以前の学級で取り上げた話題と重複しているという事態も頻繁に起こってきていることが、やや児童にとって意欲を損なわせているようにも感じられる。フリートーク以外にも豊かなかかわりを生み出す活動を取り入れてフリートークと併用して活用したり、同じ話題であってもメンバーが違うことで話し合いも違ってくることに目を向けさせたりする工夫が必要だと思われる。

### 他校へのアドバイス『キーワード 児童主体のフリートーク』

フリートークにおいて最も大切なことは、教員自身が話し合いを楽しんで聴くということであり、フリートークの最中には笑顔で素直な反応を心がけることである。つつい話す力・聴く力・話し合う力を『鍛える』形で指導してしまいがちであるが、この取組のねらいはあくまで豊かなかかわりを育むための土壌づくりである。教えるというスタンスではなく楽しむというスタンスだからこそ、「指導」ではなく、自由に話題について話し合いを楽しむ活動を行うことができる。人間関係作りの土壌ということもあるので、目に見える形ですぐに成果が表れることを期待せず、長期的な目で継続的に行うことが大切である。

また、教員が不必要に介入することは児童主体のフリートークの障害ともなってしまう。児童自身が主体となりフリートークそのものを完成させることで学級での仲間意識や学級内での自己存在感を育むことにもつながっていく。

指定校番号	28042	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長	小西 啓二	生徒指導主事	村重 健一
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『小学生やりきり清掃体験』

**取組のねらい** 『キーワード 小中連携』

- ・ 6年生児童が、大竹中学校の掃除の仕方（「やりきり清掃」…時間を守って集合・無言清掃・床を磨く・気づき掃除・きちんと片付け・がんばりを評価）を学び、それを下級生に教えることで小学校の掃除のレベルアップを図る。
- ・ 校内における掃除リーダーとなることで、6年生児童のリーダー性と自己有用感を高める。
- ・ 小中での掃除交流を通して、生徒・児童の親睦を深め、中1ギャップ解消の一助とする。

**取組の具体的内容** 『キーワード 学んだことを伝える』

- ・ 4月に6年生児童全員に掃除時間のきまりや約束を再度確認して指導した後、ビデオで大竹中学校の掃除の様子を紹介する。（学級活動1時間）
- ・ 5月に6年生全員が中学校に行き、中学校の縦割り班に2～3名ずつ入って、中学生と一緒に15分間清掃をしながら、中学校の「やりきり清掃」を学ぶ。（学級活動1時間）



- ・ 5月末からは、6年生が小学校の各そうじ場所で「掃除リーダー」となり、中学校で学んだことをもとに、下級生に掃除のやり方を教えたり、反省会で下級生をほめたり、アドバイスをしたりする。6年生は学期ごとに担当の場所を変えて、「掃除リーダー」を経験する。（日々の掃除時間）

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 6年生のやる気アップ』

- 【課題】**
- ・ 6年生が中学校の掃除を体験するのが1回だけなので、小学校での「掃除リーダー」の活動で少し中だるみを感じてしまう時期がある。中学校の体験入学や入学説明会などの際にも中学生の掃除の様子を見学したり、中学生と一緒に掃除をしたりする機会がもてるとよい。
  - ・ 普段の掃除時間において、無言掃除の徹底というところには至っていない。
- 【創意工夫】**
- ・ 小学生が掃除体験の感想を書いて中学生に渡し、中学校の全校朝会で紹介してもらう。
  - ・ 各そうじ場所のふりかえりカードを用意し、毎日の掃除時間終了後に担当教諭からサインとコメントをもらう。
  - ・ 毎月末、担当教諭が掃除リーダーに対する評価をして、担任に伝える。
  - ・ 年度末に、下級生が6年生の掃除リーダーに感謝の手紙を書いて渡す。

### 取組の成果（効果）『キーワード 掃除に対する意欲の向上』

- ・中学校の掃除に学び、「掃除リーダー」になることで、6年生児童の掃除に対する意欲や態度が前向きになっている。また、掃除場所に6年生がいることで、下級生の中でも掃除をがんばってやろうとしている児童が増えており、気づき掃除をしようとする児童が増えるなど、掃除を頑張るという雰囲気ができつつある。
- ・学校評価アンケートの児童アンケートによると、「掃除をだまって時間いっぱい一生懸命しているか」という項目に対して、肯定的に答えている児童が95%を越えている。



### 今後の展開『キーワード 継続と浸透』

- ・今後も引き続き、小中連携の一環としてこの取組を継続していく。
- ・中学生に小学生の掃除の様子を見て評価してもらったり、中学生の掃除の様子をビデオで撮影したものを6年生以外の児童にも見せる機会を設定したりするなどして、小学生の意識の向上と掃除のレベルアップを図る。

### 他校へのアドバイス『キーワード 中学生に学ぶ』

- ・大竹中学校では縦割り班による「やりきり清掃」の徹底が数年にわたって継続されている。中学生に小学生が学び、小学校と中学校とで掃除のやり方や約束を揃えていくことで、小学生の掃除のレベルアップが期待でき、中学校への移行もスムーズになる。

指定校番号	28060	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	小田原 まゆみ	生徒指導主事	山藤 弘基
-----	-----------	----	---------	--------	-------

**取組事例名 『構成的グループエンカウンター』**

**取組のねらい『キーワード だれでもできる人間関係づくり』**

構成的グループエンカウンターは、ねらいをよく理解すれば、初心者の先生でもどの先生でも十分行うことができます。学級での人間関係が、自己理解・他者理解・自己受容・感受性の促進・自己主張・信頼体験と高まっていくように用意されており、クラスの実態に合わせて選んだり、つくりかえたりすることができます。そして、人間関係づくりに有効な活動です。

本校の実態として、経験が浅い教諭が増えてきており、学級内でのトラブルが増加傾向にあるという課題があります。そこで、どの学級においても円滑な人間関係づくりができるようにし、学級間格差をすくなくしていくことをねらいとしてこの構成的グループエンカウンターに取り組んでいきました。

**取組の具体的内容『キーワード 月に1回以上の構成的グループエンカウンター』**

2学期の構成的グループエンカウンター計画

	1 年	2 年	3 年
9月	〇〇とじゃんけん	じゃんけんインタビュー	この指とまれ
10月	どきどきをかんじよう	この指とまれ	この指とまれ
11月	いまだどっちむいてるの？	何をえらびますか	じゃんけんインタビュー
12月	テレパシーをキャッチ	何をえらびますか	ホメホメクラブ

	4 年	5 年	6 年
9月	じゃんけんインタビュー	じゃんけんインタビュー	連想ゲーム
10月	なんでもバスケット	じゃんけんインタビュー	聴く聴かない
11月	きみはどっち	ブラインド・デート	何をえらびますか
12月	いいとこさがし	何をえらびますか	みんなでリフレーミング



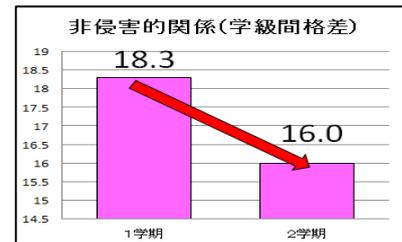
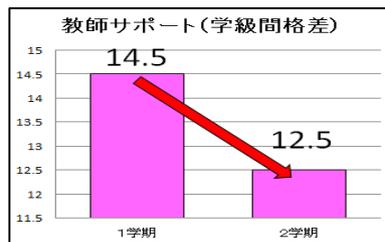
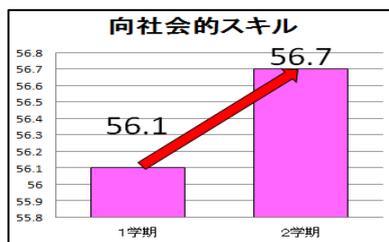
夏休みに、学年・学級の実態に応じて計画を立て、月初めの学級活動の授業の半分を使って実施しました。内容については、児童の変容や実態に応じて計画をしましたが、まずは、どの学級も児童の自己理解・他者理解・自己受容を目的に計画しました。また、回数についても月に1回は行うこととしましたが、多くの学年で1回以上行いました。児童からの要望も多々ありました。

## 取組の課題・創意工夫『キーワード 組織的に定期的に』

月に1回、確実に構成的グループエンカウンターを実施できるように、実施前に学年主任が学年全体に声をかけ、実施後には、学年会で実施報告を行いました。さらに、学年会でまとめた報告を学校経営会議で情報交流し、組織的で定期的な取組にしました。

## 取組の成果（効果）『キーワード 学級間格差の減少』

アセス（学校環境適応感の測定）と1学期の結果と2学期の結果を比較してみると、向社会的スキル（友達の援助や友達との関係をつくるスキルをもっていると感じている程度）の数値は、56.1ポイントから56.7ポイントに上昇しました。また、教師サポート（担任との関係が良好だと感じている程度）の学級間格差は14.5ポイントから12.5ポイントへ、非侵害の関係（拒否的・否定的な友だち関係がないと感じている程度）の学級間格差は18.3ポイントから16.0ポイントへ減少しました。数値的にも、学級間の格差が少なくなっていることが分かります。



### 各学年からの実施報告

- 〈1年〉自分との違いや共通点を見つけている。友達が優しくしてくれたのでうれしかった。友達の温かさを感じた。楽しんでいる。
- 〈2年〉あまり話したことのない友達と話すことができた。とても喜んで楽しんで行っている。次回は、今までとちがうエンカウンターをしたい。
- 〈3年〉意外な事実が分かって、また、したいという意見が出た。3年生全体でもしてほしいという希望がある。
- 〈4年〉ルールを守って楽しんで行った。行ったことを生活に生かしていきたい。
- 〈5年〉人間関係づくりができた。友達のことを深く知り、友達との共通点を知ることができた。
- 〈6年〉話していても、認めてもらえる安心感があるので、楽しんで行っている。たくさんの人とかかわれて楽しかったようだ。同じものを選んででも理由がちがうことに気付いていた。常に笑顔で行っていた。

## 今後の展開『キーワード 研修』

さらなる学級間の格差を減少させるために、グループエンカウンターの実践交流を行います。さらに、アセスの結果が1学期よりさらに上昇したクラスや児童の反応や保護者の反応がとても良かったクラスについて実践事例を具体的に紹介するなど、より実践的な研修を行います。

## 他校へのアドバイス『キーワード 涵養』

即効性のあるものではないですが、水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと繰り返す行うことで効果が表れてくると考えています。ねらいをよく理解して粘り強く楽しんで行うことをおすすめします。

指定校番号	28087	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	五日市中学校	校長	岩井 正徳	生徒指導主事	角舎 宏治
-----	--------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『百人一首大会への取り組み』**

**取組のねらい『キーワード 係わり合い』**

「百人一首」を通じて、日本の伝統文化に親しむとともに、学年・学級という集団でのマナーや関わり方、リーダー性を育む。障害のある生徒に対する合理的配慮の存在に気付かせる。「共感的な人間関係」「自己存在感」「自己決定」を意識した取組になるよう気をつける。

**取組の具体的内容『キーワード 集団作り』**

冬休みの宿題として、「百人一首を覚えること」を伝えておく。休み明けに学級では班で練習を始め、ルールとマナーの確認も行う。配慮の必要な生徒に対してどう関わるかを班や学級で必要に応じて考える。他クラスと交流練習を行うこともある。大会は、1月末に学級対抗（班対抗）のクラスマッチ形式で行い、対戦相手を入れ替えながら競技する。教諭が上の句を読み、一斉に下の句の札を取り合う。取組を通して学んだこと、感じたこと、考えたことなど振り返りシートに記入させ、学級で気持ちを共有する。学級の課題に対してもこの時期に考え、今後につなげて行く事もできる。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 楽しみながらみんなが参加する』**

事前に国語科、学級活動の取組を通して、百人一首を覚え、模擬的な大会を各学級で行う。その中で、競技のルールを理解させる。特に、静かにするときとそうではないときのメリハリを大切にしておくことを理解させる。また、障害のある生徒に対する合理的配慮について理解を深めさせる。合理的配慮の例としては、難聴学級の生徒のために、手話（指文字）を覚えたり、要約筆記をしたり、スクリーンで上の句を投影したりし、足に障害のある生徒に対しては、椅子とテーブルを用意したり、移動の際に補助を行ったりするなど考えられる。こだわりの強い生徒に対しては、学級や班での話し合いなどの場面で、しっかり意思を伝えあうための時間を多めに確保したりすることもある。

**取組の成果（効果）『キーワード 気づき考え』**

学級や班で作戦を考え、取り組む中で、集団作りが進んでいく。また、覚える事が得意、苦手に関係なく、競技を行い、振り返りを行い、再度作戦を考える中で、楽しく協力して取り組む力、望ましい集団として成長している。その中で、ルールやマナーの大切さや、障害のある生徒に対する合理的配慮についても生徒の学び・経験が生まれる。

**今後の展開『キーワード 2年生に向けて』**

学年全体には講評をする中で、もうすぐ後輩ができ、部活動や生徒会活動などでは中心になっていくことを意識させる。学級活動では、振り返りを行う中で、集団作りに必要なことがたくさんあることに気づかせ、再確認を行う。伝統文化も紹介することで、修学旅行につなげていくこともできる。

**他校へのアドバイス『キーワード 年間を通じて継続した取組』**

本行事は、1年生の最後に学級のまとまりを感じさせ、よりよい人間関係を育むための取組として位置づけ、毎年1月に実施している。

生徒は本行事までの人間関係を基に、お互いをより深く理解していく行事となっているため、次年度、新たな人間関係を築くために有効な取組であると考えている。

指定校番号	28106	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	友繁 孝実	生徒指導主事	三宅 伸之
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『仲間のよいところをみつけてプラス(+)行動を増やす!』

**取組のねらい** 『自己肯定感や自己存在感の向上』

生徒が、仲間同士で互いのよいところを見つけ合い、学校生活のプラス行動を増やすことで、自己肯定感や自己存在感を高め合う。

**取組の具体的内容** 『ほめほめカードで仲間のよさを視覚化』

- ① 教室に4種類のカード（ほめほめカード）を置く。
- ② 生徒は仲間のよいところやほめたいところを見つけたら、カードに書いて担任に提出する。
- ③ 担任はカードを見て、教室内のほめほめ達成シートにカード一枚につき一枚のシールを貼る。



**取組の課題・創意工夫** 『すべての生徒が評価される取組』『吉中三訓とのリンク』

**取組の課題**

担任は、意図的にペアをつくり、1週間でパートナーについて最低1枚はカードが書けるように指導する。ほめほめカードが貼れない生徒をつくらないことを基本とする。または、状況によっては担任や教科担任がほめほめカードを書いていく。



**創意工夫** 教室内に4色のほめほめカード入れを設置する

ほめほめカード	月	日	① 記入日
To (		)	② ほめる仲間の名前
内容(		)	③ ほめる内容 (簡潔に)
From(		)	④ カードの記入者
挨拶励行関係項目			

挨拶励行関係の内容 (黄色)  
 時間厳守関係の内容 (赤色)  
 傾聴姿勢関係の内容 (青色)  
 吉中三訓以外の内容 (白色)

吉中三訓

### 取組の成果（効果）『生徒と生徒の繋がりづくり』

ほめほめカードを増やす取組で生徒と生徒をつなぐことができた。また、仲間のために働くことができる生徒が多くカードをもらって評価され、その学級の支持を受けて生徒会役員選挙に立候補するまでになった。結果として、生徒が仲間同士でお互いのよいところを見つけ合い、学校生活のプラス行動を増やし、自己肯定感や自己存在感を確実に持つことができる生徒を増やすことができた。

### 今後の展開『「安心の雰囲気」をつくる活動（アクティビティ）』

今回の取組から生徒同士のつながりづくりのきっかけができたので、学級内の人間関係を今よりさらに良好な関係（＝信頼関係）にできるように、学級の雰囲気づくりに取り組んでいくことにした。

朝会、または暮会の時間の5分程度内を使い、エンカウンターを要素を取り入れた活動（アクティビティ）を1週間に2、3回程度行う。事後アンケートで目標とする望ましい雰囲気づくりができているとした生徒があらかじめ設定した数値目標を超えたら、次のSTEPの活動へステップ・アップしていく。

### 他校へのアドバイス『心の居場所づくり』

ほめほめカードのづくりや「安心の雰囲気」をつくる活動は、すべて人間関係づくりの取組である。この取組を指導する職員の姿勢によって、成果に大きく差が生じることを忘れてはならない。それゆえに、指導者は笑顔で生徒の前に立ち、生徒の心の居場所づくりを日々工夫していく必要がある。

# 児童会・生徒会活動

児童会・生徒会の計画や運営

指定校番号	28007	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立 可部小学校	校長	阪田 福三	生徒指導主事	中山 孝
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『キーワード リーダーの育成』

取組のねらい『キーワード 自主的実践的態度』

○ みんながよりよい学校生活を送るために、協力して諸問題を解決しようとする自主的実践的態度を育てるとともに高学年児童にリーダーとしての役割を自覚させる。

取組の具体的内容『キーワード 率先垂範』

○ 高学年を中心に、リーダーとして活躍し自覚を促す機会を多く設けることで、手本となる「かべっ子」の率先垂範が機能することを期待している。



平和集会



かんべ村訪問



6年生を送る会

① 各委員会の取組

- ・ わかたけ委員会……………運動会テーマ、平和集会、かんべ村訪問、6年生を送る会
- ・ 図書委員会……………本の紹介
- ・ 放送委員会……………校内や校外での過ごし方の呼びかけ
- ・ 園芸ビオトープ委員会…学校園・ビオトープの世話、校内美化
- ・ 飼育委員会……………動物の紹介（ふれあいパーク）
- ・ 運動委員会……………運動や遊びの奨励
- ・ 給食委員会……………食事マナーの紹介、食器返還の手伝い
- ・ ベルマーク委員会……………ベルマーク集めの呼びかけ・回収・集計
- ・ 生活委員会……………あいさつ運動、黙って掃除、牛乳パックリサイクル回収
- ・ 保健委員会……………健康面の関心を高める呼びかけ、検診の準備手伝い
- ・ 広報委員会……………ユニセフなどの募金活動



黙って掃除



牛乳パックリサイクル



登校班



あいさつ運動

② 登校班……………各地区ごとに班長がリーダーとなり一緒に登校する。

③ あいさつ運動……………高学年が中心に、校門で自主的にあいさつをする。

## 取組の課題・創意工夫 『キーワード 主体的・自発的場の設定』

○ リーダーを中心に他の児童の活動も主体的・自発的になるように、自ら工夫して活動していける場をできるだけ設けている。



わくわくタイム



おはようタイム



学習発表会



徒歩遠足

- ① きょうだいグループ…… 1・6年、2・4年、3・5年が縦割りグループを作る。  
「わくわくタイム」「徒歩遠足」「スポーツテスト」  
「掃除・給食の補助（6年）」「合同音楽・九九ボランティア（4年）」
- ② 業前活動…… さわやかタイム、おはようタイム、保健指導
- ③ 地域発信…… 運動会、学習発表会
- ④ 生活規律…… 語先後礼、犯罪防止教室、いじめをなくす行動宣言

## 取組の成果（効果） 『キーワード かべっ子』

○ 高学年になれば自然と主体的になるというものではない。リーダーとしての活動を仕組むことが自覚を促し、やがて個人の主体性を生み出すものと考えられる。主体的な動きが、他の児童に波及効果をもたらし、リーダーの役割がない者にも主体性をもたらす。それは、同学年の中であっても異学年であっても起こる良い変化であると実感している。毎年、6年生児童を中心に「かべっ子」（モデル）を示し、新たな「かべっ子」を生み出すことで大きな効果を実感している。

## 今後の展開 『キーワード 伝統の継承と発展』

○ 先述の通り、即効性のあるものではなく、毎年根気強く地道に続けていくことで小さな変化を待ち望むものである。従って、ベースの部分は何年も変えることなく良き伝統として残されてきたものである。それを毎年、発展させ、よりよい可部小学校をつくっていくという心構えを6年生児童を中心に育てることができるよう指導を続けていきたい。

## 他校へのアドバイス 『キーワード 特色』

○ 本校の特色をベースに置いた「育てる児童の姿」を保護者・地域で共有し、9年間で育てていくという意識を持つ。

指定校番号	28010	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島小学校	校長	尼子 博崇	生徒指導主事	西本 由美
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『吉島秋の友だちさんかまつり』

**取組のねらい** 『キーワード 関わり合う』

- ・吉島小学校と広島南特別支援学校の児童，また，地域の人たちとふれあい仲良くなることで，相手を思いやる心を育てる。
- ・お店の計画等を通して児童が主体的に活動できるようにする。
- ・集会にみんなで参加し，楽しさを分かち合う。

**取組の具体的内容** 『キーワード 満たされる』

・児童会が主となり計画・運営をしていく広島南特別支援学校との交流行事。開会式では，両校の1年生が手話で「さんぽ」を歌ったり2年生が「おみこし」で会場を練り歩いたりして会場を盛り上げる。その後，「まつりの広場」では3年から6年の児童が自分の学級でお店を開く。自分たちがアイデアを出し合い，お店を完成させていく中で友だちと触れ合い，自己共有感や達成感を味わっていく。また，自分が開いたお店に参加してくれた人たちが喜び，楽しむ姿を見て自己肯定感を味わったり相手の立場を考える思いやりが育ったりする。当日までの活動を通して自分が必要とされていることを実感し，心が満たされる。



### 取組の課題・創意工夫 『キーワード 時間』

・まつりの時期には修学旅行や、野外活動等が重なるため、十分な時間をとって準備をすることができない。また、児童会運営委員が抱える仕事もたくさんあり、限られた時間の中で準備等を行っていくので例年通りの内容で提案しがちである。各学級においても児童がゆっくりアイデアを出し、失敗をくり返しながら練り上げる時間が十分とれないことから、学級によっては教師主導で行いがちになることがある。

### 取組の成果（効果） 『キーワード 主体性』

・6年生に「ともだちさんかまつりについてのアンケート」を行ったところ下記のような結果となった。

1. ともだちさんかまつりの準備やまつりは楽しかったですか。

とても楽しかった・・・53%      まあ楽しかった・・・44%      あまり楽しくなかった・・・3%

(理由：本番何をやったらいいのか話し合い

ができていなくて不安だったから)

2. 楽しかった理由は何ですか。

友だちとアイデアを出し合いながら作り上げていったから・・・53%

みんなに楽しんでもらえたから・・・・・・・・・・・・・・・・・・22%

自分たちがやりたいことができたから・・・・・・・・・・・・・・・・17%

自分もたくさん活躍できたから・・・・・・・・・・・・・・・・・・3%

その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5%

児童が主体的にお店の運営にあたり、試行錯誤しながら活動していく過程で、生き生きとした児童の姿が多く見られた。アンケート結果からも児童が主体的に活動できたことへの喜びが感じとられる。また、自分一人が楽しむのではなく、相手を意識した回答が多くあったことは取組のねらいが達成できている現れであると感じる。

### 今後の展開 『キーワード 広がり』

・まつりを通して身についた力が他教科や普段の生活の場面に広がっていくことが期待される。特別活動にとどまらず、普段の授業の中でも児童が思考を組み立てられるよう教師が意識をして授業を構成していきたい。

### 他校へのアドバイス 『キーワード 信じて任せる』

・児童の力を信じて任せてみるのが1番であると考えている。「できないであろう。」と最初から決めつけ教師主導で進めていくと児童は考えることをやめ、指示通りに動くだけになってしまう。失敗することも想定し、それを改正していくことができる時間を十分与えられるよう計画性を持って児童を信じ、任せてみるのが大切である。

指定校番号	28013	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立舟入小学校	校長	大久保幸則	生徒指導主事	北浦昌義
-----	-----------	----	-------	--------	------

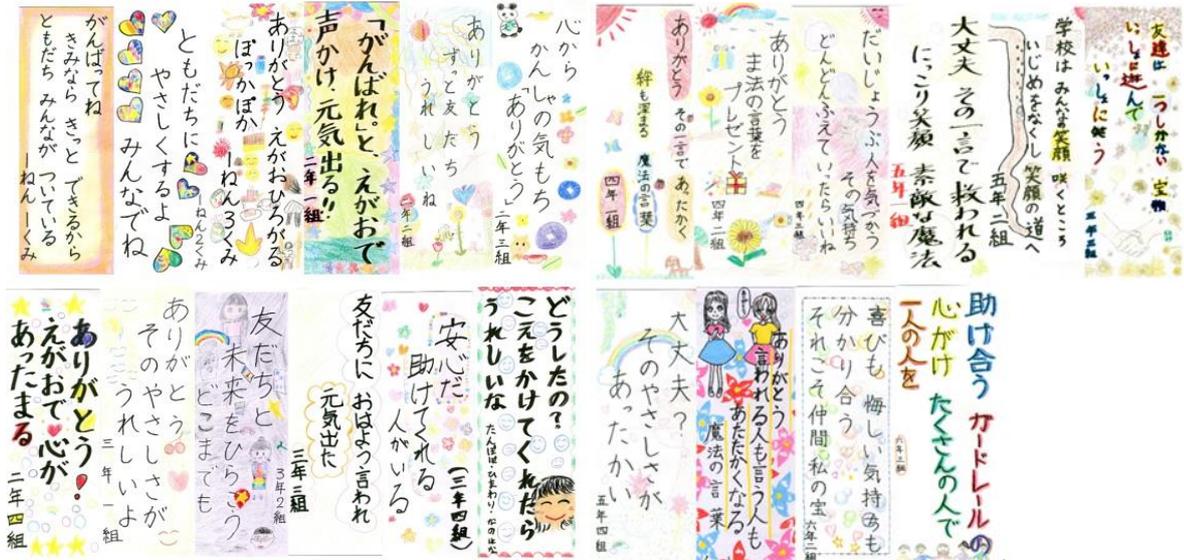
**取組事例名 『あったか言葉の輪を広げよう』**

**取組のねらい『児童主体で笑顔の学校に』**

・けんかやいじめをなくし、舟入小学校の全児童が笑顔で楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。

**取組の具体的内容『あったか言葉・標語発表会』**

- 企画運営委員が、代表委員会で「あったか言葉・標語発表会」の取組の提案をする。
- 提案を受けて、各学級で友達から言われてうれしくなる言葉を話し合い、「5・7・5」(「5・7・5・7・7」)の標語を決める。
- 色やイラストを加えて、標語をカードに記入する。
- 各学級の代表1名が、各学級の標語を「全校朝会」で発表する。  
(発表時、プロジェクターで標語を映し出す。)
- 各学級で「あったか言葉・標語」を利用して、児童の主体的な仲間作りを進める。
- 学級の標語カードは、発表後運動会まで体育館前に掲示する。運動会後は各学級に掲示する。
- 生徒指導便り・学校ホームページを通じて、地域・保護者にも発信する。



### 取組の課題・創意工夫 『学級での取り組み』

- ・学校朝会での発表後の学年・学級での取組が重要になってくる。
- ・「あったか言葉・標語」を学級の毎月の取組に取り入れ、児童に主体的に取り組ませることで、自分たちで学級を動かしているという意識をもたせることができる。
- ・いじめ防止宣言を活用していくことも今後の課題である。

### 取組の成果（効果） 『分かりやすさ』

- ・本取組の発表会は9月に行った。全校児童アンケートの集計結果では、「相手の気持ちを考えた言葉使いをすることができる」は、7月に84%だったのに対し12月には88%となり、4ポイント増加した。
- ・スローガンのようにみんなが言いやすい標語がたくさん発表され、今後の実践に生かしやすい。
- ・発表で終わらず、学級で活用していきたいという思いをもたせることができる。
- ・学級の中であったか言葉について意識する児童が増えてくると考えられる。
- ・学年に応じた標語の発表を行うことができる。

### 今後の展開 『PDCAサイクルを学級活動・児童会活動に取り入れて』

- ・今後は、PDCAサイクルを意識して取り組ませていきたい。特に重要な部分はCheckとActionの部分である。児童が自らチェックし見直しをかけて、次の改善策を考えていかなければならない。その繰り返しによって、主体的な児童会活動、特別活動を行うことができると思う。
- ・折にふれて「今のは、あったか言葉だね」とプラスの声かけをしていくことも重要である。

### 他校へのアドバイス 『学級の児童にあった手立てを』

- ・発表後の学級での取り組みについては、はじめの段階はまず児童から出てくるあったか言葉の「量」に意識を向けるとよいが、児童の育ちが感じられるようになれば、あったか言葉の「質」に焦点を向けると、取組が形式的なものにならないと思う。

指定校番号	28014	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立福木小学校	校長	重田 小百合	生徒指導主事	松島 秀平
-----	-----------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『自分たちの力によって進める活動』

**取組のねらい** 『望ましい集団づくり』

- よりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、予防的生徒指導の推進を図る。

**取組の具体的内容** 『自主的な委員会活動』

- 執行委員会の取組  
「あいさつ運動」「あいさつ標語の募集」「いじめ防止標語の募集」「キッズワールド（異学年交流）」
- 運動委員会の取組「長縄大会」
- 生活委員会「あいさつマイスター」「もくもくそうじ」
- 放送委員会「もくもくそうじの呼びかけ」
- 飼育委員会「動物愛護標語」
- 図書委員会「読書感想文の紹介」

「あいさつ運動」



「長縄大会」



「キッズワールド」



**取組の課題・創意工夫** 『自らの力で運営』

- 児童の活動が主体的、自発的になるように、児童自らが工夫して、自分たちで運営していく活動内容を設定した。特に、「あいさつマイスター」「もくもくそうじ」「キッズワールド（異学年交流）」については、児童の主体的な考えや取組内容を重視した活動になった。
- また、「キッズワールド（異学年交流）」は、自分だけではなく、ペア学年にも楽しんでもらうように取り組んだり、自分たちのクラスの出し物が楽しめるようなものになるようによく考えたりしていた。「長縄大会」では、よりよい学級や人間関係を築こうとする仲間づくりが出来ていた。

**取組の成果（効果）** 『自発的な活動と成就感』

- 今年度も児童自らが活動内容を考え、代表委員会に提案して、各活動に取り組んできた。その中でも、特に、「あいさつ運動」や「あいさつマイスター」の取組については、自主的な活動を行うことによって、自分たちで成功させたという成就感を味わわせることができた。
- また、今年で5回目になる「長縄大会」では、毎日練習することにより、各学級で望ましい集団づくりができ、成績も大きく向上したことで達成感も得た。

### 今 後 の 展 開『集団としての連帯感』

「キッズワールド（異学年交流）」は、各クラスや学年の枠を超えた取組である。他の活動もよりよい学校にするための活動であり、学校全体で取り組んでいるという意識をもたせるとともに、連帯感を養っていく必要があると思われる。

### 他校へのアドバイス『児童の力を生かす委員会活動』

「長縄大会」「あいさつマイスター」の取組は、児童の自主的な取組として、どの学校でも取り組みやすい活動である。

指定校番号	28018	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八木小学校	校長	中島康弘	生徒指導主事	原田宏子
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『いじめ防止強化月間（9月～2月）—児童会が中心となった取組—』

取組のねらい『キーワード：児童主体のいじめ未然防止の活動』

『やさしい言葉でいっぱい』の八木小作戦パート2』  
 学校を「ふわふわ言葉」や「ふわふわ名人」でいっぱいにして、いじめのない優しい素敵な学校にする。

取組の具体的内容『キーワード：取組の継続：3年次 ・ 9月～2月』

執行委員会による取組の提案→代表委員会で決定

1 取組のねらいについて説明：執行委員会→代表委員会→各クラス（9月下旬）

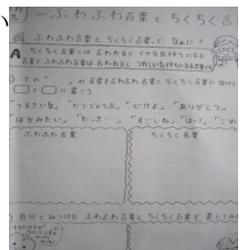
これまでの児童会の取組を伝える。

- ① 1年次：「いじめを防ぐ三つの勇気」
- ② 2年次：「やさしい言葉いっぱいの八木小学校」
- ③ 3年次：「やさしい言葉でいっぱいの八木小作戦パート2」・・・今年度

※取組のねらい：八木小学校の課題「人を傷つける言葉の多さ」は、自分たちが考えた課題であることを伝え、継続して取り組むことでさらにいじめのない優しいいくというねらいを説明する。

2 「ふわふわ言葉」について考える。（10月）：各クラス

資料①を使い各クラスで「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」について考える。  
 ※自分たちのクラスの課題を見つける。



3 ポスター作り（10月）：各クラス

自分たちのクラスで増やしたい「ふわふわ言葉」と「ふわふわキャラクター」を入れたポスターを作る。  
 ※校内テレビ放送で各クラスの取組を紹介



4 「ふわふわがんばりカード」の取組（11月—1週間）：各クラス

※レベル①「ちくちく言葉」を言わない→できたら黄色  
 レベル②「ふわふわ言葉」を言った→できたら赤  
 レベル③だれにでもやさしくできた→できたらピンク



5 「ふわふわ名人」決め（12月）：各クラス

ふわふわ言葉を率先して使っている人を「ふわふわ名人」として認める。  
 ※名人に認定証を渡す。：クラスの人数の1/3



6 「八木っ子祭り」での取組（1月）：全児童

各クラスでミッションを考え、協力して運営する。  
 異学年交流を行うことで、お互いを認め合う。  
 ※異学年で言葉を大切にしたい関わり持つ。

7 児童朝会で取組の発表（2月）

取組の振り返りを行い学級代表が、全校の前で発表する。  
 ※来年度の取組につなげる。

## 取組の課題・創意工夫『キーワード：広げる・つなげる』

### ・異学年間交流での取組

前半は、クラスを中心にした取組を行った。クラスの中での課題を見つけ、それを解決するため、増やしたい「ふわふわ言葉」を具体的に決めて取り組んだ。児童の相互評価もクラスの中で行った。後半は、クラスでの取組を広めるため、全児童参加（異学年間交流）の「八木っ子まつり」の活動で「ふわふわ言葉」の取組を行った。活動後、異学年間での相互評価を行った。

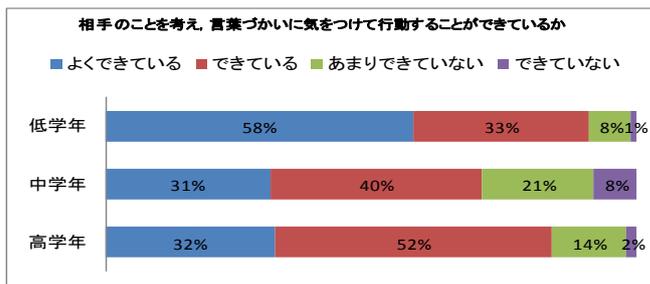
### ・他教科との関連：6年生の国語科「町のこうふく」

6年生児童は、自分たちの住む八木の町の未来について考える学習を行った。自ら地域の課題(地域にある落書きやポイ捨てについて)を見つけ、課題解決を行う課程が児童会で進めている取組と同じだったため、6年生だけの学習に止めず、全校児童に向けてプレゼンテーションを行った。

## 取組の成果（効果）『キーワード：リーダーの成長・具体的な取組』

・リーダーの成長：昨年度執行部を経験している児童が中心になり、活動を引っ張ることができた。見通しを持って活動をすることができ、取組に色々な工夫が見られた。説明する資料を作成したり、工夫して「がんばりカード」を作成したりした。

・昨年度は、クラスの取組に温度差があったが、取組の内容をより具体的にすることでその差が解消された。昨年度までは、評価項目を「相手の気持ちを考えて行動することができているか」にしていたが、今年度は、「相手のことを考え、言葉づかいに気を付けて行動することができているか」に変更し、評価の基準を具体的にした。このことで、自分たちの言動をより深く、振り返ることができたように思う。今年度の評価は児童にしっかり返し、来年度の取組につなげていきたい。



・児童の意識の変化だけでなく、教職員の情報共有に関わる意識の高まりが見られた。児童の発した言葉から問題行動を予想し、対応の必要性をキャッチすることで、すぐに協議しそれを全教職員が共有することができた。学校の中に、問題行動を未然に防ぐ取組が増えてきた。

## 今後の展開『キーワード：中学校区での取組の共有』

・中学校区で取組を情報交換することで、自校のみの取組に終わらず共通した取組ができたらいと思う。9年間を見通した取組に変えて行くことで、児童・生徒の自主・自立の力が育ちより確かなものになると考える。

## 他校へのアドバイス『キーワード：継続と長期的な取組』

・取組の3年次であるが、継続させたことで取組がより深まったように思う。先輩の取組を後輩が受け継ぐことで、見通しを持つことができたり、より良い手立てを考えたりすることができた。学校や地域での課題を児童自ら気付き、その課題を解決していこうとする課程は時間の確保が必要である。いじめ防止月間を9月に設けているが、長期の取組（9月から2月）にすることで、児童のいろいろなアイデアを引き出すことができたり、他の活動と結びつけて取り組むことができたりした。

指定校番号	28029	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立尾長小学校	校長	福馬 亮	生徒指導主事	西村 則生
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『児童会あいさつ運動』

**取組のねらい** 『なかももいの尾長小学校』

全校で「あいさつ運動」に取り組むことを通して、自分とまわりの人とのつながりを深めていく。

**取組の具体的内容** 『あいさつ良いところ見つけ』

- 児童会が主体となり、前期後期に各 1 回ずつ「あいさつ週間」を設定し、あいさつ運動を行う。
    - ・ 代表委員会にて、執行委員会より「あいさつ運動」の提案を行う。
    - ・ 期間（前期，後期），時間（登校時）及び場所（門，各校舎廊下，わたり廊下）を設定する。
    - ・ 方法の確認を行う。
- （方法）
- ① 門は執行委員及び高学年の希望者が立つ。（校長，生徒指導主事も含む）
  - ② わたり廊下は全校希望者が立つ。
  - ③ 校舎内は執行委員及び学級代表がまわる。
  - ④ 各学級代表に「あいさつ良いところ見つけカード」を配布。学級代表は日々の良かったところを記入して児童会ポストに入れる。
  - ⑤ 執行委員は、給食時間に日々の良かったところについて、カードをもとに発表する。
    - ・ 取組後，代表委員会にて反省を行う。



**取組の課題・創意工夫** 『あいさつ良いところ見つけカード』

（課題）

- ・ 期間中は大きな声が聞かれるものの、定着には時間が必要。

（創意工夫）

- ・ 「あいさつ良いところ見つけカード」を作成することで、あいさつに対する意識の高まりが見られた。

**取組の成果（効果）** 『教師と子ども，子どもと子どものつながり』

- ・ 「あいさつ運動」を通して，他学年や普段関わりの少ない教職員と言葉をかわす場面が意図的に設定され，教師と子ども，子どもと子どもが言葉を通してつながる良い機会となった。
- ・ 学校評価委員会におけるアンケート調査結果でも，「子どもたちはよくあいさつをしている」の項目において肯定的な回答が 86.4%と昨年度に比べ 2 ポイント近く上がっている。

### 今後の展開『更なるつながりを目指して』

今年度は年間2回の取組となったが、年間3回を目標とするとともに、取組期間以外でも主体的にあいさつができるよう教職員も積極的に児童に対して働きかけていくことにより、教師と子ども、子どもと子どもの更なるつながりを構築していく。

### 他校へのアドバイス『教職員の積極的働きかけ』

子ども同士のつながりを深めるためには、教職員がまず積極的に子どもと関わる必要がある。「あいさつ運動」においても、教職員が率先して声をかけていく姿勢が大切である。

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	段原小学校	校長	宍戸千代香	生徒指導主事	植村和広
-----	-------	----	-------	--------	------

取組事例名 『なかよし月間の取り組み』

取組のねらい『キーワード 異学年交流』

いじめのない楽しい学校づくりに向けて、児童会活動を通して児童のコミュニケーション能力を育む。

取組の具体的内容『キーワード なかよし遊び』

1. 内容

- ・児童会企画委員が「スーパー昼休憩」に誰でも参加できる遊びの会をすることを提案し、代表委員会で話し合う。
- ・企画委員児童が司会進行を行う。
- ・3年と5年，1年と6年，2年と4年をペア学年として、当日参加した児童で「なかよし遊び（多人数のできる遊び）」を行う。
- ・「なかよし遊び」の内容は雨天時の場合や体力づくりの取組を考慮して、企画委員が考える。

2. 計画

9月1日（木）委員会活動で代表委員会の原案作成

5日（月）代表委員会で提案・決定

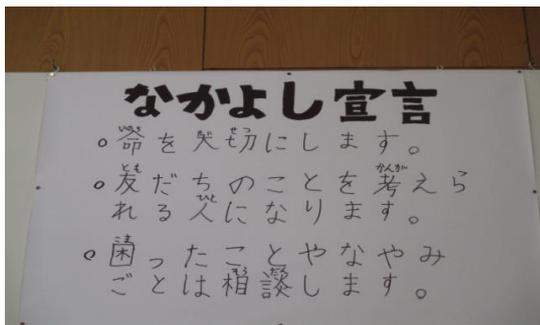
6日（火）音楽朝会で提案の報告をして、児童全員で「なかよし宣言」を読む

6日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）3年と5年

13日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）1年と6年

20日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）2年と4年

↓  
3月



<b>取組の課題・創意工夫『キーワード 工夫』</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年生は加減したり接し方を工夫したりして遊んでいたが、1年生との年齢の差が大きいので、遊びの内容を工夫する必要がある。</li> <li>○ 4年生は成長過程で、まだ2年生と対等に接してしまうことが多々あるのが現状である。</li> <li>○ 授業時間の確保・行事の精選の中での児童会活動になるので、学校行事との調整が難しいが、年間計画を立てる段階で組み込んでいく。</li> </ul>
<b>取組の成果（効果）『キーワード 意欲』</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童会で取り組むことで、企画・運営をする児童も参加する児童も主体的に活動することができた。</li> <li>○ ペア学年で運動することで、楽しく体力づくりに取り組むことができた。</li> <li>○ ペア学年がいることで、参加する意欲が高まった。</li> <li>○ 1年と6年は、年度初めから年間を通しての交流のため、誘い合って参加する姿も見られた。</li> <li>○ 普段は遊ぶ機会が少ない低学年と遊ぶことで、高学年としての自覚を持ち、低学年を意識した声かけや接し方を身につけることができた。</li> <li>○ 児童アンケートの「いろいろな学年の人と仲良く過ごすことができた」は、「そう思う」の肯定的な評価が85.4%であった。</li> </ul>
<b>今後の展開『キーワード 継続』</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 9月の「なかよし月間」の取組からその後の「スーパー昼休憩」の取組へと継続していく方法を更に工夫していく必要がある。</li> </ul>
<b>他校へのアドバイス『キーワード 目的意識』</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高学年と運動することで、低学年は技術的に優れた上級生を目標にするようになる。</li> <li>○ 高学年に世話してもらうことで、低学年は自分たちもそうなりたいという憧れを持つことができる。</li> <li>○ 楽しく遊ぶだけでなく、異学年交流の目的意識を持たせるためには、各学級担任が声をかけたり、一緒に参加したりすることが必要である。</li> <li>○ 遊びの内容や場所等の配慮や工夫が必要である。（特に、暑い時期の熱中症対策）</li> </ul>

指定校番号	28034	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立川内小学校	校長	山田 明美	生徒指導主事	畑山 高義
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『川内っ子祭り』**

**取組のねらい『キーワード 相手の立場や気持ちを考えた行動』**

- 他学年との交流を通して、互いを知り、相手の立場や気持ちを考えた行動がとれるようにする。
- 計画等を通して児童が主体的に活動できるようにする。
- クラスで協力して出し物を工夫することを通してクラスの団結を図り、祭りを楽しむことができるようにする。

**取組の具体的内容『キーワード なかよく 協力 』**

◎児童会が主となり運営計画を立て、全校で取り組む。

※ 地域にある連携教育を行っている4園の幼稚園、保育園も招待し、交流を行う。

- 3年生以上の各学級で話し合って、学級ごとのアトラクションをつくる。
  - 1学級1アトラクションで準備する。
  - 3-1 「つって考え つりぼりゲーム」 3-2 「糸をよける」 3-3 「ミッションお宝めいろ」
  - 3-4 「サンタのプレゼント集め」 3-5 「何があるのかな」 3-6 「海のわなげや」
  - 4-1 「ブラックボックス」 4-2 「スーパーめいろブラザーズ」 4-3 「スターショット43」
  - 4-4 「ジュニアカープ2016」 4-5 「風船ポンポンきょうそう」
  - 5-1 「注文の多い迷路店」 5-2 「ストライクショットボーリング」
  - 5-3 「おにたいじ大作戦」 5-4 「真暗めいろ」 5-5 「BKMA」
  - 6-1 「KKSP」 6-2 「you rite aba me ～あなたの人生ゲーム～」
  - 6-3 「We come to フルバヤシ」 6-4 「パリピ村」
- ほほえみ「じゃんけん屋」

- 時間を前半と後半に分かれる。
- 出店するのは3学年以上。参加は全学年。
- 児童は地図つきスタンプパスポートを持って移動する。



他学年に自分たちの考えたゲームを説明し、楽しませることによって共感的人間関係を育てる。楽しんでもらえるよう分かりやすく説明するなど相手意識をもって取り組む。

なにがはいっているのかなあ～？

園児に説明をして一緒に活動することで、自己肯定感を高めていく。小学生の子供と違って、もっと小さな子に対する声のかけ方や説明の仕方などを自分なりに工夫する。



～創意工夫～

様々な工夫を通して、来てくれた人が楽しんでくれたり、喜んでくれたりすることで自己肯定感を高めたり相手の立場を考える思いやりの心を育てたりする。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 有効活用 時間』**

- 身の回りにあるものを有効活用して準備をする。また、自分たちの出し物をアピールするためにポスターをかく。
- 同じ場所にならないように、スタート場所を指定した。
- スタンプパスポートを持ち歩き、自分が、どこを回ったかを分かるようにする。  
(行きたいところに計画的に回れるよう配慮)
- 限られた時間の中で、たくさん回れるように、短時間に班の全員が協力して楽しめる内容のゲームを考える。
- 今後、1・2学年の児童も、より達成感を味わうことができるような活動を工夫したい。

**取組の成果（効果）『キーワード 自己決定の場と団結』**

- 自分たちが、話し合いから、出し物を決定し出し物を運営することで、学級の団結を強めることができた。
- 他学年と交流することで、他学年の様子を理解しすることができ、今後の行事に生かせる。
- いろいろな人と繋がる喜びを味わう体験活動となっている。友達と分かり合える楽しさが実感できる体験活動と相互交流を行うことで、コミュニケーション能力を育むことができる。

**今後の展開『キーワード 異年齢交流での自尊感情を育む』**

- 他の学年（保・幼含む）との異学年交流をすることの意義を明確にし、次年度へ継承する。
- 異年齢交流の中で、高学年は、リーダーシップを発揮しながら、自分への気付きが増え、自分の良いところを伸ばすことができる。また、他学年の児童もそれぞれに活躍の場があり、自分なりに達成感をもった取組ができるよう、役割の明確化も計画に盛り込みたい。
- 多様な人との関わりを通して、自分が周りの人に役立っていることや周りの人への存在の大きさに気付くようになる。今後も高学年や児童会を中心とした活動を行うことで、異年齢の枠を超えた学校全体のコミュニケーションの場をつくっていききたい。

**他校へのアドバイス『キーワード かかわる』**

- コミュニケーション不足が原因でトラブルになることが多い今の子供たちに、「かかわる」機会をたくさん取り入れ、かかわり方のスキルを高めていくことが大切である。そのためにはどんな活動が必要かを児童自ら考え計画、実践できるよう、育てたい児童の姿を明確にもった支援が必要である。
- 年間行事の中にかかわる活動を位置付け計画的、継続的な活動となるようにする。

指定校番号	28036	学級活動		児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	-----------------------	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立伴小学校	校長	太田 治	生徒指導主事	越智 武志
-----	----------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『児童会活動のいじめ撲滅運動「SOS BOX」』

**取組のねらい** 『キーワード「予防的な生徒指導」』

- 子ども主体の予防的な生徒指導を行うこと。
- ・一人で抱え込ませない。
  - ・子ども同士が、主体的に、いじめで悩んでいる子どもの声に耳を傾け、支援する。その悩みを訴える場を必要としている子どものために「SOS BOX」を設置する。
  - ・児童会活動を通じて「あいさつ運動」や「自問清掃」、いじめ防止策を行ったり、全校朝会で学校のきまりについて指導を行ったりして、定期的な指導・アンケートによる実態把握に努める。
  - ・自分自身がしている「いじめの根」につながる言葉や行動に気付く。
  - ・いじめをなくしていく努力・勇気・正義感のある「伴っ子」になっていく。

**取組の具体的内容** 『キーワード「いじめは決して許さない！」』

- 「いじめは決して許さない！」という姿勢を計画運営委員会が中心となって推進する。
- ・計画運営委員会（児童会）でいじめ追放のポスター制作・掲示
  - ・SOS BOXの設置紹介（全校放送）
  - ・計画運営委員会による、いじめに気付いた子どもや被害相談を訴えてきた子どもからの聞き取り。担任への連絡。解決から一週間後の再度の聞き取り。
  - ・全校による「伴小ほんわか言葉」作り・発表・「ほんわか言葉」の掲示
  - ・全校児童いじめのチェックリスト実施（11月14日～18日）
  - ・クラス毎に、学級代表と担任とで、いじめのチェックリスト集計、学級での話し合い、計画運営委員会への提出を行い、全集計をまとめる。
  - ・校内テレビ放送による「いじめ追放キャンペーン」

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード「主体的に考え、行動できる伴っ子」』

- いじめについて、子ども自らが主体的に考え、行動できる伴っ子につなげていくことができたか。
- ・教室を始め、周囲の様子に関心の目を向けることができている子どもがいた。
  - ・学級内での指導の温度差が生じていた部分があった。
  - ・いじめをなくしていく努力と勇気、正義感のある伴っ子になっているかどうかの結果は、計りにくい。校内の様子を見る以外、計ることができていない。
  - ・いじめ0（ゼロ）になったとは、言い切れない。

**取組の成果（効果）** 『キーワード「伴小スタイルの構築」』

- 伴小スタイルの構築につながったこと。
- ・「いじめは決して許さない！」という姿勢を計画運営委員会が中心となって推進することができた。
  - ・一人一人が、いじめにつながる言葉や行動（「いじめの根」）に気付くことができた。
  - ・本気の姿勢（職員も計画運営委員会も）で取り組むことができた。
  - ・「SOS BOX」の取組が、子どもたちの中に浸透し、身近な相談方法の一つとして利用価値が高まった。

今後の展開『キーワード「Happy Box」』

○いじめのない楽しい学校生活を送ることができるように、良い行動や優しくしてもらったことなどを募って紹介する「Happy Box」の取組を一層盛り上げる。良い話を紹介して、全校で褒める活動。

- ・全校放送を活用して全校から募った明るい話題や情報を紹介する。

○問題行動が起こった時には、課題のある子どもの担任や学年と情報を共有して、適宜、全職員に現状報告を行い、全職員が一体となって解決に向けた支援を行う。

- ・職員は、子どもたちへの声かけを大切にされた関係作りに努め、日頃から子どもの様子や言動、表情をしっかりと観察すること。ちょっとした異変にも気付き、声かけができる校内の雰囲気作り。
- ・小さな問題行動も見逃さない「勘」と「目」を養い、素速く動くことができる職員集団になるために、これからも適切な予防策を講じていく。また、ケースバイケースで柔軟に対応できる職員集団を築いていく。

他校へのアドバイス『キーワード「よき判断 よき行動」』

○伴中学校区9年間の生活目標の実践

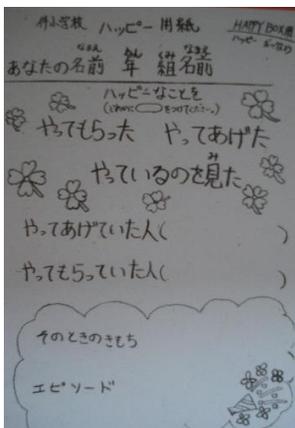
- ・伴中、伴小、伴東小の3校が生徒指導上の情報共有や3校合同で取り組み可能な計画を実施し、それぞれの状況を検証する。今年度は、「携帯電話・スマホ・ゲーム機などの夜9時までの使用制限キャンペーン」を中学校の試験期間や長期休業期間に合わせて実施した。家庭の協力なしに、生徒指導の向上はあり得ないということを感じた。
- ・中学校区で一貫した9年間の生活目標「よき判断 よき行動」を設定し、児童・生徒の成長を見守りながら、どの学校も成長過程に沿った指導方法で規範意識を高めていく。



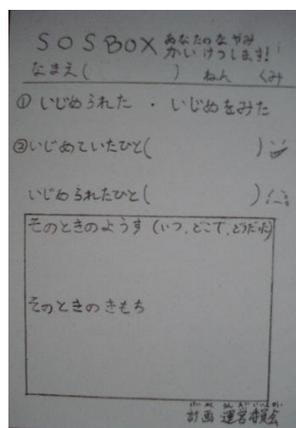
一年生を迎える会



計画運営委員会が実施したクイズ



Happy Box 用紙



SOS BOX 用紙



Happy Box と SOS BOX

指定校番号	28037	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立中野東小学校	校長	坊田 裕紀子	生徒指導主事	長妻 貴志
-----	------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『いじめ防止の取組』

**取組のねらい** 『キーワード 主体的』

「いじめ防止取組強化月間」を設定し児童会による主体的な取組を行うことによっていじめを防止することの重要性を考えさせ、安心して生活できる学校をつくろうとする態度を育成する。

**取組の具体的内容** 『キーワード 振り返り』

- 各学級でキラキラ言葉やイガイガ言葉の指導を行い、どのようなキラキラ言葉を使ったらよいか考え、学級活動で児童から出た言葉を、廊下に模造紙1枚で掲示する。
- 代表委員会で児童会役員による「いじめ防止取組月間」の取組を説明し、呼びかける。
- 定期的に振り返りカードで個人評価を行う。
  - ・ いじめ防止月間（9月）
  - ・ 中野東パーク（11月）
  - ・ 児童アンケート（2月）

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 各学級の工夫』



〈創意工夫〉 声をかけられると嬉しくなる言葉（キラキラ言葉）を各学級で出し合い、掲示物を工夫

して作成し、各学級の廊下に掲示した。さらに、学校通信や学年通信にも掲載し、地域や保護者へ、取組内容の周知徹底を図った。

〈課題〉 キラキラ言葉を意識して使う児童は、全校行事では増えてきているが、普段の学校生活の中で考えると、友達を傷つける言葉を使う場面がある。日々の生活でも意識して使うような取組を考える必要がある。

#### **取組の成果（効果）『キーワード 啓発活動』**

9月を「いじめ防止取組強化月間」と位置付けており、各学級から出たキラキラ言葉を廊下に掲示する取組を計画した。児童会による、いじめ防止の啓発活動も並行して行っており、キラキラ言葉の波及に努めた。9月のアンケートでは、「1週間で4日以上キラキラ言葉を意識して使った」児童が77%、11月のアンケートでは、「中野東パークを通してキラキラ言葉を意識して使った」児童が89%であった。キラキラ言葉を意識して使う児童が増えている傾向にあると考えることができる。

#### **今後の展開『キーワード 継続』**

今後もキラキラ言葉を意識して使うよう、児童会を中心に啓発活動を継続していく。2月の「児童アンケート」の取組後には、最後のアンケートを実施し、活動の検証、改善をしていきたい。

#### **他校へのアドバイス『キーワード 児童の実態』**

自校児童の実態を把握し、その実態に合わせての取組を考えていくことが大切だと思います。

指定校番号	28041	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原西小学校	校長	北村 由美子	生徒指導主事	平野 知子
-----	------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『児童会活動の活性化』

**取組のねらい** 『自己実現とリーダーの育成』

- 児童会活動を通して、自主的、実践的な態度を育成する。
- よりよい学校にしていくために、自分の公約実現に向けた取組を支援することを通して、自己実現の喜びを感じさせ、リーダーの育成を図る。
- 子どもたちの力でより良い学校にしていくための活動をしていく風土を作る。

**取組の具体的内容** 『児童によるより良い学校作り』

- 児童会役員選挙
  - ・立候補者は、より良い学校にするために自分の公約を掲げて演説を行う。
  - ・全校児童による選挙によって役員が選出される。
- 公約達成のための取組
  - ①進んであいさつ・そうじができる学校
    - ・あいさつ標語を募集し、校内放送で優秀作品を発表した。
    - ・6年生がたてわり班そうじのリーダーとしてそうじを指導し、「そうじマイスター」を推薦した。
    - ・学校としての「あいさつマイスター・そうじマイスター」の取組と連携して取組をすすめた。
  - ②仲の良い竹西っ子
    - ・全校レクでしたい遊びについて、全校にアンケートを行い、計画を立てた。
    - ・全校朝会で内容等を周知し、大休憩におにごっこを行った。
    - ・児童会役員でふり返りをして成果と課題をまとめた。
    - ・第1回目の反省点をふまえて第2回目を計画し、行った。



### 取組の課題・創意工夫『責任感と達成感』

#### ○達成感

- ・公約が達成できるための機会や場を意図的に設定する。
- ・達成感を感じることができるよう、計画・準備・練習などの支援を行う。
- ・取組や活動についての振り返りも行い、次に活かしていくようにする。

#### ○校風作り

- ・公約は選挙の時に宣言するだけのものではなく、達成のための取組をすることが大切であるという雰囲気を作る。
- ・今年度だけの活動ではなく、来年度以降もつなげていくための取組を進めていく。

### 取組の成果（効果）『次の取組への意欲』

#### ○あいさつについての児童の肯定的評価が高まった。

H27年 91% H28年 96%

#### ○そうじマイスターが増え、「黙々そうじ」についての児童の肯定的評価が上がった。

H27年 89% H28年 96%

#### ○全校レクでは、全児童で楽しむことができ、次のレクも楽しみにしている。また、児童会役員は1回目の全校レクのあと、ふり返りを行い、課題を整理して第2回目を計画した。前回の反省点を活かして改善したため、2回目は1回目よりも達成感が高まった。

#### ○6年生との準備や打ち合わせを大切にすることで、活動や取組に自信を持って取り組むことができ、次の取組への意欲も向上した。その姿が、下級生の良いモデルとなっている。

### 今後の展開『つながりと発展』

#### ○今年度の児童会の取組を来年度の6年生につないでいく。

#### ○全校レクを縦割り班活動とつなげ、異年齢交流活動を充実させていく。

#### ○活動や取組における教師の支援の割合を少しずつ減らしても活動できるよう、計画的に指導していく。

### 他校へのアドバイス『事前準備の充実』

#### ○児童主体の活動や取組においては、教師が事前準備や段取りをしておく部分と、児童に任せる部分とのバランスが必要である。本番は任せる見守ることができるよう、事前の準備や練習を大切にしている。

指定校番号	28043	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立郷田小学校	校長	児玉 伸泰	生徒指導主事	西宮 利三
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『キラキラカード』

取組のねらい 『笑顔があふれ安心して生活できる学校』

・友達の良さを見つけ、お互いを認め合い、安心して学び合う人間関係を築き、自己有用感を高める。

取組の具体的内容 『**全校児童** キラキラサイクル』 『**児童会** やりきる』

- |   |             |    |                                                                                                               |
|---|-------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | <b>児童会</b>  | 計画 | ・年2回(6月～7月・1月～2月)「いじめ・体罰アンケート」とリンクさせて実施する。<br>・キラキラカードを書いてもらい、集約する。<br>・目標枚数を設定する。(前期600枚・後期800枚)             |
| ↓ |             | 準備 | ・学年カラーのキラキラカード・教室掲示用呼びかけ文・キラキラポストなど                                                                           |
| ② | <b>児童会</b>  |    | 全校放送で、全校児童に呼びかけた後、呼びかけ文を持って各教室を回り、直接呼びかける。                                                                    |
| ③ | <b>全校児童</b> |    | キラキラ(友達の良いところ・してもらってうれしかったこと・いいなと思う言葉)を見つける。                                                                  |
| ④ | <b>全校児童</b> |    | キラキラをカードに書いて「キラキラポスト」に入れる。                                                                                    |
| ⑤ | <b>児童会</b>  |    | 給食準備時間に毎日枚数を数え、特設の掲示板に掲示する。(放送カード専用掲示板も用意。)<br>その日に集まったカードの中から、望ましい内容のカードを数枚選んで給食時に放送する。<br>放送の最後に一言コメントをつける。 |
| ↓ |             |    |                                                                                                               |
| ⑥ | <b>全校児童</b> |    | 全児童は、掲示してあるキラキラカードを読む。                                                                                        |
| ⑦ |             |    | 期間中③～⑥を繰り返す。                                                                                                  |
| ⑧ | <b>児童会</b>  |    | キラキラ月間終了後、全校朝会で集まった枚数を報告、自分達の感想や意見を発表する。                                                                      |

取組の課題・創意工夫 『横に縦に』

『横に縦に』  
・今年度は、キラキラカードが学年を越えた取組になるように、児童会が意図的に多様な視点での「良さ」が書かれたカードを校内放送で紹介したり、校内掲示を工夫したりした。

取組の成果(効果) 『キラキラの連鎖』 『主体的に』

『キラキラの連鎖』  
・キラキラカードを書くことを通して、相手から認められている意識が高まり、相手を思いやる気持ちが育った。  
・低学年が、高学年のことを尊敬する内容や高学年が低学年の頑張りを認める内容が増え、自己有用感を高めることができた。  
・互いに認め合う活動の積み重ねから、人を傷つける言葉やからかいの言葉が減少し、落ち着いて行動できる児童が増えた。

『主体的に』  
・児童会から始めた活動が、学年や学級に広がり、学校全体での取組に広がった。

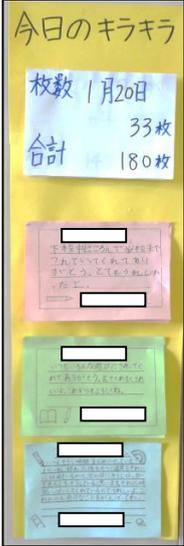
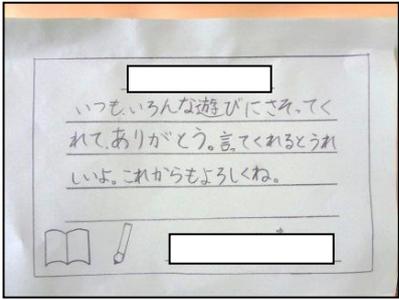
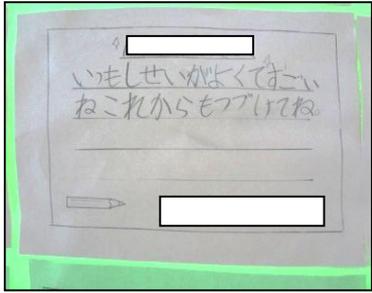
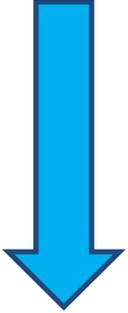
今後の展開 『笑顔を自信に』

・今後も継続して「良さを見つけられる自分」、「良さを見つけてもらった自分」を自覚させ、友達とのつながりを意識した行動ができるように発展させることで、さらに自己有用感を高める。

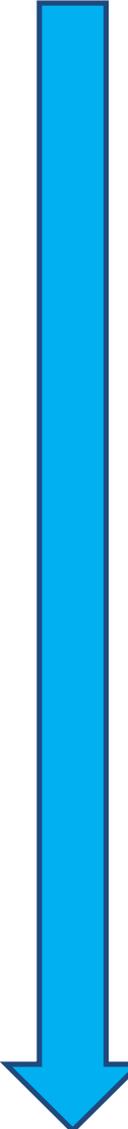
他校へのアドバイス 『シンプル』

・自分のやるべきことがはっきり分かっているシンプルな活動にし、無理なく続けられる活動にする。  
・誰もが「喜び」や「達成感」を感じることができ、「やってよかった」と思える活動にするために評価の工夫をする。

キラキラカード  
【〇〇さんへ・〇〇より】



キラキラカードの掲示・放送



全校への報告

指定校番号	28044	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立寺西小学校	校長	福場 克史	生徒指導主事	加藤 燈恵
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『スマイルボックス』

**取組のねらい** 『キーワード やさしい言葉・行動を増やす』

全校児童が、友だちの優しい言葉や行動を見つけてカードに書く活動を行うことで、優しい心で人と接することのできる児童を育てる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 友だちのやさしい言葉・行動を探す』

友だちからやさしい言葉をかけてもらったり、友達がやさしい行動をしたりしていたら、それをカードに書き、「スマイルボックス」に入れる。児童会がそのカードを回収し、給食放送で紹介する。紹介されたカードは、校内に掲示し、書いた相手に「郵便」という形で届ける。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード アイデアで活発に!』

「スマイルボックス」の方法を周知するために、児童会で「児童会だより」を作成した。「児童会だより」を各学級担任に配布し、各教室で方法を確認してもらった。また、児童朝会の発表で、「スマイルボックス」の具体的な内容やルールについて説明した。「スマイルボックス」本体は、ただの箱を用いるのではなく、スマイルマークを付けたり、本物のポストのように飾り付けをしたりしてみんなの興味を引くような箱にした。児童会で回収して給食放送で紹介したり、掲示板にカードを貼ったり、書かれた相手にカードを届けに行くなどして、取組をフィードバックするようにした。

**取組の成果（効果）** 『キーワード いろんなやさしさを発見!』

児童がこの取組を通して、自主的に優しい言葉を遣ったり、優しい行動をしたりしていく中で、「友だちが困っているときには声をかけると相手が助かり、嬉しい気持ちになる。」「授業中に分からないところを教えてもらえると、お互いの成長につながり、楽しい。」などに気付き、校内で優しい言葉・行動が少しずつ増えている。また、友だちにやさしい言葉がけ・行動をするだけでなく、友だちの優しい言葉がけ・行動を見つけることで、新しい優しさの発見へとつながり、効果のある取組であったことが言える。

(以下、児童の発言より)

○わたしは、困っている友だちになかなか声をかけたり、何かしたりしてあげることができていませんでした。それは、恥ずかしいからです。でも、「スマイルボックス」のおかげで、友だちのやさしさを見て、困っている友だちにどんな風に接してよいか少し分かった気がします。

○ぼくは、勉強が苦手です。算数の自分で考える場面で、書けないなあと思っていたら隣の○さんが教えてくれて、なんとか書けました。助かったし、嬉しかったです。ぼくも真似してみたいな。

## 今後の展開『キーワード ほめて伸ばし、いじめ0へ!』

優しい言葉や優しい行動は増えてきた。教師も児童もやさしい言葉・行動を意識し、見付けたらほめたり、真似したりしていくようにしたい。そして、そのことがいじめ0につながればよいと考える。

## 他校へのアドバイス『キーワード ほめて育てる場を・・・』

全校児童がやさしい言葉・行動を意識していくことは、いじめ0につながっていく。担任が優しい言葉・行動を積極的に評価したり、担任自身が意識したりして見本をしめすことが大切だと考える。また、担任が児童にやさしい言葉・行動を用いる場を設定することで、ほめる場をたくさんつくっていきける。学校組織としても、教員全体が常に児童のよいところを見つけるようにしておくことで、温かい雰囲気につながっていく。

# 〈スマイルボックスについて〉

## 1 内容

- ・嬉しか、た言葉や行動を紙に書いて「スマイルボックス」に入れる。
- ・給食時間に児童会が回収。
- ・児童朝会または給食放送で一部を紹介する。
- ・紹介された手紙は校内に掲示。
- ・手紙と同じような形で書いて児童会が「ゆう便」というような形で相手に届ける。

## 2 ルール

- ①うれしか、た言葉や行動を紙に書いて入れること。
- ②朝会等で紹介しても良いかを確にんし。内容を紹介すること。→(紹介ok→名前, ほめたい人イニシャル)
- ③目的外で箱にさわったり、中を見たりしないこと。
- ④そばに置いてある紙をさわったり、持っで行ったりしないこと。
- ⑤いたずらで箱に入れないこと。
- ⑥紙を入れるさい、学年と組、名前を記入すること。

## 3 場所

- ・ことばとまね教室 前のろう下に箱を一つ設置する。



ありがとう



はいいようぶ



指定校番号	28000	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	熊野第四小学校	校長	吉田浩一	生徒指導主事	佐伯房代
-----	---------	----	------	--------	------

取組事例名 『児童委員会のあいさつ運動へ』

取組のねらい『キーワード 教師主導からの脱皮』

熊野町では、小中学校連携して6つの行動スキルの「がん熊スキル」を身に着けさせようとしている。「大きな声であいさつをしよう」はその一つである。これまでは教師主導で進めてきたが、今年度は、児童が主体的に「あいさつをする」よう取り組んだ。



取組の具体的内容『キーワード 児童の主体性』

・自分のあいさつの様子の振り返り、あいさつを以前よりしていないこと、声が小さくなっていることに気づかせる。【学校評価児童アンケート

「レベル5のあいさつ」前年度5月肯定的評価83.3%⇒今年度5月肯定的評価78.7%】

・一部の地域の人から「熊四小の子どものあいさつの声が小さくなっているね」と言われたことを知らせる。

・児童委員会は、振り返りや地域の人たちの言葉を受けて、朝のあいさつ運動を実施することを決め、分担を決めて、あいさつ運動を始めた。

・児童委員会の児童が朝会であいさつのモデルを示す。【「自分から・立ち止って・相手を見て」「あいさつをして」「お辞儀をする」】

・6年生の「あいさつやります！宣言」クラスが主体的にあいさつ運動を行った。



**あいさつ運動について**

児童委員会担当 渡辺 出野

- ねらい ○児童委員会主催のあいさつ運動を通して、大きな声であいさつのできる四子を目指す。
  - (自尊)
  - 熊四小文化の日、見に来てくださる保護者や地域の方々へ大きな声で感謝の気持ちを伝える。(他尊)
- 日時 10月13・19・26日(水) 7:40~8:00
- 場所 正門前(雨天の場合 1F脱靴場)
- 構成 児童委員会5年生4名・各学級の代表2名ずつ26名(特別支援学級の児童は交流学級で) 合計30名
- 日程
  - 10月11日(火) 全校朝会で児童委員会の5年生が「あいさつ運動」について説明する。各学級のあいさつ運動の代表者を決定する。
  - 10月13日(水) 第1回あいさつ運動(各学級の代表)
  - 10月13日・19日・26日(水) あいさつ運動(・・・11月以降に続く。)
- 当番表
 

日時	メンバー	
10月13日(水)		
10月19日(水)		
10月26日(水)		
- その他
  - 9月初めに児童委員会で実施したあいさつ運動で、全体的にあいさつの声が小さいことに気づいた児童たちからあいさつ運動をしようという声が出た。児童主体での「あいさつ運動」は初めての取り組みではあるので、改良を加えながら11月以降も実施していく。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード プラス評価』

・児童委員会は各学年のあいさつ名人にあいさつのコツやあいさつをした時の気持ちをインタビューし、あいさつした時の気持ちよさを給食時の放送で伝えた。

3年生のあいさつ名人に選ばれた男子からは、あいさつのコツとして「恥ずかしがらず、元気よく挨拶をする」こと、あいさつをしたとき、「心が温まるし、気持ちがよくなる」こと、あいさつをされたら、「うれしくなって知らない人でも友だちになった」との発表があった。

・「気持ちのいいあいさつができていますね。」などといった来校者の評価を児童に伝えるようにした。



## 取組の成果（効果）『キーワード よさを広める』

・各学年のあいさつ名人からの放送では、児童のあいさつに対する目的意識や相手意識を高めることができた。放送を聞いたのち、あいさつするときのコツを生かす児童が出てきた。

・帰りの会で、自分のあいさつを振り返り、自分のあいさつがよくできたことを自己評価できた。

・今年度の学校評価アンケートの「レベル5のあいさつ」に関する児童の肯定的評価は、5月78.7%⇒1月76.5%と、一定数を保っている。一方、職員の肯定的評価は、5月33.3%⇒1月66.7%と大幅に増加している。児童の意識レベルはほとんど変化していないが、職員の評価が上がっていることから、児童のあいさつの質の高まりがあったととらえることができる。

## 今後の展開『キーワード 引き継ぎ』

・児童委員会の6年生から5年生に「あいさつ運動」の引き継ぎをする。

## 他校へのアドバイス『キーワード 気づきの場づくり』

・教師が設定した「あいさつ運動」から、児童主体の「あいさつ運動」への転換を目指すために、児童に自分のあいさつの実際はどうなっているか振り返り、気づかせるための場づくりが必要である。



指定校番号	28053	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田小学校	校長	平川 博秀	生徒指導主事	松本 浩司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『児童会活動の取組』

**取組のねらい**『キーワード：自主的・実践的な態度，自治の力』

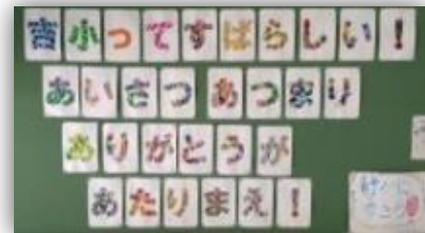
- ・集団の一員として，よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ・児童会活動を通して，よりよい学校生活づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自治の力を高める。

**取組の具体的内容**『キーワード：児童会学校目標，2週間チャレンジ，ボランティア活動』

**1 児童会学校目標の設定「吉小ってすばらしい！あいさつ，あつまり，ありがとうがあたりまえ！」**

・年度当初に，代表委員会を行い，昨年度の吉田小学校のよかったところや頑張りを振り返った。その後，児童会執行部を中心に，今年度の児童会学校目標を決めた。

このことにより，今年度，吉田小学校をどのような学校にしていきたいか，児童全員で共通の目標を持つことができた。

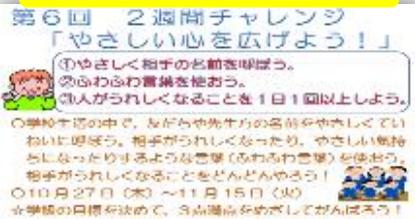


**2 2週間チャレンジの取組**

・毎月1回程度，児童会執行部が中心になって「生活目標」を決め，具体的な評価項目を設定して2週間取り組んだ。日々学級ごとに帰りの会で振り返りを行い，2週間後に代表委員会で結果を交流した。その後，次回の2週間チャレンジの目標について各学級の意見を聞き，次の目標設定を行った。

**2週間チャレンジポスター**

**2週間チャレンジの取組一覧表**



1 黙動（もくどう）をやりきろう！	5 黙動（もくどう）をやりきろう！
2 着ベル・傾聴姿勢をがんばろう！	6 やさしい心を広げよう！
3 右側歩行に気を付けよう！	7 もくもくそうじをやりきろう！
4 気持ちのよいあいさつをしよう！	



もくもくそうじ



黙動（もくどう）



くつそろえ

**3 各委員会によるボランティア活動**

・児童会学校目標を実現するために，各委員会がそれぞれの役割をもとに，吉田小学校をさらによりよくするためのボランティア活動を計画して取り組んだ。



あいさつボランティア



壁磨きボランティア

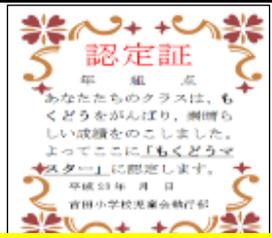


花植えボランティア

## 取組の課題・創意工夫『キーワード：意欲付け』

- ・2週間チャレンジの振り返りをする中で、目標に対して、学級実態や発達段階に応じて課題が微妙に違うため、すべての学級が意欲的に取り組めていないという課題が明らかになった。

そこで、取組開始から1週間後に、給食放送で取組の意図や様子を伝えたり、目標を達成した学級には「〇〇認定証」「〇〇賞」などを渡したりするなど、評価の工夫等を行った。これらのことが児童の意欲につながった。



もくどうマスター認定証

- ・各ボランティア活動については、始まった当初、活動が休憩時間に行われるため、参加する児童が少なかったり、同じ児童に偏っていたりすることがあった。そこで、給食放送などで実際に参加した児童にインタビューをして感想を聞いたり、活動の様子を写真で掲示したりするなど、ボランティア活動の様子を伝えた。このことにより、いろいろな児童にボランティア活動の輪を広げることができた。

## 取組の成果（効果）『キーワード：自治的活動』

- ・年度当初に、各学級の吉田小学校への思いを取り入れながら、児童会学校目標を設定したことで、各学級の児童が「吉田小学校を、自分達でよりよくしていきたい。」という意識を持つことができた。
- ・2週間ごとに生活目標を設定し、学校全体で取り組むことで、吉田小学校への所属感や一体感が高まった。また、高学年が率先して取り組み、下学年の手本となったことが効果的だった。
- ・各委員会が工夫しながら、様々なボランティア活動に意欲的に取り組むことができた。徐々に活動の輪も広がり、吉田小学校のためにできることをする喜びを感じる児童が多くなった。
- ・11月に行った児童アンケートでは、「係や委員会の仕事をがんばっている」が96%、「くつそろえ」「着ベル」「もくもくそうじ」「黙動」「右側歩行」はいずれも90%以上の児童が肯定的に回答していた。

## 今後の展開『キーワード：継続から学校風土へ』

- ・今後も、こうした児童会活動の流れを継続し、自分達で生活をよりよくするために、目標を決めて取り組む活動や、さらによりよくするための活動の充実を図っていきたい。
- ・代表委員会でも、少しずつ吉田小学校をよりよくするための意見や課題提示等がなされるようになり、子供達の中に少しずつ「自治の力」が育ってきているのを感じることができた。今後は代表委員会の内容を充実させるなど、自分達で話し合っ解決しようとする学校風土を創っていきたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード：話し合っ解決』

「学校生活をよりよくするのは、自分達だ。」という学校生活づくりへの参画意識を児童に持たせるためには、普段の学校生活の中で、いかに児童の思いや気付きを引き出し、話し合っ解決するという経験を多く積ませるかが重要である。本校では、昨年度から少しずつ学級活動(1)の取組の充実を図るとともに、



学級会の様子 (1年生)

「学級会の定例会」に取り組んでいる。そのことによって、児童に「生活の中で問題を見つけたり、生活がよりよくなるようなアイデアを思いついたりした時には、クラスみんなに相談しよう。」という意識が高まりつつある。また、全校児童集会や各委員会によるボランティア活動等を行うことで、上学年が下学年を思いやり、下学年が上学年にあこがれをもって、仲よく協力して支え合おうとする人間関係ができてきている。こうした日々の自治的な活動を地道に行うことが、児童の自主的・実践的な態度の育成につながるとともに、自治的な集団の育成につながると考える。今後も取組を継続していきたい。

指定校番号	28056	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

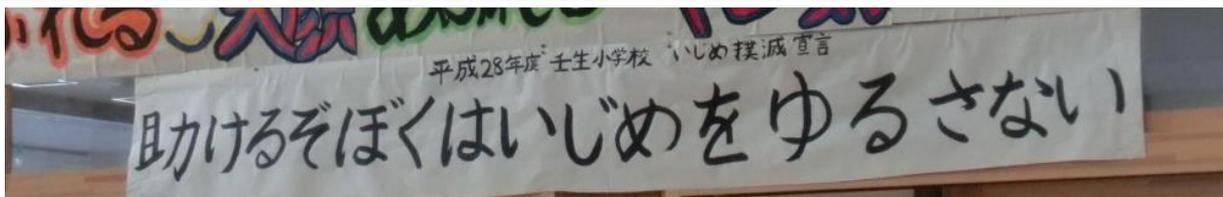
学校名	北広島町立壬生小学校	校長	松島 尚志	生徒指導主事	岡田 克朗
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『児童による「いじめ撲滅宣言」を生かした集団づくり』**

**取組のねらい『児童自身が主体的に行う活動の充実』**

- 課題発見・解決力の向上
  - 児童が、自分たちの学校からいじめや、友達を傷つけることをなくしていくための方法を考え、自分たちの考えを実行していくことを通して、いじめをはじめとする人権侵害を自らなくしていくとする態度を養う。
    - \* 設定課題 いじめをなくすために自分たちで何ができるか。
- 思考力・判断力・表現力の向上
  - いじめのない学校であり続けるためにどんなことができるか考え、効果的に実践していく方法や全校に広めていく表現を工夫することを通して、思考力・判断力・表現力を養う。
- 自己肯定感・自己有用感の向上（児童会企画委員会及び高学年児童）
  - 自分たちが考え、取り組んだ活動によって、いじめをなくそうという思いや行動が全校に広まっていくことで、達成感を感じ、自己肯定感や自己有用感を高める。

**取組の具体的内容『自己決定によるめあての設定とふりかえりによる態度の定着』**



- 児童会企画委員会が、全校に呼びかけ、「いじめ撲滅宣言」をつくることを全校に呼びかける。
- 作成した宣言を全校に発表するときに、以下の内容を学級に提案する。
  - いじめ撲滅をつくるときに集めた意見や、児童会企画委員会の話し合いにより考えた「今、課題だと思うこと」や「やったらいいと思うこと」を具体的に設定する。それに基づいて各学級で目標を設定し、いじめをなくすことを意識して生活し、壬生小学校から自分たちの力で、いじめをなくしていく。各学級の目標は、できるだけ具体的にし、行動に表しやすいものにする。
    - (例) 全体目標「言葉づかいに気を付けよう」→学級目標「ちくちく言葉を使わないようにしよう」
    - 「仲間はずれをなくそう」 →学級目標「一人の人がいたら声をかけよう」
    - 「遊ぶときは友達をさそおう」(等)
- 各学級で決めた目標をカードに書き、掲示する。
- この目標を意識して生活する。意識させるために定期的に学級の暮会で、振り返りをする。
- 定期的な振り返りにより、学級の目標を強く意識させる。また、学期末の児童総会では、各学級代表が、自分達が取り組んだ結果を発表する。
- 児童総会の結果や、2学期の様子を踏まえて、3学期の「いじめ撲滅」に関する目標を児童会企画委員会は考え、全校に提案する。これを受けて各学級では、継続して「自分たちで安心して生活できる学級をつくっていく」態度を育てていく。



## 取組の課題・創意工夫『児童の自主性・自治能力の発揮』

### 課題

児童会活動や委員会活動の内容にあまり変化がなく、課題を発見し解決する活動として改善の必要がある。

児童が、児童会・委員会活動に意欲的に取り組んでいるが、成果を実感できにくく、達成感や自己肯定感を十分に感じられていない。

### 創意工夫

この取組では、昨年度まで、自主的に「いじめ撲滅宣言」を決定してきた活動を継承、発展させた。児童会企画委員会が「いじめをなくす」ために呼びかける内容を自分達で考えさせた。その訴えに対して、各学級の児童が確実に応え、「安心して生活できる学校づくり」を進めるために全児童が取組を行っていく。このことを児童会企画委員会の児童が、発見した課題を解決するために活動した成果として実感し、自信と達成感を感じるよう工夫した。

他の委員会活動においても、少しずつ生活を向上させることができていることや、発見した課題を解決していることを意識できるよう評価するなど、活動への意欲が高まるよう配慮している。児童が活動したことが全体の成果になっていることを強く実感することで、課題の解決への自信や意欲が高まったり、自己肯定感、自己有用感を向上させたりしていきたいと考える。

## 取組の成果（効果）『児童の姿の成長』

2学期末に行った児童アンケートの結果は次の通りである。

(数値は肯定的回答の割合)

「学校は安心して生活できる」 (90%)

「自分は友達から認められている」 (85%)

「自分は、クラスの友だちや他の人の役に立っている」 (85%)

取組を通して、全校で上級生を中心に、「いじめは許さない」とみんなが思っていることを再確認したり、学級でいじめをなくそうという

目標をもって、友達と話し合ったりできたことが、少なからず学校で安心して生活できるという思いを強めることにつながった。児童総会ではどの学級も具体的に学級を取組の様子を発表することができた。

このことで、中心に関わった児童会企画委員会の児童の活動への意欲も高まったととらえている。

6年生全体でも、まだまだ少ないが、自分たちで課題を見つけ、解決を訴える場面も見られるようになってきている。2学期末のアンケートでは、児童の自己肯定感や、自己有用感も高い数値を示した。



## 今後の展開『創造と継続』

「自分たちの生活をよくしていくために、自分たちで行動していく。」ことが児童会・委員会活動の大きな目標であることを自覚した上で、児童が活動に取り組んでいく風土をつくっていく。そのために、児童会企画委員会をはじめとするすべての委員会で、活動の目的を確認することと、目的に即して、成果を振り返ることを行い、成果が生活の中に現れている様子を具体的につかめるよう評価し、生活の課題を見つけ、解決していく活動を重ねることが重要であるとする。

## 他校へのアドバイス『支援と評価』

活動にあたって、自己決定の場を大切にすることが重要である。「昨年度、取り組んでいたから」、「先生に言われたから」というあいまいな理由では、活動の意欲付けにならない。「自分たちが見つけた課題を、自分たちで解決していく」ことを目標として常に意識付けることが大切である。

指定校番号	28058	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷小学校	校長	沖 章生	生徒指導主事	村上 敦
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名 『広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！〇万人！～』**

**取組のねらい『キーワード 課題発見解決能力の育成』**

- 全校児童が課題意識をもち、あいさつ運動の目標や実施方法などを考えることにより、生徒指導上の課題発見・解決能力の向上を図るとともに、児童の自主的・実践的な態度を育てる。
- 道徳の時間を活用し、「礼儀」に関する価値項目の授業を行うことで、日ごろからお世話になっている地域の方々に対する感謝の気持ちを伝えていきたいという心情を育てる。

**取組の具体的内容『キーワード 児童会による自治的な活動と道徳の時間の活用』**

**児童会による活動**

- ①児童会役員による話し合い
  - ・すすんであいさつができる学校にしたい。
- ②全校代表委員会で提案
  - ・「広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！ 8000人！～」（5月）
  - ・「広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！20000人！～」（10月）
- ③各クラスで具体的な取組の話し合い
  - ・相手より先にあいさつをしよう等
- ④2週間の「あいさつ強化週間」の実施
  - ・児童会役員によるあいさつ運動
- ⑤児童会役員による集計
  - ・5月・・・13070人達成      10月・・・29795人達成
- ⑥目標達成を実感し、今後の意欲を高めるための「全校なかよし運動」の提案
  - ・運動の内容を全クラスに募集
- ⑦代表委員会での話し合いによる遊びの決定
- ⑧「全校なかよし運動」の実施（昼休憩・掃除時間）
  - ・5月 全校おにごっこ      10月 全校ドッジボール大会
- ⑨児童会役員による取組の振り返り
  - ・全校で楽しむことができてよかった。
  - ・高学年からあいさつを広げていきたい。



**道徳の時間との関連**

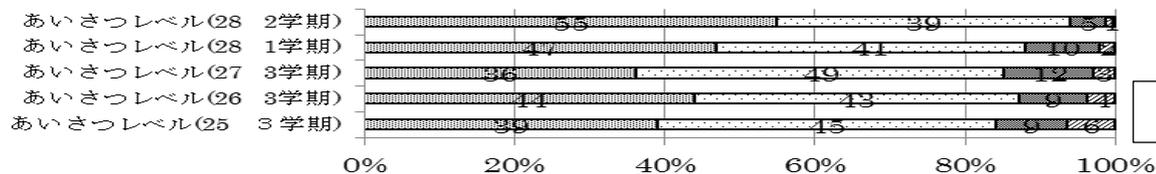
- 「あいさつ強化週間」の事前や実施中に道徳の時間での全校同時期・同価値項目の授業（礼儀）で価値の温めを図る。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 自己評価とのズレを解消する』**

**課題**

- 自己評価と地域との評価のズレ
 

学期末の生活アンケートでは、1学期89%、2学期94%の児童があいさつができていると解答しているが、地域からは、「あいさつをしても返さない児童がいる」「もっと本郷小学校の児童はあいさつができている」と意見が寄せられた。また、教職員の評価でも、「まだまだ十分あいさつができているとは言えない」という意見が多かった。（グラフ①）



○取組期間中は、あいさつをする児童が増えるが、終了するとあいさつができない児童が増えてしまう。

#### 創意工夫

- 自己評価と他者評価のズレを解消するため、普段の始業・終業のあいさつ（号令）の声の出し方、姿勢などを各クラス徹底して指導していった。
- 取組期間が終了しても、進んであいさつができる児童を積極的に評価していく。
- 「広げようあいさつの輪大作戦」の取組や課題・成果について「生徒指導だより」にて、家庭・地域へ発信していく。

#### 取組の成果（効果）『キーワード 児童の変容』

- 4月当初に比べ、あいさつをする児童が大幅に増えてきている。また、生活アンケートによる「自分にはいいところがある」と答えた児童の中に、「あいさつが進んでできることが自分のいいところである」と答えた児童が多くいた。
- 児童会役員の児童や6年生の児童の中でも、「自分たちであいさつができる学校を作っていきたい」という課題意識をもつ児童が増えてきた。また、クラスでの話し合いでも、「どのようにすればいいか」「自分たちにできることは何か」という課題を解決しようとする発言が見られるようになってきた。

#### 今後の展開『キーワード 学校・家庭・地域の三つ巴の体制作り』

- より児童の主体的な活動となるように支援していく。また、あいさつだけでなく、「学校の課題を児童の創意工夫により解決させる」自治的な活動を仕組んでいく。
- 地域・家庭とも連携し、「地域の子どもたちと一緒に育てていく」という視点を持ち、本校の校章（小早川家の家紋）でもある学校・家庭・地域の「三つ巴」の協力体制の構築に努めていく。
- 児童による自己評価と地域・家庭との評価に「ずれ」があるため、地域・家庭へのアンケートを実施し、その評価を児童へ返していくことにより、高い目標を持たせ、児童の主体的に実践しようとする態度を高めていく。



#### 他校へのアドバイス『キーワード 教職員主導からの脱却』

- 教職員主導の取組から、児童の主体的な活動に変えていくことで、児童は課題意識をもち、意欲的に活動していく。学校の課題を児童と共有し、児童とともによりよい学校を作っていく必要性を強く感じている。
- 学校・家庭・地域のすべてが一緒になってともに地域の宝である「子ども」を育てていくという姿勢が大切にし、これからも児童の育成に努めていきたい。

指定校番号	28062	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和小学校	校長	津田 秀司	生徒指導主事	高岡 和也
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『チャレンジランキング大会』

**取組のねらい** 『キーワード 自発的・自治的活動』

- 異学年集団の中で仲良く、協力し、信頼し支え合う。
- 集団の一員として自分の役割を果たす。
- 学校生活を楽しく豊かにするための活動を、自発的・自治的にやりきる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 異学年交流』

- 縦割り班（全 20 班）ごとに校内オリエンテーリングを行う。

- 開会式**
- ①班ごとに体育館に集合
  - ②児童会「はじめの言葉」
  - ③ルール説明



- ⑤各班とも、5年生を中心に、ルールを守って静かに待つ。



翌日の児童集会で、結果発表と表彰を行う。



- ④オリエンテーリング  
6年生の考えた 10 種類（ジェスチャーゲーム・伝言ゲーム・バスケシュート・ボーリング・缶タワー・魚釣り・イントロドン・聖徳太子・どれだけのれるかな・宝探し）のゲームが用意されている教室を回り、得点を積み重ねていく。



聖徳太子

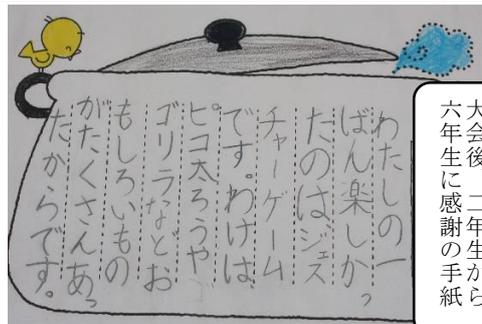


どれだけのれるかな

- 閉会式**
- ⑥再度、体育館に集合
  - ⑦児童会「おわりの言葉」

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 自主的な企画運営』

- 児童会・6年生が中心になって企画運営させる等、自主性を大切にさせた。
- ①児童会役員から「チャレンジランキング大会」について提案した。(代表委員会)
- ②児童会役員が6年生全員に提起した。
  - ・係・役割分担の決定をした。
  - ・ルールを決め、全児童に周知し、自分たちで守らせた。
  - ・ゲーム等の準備物作りをした。
- 5年生がオリエンテーリング時のサポートをした。
- 児童自身が活動の評価をし、各班に手作りの賞状を渡した。
- 低学年から6年生へ感謝の手紙を書かせた。



大会後、6年生に感謝の手紙から

### 取組の成果(効果)『キーワード 自己肯定感の高まり』

- 内容や役割分担、ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。
- 一人一人の思いや願いを大切にしてい取り組んだことで、自己存在感を高めることができた。
- 高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担し、協力して活動することができた。
- 協力し助け合って取り組んだり、互いのよさを認め合ったりすることで、共感的な人間関係を育てることができた。
- 上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生をよい手本にしながらか楽しい活動することができた。
- 自分たちで決めたルールを守ることで規範意識が高まった。
- 高学年としての責任や自覚、リーダーシップ等を、6年生から5年生に引き継ぐことができた。
- 自己肯定感が高まった。

チャレンジランキング大会後のアンケート集計 6年生・5年生(73人)

1 そう思う	2 ややそう思う	3 ややそう思わない	4 そう思わない	項目			
				人数	1	2	3
①(6年生)先生の手をかりずに、自分たちで考え計画したチャレンジランキング大会をすることができた。(5年生)来年も、自分たちで考え計画して楽しいチャレンジランキング大会にしようと思った。	人数	61	11	1	0		
	%	84	15	1	0		
②一人一人の思いやねがいを大切にしたいチャレンジランキング大会をすることができた。	人数	49	20	4	0		
	%	68	27	5	0		
③高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担して、協力して活動することができた。	人数	62	9	1	1		
	%	86	12	1	1		
④高学年(6年生・5年生)が手本となり、低中学年(1~4年生)を思いやりながら活動することができた。	人数	56	16	1	0		
	%	77	22	1	0		
⑤チャレンジランキング大会中のルールは自分たちで決め、低中学年(1~4年生)に守らせることができた。	人数	44	24	4	1		
	%	61	33	5	1		
⑥高学年としての責任や自覚、リーダーシップを6年生から5年生に引きつぐことができた。	人数	50	19	4	0		
	%	69	26	5	0		
⑦チャレンジランキング大会後、あなた自身に達成感(やり切った)や満足感(やってよかった)がわいてきた。	人数	60	7	4	2		
	%	82	10	5	3		
⑧この大会を通して、あなた自身が成長した。	人数	57	11	4	1		
	%	79	15	5	1		

### 今後の展開『キーワード 5年生につなげる』

- 3学期後半、5年生中心の児童会活動(2月14日:平成29年度前期児童会選挙運動開始、2月21日:前期児童会選挙役員選挙、3月1日:児童会役員引継ぎ式、3月8日:6年生を送る会)につなげる。
- 児童会月間生活目標やあいさつ運動強化週間等に生かす。例:2月の生活目標「他の学年にやさしく声をかけ、元気なあいさつをしよう」

### 他校へのアドバイス『キーワード 線にする取組』

- 学校行事や特別活動が、年間を通して生徒指導の三機能を育むための取組になっていることが大切である。
- 4月:遠足(1年生を迎える会)→5月:運動会(応援合戦)→8月:宿泊体験学習(体験学習)→9月:修学旅行・社会見学(校外学習)→10月:学習発表会(全校合唱)→11月:社会貢献活動(地区児童会)→12月:チャレンジランキング大会(オリエンテーリング)→3月:6年生を送る会(各学年の発表)

指定校番号	28064	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長	村上 みどり	生徒指導主事	永井 利明
-----	-----------	----	--------	--------	-------

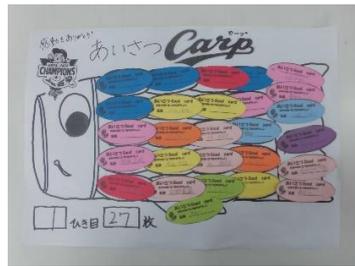
取組事例名 『児童会活動』

取組のねらい『主体性や自主性の育成』

全児童がよりよい学校生活を送るために、協力して諸問題を解決しようとする自主的実践的態度を育てるとともに6年生にリーダーとしての自覚と責任を持たせる。

取組の具体的内容『キーワード 主体性』

◎あいさつの取組



○あいさつ運動

- 児童会役員の公約「あたり前のことをあたり前にする学校」をめざし、あいさつもあたり前にできる学校にする取組として児童会と教職員であいさつ運動をする。

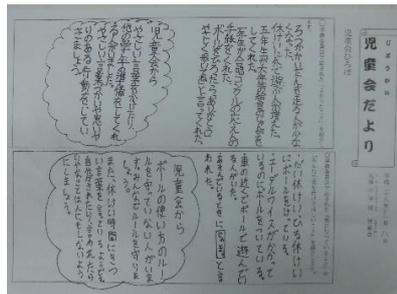
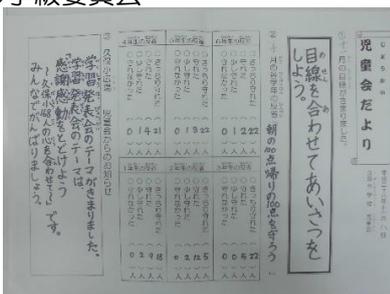
○あいさつ貯金魚

- 児童会役員が、あいさつをしている児童を肯定的に評価し、あいさつのよい児童に対して鱗の形をしたグッドカードを配り、各学年の一人当たりの枚数で比べ、優勝した学年には全校の前で表彰する。

○あいさつ名人の認定

- よりよいあいさつができる児童を増やすために、よいあいさつの基準を示し、よいあいさつができる児童を名人に認定し、表彰する。

◎学級委員会



○代表委員会

- 児童の主体性、自主性を高めることを目指し、児童会の自治活動や各学年のクラスの話し合い活動の充実及び活性化を図るために代表委員会を開く。  
(各学年で話し合ってくる内容)
- 毎月の生活目標を守れたかの反省と次月の生活目標
- 学校生活の中でよかったと思うことや困っていること
- 児童会や他の学年にお願いしたいこと（緊急の場合は随時児童会に連絡する）

※事後の取組

- ・児童会だよりを全教職員と各クラスに配布し、教室に掲示しておく。
- ・よかったことについては全校集会で紹介する。
- ・気になっていることや困っていることは、児童会から各クラスに連絡したり、啓発ポスターなどを掲示したりして問題解決をしていく。

#### ◎リーダーの育成



#### ○縦割り班活動

- ・灯籠づくりの際、縦割り班の6年生が、1年生に作り方を指導したり、休憩時間に転がしドッジや鬼ごっこなどの他学年との遊びをしたりする。

#### ○集会などの引率

- ・毎週火曜日の集会に、6年生が他学年を並ばせ、体育館に引率したり、ランランタイムやジャンピングタイムなど他学年の前に立って指導したりする。

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 徹底』

- ・生活目標を考えることはできたが、日々の生活の中で課題を意識することができたが、全ての児童が行動できていない。
- ・6年生へのアンケート調査では、「他学年を時間内に連れていくことができた」と「他学年を静かに連れていくことができた」が、1学期は91%だったが、2学期末には75%まで下がった。また、声掛けをしたり、注意をしたりすることができていない児童がいるという課題が出た。

### 取組の成果（効果）『キーワード 自覚と習慣化』

- ・学期の振り返りのアンケートで「学校で起きた問題に気付くことができた」が、1学期が74.1%から2学期は85.5%に、「学校で起きた問題に対して、友達と協力して解決することができた」は1学期が73.6%から2学期は77.1%まで上がった。
- ・6年生にリーダーとしての役割を与えることによって、久保小をリードしている自覚を持って行動する児童が増えてきた。

### 今後の展開『キーワード 継続と発展』

- ・学級会活動で自分たちの生活を見直すことによってよりよい学校にしていこうとする実践的態度を養うことができる児童が増えてきた。また、6年生をリーダーとして位置付けることによって最高学年としての自覚と責任を持つことができつつある。この取組を継続し、さらに学級会活動を活発にし、学校生活をより良くしたり、リーダーが主体的に活動したりするような取組をしていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 主体性の育成』

- ・自分たちの学校をよりよくするためには、どのようにしたらよいかを自分たちで考える話し合い活動を充実させる。
- ・児童会役員や6年生に役割を与え、どのような活動にしていくのがよいか考えさせることによって主体性が育成される。

指定校番号	28065	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南小学校	校長	上野 克典	生徒指導主事	兼田 和佳
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『校風を創る』**

**取組のねらい 『校風を創造するために必要な資質，能力の育成』**

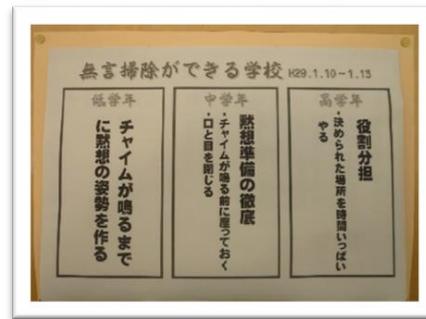
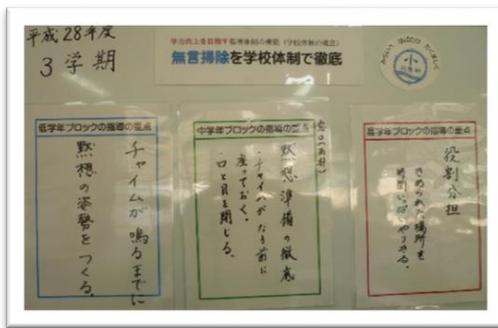
- ・課題発見・解決能力の育成（自ら課題を見付け，それに取り組む）
- ・自己肯定感を高め，自己指導能力を身に付けさせる。

**取組の具体的内容 『PDCA サイクルに則った課題解決』**

- ①問題の発見，目標の設定：「一人一人が役割を自覚し，よりよい学校を創る」（委員会活動の活性化と常時活動）・『無言掃除』を学校の伝統に引き上げる
- ②課題の解決に向けた協議及び方法の決定：児童会からの提起↔各学級で課題解決に向けた取組を協議（一人一人の児童が課題を共通認識及び合意の形成：意欲の向上）↔学校体制で支援（教職員はブロックに分かれて「無言掃除」の具体化に向けた重点指導項目を一週間のスパンで設定）

【「無言掃除」ブロック重点指導項目】

【重点指導の見える化：共通理解】



- ③実践化（自己有用感，肯定感の育成，意義・目的の理解，役割の自覚化，責任ある行動をめざす）
  - 全委員会で常時活動を実施・評価活動の充実（意欲の向上）→よりよい生活をつくらうとする態度（例）栽培委員会・花の水やり・清掃活動

【栽培委員会の常時活動】

【評価活動の充実：意欲化】



実施日	担当者	実施と方針	実践の意	自己評価
7月11日(月)	森永真由香	...	...	10
7月12日(火)	...	...	...	10
7月13日(水)	...	...	...	10
7月14日(木)	...	...	...	10
7月15日(金)	...	...	...	10

美化委員会・「無言掃除」の点検，評価・清掃活動 等

【掃除前の黙想】

【掃除の様子・美化委員会点検】

【掃除の評価】



- ・校内放送で無言掃除ができていない場所を評価 ・がんばり表にシールをはる—評価の見える化

○児童会による挨拶運動―「因島南小あいさつの木」の取組（全学級輪番で挨拶運動に参加）

【児童会：掲示物作製】

【協働：児童会への支援活動】

【あいさつ運動の実際】



○「因島南小4つのきまり」を基軸に学校風土の創設―自己の成長を実感，自己肯定感に繋げる。

【学級活動：はきもの揃え係】一点検と課題の発見

【はきもの揃えの現状】



④定期的な振り返り―意識化，実践の継続，新たな課題の発見→次の段階，ステップへ

#### 取組の課題・創意工夫『課題発見力と評価の充実』

- ・課題解決能力の育成には，まずは，実態を見せ，課題を発見させ明確にすることが必要である。次に明確にした課題を分析し，誰がどのようにして取り組み実践していくのかを児童と協議し，それを共有することが重要である。児童との共有化においては，工夫，改善する必要がある。
- ・児童の実践における意欲の高揚，継続化を図るための評価を点検表に記入する等して児童に返していた。日常的な評価は次の活動意欲に繋がった。

#### 取組の成果（効果）『取組のプレゼンスを問う』

- ・常時活動をする意義を自己の成長と学校の形成者としての自己の役割の中で捉えさせることにより，責任を持って活動する態度が身に付くとともに自己有用感が高まりつつある。
- ・「はきもの揃え」の取組では，揃え方のモデル（掲示物）を児童と共有し，各学級の点検活動を展開することで，自己指導能力の育成を図った。また，校内放送を活用し，取組の意義を理解させるとともに，児童への評価活動を大切にされた。結果として，児童肯定的評価は91.2%であり，児童の意識は高揚し定着してきた。

#### 今後の展開『話し合い活動の充実』

- ・児童会と連携し，学校生活における問題点に気付かせ，それを話し合い活動を通して，解決させるシステムの一層の確立をめざし，それを充実させる。
- ・児童とともに「無言掃除」を校風に引き上げる営みを行う。（3学期の最重点目標として，全職員で共通認識）

#### 他校へのアドバイス『意識付け・共有化』

- ・児童の主体性を育成するには，児童と課題を共有し，実行のための計画（方策の思考），振り返りを意識付けることが重要である。
- ・全児童による課題（取組の存在意義を含む）の共有化と児童との取組の方法の共通理解は取組を推進するうえで必要不可欠である。

指定校番号	28067	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	坂田 邦彦	生徒指導主事	丸山 信宏
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『なんでも文化発表会』

**取組のねらい** 『キーワード 自己存在感と自己有用感』

- 児童が日頃の学習や自主的な文化的活動の成果を発表することを通して、自己存在感、自己有用感を高めることができるようにする。
- 児童が他の友達や異学年の児童の発表を見ることを通して、自己を伸ばそうとする意欲をもてるようにする。
- 後期自伸会執行部の児童が自主的かつ主体的に運営することによって、自己存在感を高めることができるようにする。

**取組の具体的内容** 『キーワード 主体性』

- 後期自伸会執行部の児童が中心となり、計画の立案、練習・リハーサル時の見守り、発表会当日の運営等を行う。

**計画の立案**

- ・執行部会で実施計画を立てて、自伸会朝会等を使って全校児童に参加の呼びかけを行う。



**練習・リハーサル時の見守り**

- ・練習計画を立てて、参加する個人・グループの練習に立ち会い、必要に応じてアドバイスを送る。



**発表会当日の運営**

- ・会場準備や司会等、発表会当日の運営を行うとともに、終了後は5・6年生とともに会場の片づけを行う。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 時間と場の確保』

- 参加の呼びかけをしたところ、今年度は26の個人・グループの参加申し込みがあった。音楽室や視聴覚室等での練習、体育館でのリハーサルができるように練習計画を立てたが、十分な練習時間を確保することが難しい。
- 学校行事の見直し等により、「なんでも文化発表会」は平成24年度から昼休憩に行っている。全学級にプログラムを配布したり、告知放送で観覧を呼びかけたりしているが、全員が観覧できるようになっていない。



**取組の成果（効果）** 『キーワード 自己存在感と自己有用感』

- ピアノ、合奏・合唱、ダンス、劇など5日間に渡って実施したが、連日200人前後の児童・保護者が観覧し、たいへん盛り上がった。
- 児童アンケートでは、「日頃からがんばっていることを多くの人に見てもらえた」「見てくれた人が楽しんでくれた」「自分たちの力で創り上げるのはたいへんだったが、クラスが団結し、いい思い出となった」等、約89%の児童が参加してよかったと回答している。



○保護者アンケートでは、「自分が得意なことを発表できるよい機会だと思う」「がんばっている姿が伝わってきた」「一人一人がのびのびと発表していた」「児童の聞く態度もよかった」等、約89%の保護者が「たいへんよかった」と回答している。



### 今後の展開『キーワード 広がり』

- 「なんでも文化発表会」は10年以上も前から行われており、児童・保護者の間にも十分浸透している取組である。児童アンケートでは、「来年度も発表会に参加したい」と回答した児童は約85%に上り、継続して参加しようとする意欲をもっている。
- 観覧した児童に「来年度、発表会に参加したいか」と聞いたところ、参加したいと回答した児童が約35%にとどまっている。自己表現できる場の一つとして、参加に向けた働きかけを行っていく。
- 「発表時間が短かった」「もう少し時間を延ばしてほしい」という意見が、児童・保護者アンケートから出された。発表時間を延ばすと開催日数を増やさなければならないため、来年度以降の方向性を議論する必要がある。

### 他校へのアドバイス『キーワード 場の保障』

- 「なんでも文化発表会」は、自分と同じ学年の友達の発表だけでなく、異なる学年の発表を見ることが出来る場である。発表を見ることで、「すごいな」「がんばっているな」と相手を認めることにつながる。また、発表する児童は、自分のがんばりを見てもらうことで「やってよかった」「これからもがんばりたい」という意欲が高まる。
- 後期自伸会役員が中心となって、「なんでも文化発表会」の運営を推進する過程で協力的な人間関係を学ぶことができる。



指定校番号	28068	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

## 平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	廣澤伸高	生徒指導主事	駒木 忠
-----	-----------	----	------	--------	------

### 取組事例名 『ハッピータイム』

#### 取組のねらい『キーワード リーダーの育成と仲間意識の向上』

- ・児童会執行部と他の6年生全員の主体的活動を促し、庄原小学校を盛り上げようとする自覚や態度を養う。
- ・庄原小学校の一員であること、仲間と共に成長していくことを意識させ、所属感を高める。

#### 取組の具体的内容『キーワード 異学年交流』

- ・児童会執行部が話し合い、1年生から6年生まで全員が楽しめる児童会行事を「ハッピータイム」と命名し立案した。児童会執行部が他の6年生に企画を呼びかけ、実行することになった。
- ・まず6年生のみの話し合いで、6年生リーダー・副リーダーを決定した。各班3～4人の6年生が班活動の内容を話し合い決定した。
- ・各学年の児童を班分けして縦割り班を結成した。
- ・月に1回行うハッピータイムと学期に1回行うロングハッピータイムを企画した。ハッピータイムは各班の班遊びを行った。ロングハッピータイムは、「1学期・校内ミニウォークラリー」「2学期・しょうばら GO」を行った。
- ・班活動中にトラブルが発生した場合は、6年生を中心に話し合い活動を行った。
- ・活動の最後には「反省と振り返り」の時間を設け、次回への見通しをもたせた。

#### 取組の課題・創意工夫『キーワード 自主的・自治的活動の活性化』

##### 6年生リーダーと班活動の内容の決定 縦割り班の結成

- ・児童会執行部や友達に任せることなく、自分が主体となって積極的に意見を出し活動を計画したり運営したりするために、6年生一人一人がリーダーや副リーダーの役を担う。
- ・縦割り班結成時は、各学級2名程度の定員になるように分け、一つの班に全学級の児童が所属するようにする。

##### 班活動（班遊び）

- ・ドッジボール、かくれんぼ、だるまさんがころんだ等、特別ルールを設定するなど「1年生から6年生まで全員が楽しめる」という視点で6年生が考える。



(班遊びの内容をカードに書いて説明)



(1年生から6年生まで全員が楽しめる遊び)

##### 全校の活動（ミニウォークラリー大会）

- ・6年生が総合的な学習の時間、「しょうばら GO ふるさと庄原のよさをゲット&アピール」で学んだことをハッピータイムで活用する。6年生がプレゼンターとなり、他学年に、総合的な学習の時間に調べたことをクイズ形式で出題する。1年生から5年生は、グループごとに次のポイントへ移動しふるさとのよさについて発表を聞いたり、次の問題に挑戦したりする。



(6年生が出題し，他学年が考える)



(調べたことを模造紙にまとめ分かりやすく発表)

### 話し合い活動

- ・ 班内でトラブルが発生した場合，6年生が中心となり話し合い活動を行う。各班に担当職員は配置するが，6年生が主導し，話し合いの必要性や内容を判断して行うようにする。

### 反省と振り返り

- ・ 班活動後は，良かった点や直した方がよい点について班ごとに振り返りをさせる。それをもとに，6年生のリーダーと副リーダーが次の活動の計画を立てる。

### 取組の成果（効果）『キーワード 達成感と自覚』

- ・ 開始当初は，6年生同士の話し合いもまとまりにくく，他学年に話したり説明したりすることにも困難性が見られた。しかし，回を重ねるごとに自分の意見を言ったり，他学年に自信をもって説明したりすることができる児童が増えてきた。他の行事や普段の生活においても，「自分の役割を果たす」「庄原小の手本となる」自覚や態度が見られるようになってきた。例えば，複数学年が行うそうじ場所（児童玄関げた箱）で，他学年と協力したり的確な指示を出したりしながら「もくもくそうじ（本校が取り組んでいる，黙って時間いっぱいそうじを行う合言葉）」に取り組めた。
- ・ 6年生の自信をもった表情や態度を見た他学年の児童の中に，「自分もやってみたい」「6年生ってカッコいいな」と感じる児童が増えた。
- ・ 異学年交流を進めたことで，学校に安心感をもって登校できるようになってきた。学校評価児童アンケートにおいても「学校，学級が楽しく安心できるか」という問いに9割以上の児童が肯定的回答をした。

### 今後の展開『キーワード 継承』

- ・ ハッピータイムなどの児童会行事を継続していくとともに，そうじや通学班での登下校など，日々の生活の中でリーダー性が発揮できるよう働きかけていく。
- ・ 児童会活動をリードしていく高学年の自覚を促す。
- ・ 現執行部の児童が，次の学年や次期執行部に児童会活動の目的や目指す学校像を伝えていく。

### 他校へのアドバイス『キーワード 自主的な活動』

- ・ 児童会執行部のアイデアを尊重し活動を仕組んでいくことで，取組を活発にしていくとともに，同学年の児童会執行部以外の児童も活動の中心に据えるようにしていくとよいと思います。
- ・ 異学年集団をつくり，計画的，継続的に活動を行うようにすると，他学年への接し方や声かけの仕方を考え実践する機会が増えると思います。
- ・ 総合的な学習の時間に学んだことを他学年に発信していく場としても有効です。学んだことが行事に活用されると，「次はこの視点で…」「次はこの課題に…」というように，主体的に学習に取り組む姿勢にも現れました。

指定校番号	28081	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立城山北中学校	校長	松島範明	生徒指導主事	教誓英憲
-----	------------	----	------	--------	------

**取組事例名 『小・中合同あいさつ運動』**

**取組のねらい『さわやかスマイルMTC（城山北中学校区スタンダード）』（93.8%）**

- ・ 9年間を見通した小・中連携の取組の一項目である『時と場に応じたあいさつや返事、言葉遣いが出来る』生徒の育成を目指し、異学年交流を土台とする継続的な取組を実践する。

**取組の具体的内容『小・中合同あいさつ運動』**

- ・ 平成 26 年度より、生徒会執行部を中心に、幟（標語は毎年生徒から募集）やたすきを利用して、年 3 回（1 回につき 2 日間）実施している。
- ・ 各小学校の校門だけでなく、小学校の朝の取組（“あいさつ運動”等）に参加し、校舎内を回ったりすることもある。
- ・ 中学校では、毎朝、校長をはじめ、担当教員、生徒会担当生徒（執行部・生活委員会）、ボランティア生徒（主に部活動生徒）が、プラカードを手に、正門で“あいさつ運動”を行っている。
- ・ 定期的に P T A 生活部の保護者や小学校の生徒指導主事も参加していただいている。

**取組の課題・創意工夫『各校の校長と保護者の理解・協力と校内調整、小・中連携の定例化』**

- ・ 生徒の安全な移動と授業への影響を最小限に（→教員・保護者の理解と協力＝校内調整）。
- ・ 生徒会執行部生徒と教員だけの活動から、より多くの生徒の参加を実現させる手だての工夫。
- ・ 今年度は、各校共に生徒指導主事が時間調整し易い状況にあったが、今後、小・中連携の定例化をどう仕組んでいくか。
- ・ 教職員等の人事異動に影響されず、適切に継続できる方法の構築。

**取組の成果（効果）『きちんとしたあいさつの意識と実践の継続』**

- ・ 立ち止まってきちんとあいさつをする生徒が、校内外共に以前より多くなってきた（96.7%）。
- ・ 年齢相応の意識を持てる生徒が出始めている（83.3%）。
- ・ 一つの活動を継続して取り組むことで、自己肯定感と連帯感（共感的人間関係）が養われている。
- ・ P T A の参加が次第に増え、生徒の様子を見ていただいたり、教員との会話が増えてきた。

**今後の展開『交流の活性化、連携と継続』**

- ・ より多くの生徒の参加の実現（→生活委員会の活用、学級別や地域別ボランティア生徒の募集等）。
- ・ 小学生に中学校の“あいさつ運動”に参加してもらう手だての工夫（→小・中連協をより密に）。
- ・ 教職員等の人事異動に影響されず、適切に継続できる方法の構築。

## 他校へのアドバイス『小・中連携の充実と継続』

- ・生徒指導主事の定期会合（連絡協議会）の実施。
- ・日頃から学校訪問や電話連絡など、情報交換等をより密にする努力。
- ・特別支援コーディネーターや生徒会担当、SSW、SC等々を含めた交流（親睦）。
- ・校内で、生徒指導部内はもちろん、教務部との連携（意見交換）の活性化。

### 《写真資料》



指定校番号	28083	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀崎中学校	校長	松脇 守弥	生徒指導主事	山縣 雅樹
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒会オリエンテーション・対面式など、年度初めの生徒会取り組み』  
**取組のねらい** 『キーワード リーダーシップと所属感の育成』

生徒主導の意識をもたせて生徒会の取り組みをすすめることにより、生徒同士のつながりが強くなり、所属感の育成へとつなげるねらいをもっています。また、生徒会執行部や各部活動の部長を中心に主体的な動きを促すことにより、リーダーシップの育成を図りたいと考えています。

**取組の具体的内容** 『キーワード 生徒主導ですすめるオリエンテーション』

入学式からの1週間以内で、生徒会執行部や各部活動部長が主導で新1年生を迎え入れる取り組みを行います。具体的には生徒会活動、掃除の仕方、部活動のオリエンテーション、新1年生を歓迎する会（対面式）などを行います。中学校での毎日の動きや、生徒会活動について、教師主導ではなく、生徒会の生徒主導で新1年生に伝え、親近感を持たせるようにしています。部活動オリエンテーションでは、部活動の魅力を各部長が中心に活動を見せ、興味を一層引き立たせるようにしています。対面式では生徒会執行部が中心となり、中学校生活に関するクイズやゲームをしていき、新1年生が中学校生活への不安を乗り越えられるようなアイスブレイクとなる時間を作り出します。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 生徒主導のために、事前の生徒同士・教師側の取り組み』

入学式から1週間以内で、新1年生に対して様々なアプローチを生徒主導で行っていきませんが、前年度から生徒会執行部、学級、部活など、計画的にそれぞれの役割を分担して新年度を迎えます。生徒の動きがスムーズに進められるよう、教師が事前に生徒とともに準備を考え、取り組みを支えるようにして行きました。



## 取組の成果（効果）『キーワード 学年を越えた生徒同士のつながり』

小規模校なので、一人ひとりの存在、行動が大きなムーブメントになる可能性を秘めています。学校入口には『家族のようにつながりあう亀崎中学校』というスローガンが掲げられているように、年間を通して様々な行事や取り組みで、学年を越えた関わりが多くあります。そのきっかけとなる年度当初の大切な生徒会活動だと言えます。



## 今後の展開『キーワード 生徒指導の三機能の充実』

教師主導よりも、生徒が主体的に動き、生徒同士のつながりを深めていくことで、今後の生徒会活動が一層意味のあるものになっていくと考えられます。新1年生の安心感を醸成することにも影響を与え、共感的な人間関係にもつながり、さらに2、3年生にとっては、生徒指導の三機能にある自己存在感・自己決定の育成につながるものだと考えます。

## 他校へのアドバイス『キーワード 生徒主導を仕組むことと、生徒任せにすることの認識のずれを起こさないようにする』

生徒主導でオリエンテーションや対面式等を行っていきませんが、取り組みの成果を生徒に味わわせるためには、生徒が主体的に当日の会を進めていくための細かな準備、手立てやこの活動による目指しているものは何かということを常に教員同士が確認し、共通認識が事前にできている必要があります。

指定校番号	28096	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	小田大介	生徒指導主事	北野茂樹
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名 『生徒会活動』**

**取組のねらい『感謝, 思いやりの心を育てる』**

命の大切さや仲間の気持ちを考えられる生徒, 感謝の気持ちを持てる生徒を育成する。

**取組の具体的内容『ハートプロジェクト』**

「ハートプロジェクト」

この取組は昨年度から始まり, 今年度 5 月の生徒総会でも生徒会執行部から以下のように提案され, 承認されて取り組んでいる。

- 大竹中学校「生命尊重の日」(5月23日)の取組を1年に1回ではなく, 毎月各クラスが担当して発表を行い, 命の大切さや仲間の気持ちをもっと考えることができるようにする。
- 日頃お世話になっている方, 学校を支えてくださっている方に感謝の手紙を書いて送る。
- 「ハートフルボックス」を設置し, そこに誰かへの感謝の気持ちを書いて入れ, 昼の放送で流す。



生徒総会の様子

**取組の課題・創意工夫『協同』**

**創意工夫**

- 「3年1組の発表」  
6月23日(木) 「平和」をテーマに, 昨年度全国高校放送コンテストで準優勝に輝いた広島県立五日市高校放送部制作のラジオドキュメント『君に伝えたいこと』を紹介し, 被爆者の方々の思いを大切に, 人の命や人の気持ちを大事にできる人になりたいと訴えた。  
この放送のあと, 6月24日から3日間, 熊本地震被災者への募金活動にも取り組み, その趣旨に賛同し, 多くの生徒が募金に協力した。

(1年生の感想)「私は, 生徒総会の時に, 『ハートプロジェクト』を1ヶ月に1回やることに, 正直言って反対していました。でも, この話を聞いて, 自分の命や人の命の大切さを, 今までよりもっと知ることができました。今日の発表を聞いて, 1ヶ月に1回に反対したことを, 今とても後かいています。これからは, もっとお話を聞きたいと思いました。」



- 「3年3組の発表」  
9月23日(金) 中学校の先生で, 詩人でもある醍醐千里さんの「魂の約束」という詩を紹介し, 「日頃の生活の中のあなたの笑いは, 魂を輝かせる笑いなのか, 魂をくもらせる笑いなのか, 考えたことがありますか?」と問いかけた。

(2年生の感想)「私は, 今日話を聞いて, 神様から頂いた魂を大切に, 人を大切にしたいと思いました。自分が悪いことをしたら「ごめんね」と, 友達やいろいろな人に何かしてもらったら「ありがとう」と, たった一言だけど, 自分の気持ちが伝わる一言なので, 言葉を大切にしたいです。」



各クラスの発表内容は, 1階の生徒会ボードに掲示し, 振り返ることができるようにしている。

○「生徒会長による地域への発信」

7月2日(土)、サントピア大竹で開催された「市民のつどい」で、生徒会長が「ハートプロジェクトを通して」と題して、生命尊重をテーマに意見発表を行い、学校の取組を地域に発信した。

この作文を「青少年の非行・被害防止」「社会を明るくする運動」作文コンテストや人権作文コンテスト廿日市地区大会に応募したところ、大竹市長賞や優秀賞を受賞した。



○「2年1組の発表」

10月24日(月) 道徳の授業で学習した動物の殺処分について考えたことを発表した。日本では、飼い主の身勝手な理由で毎年10万匹以上の動物が保健所に連れて行かれ、人間の手で殺処分されている。この事実を多くの人に知ってもらい、動物の命を軽く扱う社会を変えようと訴えた。

(3年生の感想)「僕の家には犬がいるのですが、最後まで生きてほしいという気持ちで今育てています。自分の家で育てられないのだったら、最初から飼わないでほしい。人間も犬も最後まで生きようとしているのに、それを台無しにするなんて最低だ。ぼくはこんなことを思いながら聞きました。」

**課題**

○発表だけに終わらず、発表に対しての他学年他クラスの生徒の感想を給食時に放送するなどして、双方の取組になるよう工夫する。

**取組の成果(効果)『主体性』**

- 生徒の感想の中にもあるように、自分や身の周りの人の生命の大切さなどについて考える機会が増えた。
- 発表内容をクラスで考えることで、自分たちで調べ考える良い機会となっている。
- 生徒たちが、先輩から引き継がれてきた生徒会の取組の良さを実感しており、生徒会活動に主体的に取り組む姿勢が見られる。



感謝や思いやりの心を大切にする  
**ハートプロジェクト**



ハートプロジェクト 朝会での発表の様子

**今後の展開『改善・工夫・発展』**

○これまでの生徒会活動の成果や課題を整理して、生徒指導部、生徒会執行部等で、今後の取組の改善、工夫を図ることで、さらなる発展をめざす。そして、その内容をまず全教職員が共通理解して生徒の活動を支援し評価していく。

**他校へのアドバイス『意識統一』**

○生徒会活動の取組に対する教職員の意識統一、意識向上が必要である。また、これまでの取組をミドルリーダー等が次期担当教員や若手教員に計画的に指導、引き継ぎを行う。

指定校番号	28100	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長	石角 剛	生徒指導主事	友兼 正樹
-----	------------	----	------	--------	-------

**取組事例名** いじめのない学校にするために『命の大切さについて考える日』

**取組のねらい**『キーワード いじめの未然防止／自他の命』

- (1) 5月9日を「命の大切さについて考える日」とし、さらに、5月10日から5月17日を「命の大切さについて考える週間」として、生徒一人一人に自他の命の大切さについて深く考えさせる。
- (2) いじめは命に関わる重要な問題であり、決して許されないことであるとの認識をあらためて強くもたせることにより、生命の尊さを理解させ、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を身に付けさせる。

**取組の具体的内容**『キーワード 生徒会とタイアップした取組／保護者・地域等への働き掛け』

- 「命の大切さについて考える日」全校集会で、学校長が講話を行った。また、生徒会の主催で、生徒による呼び掛けを行った。
- 「命の大切さについて考える週間」に、全学級において「命の大切さ」を扱う道徳の授業（特別支援学級は生活単元学習）を行った。
- 「命の大切さについて考える日」に係る取組について、保護者懇談会（第2学年）を行った。
- 「命の大切さについて考える日」の全校集会や、「命の大切さについて考える週間」に実施した道徳等の生徒感想文を紹介して、保護者・地域等を対象とした働き掛け（学校だより、学級通信等の発行）を行った。
- 「命の大切さについて考える日」をその日一日に限定せず、「命の大切さについて考える週間」として、つながりをもたせた取組を行った。
- 「命の大切さについて考える週間」の振り返りとして、翌週の生徒朝会を報告朝会とし、執行委員会が、生徒の感想や記録を全校生徒に向けて発表した。

**取組の課題・創意工夫**『キーワード 指導支援を必要とする生徒を含む全ての生徒への指導』

- ☆ 生徒会オリジナルストーリーの内容については、生徒会担当教諭、生徒会執行委員会で原案を作成した。
- ☆ 養護教諭、特別支援教育コーディネーターの助言のもと、配慮を必要とする生徒、指導支援を必要とする生徒にも伝わりやすくなるよう、スライドを完成させた。
- ☆ 全校集会の日だけに限定せず、「命の大切さについて考える日」の取組をつなぐために、全学年全学級で道徳の授業（特別支援学級は生活単元学習）を実施し、一週間を通して「お昼の放送」で歌や絵本の紹介をして、「命の大切さについて考える週間」の特集を行った。  
また、図書委員会では「命の大切さ」に関する本の展示を、保健委員会では「生命」「いじめ」等に関する新聞のスクラップ展示を継続して行っている。
- ☆ 「命の大切さについて考える日」は、3年前の廿日市市で起きた自死に関わる問題であることから、市内全中学校実施されている取組である。  
本校では、事前リハーサルには校長が立ち合い、全校集会の流れや内容を確認した。

**取組の成果（効果）**『キーワード 自分事として捉える／取組の発信／他教科・他領域との関連』

- ◎ 生徒は、全校集会をスタートとして「いじめ」「命の大切さ」「生きる」について深く考え、自分の思いを自分のことばで書くことができた。
- ◎ 「命の大切さについて考える週間」の期間中には、全学年全学級において、「命・生命」に関わる道徳（特別支援学級は生活単元学習）の授業を実施し、生徒会の取組を教師サイドからも深めることができた。
- ◎ 週間中に行われた参観授業においては、第2学年の保護者懇談会で取組のねらいや生徒の様子を紹介した。生徒作文（感想文）を読んだ際には、うなずきながら聴く保護者の姿が見られた。
- ◎ 夏季休業中に開催された「廿日市市・生徒会サミット」で、取組を発表した。

**今後の展開『キーワード 全国いじめ問題子供サミットへの参加／いじめの取組の継続』**

- ◇ 平成29年1月21日に開催される「平成28年度全国いじめ問題子供サミット(文部科学省主催)」へ生徒代表が参加し、サミットのテーマである「学校いじめ防止基本方針に私たちの意見を取り入れよう」のもと、<①いじめを未然に防止するためには、どのような活動が有効か><②どのようなアンケートであれば答えやすいか><③先生や保護者が気付かない、いじめを受けているときのサインは、どのようにしたらよいか><④学校のこないじめの対応は困る、だからこんな対応をしてほしい><⑤どのような方法ならば相談できるか>の5点について、同世代から学び、交流したことを学校に持ち帰って、全校生徒に向けて報告朝会をする。
- ◇ 3年前から続く「命の大切さについて考える日」を生徒会主体の全校アピールの日として、次年度以降も取組を継続させ、いじめの未然防止について生徒自身で考えるよう、場を設定していく。

**他校へのアドバイス『キーワード 生徒間のつながり／意図的な指導や継続した取組／連携・調整』**

- ・ 学校全体で進めるいじめの未然防止のためには、教職員側の指導だけでなく、生徒間のつながりについての意図的な指導や取組、いじめのない環境づくりが必要と考える。
- ・ 次年度以降も、生徒主体の全校アピールを組織的・継続的に進めていくためには、教員の異動や校内体制にも対応できるよう、連携や調整、さらに後進へのスムーズな引継ぎのための整備をしていく必要がある。

**「いじめのない学校」にするために ～命の大切さについて考える日～**



“命”ってなんだろう？ 大切な“命”をどう生きる？  
あなたは“命”を大切にしていますか？

“命”は、感じるもので、目には見えないものなんだ。

人生は楽しいもの。けれども、苦しいことや悲しいことや、  
心悩ますこともたくさんあります。  
そんな時どうしていますか。黙って一人で耐えていますか。  
でも、本当につらいときは、  
『助けて、助けて』って言ってください。  
そして、その小さな声にたくさんの人が気付いたら、  
大切な“命”は守られて、生きていてよかったと思えます。



“命”とは「未来」のこと。「生きる」とは「つながる」こと。

◆取組の様子

<p>校長講話</p>	<p>生徒会アピール</p>	<p>第1学年道徳 「望まれて生まれ 願われて生きている」</p>	<p>第2学年道徳 「いじめをノックアウト」 (NHK)</p>
<p>第3学年道徳 「私が生まれてきた理由」 さだまさし</p>	<p>特別支援学級生活単元 「生きるってどんなこと」</p>	<p>第2学年 保護者懇談会</p>	<p>図書委員会「命を大切に するということ」</p>

指定校番号	28115	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	大原 俊哉	生徒指導主事	金田 耕治
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『思いやりについて考えよう』

**取組のねらい** 『キーワード 思いやり』

・本校では、目指す学校像を知・徳・体の土台となる「挨拶・姿勢・一生懸命・思いやり」の精神が貫かれた学校とし、その精神を大切にするとともに、「さわやか十中」をキャッチフレーズに取り組んでいる。その中でも、思いやりに欠ける言動があるため、本事例は、生徒会活動を通して、「思いやり」について今一度考えさせ、身の回りにある思いやりに気付いたり、思いやりに欠ける行動を改めたりする風土を醸成することをねらいとしている。

**取組の具体的内容** 『キーワード 自律・自己調整』

- ・生徒会執行部で「思いやりについて考えよう」ということを企画して、総務委員会で提案し、総務委員を中心に日頃の「学級の思いやり」に立ち返らせ、各学級の思いやりについて定義する。
- ・個々で考え集約した「各学級の思いやり」を受け、「十日市中学校の思いやり」について、総務委員会及び生徒会執行部で協議し定義する。
- ・「学級の思いやり」とともに、「十日市中学校の思いやり」を掲示する。
- ・生徒一人ひとりが日頃から身の回りにある思いやりに気づいたり、思いやりに欠ける行動を改めたりする、生徒の自己調整の指針とする。



<p><b>取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を通して「日常化」』</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会の委員会活動や学級活動で、今回の「思いやりについて考えよう」という活動をはじめ、他にも「ありがとうカード」等の取組をしている。</li> <li>・今後は、これらの取組を通して、生徒たちが気付いたことや考えたことを、自らの学校生活に日常化する取組を継続させるとともに、さらに、取組の内容を教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。</li> </ul>
<p><b>取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感の向上』</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事や活動後の生徒アンケートによると、「自分の良さは、まわりの人から認められていると思う」の項目の目標値 70%に対して、肯定的評価の割合は 80%（1年 88%，2年 74%，3年 78%）であった。</li> <li>・「学校は楽しい」（生徒アンケート）の項目の目標値 85%に対して、肯定的評価の割合は 91%（1学年 98%，2学年 91%，3学年 85%）であった。</li> </ul>
<p><b>今後の展開『キーワード 居場所づくり，絆づくり』</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも、学習や学級活動，生徒会活動（部活動，委員会活動，行事）等の取組を通して、生徒同士のコミュニケーションで自己有用感が高められる場を増やしていく。そして、生徒たちの活動の様子や感想等を掲示することで、お互いを認め合い、「思いやり」とともに「頑張ること」への視野も広げていくよう仕組む。</li> </ul>
<p><b>他校へのアドバイス『キーワード 縦割り集団の活用』</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年を越えた縦割りでの生徒会活動やボランティア活動等を通して、下級生は上級生が集団をリードし、思いやりのあるかかわりをする姿を見ることで上級生の良さを、上級生は集団の一員として前向きに協力しながら活動する下級生の良さをそれぞれ実感させることができる。また、今年度の学級活動では、3年生の立志式での発表会に2年生が、2年生の職場体験学習の発表会に1年生が、それぞれ参加している。立志式では地域でのお年寄りとのサロン交流や家庭科での保育実習等を通して、職場体験学習では福祉施設や看護体験等を通して、改めて「思いやりの大切さ」を学ぶことができた。将来は福祉や看護関係の仕事に就きたいなどの上級学年の生徒の発表を聞き、自分より一歩先の「思いやり」等についての考え方に触れることで、自分の将来について短期的な目標も持てるような取組になることを目指している。</li> </ul>

指定校番号	28116	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次中学校	校長	迫田 隆範	生徒指導主事	宮部 英巳
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』

**取組のねらい** 『キーワード 自己肯定感の向上』

本校の生徒指導上の課題として、服装の乱れ、授業妨害、授業エスケープ、指導に従えない、暴言、携帯等の不要物の持ち込み、自転車通学違反、地域の施設や登下校でのマナーの悪さ、生徒間トラブルなどが挙げられる。問題行動を繰り返すのは一部の生徒であり、生徒同士の関わり合いが十分行えていない状況が、全体の落ち着きのなさにつながっていると考えている。現状の改善のためには、生徒自身の自己肯定感を向上させ、自分が学校や地域社会の一員として認められる場をつくり、生徒同士の結びつきを深め、自治活動を活性化させることが問題行動の減少につながると考えた。そのため、生徒会活動やボランティア活動等の、生徒の自治活動や主体的な活動の推進をすすめることをねらいとした。(今年度2年目)

**取組の具体的内容** 『キーワード 無理なくさらに進化』

平成27年度の取組として、生徒会と連携し不十分な掃除から見直した。縦割りの掃除班をつくり、3年執行部+有志を中心に掃除リーダーが掃除を運営する形を実行した。(無言清掃の取組)

平成28年度には、学期前の掃除リーダーの育成、掃除分担の見直し、配置教職員との連携等、少しずつ変更を加えながら現在に至っている。また、並行して生徒会活動の一環としてのボランティア活動の充実を意識させ、放課後15分間の自由参加のボランティア活動を計画し実行している。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード レベルアップ』

今年度の取組は、昨年度の取組に修正を加えさらに深化させる方向で行っている。生徒会リーダーだけでなく教職員との連携を行うことで、生徒と教職員が共に目的を共有し、生徒が生徒を指導する負担感を軽減し、生徒間のトラブルを減少させる方向で行っている。掃除の質は確実に以前よりもよくなっていることから、さらに目的意識を明確にした無言清掃へとレベルを上げるのが今後の課題である。また、これと並行して行ってきたボランティア活動も、ペットボトルキャップ分別、折り鶴制作など、教職員・生徒共に無理なく計画・実行ができるようになり、各回約100名程度の生徒が参加することができるボランティア活動になっている。

**取組の成果(効果)** 『キーワード 意識の向上』



縦割り班での掃除は、取組前と比べて確実に向上し、生徒自らが主体的に掃除に取り組む姿が見られるようになった。また、掃除を徹底させるためには、ボランティア意識の向上も同時に取り組む必要がある。ボラン

ティア活動も毎回約100名程度の参加となり意識の向上につながっている。

これらを生徒自らの自治活動で実行するよう、生徒会とも連携を深め、各委員会ごとに活動を決め、(各学級の掃除評価合計、各学級の日々の授業評価合計、各学級の本の貸し出し数合計等)学級単位で評価

をして、学期に1回表彰を行うYATSUGI PRIDE CUP (YPプロジェクト) という取組も昨年度から導入し、お互いが意識し合いながら高まる方法をとっている。

生徒のアンケート結果

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| ○掃除を時間いっぱい行っている    | (平成27年7月 84.4%) |
|                    | (平成28年6月 88.1%) |
|                    | (平成29年1月 90%)   |
| ○生徒会活動に積極的に取り組んでいる | (平成27年7月 79.9%) |
|                    | (平成28年6月 77.5%) |
|                    | (平成29年1月 77%)   |

### 今後の展開『キーワード 自分たちで』

生徒会の自治活動の活性化という点では、昨年より改善されつつある。「自分たちで」という意識の高まりの成果として、生徒会の行事として全校で参加できる行事を行おうという目標のもと『全校駅伝』を企画し運営した。全校生徒を縦割りの16チームに分けてチームリーダーを決め、チームリーダーを中心として自分のチームの意識を高め、優勝をめざしてたすきをつないでいく。生徒会としては初めての試みの行事であり、自分たちの企画・運営ということもあり、この企画を全校生徒が一緒になってやってくれるかと心配した面もあったが、当日は開会式・閉会式を含め全校生徒が1人もいいかげんな走りをすることもなく、生徒全員で盛り上がった行事となった。生徒の中からは「来年もやってみたい」という感想も出るなど充実したものとなった。

一つの取組を単年度で終わらせることなく、修正・改善を加えてさらに意識づけを行っていく。意識の高まりが教職員や生徒の達成感につながり、さらに新しい取組へと深化していく。今後もさらに目的意識をもたせ、自己肯定感の向上につながるよう充実を図る取組を引き続いて行う予定である。



意識をもたせ、自己肯定感の向上につながるよう充実を図る取組を引き続いて行う予定である。

### 他校へのアドバイス『キーワード 教職員との連携と意識向上』

生徒の意識変革の前に、指導する教職員の意識変革が不可欠である。生徒会担当の教職員や各委員会担当の教職員との連携や調整が生活への指導の徹底や取組の充実につながる。今後も教職員・生徒の目的意識の向上を図り、生徒会への働きかけにより自治活動の活性化につなげていきたい。

校番	62	ホームルーム活動	生徒会活動	1	学校行事	別紙様式
----	----	----------	-------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安西高等学校	校長	澄川 利之	生徒指導主事	鯉迫 勝也
-----	--------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『生徒会主導の全校集会』**

**取組のねらい『キーワード 社会につながる対話へのしかけ』**

受動から能動へ。主体的な生徒間の対話を通じて、生徒自らが学校環境を変化、変革させていくための活動を模索していく。

**取組の具体的内容『キーワード 生徒中心の対話と主体的活動』**

- 生徒会執行部主体の全校集会の実施。(出席教員は特活 2 名, 主幹教諭のみ)
  - ・生徒からの意見集約, 意見交換→現時点の学校をどのように考えているか。今後, どのように変えていきたいか。
- 着ベル運動取り組みに関する提案, 実施 ※授業担当教員は着席の指示をしない
  - ・各クラスで始業時における着席状況のカウント→生徒会集計→クラスへ提示
  - ・全校集会 1                      ・全校集会 2                      ・着ベル集計 1                      ・着ベル集計 2



**取組の課題・創意工夫『キーワード；より発展的にするための工夫』**

- 執行部への評価を上げていく→信頼される生徒会
- 生徒たちの意見が多岐にわたりすぎて焦点がぼやけた。
  - 次回より, 集会のテーマを具体的にした形での実施
- クラスにより集計のばらつき→集計の徹底
- 結果の周知徹底→結果をどのようにつなげていくか

**取組の成果(効果)『キーワード；主体的態度の育成』**

- ◇教員側が想定した以上に積極的な意見が生徒達から出た。
- ◇発言に対する反対意見等もあり議論の場となっていた。
- ◇教室で「座ろうで！」という自発的な声上がるなどの効果が見れた。(クラス差大きい)

**今後の展開『キーワード；更なる高みを目指して』**

- ①学期に 1 回の集会の実施
- ②挨拶運動, 清掃活動, 自主的な校則順守への発展
  - ※最終目標：学校を変革することにより必要なくなる校則の改変

**他校へのアドバイス『キーワード；我慢！』**

- ・主体的取組への構築をするとき, 生徒各自に学校生活への目標設定をさせることは必要不可欠であるが, 1 年次 2 年次 3 年次と丁寧に確認する必要がある。
- ・目に見える取組結果を期待したいが, 2 年 3 年という長いスパンで取り組みを考えていく必要がある。

# 児童会・生徒会活動

異年齢集団による交流

指定校番号	28001	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立戸坂小学校	校長	三吉 学	生徒指導主事	細田 和夫
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『にじいろ集会～異学年集会～』**

**取組のねらい『自発的・自治的な活動をめざして』**

異年齢集団による児童会の自発的・自治的な活動を多く設定することによって、高学年のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め、楽しく豊かな学校生活をつくるようにする。

**取組の具体的内容『ペア学年でスタート』**

昨年末、児童会でみんなが親しみやすく、楽しく活動できそうな呼称を考える。その中から「にじいろ集会」を選び、スタートする。

- ① ペア学年を設定する。1・6年（4クラス）、2・4年（4クラス）、3・5年（3クラス）とする。
- ② 名簿を作成する。同じクラス数のときは、原則同じクラスとペアになる。  
1グループ6名程度（1年生3名＋6年生3名＝グループで6名）1クラス3名程度の中に、男子も女子も入れる。グループ名は、「クラスーアルファベット」とする。（1組のAグループ＝1ーA）5月の初めまでに名簿を作成する。
- ③ 活動場所は体育館とする。
- ④ 集会日は「にじいろ集会週間」を設け、その週間の水・木・金曜日とする。  
水曜日1・6年集会 木曜日2・4年集会 金曜日3・5年集会  
時間は8：25～8：35の朝会時間帯とする。
- ⑤ 内容は年間5回 5月：自己紹介 6月：平和集会に向けて折り鶴を折る。  
9月ゲーム：11月長縄 1・2月：ゲーム  
※9月からの集会は、内容を児童同士が話し合い、決定できるようにしていく。
- ⑥ 展開は児童会が委員会の時間に次回の異学年集会の原案を作る。代表委員会で内容を伝える。  
4・5・6年生が中心となって集会を進行する。（司会は、学年で話し合っ学年の実態に応じて決定する。



### 取組の課題・創意工夫 『リーダーとメンバー ～相互のつながり～発展』

- 上学年の児童はリーダーとしての力をつけ、「学校の中で友達を増やすことができた」という評価の一方で、他のメンバーの力を伸ばすまでには至っていないという課題があげられた。
- リーダーとメンバーの相互のつながりを今後は伸ばしていきたい。
- 「にじいろ集会」で育んだ相互のつながりを何か他の活動場面でも生かせるようにしていきたい。(例えば、平和集会、きらきら挨拶ウイーク、もくもくそうじ等)

### 取組の成果（効果）『自己存在感・自己有用感あり』

- 『異学年と一緒に活動することで、上学年の児童はリーダーとしての力をつけ、学校の中で友達を増やすことができた。』という教師の見取りでは、80%が達成できた。20%が少しは達成できた。
- ペア学年（2学年）で取り組んだことで、活動場所と活動時間がコンパクトになり無理なくできた。スモールステップで進めることができたのが良かった。
- ペア学年で取り組んだことで、上学年の児童が自身の立場や責任感をより強く感じるようになった。
- 下学年の児童から「必要とされている」と感じる事が、上学年の児童にとって、とても嬉しいものであり、自己存在感・自己有用感を感じることができた。
- 活動を重ねるごとに児童が自発的に行動する姿が多く見られるようになった。



### 今後の展開『縦割り集団の拡大』

異学年交流は、児童の自己存在感・自己有用感を育成していく上で大変効果的であると言える。しかし、本校の規模（児童数：720名 1学年3組～4組）の場合、いきなり1～6学年の縦割り集団を作り、活動しようとする、グループ作成、活動場所で無理があった。ペア学年からスタートしたのは、良い方法であるが、今後どのように展開・発展させるかが大きな課題である。

### 他校へのアドバイス『継続が重要』

本年度からスタートした異学年交流を来年度以降も継続していきたい。現在の1年生が最高学年の6年生になる6年後まで継続することが望ましい。なぜならば、児童一人一人が、世話をしてもらった立場の1年生から世話をするリーダーの立場になるまでを経験することが大切である。

指定校番号	28002	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立東浄小学校	校長	福島 誠	生徒指導主事	前田 佐織
-----	-----------	----	------	--------	-------

## 取組事例名 『みんなで遊ぼうクイズラリー』

### 取組のねらい『友達の輪を広げよう』

全校みんなで児童会行事をすることで、他学年との交流を深め、友だちの輪を広げる。

### 取組の具体的内容『児童の児童による児童のための児童会活動』

5種類のゲームと25問のクイズをチームで解き、ポイントを競い合う。

後日、運営委員が採点し、放送で結果を発表する。ゲームの内容や準備は運営委員会が計画し、クイズは運営委員会が7問、各クラスが1問ずつ考える。

今年のゲームは、ハンバーガータワー、フリーシュート、ものあてゲーム、ジェスチャーゲーム、くつひも結びチャレンジがあった。異学年交流として、1年生は6年生、2年生は5年生、3年生は4年生とチームを組み、1チーム約8名のグループを作って行う。



### 取組の課題・創意工夫『見通しをもった取組』



クイズラリー当日までに2回、顔合わせの会が計画されている。自己紹介やメンバー表、名札作り、ゲームの回り方や役割分担などの作戦会議を行った。しっかり顔と名前を覚え、当日は、高得点を目指して頑張ろうと励ましあう機会となった。また、給食時間に、ゲームのやり方やルールを運営委員会の児童がビデオで紹介し、共通理解を図る工夫をした。当日は、混雑を防ぐため、スタート場所を2箇所設けた。迷子コーナーも設置したが、迷子になる児童はいなかった。このことから、どのグループもチームワークをもって活動できたと感じた。今後は

この異学年グループを別の活動に生かしていくことが今後の課題である。

## 取組の成果（効果）『自信を持たせる児童会活動』

「クイズで分からない問題を、6年生に教えてもらった。」と喜んでいる1年生や、「下学年に対して優しく接することができた。」と満足した様子の児童が大勢いた。また、「励ましてくれたり、意見を聞いてくれたりしたことが嬉しかった。」という意見も出た。児童一人一人の表情からは、満足した様子が伺えた。

異学年交流により、下学年児童は上学年児童からいい影響を受け、上学年児童は下学年児童へ支援することで自己有用感を増す機会となったと考える。また運営委員の児童も計画から実行、振り返りを行うことで、ゴールを意識し、見通しをもって活動することができた。児童会を中心に活動を行うことで、児童が自ら考え、計画し、実行する力を養う絶好の機会となったと考える。児童が主体的に活動していることを感じ、自信をもつ場を設定し、自尊感情を育む機会となったと考える。



## 今後の展開『児童会活動から学年・学級活動へ』



このような児童会活動を今後も継続していきたい。運営委員会だけでなく生活委員会、体育委員会など各委員会が中心となり、学校を元気に明るくする活動を行っている。このような取組を参考にし、学年や学級単位で、児童自らが計画し、運営する機会を増やし、成功する喜びや満足感、失敗から学ぶ経験を積み、次回につなげていく力や意欲につながる取組を広げていきたい。

## 他校へのアドバイス『継続していくことで学校の文化に』

学年の枠組みを超え、異学年交流を行うことを通して、共感的人間関係を作っていく取組となり、児童同士の仲間意識を育む場ともなる。この取組を継続していくことが学校の文化を作っていくことにもつながると考える。



指定校番号	28004	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立草津小学校	校長	関本 宏	生徒指導主事	志田 あすか
-----	-----------	----	------	--------	--------

**取組事例名 『縦割り班集会』**

**取組のねらい『異学年交流』**

- ・縦割り班活動を通して、異学年の交流を深め、楽しく活動できるようにする。
- ・異学年のグループで協力して問題を解決することで、リーダーシップとフォロワーシップの育成を目指す。

**取組の具体的内容『ウォークラリー』**

<準備>

- ・縦割り班の名簿を教員が作成する。
- ・1年生と6年生は、遠足などで活動したペアになるようにする。
- ・集会委員会が、高学年から低学年まで楽しめるゲームを考える。

<縦割り班会議>

- ・縦割り班集会より少し前に、縦割り班会議を開き、メンバーの確認をする。
- ・メンバーで自己紹介をしたり、名前を覚えるゲームをしたりする。

<縦割り班集会>

- ・各グループが会議をした教室に集まり、テレビを使つての開会式の後、校舎内をグループで回り、各教室でのゲームにチャレンジする。
- ・ゲームにチャレンジして、条件をクリアするとポイントがもらえる。
- ・ポイントがたまると、校長先生とじゃんけんができる。



**取組の課題・創意工夫『みんなが楽しめる』**

- ・ゲームの内容は、集会委員が考え、準備をする。
- ・同じゲームの会場を3つ設ける。そうすることで、どのグループもすべてのゲームに取り組むことができる。
- ・2時間目と3時間に行うことで、遅刻の児童も参加しやすくなる。
- ・すべてのゲームを各階に設けることで、車いすの児童も楽しめるようにする。

### **取組の成果（効果）『リーダーシップ』**

- ・集会委員会の児童がゲーム会場を受け持つ教員に事前に説明することで、責任をもってルールを考えたり、準備をしたりすることができた。
- ・異学年のグループをまとめることで、高学年のリーダーシップを育てることができた。

### **今 後 の 展 開『つなげる』**

11月の縦割り班集会のためだけの縦割り班になっている。早い時期に縦割り班を決め、いろいろな行事で縦割り班活動を設けることで年間を通した異学年交流ができるのではないかと考える。

### **他校へのアドバイス『目的』**

学年に応じた異学年交流をする目的を教員が共通理解をしていくことでただゲームを楽しく行うことだけに終わらないと思う。縦割り班集会の前後に目的意識を児童自身にもたせる手だてをすることでより効果が上がっていくと思う。

指定校番号	28005	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立真亀小学校	校長	水迫壽則	生徒指導主事	原田 裕
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『たてわり班活動』

**取組のねらい** 『人の喜びを素直に喜ぶことのできる子どもを育てる』

たてわり班活動の通年導入により、異学年交流をもち児童同士の関わり合う場を広げる。また、主に高学年の児童に関しては、人の役に立つ喜びを味わわせ、自己肯定感を育て、低学年、中学年の児童に関しては、高学年の児童を憧れに感じて、見習おうとする気持ちを育てる。

**取組の具体的内容** 『関わり合う楽しさが感じられる活動』

**5月 (顔合わせ&班遊び)**

これから一緒に活動していくメンバーを知り、班遊びを行って、これからの活動に期待を持たせる。



**6月 (たてわり班転がしドッジボール大会)**

体育委員会企画のもとで転がしドッジボール大会を行い、各班で協力したり、声をかけ合ったりして、たてわり班の仲をさらに深める。



**6月 (非行防止教室)**

小学生に多い非行をテーマにした教員の劇を通して、「何がいけないのか」「どうすれば良いのか」ということを各班で意見を出し合う。



**7月 (平和集会)**

計画委員会企画のもとで平和集会を行い、平和の歌を歌ったり、鶴を折ったりする活動を通して、平和について各班で考える。



**9月 (たてわり班ゲーム大会)**

たてわり班ゲーム大会を行い、各班で協力したり、声をかけ合ったりして、たてわり班の仲をさらに深め、自己有用感を高める。



**10月 (運動会でのたてわり班競技)**

運動会の中でたてわり班競技を設けて、改めて協力の大切さやたてわり班活動の楽しさを味わわせる。



**2月 (卒業おめでとう集会)**

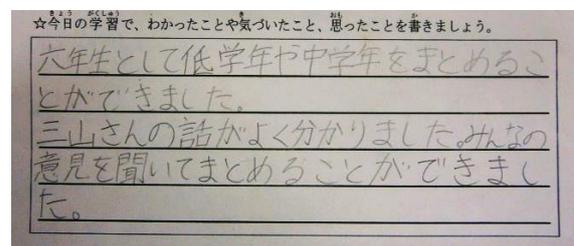
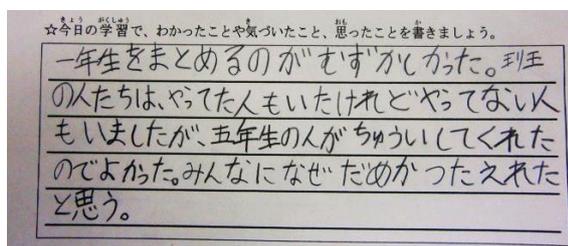
サブリーダーの5年生を中心に卒業おめでとう集会を行い、今までリーダーとして引っ張ってってくれた6年生に感謝の気持ちを伝えるとともに、たてわり班活動の1年間を振り返る。



## 取組の課題・創意工夫 『集団支援的アプローチと高学年リーダー』

本校には、発達障害等特別支援教育的課題のある児童、問題行動や不登校等生徒指導的課題のある児童、両方の課題が重複している児童と、様々な実態の児童が混在している。また、自己有用感が低かったり、人間関係力が未熟であったりする児童の実態があるため、中学校区の「めざす子ども像」の一つに「豊かな人間関係を作ることができる子ども」を挙げている。これらのことから、児童個々の実態やニーズに合った適切な支援とともに、人との関わりを通じた活動が求められている。そこで、学校全体に目を向け、全児童への支援（集団的アプローチ）として、望ましい関わり合いを通して、自己肯定感が得られる行事・活動である通年のたてわり班活動を導入している。

なお、たてわり班活動がより良い活動になるためには、高学年の存在、特に六年生が必要不可欠である。それぞれの活動前には、学年や委員会を通して、事前に意識づけを行っている。活動によっては、事前学習会を行う等もしている。（例えば6月の非行防止教室では、当日使用する教材を事前に6年生に実施し、当日のデモンストレーションを行う。事前に学習をすることが、当日下午級生に声かけをする際の手助けになっていた。）



一方、課題としては、振り返りの仕方が学校全体として統一されていない時があることである。児童にとって振り返りは、たてわり班活動のねらいに迫る大事な活動であり、それによって自分の中で「何が良かったのか」「どんな考えをもったのか」を価値づけていくことに繋がっていく。また、教員にとっては、児童一人一人の想いを知ることができ、今後のたてわり班活動の充実に繋がっていく。活動に合わせた振り返りの仕方を全校で統一することが必要なのではないかと考えている。

## 取組の成果（効果） 『役立ち感と憧れ』

異学年で活動することを楽しみにしている児童が多く、たてわり班活動以外でも声をかけあう様子が見られる。高学年は、下級生への声かけや班をまとめる活動を通して、責任感や自己有用感を得られており、下級生はそんなリーダーのことを慕い、積極的に関わろうとする様子が見られる。また、協力する活動だけでなく、班で考えたり、感じたりする活動もあるので、たてわり班での関わりがより深まっている。特に、6年生と1年生の繋がりが強く、たてわり班活動をきっかけとして日頃の交流がさかんになっており、学年同士での交流活動にも生かされている。たてわり班活動での人間関係が他の場面でも生かすことができるような取組になっていることが感じられた。

## 今後の展開 『振り返りの充実とねらいの再検討』

年々たてわり班を中心とした活動が増えているので、それに伴って、きちんと振り返りを行うことが大事だと考えられる。感想カードを書かせたり、それを全体の場で紹介したりする等の方法で、たてわり班活動での学びを通して、自己有用感や達成感として残るようにしていきたい。また、高学年は自分の役目があり、低学年は高学年をお手本に頑張っているが、中学年に対する視点が少し弱い。各学年の発達段階を踏まえ、たてわり班活動における各学年のねらいを再検討していきたい。

## 他校へのアドバイス『リーダーとしての見通し』

6年生がしっかりしていると学校全体が落ち着いた雰囲気になることを今年度は特に感じた。たてわり班活動で、6年生が下級生に声をかけている様子を見ていると、とても良く頑張ってくれているなど思う。この活動を通して、自己肯定感や自己有用感が得られているから、一生懸命に頑張ろうとするのではないだろうか。活動はしたけれども、何も得ることが無かったとなってしまうえば、リーダーの自己有用感には繋がらない。そこで、6年生がリーダーとして活動しやすいようにすることが重要である。本校では、6年生に対して、各活動の度に事前学習を行っている。これにより、まず、活動のイメージを持つことができる。活動のイメージを持つことで、不安感の解消や活動への期待感に繋がる。次に、リーダー自身がたてわり班活動のねらいを理解した上で、本番の活動に臨むことができる。たてわり班の活動にはねらいがあり、それをリーダーが理解することで、本番、自分がどう行動すれば良いのか考えることができる。最後に、たてわり班活動を行うためには、6年生の存在が必要不可欠であることを知ってもらうことができる。6年生は学校にとって、特別な存在であることを知ってもらうことで、たてわり班活動を一生懸命行うことに喜びを感じてもらえるようになる。このようにリーダーとしての見通しを持たせることが、たてわり班活動の充実に繋がると考えている。

指定校番号	28009	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島東小学校	校長	山崎 聡	生徒指導主事	見渡 英治
-----	------------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『たてわり班活動』

**取組のねらい**『キーワード 集団の中の一員としての意識』

- ・ 異学年交流での出会いを通して、人とつながる力を育む。
- ・ 集団の一員として活動することの楽しさを味わう。
- ・ リーダーとしての自覚を持たせ、活躍の場とする。

**取組の具体的内容**『キーワード 異学年交流で』

- ・ 4月 1年生を迎える会……………1年間、さまざまな活動を共にしていく1年生と6年生のペアを作る。6年生には学校の中のリーダーとしての責任感をもたせ、1年生には6年生と過ごすことで小学校での生活に慣れるための安心感をもたせる。



- ・ 6月 たてわり班顔合わせ会…1年間、さまざまな活動を共にする1年生から6年生で形成する班を作る。自己紹介と簡単なゲーム、たてわり班の旗の作成を行う。



- ・ 7月 おりづる集会……………碑前祭に供える千羽鶴をたてわり班で集まって折る。自分だけで折るのではなく、折り方を上学年が下学年を教えるなど、班という集団を意識して活動する。



- ・ 12月 校内ウォークラリー…たてわり班で協力し、ゲームをしたり課題を解決したりしながら、異学年での交流をする。リーダーである6年生を中心に回るコースを班員の意見を取り入れながら決めたり、みんなが楽しめるという目標が達成できるように班をまとめたりしながら活動する。



- 3月 6年生を送る会…… 1年間、リーダーとして班をまとめてくれた6年生に感謝の気持ちを込めて卒業を祝う。1年生から5年生は会場の飾りつけや準備をしたり、自分の班の6年生にプレゼントを作ったりする。
- 6月から3月まで…… 1年間を通じて縄跳び運動や東っこ体操などの業前運動や昔遊びや転がしドッジボールなどのグループ遊びなどをたてわり班で行う。



#### 取組の課題・創意工夫 『キーワード 機会の保障と安心感』

- 限られた授業時数の中から児童の活動時間を確保することの難しさは感じるが、たてわり班を使った活動を取り入れることにより得られる成果をより効果的にするためには、たてわり班と一緒に活動する機会の保障が不可欠となると考えた。そこで児童会活動を計画する生活部だけではなく、遠足や業前運動を計画する保体部など各校務部で計画する行事に意識的にたてわり班を活用するようになってきた。その結果、たてわり班の児童が顔を合わせることが多くなり親近感を感じられるようになった。また様々な活動に協力して取り組ませることで連帯感が生まれた。
- リーダーシップを発揮しやすいように、各行事の前に6年生児童にオリエンテーションを行った。きちんと見通しをもたせることで6年生児童も安心感をもち、自信をもって下学年に接することができるようにさせた。行事が終わるごとに振り返りをさせ、見つけた改善すべき点を次回の活動に生かすことができるようにした。
- 異年齢、異性で構成するグループで活動することによって多様な考え方にふれさせることができるようにすることをねらって、たてわり班を組む時には、どの班も男女の比をできるだけ均等となるように組むようにした。
- 班をまとめることを大きな負担と感じてしまいやすい6年生児童には、いつも複数で対応できるように6年生が二人いる班に編成するなど、児童の実態に即した配慮を心がけた。また、配慮を要する児童については、担当になった教員が適切に対応できるよう事前に職員間で情報を共有し合った。

#### 取組の成果（効果） 『キーワード 学年を越えたつながり』

- 1年間を通じて様々な活動を共に行ってきたことで、学年を越えて良好な人間関係を築こうとする意識はどの学年でも高まった。特に6年生はリーダーとしての自覚をもち、自分のことだけでなく、グループ全体のことを考えて声かけをしたり、行動したりすることができるようになってきた。また5年生は、来年度、自分たちがリーダーとなった時に、担う役割やグループをまとめる方法を6年生の姿を見ることで学び、明確にイメージすることができた。その経験を生かして年度終わりの活動では6年生と協力して班をまとめる姿も多く見られた。たてわり班活動を行っていない時でも、校内で出会えば声をかけたり、自ら率先して遊びに誘ったり、困っていたら助けたりということができるようになってきている。自分のことだけでなく、周りに意識を向けることができる児童が増えてきたように感じる。

- ・ たてわり班活動を行うことは児童だけではなく、教職員も多くの児童とかがかわることができる良い機会となった。学校全体ですべての児童を育てていこうという教職員の意識も大きく高まることにつながったと感じる。

**【たてわり班活動についての児童の感想】**

- あまり話したことのない人と話すことができ楽しかった。
- 上手くいかなかった時に班の人がなぐさめてくれた。
- 高学年の人が分かりやすく教えてくれてうれしかった。
- 迷子にならないように、6年生が手をつないでくれてうれしかった。
- 6年生だけでなく、5年生も班をまとめてくれた。

**【児童会によるアンケート結果】**

- |                          |           |     |
|--------------------------|-----------|-----|
| ① 班で仲良く活動できた……………        | 369人／491人 | 75% |
| ② 班のみんなと協力することができた……………  | 448人／491人 | 91% |
| ③ みんなが笑顔で心があたたかくなった…………… | 416人／491人 | 84% |

**今後の展開『キーワード 反省と改善』**

- ・ 今年度取り組んできたたてわり班活動は、高学年のリーダー性の育成や、学年の壁を越えての良好な人間関係づくりの確立というねらいを達成するために非常に有効であったと感じる。
- ・ これまで継続して行ってきたたてわり班活動は、多くの児童の今年度の取り組みの反省を活かしながら来年度も取り組んでいきたい。

**他校へのアドバイス『キーワード 計画と見通し』**

- ・ 行事の精選、またその内容の見直しをしていくことの必要性にせまられている中で、年間を通じてたてわり班を使った活動を行事の中に取り入れていくことの難しさを感じる。またリーダーとしての自信をもって取り組ませるためには、事前にリーダーとしての心構えや活動の流れなどが分かるようにオリエンテーションを行うことが欠かせない。少ない機会の中で大きな成果をあげるためには、たてわり班活動の取り組みに対する明確なビジョンを教員がもって児童への指導をすることが必要不可欠であると感じる。

指定校番号	28011	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立竹屋小学校	校長	尾形 慎治	生徒指導主事	里本 孝文
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『竹屋っ子グループ』を用いた集会活動

**取組のねらい** キーワード『異年齢グループ活動』（異学年交流）

児童が自分たちの学校生活をより良く、そして楽しく向上させようとする意図のもとに、自主性と社会性を養うために、児童相互の関わりの場として、異年齢グループを積極的に活用する。

**取組の具体的内容** キーワード『年間を通して』

＜竹屋っ子グループ＞（縦割りグループ）での活動

- ・全児童を人数や男女比が等しくなるように24のグループに分ける。
- ・年間を通して様々な場面で活用する。

- 6月・・・折り鶴集会
- 7月・・・夏の集会
- 9月・・・クリーン活動
- 12月・・・冬の集会
- 随時・・・体育的集会



＜異学年交流＞での活動

- ・1・2年の校内探検、おもちゃ祭り
- ・2・3年，4・5年，5・6年での学習紹介や引き継ぎ
- ・すずかけ交流会（1・2年，3・4年，5・6年）  
※「すずかけ」とは毎年作成する全校文集のこと
- ・遠足や運動会



<b>取組の課題・創意工夫</b>	<b>キーワード『グループ作り』</b>
<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初のグループ作りに手間がかかる。 （児童実態の把握，グループの均等性）等</li> <li>・グループ数に対して担当者（職員）の不足。</li> <li>・活動場所や順序の計画。</li> </ul> <p>&lt;工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動前の「事前学習」「ねらいの明確化」，活動後の「ふり返し」や「評価」をしっかりと行うことで，さらに効果が上がる。</li> </ul>	
<b>取組の成果（効果）</b>	<b>キーワード『関わりの中で育つ』</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童が顔見知りになる。</li> <li>・上の学年にとっては，自尊感情が揺さぶられ，自主性やリーダー性が育つ。</li> <li>・下の学年にとっては，上の学年に憧れ，今後の見通しや，学習意欲の向上につながる。</li> <li>・互いを意識し，尊重し，思いやる気持ちが養われる。</li> <li>・地域の行事（三世代交流行事「とんど」「夏祭り」「ハゼ釣り大会」）等にもつながっている。</li> </ul>	
<b>今後の展開</b>	<b>キーワード『継続と見直し』</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が定着していくために，職員が意識統一して引き継ぎ，継続していくことが大切。</li> <li>・マンネリ化を防ぐために，ある程度固定した活動内容や場面についても，常に見直すことも必要である。</li> </ul>	
<b>他校へのアドバイス</b>	<b>キーワード『異年齢（異学年）交流』</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備や計画は大変だが，異年齢（異学年）での活動は，上学年児童にとっても下学年児童にとっても得られる効果が大きい活動である。また，学校の伝統や風土を引き継いでいくことにおいても，大きな役割を果たしている。また，学校や地域への愛着を育てることにもなっている。</li> </ul>	

指定校番号	28012	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立神崎小学校	校長	高西 実	生徒指導主事	栗原 良典
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『異年齢集団での交流を活用した 児童会活動の展開』

**取組のねらい** 『育む“人とのつながり”と“自分の憧れ・志”』

「神崎班」という1年～6年を縦割りにした異年齢集団での交流を活用した児童会活動 によって

- ・学年や学級の異なる他者と楽しく触れ合い、交流を図ることによって児童同士のつながりを深め、望ましい共感的な人間関係を育成します。
- ・学年や学級のほかにも、信頼し合い協力し合おうとする自分の居場所ができることで、児童に自己存在感を与えます。
- ・班の中での役割や相互のかかわりを通して、高学年は自覚や自信を高めるとともに、低学年も上級生への憧れや自身の目標をもつことができるようになります。



**取組の具体的内容** 『“児童集会の活用”と 交流を深めるための 諸活動』

**①児童集会での「神崎班」活動**

**【折り鶴集会】**  
 …7月に平和教育の一環で、「神崎班」ごとに輪になり、千羽鶴を一緒に折ります。この集会では、委員会児童による朗読劇も行われます。児童会活動に参加する中で、異年齢での交流はもちろん、平和についての考えを一人一人が深めていくことも大切な目的となっています。



**【神崎っ子集会】**  
 …「神崎班」で協力し、校内の10個のゲームをクリアしていくオリエンテーリング大会です。チームワークを生かして、各「神崎班」でゲームを回り、高得点を狙います。



集会の進行は6年生の児童が前後半に分かれて行います。6年生がいない班は、その間5年生がリーダーとなって班をまとめます。



**②交流を深めるための 諸活動**

児童集会が「ただ一緒に活動をしただけ」にならないよう、事前にお互いのことを知り、つながりを深めることを目的として、異年齢交流の機会を数多く設定しています。

**【神崎班遊び】**  
 異年齢集団の人間関係をより深めるために、ロング昼休憩を活用して一緒に遊びます。児童集会の前に、年4回行われます。



**【ドッジボール大会】**  
 低・中・高のそれぞれの枠組みで、学年混合のチームをつくります。休み時間も声をかけ合い練習し、本番ではチームワークを生かして試合に取り組みます。



**【音楽朝会・全校合唱】**  
 毎月の歌を各学年が持ち回りで代表となり、音楽朝会で発表します。それぞれの練習の成果を披露するとともに、全校児童で合唱します。練習の過程では、異学年との合同学習も行っています。



## 取組の課題・創意工夫 『異年齢で育む“つながり”と“自分の在り方”』

・どのような活動においても、「目的意識をどうもつか」が大切です。せっかくの異年齢集団での交流を、「一緒に遊んで関係を深める」だけで終わらせず、「その集団の中で、自分はどのように行動し かかわっていくか」を考える場につなげていくことを意図し、児童に働きかけています。

【「神崎班遊び」では…】



6年生を中心として、まず、何をして遊ぶかを話し合います。異年齢での話し合いを通して、上級生は下級生に対して思いやりの気持ちをもって接し、下級生は上級生に尊敬の気持ちをもって協力していきけるようにするなど、共感的な人間関係を築く態度の形成を図ります。

「他学年の相手にも自分の意見を言える、聞いてもらえる」という経験を通して、学年を越えた信頼関係をつくるとともに、児童の自己存在感の育成にもつながるよう意図して、児童に働きかけています。

【「折り鶴集会」では…】



6年生がリーダーとしての自覚を深めるとともに、その役割を効果的に達成できるようにするために、集会の前には6年生が1年生に鶴の折り方を指導する機会を設けています。その経験を生かし、当日の集会でも、6年生が率先して下級生にアドバイスをしています。6年生の姿を見ることで、その他の学年間でも自然と教え合いが発生するようになりました。



このように、活動の中での様々な行動を通し、上級生は下級生を思いやる心や責任感を培っていきます。下級生もまた、上級生に対する信頼と憧れをもつことで、これからの自分の目標へとつながるよう取り組んでいます。

## 取組の成果（効果）『“人とのつながり”や“成功体験”が“自信”と“夢”に』

全国学力・学習状況調査では、「学級みんなで協力してやり遂げ、嬉しかったことがある（県比+26.8%）」「学校に行くのは楽しいと思う（県比+10.8%）」「自分にはよいところがあると思う（県比+29.6%）」「人の役に立つ人間になりたいと思う（県比+11.9%）」などの項目に「当てはまる」と答えた児童が多いという結果が出ています。「基礎・基本」定着状況調査においても、「自分にはよいところがあると思う（県比+25.5%）」「将来の夢や目標は叶うと思う（県比+23.4%）」など、同様の傾向が見られます。

## 今後の展開『より“主体的”に、児童が力を発揮できる児童会活動を目指して』

本校では上記の取組以外にも、様々な委員会が集会や日常の活動に対して工夫して取り組んでいます。今後も子どもたち自身が感じた学校の課題意識や、「もっと自分たちの学校をこうしていきたい!」といった要望を吸い上げ、それらをもとに児童会活動を展開していくことで、児童の自己決定の場を保障するとともに、自主的・実践的に活動する児童を育成していきたいと考えています。



図書委員による本の紹介劇

## 他校へのアドバイス『“学校全体で取り組む”ことで生まれる力』

生徒指導の充実を考えていく上で、異年齢集団による交流は、大きな成果につながる取組の一つだと感じます。また、児童会活動と関連させながら展開することで、さらに児童の自己指導能力の育成を図ることができると考えられます。しかしその目的を達成するためには、教員の適切な働きかけが必要であることも確かです。児童に投げっぱなし、担当教員に任せっぱなしでなく、学校全体で目的意識を統一し、多くの目と手で、協力して児童を支援することが大切であると思います。

指定校番号	28015	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立天満小学校	校長	岸保 仁司	生徒指導主事	笹原洋平
-----	-----------	----	-------	--------	------

**取組事例名 『年間を見通したたてわり班活動』**

**取組のねらい『キーワード リーダー性と学年間を越えた密な関係』**

- ・たてわり班活動により、高学年の自治活動を促し、リーダー性を養う。
- ・年間を見通した計画を立て、切れ目のない活動を意識することで学年間を越えた密な関係を養う。

**取組の具体的内容『キーワード 年間を見通した活動』**

- ・全職員によるたてわり班打合せ
- ・たてわり班遠足



- ・たてわり班での運動会競技



- ・校内文化的行事において、たてわり班ごとの出店



- ・これまでお世話になったリーダーへのたてわり班感謝の会

年間予定	
月	内容
4月	たてわり班編成会
5月	高学年リーダー会 遠足（親睦的行事） 高学年リーダー会 2 運動会（体育的行事）
6月	高学年リーダー会 3 おりづる集会 （児童同士によるおりづるの 折り方の教え合い）
9月	授業でたてわり班で道徳的価値について考え共有する
12月	高学年リーダー会 4 プラタナス集会子どもの日 （文化的行事）
2月	卒業を祝う会（リーダー引き継ぎ）
3月	たてわり班感謝会

**取組の課題・創意工夫『キーワード 切れ目のない活動にするために』**

・年度当初のたてわり班打合せでは、兄弟関係や人間関係を考慮して、全教職員参加でたてわり班編成を行い、情報共有を行った。たてわり班で行事を行う際は、事前に、高学年だけのリーダー会を設け、5・6年生は、たてわり班で活動する目標を考えたり、みんなが楽しめるにはどのようにすればいいか話し合ったりした。また各行事をやりっぱなしにしないよう毎時間ふり返りを行い、児童は自身でどのような力が付いたのか、今後の活動を見通してどうしていきたいか等考えた。さらに、考えたことを学級やたてわり班全体で発表し、共有することで活動の継続性を高めていくことができた。

### 取組の成果（効果）『キーワード リーダー性の高まり・学年を越えた関わり』

- ・高学年はリーダーとしての意識が高まり、たてわり班活動を経て下学年への関わりや声かけ等、日に日に上手くなる様子が見て取れた。
- ・児童の自治意識の変容が見られ、児童には自分たちで行おうとする意識、問題に対して自分たちで何とかしようとする態度の高まりが感じられるようになった。
- ・低・中学年でも自分の得意な場面では、他学年の児童を自然と助ける姿が見られるようになってきた。そうする中で、上学年への憧れや「自分たちもやりたい。」という思いを抱くことができるようになってきた。またクラスの中ではあまり自分の思いを出しにくい児童も、異学年集団の中では自分の役割と活躍の場があり、活動を通して自己肯定感を高められるようになってきている。

### 今後の展開『キーワード バトンタッチ』

- ・来年度に向けて6年生の姿を見てきたサブリーダーである5年生が、今まで6年生が行ってきた活動を引き継ぐ。6年生は朝会の集合確認やたてわり班の会の進行などのリーダーとしての仕事を、5年生に引き継ぐことで、5年生は最高学年として、6年生は卒業式へ向けて意識を高めていく。

### 他校へのアドバイス『キーワード ふり返ることの大切さ』

- ・切れ目のない年間を見通した活動とするために、ふり返りを大事にしてきた。毎時間ごとにふり返りを行い、行事が終わるときもふり返りを行ってきた。そして日々の生活や次の活動にどのように繋げていくのか考え、学級やたてわり班で共有することで、児童は1つ1つ事柄を結びつけながら考えられるようになってきた。

指定校番号	28016	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立観音小学校	校長	三上正浩	生徒指導主事	別府正己
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『児童会活動（冬の集会）』

**取組のねらい** 『キーワード：児童のかかわり』

- 児童のより良い集会にしようとするモチベーションを高め、進んで活動する態度を育て、達成感をもたせる。
- 異学年の児童がかかわり合いながらコミュニケーションをとったり、協力したりする。
- 上学年児童は、活動の計画やゲームの運営、グループをまとめることで、思いやりの心を育て、リーダー性を養う。下学年児童は上学年児童の姿勢を見習い、好ましい態度や考え方を身につける。

**取組の具体的内容** 『キーワード：楽しむ』

冬期に、計画委員会（児童会）が主催して、全校児童が寒さを吹き飛ばすための集会をする。内容は、縦割り集団でクイズ・ゲームラリーをする。縦割り集団で多くのコーナーを回り、協力し、かかわり合いながらポイント集めを楽しむ。



回る順番を検討中

下学年の各学級は、その学級に関係するクイズを 2 問考えて掲示する。上学年は、学級毎でゲームを計画し運営する。また、各委員会はそれぞれの活動に関するクイズを 2 問考えて掲示する。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：全員参加』

児童会活動に、縦割り集団の活動を取り入れることで、児童相互の理解を深め、上学年児童の思いやりの心やリーダー性を育てることができる。また、下学年児童が上学年児童の好ましい態度を見習うことで、観音らしさが継承されていくことも考えている。

その他にも、全ての児童と教師が企画面や運営面でもかかわることができるように、時間の確保の工夫もしている。



先生とジャンケンをして得点を得るゲーム

**取組の成果（効果）** 『キーワード：生徒指導の三機能』

この児童会活動を通して、上学年児童は活動をやりきることで達成感や充実感を味わうことができた。さらに、下学年児童のお世話をすることで優しさや責任感をもち、リーダーとしての風格が育ってきた。下学年児童は上学年児童の態度や行動を見て学び、憧れを抱き、親近感をより深め、併せて規範意識も育ってきている。

学校生活の場では、異学年児童に親しく声をかける姿が見られたり、放課後一緒に遊ぶところを見かけたりすることができ、児童間の相互認知、相互理解は高まった。



ゲームの説明を聞く



ゲームに挑戦中

## 今後の展開『キーワード：規範意識の広がり』

縦割り集団の活動は、児童会集会や全校清掃、縦割り遊びでも行っており、児童の中にグループ内の仲間意識は定着してきている。今後、リーダーとして活躍した6年生とのお別れの際に、在校生は、これまでのお返しとして、心のこもったペンダントや歌、演奏をプレゼントすることを考えている。

また、校内にとどまらず地域でも、気軽に声をかけたり、お互いの存在を意識し合ったりすることで、共に刺激し合い、規範意識の定着や広がりを期待している。



ゲームを運営する側も工夫して楽しそう



楽しそうな児童の表情

## 他校へのアドバイス『キーワード：ペア』

縦割り集団の活動は、6・1年、5・3年、4・2年のペアで活動することもある。上学年児童はペア集団のリーダーとして活動を上手くまとめており、そのことが大きな集団への移行をスムーズにしている。

指定校番号	28019	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	梅林小学校	校長	中西 浩二	生徒指導主事	通地 正博
-----	-------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『梅林祭』**

**取組のねらい『楽しい学校生活を送ろう』**

- ・2年生から6年生までは、「梅林祭」の取組を通して、クラスが協力し、一つのことを成しとげること  
で、新しいクラスの結びつきを深め、学校生活の楽しさを味わう。
- ・1年生は、お客さんになっていろいろなクラスを回る活動を通して、小学校生活の楽しさを味わい、新  
しい友達と仲良くなる。
- ・たてわり班で「店」を回ること、異学年交流を図る。

**取組の具体的内容『協力して出し物を行い、みんなで楽しもう』**

5月25日（水） 各クラスの「店」の内容提出（学年で内容が重ならないように調整）  
 6月 9日（木） 児童朝会（顔合わせ・回る順番決め）  
 5月30日～6月16日 各クラスで「店」の準備  
 6月17日（金） 梅林祭 1～3校時  
 場所 開閉会式は体育館 活動は各クラス  
 内容 たてわり班で回る（1グループ5～6人）  
 2～6年・・・「店」を出す ※店番・客を前後半で交代  
 1年生・・・客として、各クラスを回る  
 たんぽぽ学級・・・交流学級で店番に参加 客として回る



## 取組の課題・創意工夫 『クラスの結びつきを深め、新しい友達と仲良くなるよう』

### 課題

- ・異学年交流を充実させるためのたてわり班の作り方をどのようにするか。
- ・出し物の準備から当日の運営までのクラス全員での取り組み方。
- ・たくさんの「店」を回ること。

### 工夫

- ・男女均等になるように異学年のグループ（たてわり班）を作り，1年生は前後半違うメンバーの上学年と回ることを通して，たくさんの上学年と交流を行う機会を作った。
- ・各クラス，昨年度までの出し物を参考にして，自分たちで話し合いを行い，何の「店」を出すのかを決めた。また，「店」の名前書きやポスター作り，「店」の準備，当日の店番などをクラス全員で分担して行うようにした。
- ・短時間に回るために，「店」の出し物を1人ずつではなく，大人数でできるような出し物を工夫した。

## 取組の成果（効果） 『楽しく活動できた』

### 児童の感想より抜粋

- ・グループのみんながやさしくしてくれたので，うれしかった。
- ・5，6年生が先に行かせてくれたり，教えてくれたりしたので，楽しかった。
- ・お店を出すための準備はクラスみんなで役割分担をして，協力してできた。
- ・店を出る時に，「楽しかった」と言ってくれる人がいてうれしかったし，やったかいがあるなど思った。
- ・同じことを一緒にすることで，違う学年の人たちと仲良くなれた。

12月に行った学校評価アンケートでも，仲間と共に楽しく活動できたという項目は90%，思いやりの心を言葉や行動で伝えるという項目でも92%の児童ができたと評価している。「梅林祭」の活動を通して，学級への所属感や思いやりの心が育ってきていると思われる。

## 今後の展開 『継続した取組』

- ・「梅林祭」だけではなく，月に1回「梅林遊ぼうデー」を設け，昼休憩を長くして全員遊びを行うことにしている。また，クラス対抗の綱引き大会や長縄跳び大会が計画されており，当日だけではなく，練習からクラス全員で取り組んでいき，クラスの一体感を味わわせるようにさせていく。
- ・登校班では，5・6年生が班長，副班長になり，下の学年が安全に登校できるように指導させるとともに，下の学年も班長，副班長の指示に従うようにさせている。また，児童朝会でのたてわり班活動でも，他の学年に対しても，思いやりのある行動をするように指導していく。

## 他校へのアドバイス 『継続させていく』

- ・クラスの絆を深めていくための活動は，日々の活動の中でも取り入れられていると思われる。それだけではなく，特別に仕組んでいくためには，他の行事と重ね合わせて考えるなど，計画的に取り入れていくことが大切である。また，子どもたちに目的意識を持たせながら，活動させていくことも重要である。
- ・梅林小は登校班だけではなく，遠足，梅林祭，児童朝会など年間を通して異学年交流を継続して仕組んでいる。継続することによって，他の学年に対して，思いやりの心も育ってきていると考えられる。

指定校番号	28021	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立 亀崎小学校	校長	和田 麻里子	生徒指導主事	石田 葉子
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『亀っ子そうじ』

取組のねらい『キーワード なかよく 協力』

- 異年齢の友達とも仲良く行動する。
- 学年に応じた役割を考えて、協力してそうじに取り組む。

取組の具体的内容『キーワード みんなの中での役割』

- 縦割りグループ（7～8名）を編成。
- 縦割りグループの活動は、年6回。（スタンプラリー、おりづる、清掃）どの活動もだれとでも、『なかよく協力』して活動を楽しむことを一番の目当てにする。
- 夏休み、冬休み前のワックスがけ前に、割り当てられた場所を、縦割りグループで特別にきれいにする。（年2回）
- 『そうじの手順表』を作成し、「誰が 何を使って 何をする」という清掃の手順が分かるようにする。

**12月6日**  
かめっこそうじ

**そうじの目標**

- ①全員でそうじをする
- ②そうじ道具を大切に使う
- ③後片付けをする

**今日の流れ**

15:00 始めの会  
そうじ20分  
音楽が鳴ったら体育館へもどる  
終わりの会

**もとの位置にすわりましょう**  
そうじ道具もグループで持っておきましょう

**振り回りタイム**

- ★6年生が司会・記録
- ★感想や気持ちを書くさん書こう

10	3F南手洗い場	手洗い場（たわし） 1・2・6年	タイル（アクリルたわし・下雑巾） 3・4・5年	藤田	
11	北脱靴場の	ほうき 1・6年	くつ入れ（ミニほうき） 3・4年	かさ立て 2・5年	白石
12	北脱靴場の	ほうき 1・6年	くつ入れ（ミニほうき） 3・4年	かさ立て 2・5年	白石
13	南脱靴場の	ほうき 1・6年	くつ入れ（ミニほうき） 3・4年	かさ立て 2・5年	下村
14	南脱靴場の	ほうき 1・6年	くつ入れ（ミニほうき） 3・4年	かさ立て 2・5年	下村
15	職員玄関	ほうき 1・6年	スリッパ入れ（下雑巾） 3・4年	す板（下雑巾） 2・5年	校長
16	体育館（下窓）	モップ 1・6年	ピカピカ棒&下雑巾 2・3・4・5年		教頭
17	1年1組	ほうき 1・6年	下ぞうきん 2・3・4年	黒板・上ぞうきん 5年	植田
18	2年1組	ほうき 1・6年	下ぞうきん 2・3・4年	黒板・上ぞうきん 5年	原

**教室そうじの方法**

ほうき 1・6年	下ぞうきん 2・3・4年	黒板・上ぞうきん 5年
黒板にそってほうきで掃く。	バケツを用意する。	黒板をよから下にむけて倒してきれいにする。
ほうきで掃いたところを かきこんでいく。 ★木屑にそって	ほうきで掃いたところを かきこんでいく。	黒板の端の部分のチョークを消すほうきで掃いて、掃く とりである。 ↑ 上ぞうきんをかきこく。
つくえを全員で前に運ぶ。（低学年は2人で運ぶ）		
後ろをほうきで掃く。	ほうきで掃いたところを かきこんでいく。	
つくえを全員でもとの位置にもどす。（低学年は2人で運ぶ）		
いすをおろす。		
ロッカーの蓋を整理する。	バケツを片付けて、かきこんで かきこんでいく。	上ぞうきんをかきこく。

取組の課題・創意工夫『キーワード なかよく 協力を実感するために』

- 「だれが 何を使って 何をする」を明らかにし、そうじの手順表、必要な掃除用具をグループごとにセットした。→どのグループも集まって、高学年が役割を確認した後、すぐに掃除にとりかかることができた。
- 全校で時間割をそろえ、授業時間の中で、全職員が指導に当たることができるよう、年間を見通して活動を計画した。
- ▼児童は時間の中でスムーズに活動できたが、そのための準備は、そうじ場所の選別、掃除用具の仕分けなど、大変煩雑で時間がかかった。シンプルにしていきたい。
- ▼児童だけでは活動が進まなかったり、トラブルへの対応が難しかったりするなど、教員の目が届ききらないことがある。高学年がリーダーシップを発揮できるようなフォローがまだまだ必要である。

## 取組の成果（効果）『キーワード 高学年のリーダーシップ』

○そうじの手順表があり、「誰が 何を使って 何をする」が明確になっているので、ふり返りでは、「グループのみんなが力を合わせてそうじをした（90%以上16グループ、80%以上7グループ）」、「自分の役割の仕事をした（90%以上21グループ、80%以上3グループ）」と、縦割りグループでそうじを行ったことに達成感をもっていた。（全24グループ）

○低学年と高学年がペアになって役割の仕事を行う中で、高学年はやり方を説明したり、手をとって一緒にやったりする姿が見られた。6年生も自信をもって指示することができた。



○ワックスがけ前の特別なそうじを、縦割りそうじに当たったことで、児童ははりきって行き、仕事を見つけ、「きれいにした」という満足感を味わっていた。



〈グループのふり返りから〉

○とてもきたなかったのがやりがいがあった。きれいにして気持ちよくなった。（手洗い場）

○ほこりや砂がたくさんとれた。汚いところがきれいになり、すみずみまでできた。（脱靴場）

○ほこりがいっぱいあって、びっくりした。きれいになって、すっきりした。（玄関）

○手が汚れたけど、すみがよくとれて、きれいになった。（書写教室）

## 今後の展開『キーワード 自分達で』

・縦割りグループでは、昨年度から行っていたスタンプラリーのような「楽しい遊びの活動」だけでなく、今年度は「清掃活動」も行い、縦割りグループでの活動内容を広げることができた。来年度は、同じ活動内容であっても、高学年が更にリーダーシップを発揮して、低学年と一緒に活動できるように言葉をかけ、より自分たちで活動できる縦割り活動を目指したい。

## 他校へのアドバイス『キーワード 活動の見える化』

・事前に「誰が 何を使って 何の仕事をする」ということを明確にする。→ 本時の活動がシンプルになり、「自分の役割がしっかりできた」「協力してなかよくできた」「気持ちがいい」という児童の達成感を味わわせる。

・年間を通して活動を計画し、必ず教員がグループについて支援し、ふり返りでは、なかよく協力してできた姿を言葉や行動を通して具体的に示し、自信をもたせる。

指定校番号	28022	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立河内小学校	校長	長本 英高	生徒指導主事	高橋 学
-----	-----------	----	-------	--------	------

**取組事例名** 『異学年交流』

**取組のねらい** 『キーワード：異年齢間ピア・サポート』

異年齢間での「お世話をする・される，支える・支えられる」交流体験を通して，個々の児童の安心感や自己有用感，共感性や向社会的スキルの育成。

**取組の具体的内容** 『キーワード：経験や体験を積み重ねて』

1. 年度当初，3つの縦割り班活動の取組を年間行事計画に組み込む。
  - (1) フレンドタイム・・・縦割り班で遊ぶ。年間 12 回。
  - (2) 縦割りロング掃除・・・縦割り班で清掃をする。年間 8 回。
  - (3) ウォークラリー大会・・・縦割り班で校内に設けたクイズとゲームコーナーをまわる。年間 1 回。



2. 取組日課
 

上記の(1)～(2)については，普段の昼休憩と掃除時間を合わせ，約 30 分間を設定する。(3)は，平成 28 年 11 月 18 日実施 1.5 単位設定。



3. グルーピングをする。(年度当初)
 

全校児童 158 人。1年から6年生までの異年齢の 14 グループのメンバーを組み担当教諭を決める。(1 グループ約 11 名)



4. 各活動内容詳細
  - (1) フレンドタイム
 

リーダーの 6 年生を中心に，運動場で「けいどろ」「高鬼」などの鬼ごっこをするグループや「長縄」するグループ遊びをしている。活動後，今回の活動の様子を元に，次回の遊びテーマを 6 年生と担当教諭とで企画している。



- (2) 縦割りロング掃除
 

2 グループを 1 組(22 名)として，毎回掃除内容の役割分担を変えながら，上級生のアドバイスのもと，協力しながら掃除をしている。活動の最後に全員で振り返りをしている。

- (3) ウォークラリー大会
  - ① 代表委員会でウォークラリーの提案【11 月 2 日(水)】
  - ② 1～6 年生の 6 コーナーと地域の方の計 7 コーナー内容を決定。

【11 月 11 日(金)】

- ③ コーナーづくり【11 月 16～18 日】

- ④ 当日

体育館に集合し開会式をする。「縦割り班で行動」・「あいさつをする」「終了時間を守る」を合い言葉に，ゲームでは達成速度を競ったり，クイズの回答を用紙に記入したりしながら交流を深めた。



**取組の課題・創意工夫『キーワード：振り返りと認め合い』**

定期的に、異学年交流の場を設定することで、次回への見通しを持つことができる。取組の後、互いの「よい」ところを発見・発表し共有することで下級生を思いやる気持ちや上級生への憧れが、より強く深い繋がりを形成すると考える。

**取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感』**

- ・回を重ねるごとに、縦割りグループ内での下級生への関わり方や声のかけ方がうまくできる上級生が増えた。
- ・交流や活動をする中で、頼られる体験やお世話をする体験、感謝される体験などを通して、自己有用感を高めたり、上級生としての自覚を深めたりする児童がいる。
- ・年上の子は年下の子を思いやり、年下の子は年上の子にあこがれるという、当たり前な光景が見られ、みんなが大切にされ、活力あふれる時間となっている。

**今後の展開『キーワード：効果的』**

他の行事との間隔や関連性をしっかり吟味して、一年間を見通した行事を組むことで、更に効果的な取組としたい

**他校へのアドバイス『キーワード：繋がり』**

1 学年 1 学級の本校では、同じ学年での深い繋がりに限界がある。縦の繋がりを深めることにより学年に応じた責任感を培うことができると考える。

指定校番号	28023	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八幡東小学校	校長	河野 博一	生徒指導主事	岩谷 恵美
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『縦割り活動』**

**取組のねらい『キーワード異学年交流』**

- ・高学年の児童がリーダーシップを発揮して、低学年の児童にやさしくいろいろなことを教える。
- ・低学年に児童は高学年の児童を見習い、正しい行いを学ぶ。

**取組の具体的内容『キーワード高学年のリーダーシップ』**

- ・昼休憩を延長して縦割り遊びを年間5回ぐらい行う。



- ・防犯教室を縦割り班で行い、話し合いは、6年生が進める。

- ・オリエンテーリング集会も縦割り班で行い、高学年の児童が低学年の児童をリードする。



**取組の課題・創意工夫『キーワード高学年の練習』**

- ・縦割り遊びの中で高学年の児童が低学年の児童に折鶴の折り方を教えるように仕組んだため、低学年にわかりやすく教えることができるよう事前に折鶴を折る練習をした。折鶴を折ることが苦手な高学年の児童も仲間にも折り方を教えてもらいながら、一生懸命に取り組んでいた。



**取組の成果（効果）『キーワード異学年交流による児童の成長』**

- ・本校は面倒見のよい児童が多く、高学年の児童は低学年の児童の前ではよくがんばり、低学年の児童に優しく接することができる。こうした異学年交流を通じて、低学年の児童は、高学年の児童のように友達に優しく接するようになった。高学年の児童は、低学年のお手本になろうとがんばり、学校での問題行動が減った。
- ・防犯教室の話し合いは、毎年行っているもので、上手に低学年の児童に意見を言わせることのできる高学年の児童が増えてきている。
- ・低学年は高学年の意見を聞き、正しい行いを学ぶ。

### 今 後 の 展 開『キーワード感謝の会』

卒業式の前に、お別れ集会を行う。お別れ集会では縦割り班でお世話になった6年生に、全員がメッセージカードを書いて、お礼の花束として渡す。そうした取組を通じて、お互いの存在に感謝の気持ちが持てるよう取り組んでいく。

### 他校へのアドバイス『キーワード異学年での話し合い』

- ・防犯教室では、縦割り班で話し合いをする。6年生だけ事前学習を行い、話し合う内容を事前に理解させたことで、6年生が活躍できる場を増やすことができ、高学年としての自覚が育つ。
- ・異学年での話し合いを行うことで、いろいろな考え方を学ぶことができる。特に、低学年の児童にとっては、高学年の児童の意見を聞くことで、高学年の児童に憧れを抱くことにつながる。

指定校番号	28024	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	五日市中央小学校	校長	砂田勝造	生徒指導主事	高橋直美
-----	----------	----	------	--------	------

取組事例名 『中央小縦割り校内ウォーラリー』

取組のねらい『キーワード 異学年交流』

- ・進んであいさつができるようにする。
- ・縦割りグループ（1年生から6年生）のつながりを生かしながら、望ましい人間関係を築き、思いやりの心や規範意識を育てる。
- ・集団の一員として、より良い学校生活づくりに参加し、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 主体的活動』

事前学習 ・4月縦割りグループを決め、年間13回の縦割り活動をする。遊び、鶴折会、草抜き、防犯教室

①ゲーム募集ウォークラリーアンケート（学級会→代表委員会）。

②ゲーム検討・決定（企画委員会）

③ゲーム紹介のVTRづくり・準備（企画委員会）

④VTR放送でゲーム把握（全校）

⑤学年クイズ作り（先生）

⑥高学年打ち合わせ会

作戦会議①（5・6年）

⑦縦割り班打ち合わせ会

作戦会議②

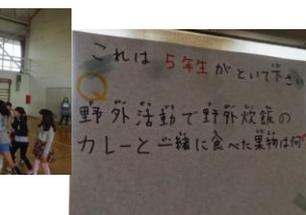
⑧準備（企画委員会）



ウォークラリーアンケート	
ねん くみ	
ウォークラリーでみたいゲームをばしゅうします。	
きょねんやって楽しかったゲームでも新しく考えたゲームでもいいです。	
<input type="checkbox"/> じょうけん ○きょうりょくしてできる。 <input type="checkbox"/> じゅんぴに手がかららない。 <input type="checkbox"/> ○まようしつでできる。(体育館でも4分の1くらいで)	
①ゲームの募集	
②ゲームのやりかた	
何人がやるのか、何回・何秒するのか、どうやるのかなどじゅんじょよく、絵や文でせつめいしましょう。	

ウォークラリー当日

- ①体育館に全校が縦割りグループで集合し、校長先生の話や企画委員の説明を聞く。
- ②校内の12のゲームポイントと6つのクイズポイントを、縦割りグループで回る。
  - ・移動のルールを守り、ポイントを回る。
  - ・ポイントでは先生にあいさつ（大きな声・語先後礼）をして、決められたルールを守り、協力してゲームやクイズに挑戦する。
- ⑤すべてのポイントを回ったグループは、運動場でグループごとに計画していた遊びをして待つ。
- ⑥時間になったらゲームを終了し、教室に帰る。



( )班 たんけんシート( )班 クイズシート			
番号	すること	だれがするか	得点
1	サッカーボーリング(3人)		
2	ストラックアウト(5人)		
3	校歌チャレンジ(全員)		
4	ドキドキカード(5人)		
5	ゴミ箱入れ(5人)		
6	宝さがし(5人)		
7	豆・ビーズつかみラリー(6人)		
8	本立て(全員)		
9	山手線ゲーム(全員)		
10	ソソビ料(全員)		
11	総あて(3人)		
12	風船バレーボール(全員)		
			合計点①
			合計点②
			合計点① + 合計点② = 総合点

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 見通し』

○主体的な活動となるよう、今回ゲームは各クラスから募集したが、実際にゲームをする際には、担当教員が説明し、児童がゲームを行うので、当日の児童の主体的運営については課題が残る。

○学級会、代表委員会、企画委員会、5、6年打ち合わせ会、縦割り打ち合わせ会と、どこで何をするか手順を見直し、細かく計画を立てて、児童が主体的に活動できるよう有効的に時間を使っていく。

○より達成感が得られるように、ゲーム内容やクイズについて工夫が必要である。

- ・1ゲーム〇分以内や何グループかが同時にできるよう、内容や場所の工夫をする。
- ・クイズの量を増やす。(学年クイズ以外にも作ってはどうか。)
- ・ゲームでマイナスポイントが付くものより、加点されるゲームの方でやる気を引き出す。
- ・カードに評価する項目を設けて、加点方式にする。

### 取組の成果(効果)『キーワード 自覚とあこがれ』

児童の感想

**高学年**・疲れたけど、楽しいウォークラリーだった。・まとめることの難しさが分かった。・達成感を味わうことができた。・全員が楽しむことができてよかった。・まとめる、計画を立てる、手本となる、気を配る、協力する大切さが分かった。

**中学年**・学校みんなが考えたゲームができて楽しかった。・6年生がみんなに声をかけて優しくあったからこそ、ウォークラリーが楽しかった。・6年生はいろいろなことを教えていた。お手本になった。・全員でやってきたのが楽しかった。・みんなで協力するのばかりだったから少しは仲良くなれたかなと思った。

**低学年**・自分たちのクラスのゲームが選ばれてうれしかった。・ゲームが楽しかった。・5、6年生のお兄さんお姉さんが優しく教えてくれてうれしかった。・6年生はどのゲームも上手でびっくりした。・自分が3年生になったら、1、2年生の面倒を見てあげたい。

この縦割り活動と校外ウォークラリーを通して、高学年は、リーダーとしての自覚をもち、まとめることの大変さを知るとともに、低学年が活躍できるように気遣い、引っ張っていかなくてはならないという思いをもつことができた。低学年は、高学年を憧れの存在として認識していた。高学年の存在が低・中学年にとっての良きモデリングとして存在し、低、中学年も「あんな6年生になりたい」という気持ちを、活動を重ねるごとに育てていくことができた。また、思いやりの心、規範意識、問題解決の意識を育てることができた。学校評価アンケート(児童の意識)では、きまりを守っているは昨年12月92%→今年12月95%、友達の嫌がること(言葉の暴力やいじめ)をしないように気をつけるは91%→94%と少し昨年度を上回っている。

### 今後の展開『キーワード 生かす』

深めた縦割りのつながりを1月の縦割り遊び、2月のリーダー引継ぎ縦割り遊び、3月のお別れ集会へと生かして、お互いに積極的に声をかけてくことができるようにする。3月の最後の集会では、6年生にお祝いとお礼の気持ちを伝え、6年生から在校生に一人ずつに、言葉をかける時間を設定していく。学校生活の様々な場面で、つながりを生かしていく。

### 他校へのアドバイス『キーワード つなげる・広げる』

異学年の活動は、お互いに学び合うことが多いので、縦割りを生かした活動を、年間を通して行っている。縦割りウォークラリーは、校外から校内に変わって2年目で、昨年の反省を生かして、今回は児童がより主体的に活動できるよう、各クラスで話し合っ、ゲームのアイデアを募集するという活動を取り入れた。児童ならではの楽しいアイデアが出て、昨年度より主体的な活動となった。来年度は当日のゲーム運営を児童が協力してできるよい方法はないか、縦割り活動を生かした児童主体のウォークラリーにするための方法を模索して次年度へとつなげたいと思っている。

指定校番号	28025	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市小学校	校長	高田 伸	生徒指導主事	木梨 智紀
-----	------------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『たてわり活動と五小っ子タイム』**

**取組のねらい『 うれしい! 楽しい! 大好き! 』**  
**(喜んでくれて) (遊ぶことが) (友達, 上級生が)**

○児童が主体となって遊びを計画・実施することで、仲間とのかかわりを促したり、成功体験を増やして達成感を味わわせたりする。  
 ○上級生には、リーダーシップや思いやりの心を持たせ、下学年には、上級生に対する憧れの気持ちを持たせる。また、五日市小学校という集団の一員であるという気持ちを持たせる。

**取組の具体的内容『 五小っ子タイムをみんなで楽しむ 』**

○毎週木曜日の 8:15 から 8:35 までの 20 分間を、『五小っ子タイム』とし、学級遊びや、たてわりグループでの活動、ペア学年との異学年交流の時間にする。  
 ○『五小っ子タイム』を利用して、たてわりグループでの集団遊びを年 5 回行う。遊びの内容は、事前に五小っ子タイムで 6 年生が中心となって、グループ内で話し合って決める。遊びの準備や進行も、6 年生が行う。  
 ○校内ウォークラリーを 12 月に行う。5、6 年生がリーダーとなり、下学年を楽しませたり、ルールやマナーを守らせたりする。



**取組の課題・創意工夫『 学年への負担の軽減 と 児童へのフィードバック 』**

○準備時間等で、特定の学年に過剰な負担にならないように配慮する必要がある。ウォークラリーは、ゲームを簡素なものとし、当日の各ゲームコーナーの運営は教師主導で行うなど、児童の負担を軽減する。  
 ○たてわり遊びの指導は、6 年生の担任だけでなく、学校内の全教員で行っている。6 年生の児童は、遊びの計画を立てた後、担当の教員の所へ報告に行き、遊び道具や場所の調整や、アドバイスをもらう。たてわり遊びの終了後には、振り返りの時間をとり、担当の教員から、肯定的で共感的な評価をしてもらう。  
 ○2 回目のたてわり遊びの後に、1～5 年の児童は、同じグループの 6 年生に向けて、お礼の手紙を書く。また、最後のたてわり遊びの後には、教員たちから 6 年生に向けて、お礼と励ましの言葉を文章でもらい、6 年生の学級に掲示する。自分たちが感謝され、役立っている実感を得られるような活動を設定することで、自己有用感、自己存在感を高める。



## 取組の成果（効果）『 学級経営や登校刺激にもつながる 』

○たてわりグループでの遊びを繰り返すことで、回を追うごとに遊び方が上手になっていった。上学年の児童は、説明やゲームの進行の仕方、ルールを守らせるための思いやりのある言い方などを学び、下学年は、ルールを守ることで楽しく遊ぶことができることや、友達と遊ぶことの楽しさを再確認することができた。

○学校として五小っ子タイムを利用した学級内の集団遊びを推奨することで、教員たちも児童と一緒に外遊びを行う姿が見られるようになった。その結果、クラスの中に暖かい雰囲気生まれ、普段は外遊びや、集団での遊びに参加しにくい児童も、仲間と一緒に遊ぶきっかけになったりした。また、学級内の児童の人間関係の把握にも役立った。

○「木曜日は五小っ子タイムがあるから楽しい」「木曜日は休みたくない」など、児童からの好意的な意見が多く聞かれている。

○チーム対応している遅刻しがちな児童の中には、木曜日の遅刻数が非常に少ない児童もいる。

○月曜日から金曜日までの欠席人数を調べると、木曜日の欠席人数が最も少ない（235人）最も多いのは月曜日で336人。



## 今後の展開『 遊び以外にも 』

○年度最後のたてわり遊びは、5年生が主体となってい、6年生がアドバイスやサポートをするなど、来年度につながるような取組を行っていきたい。

○たてわり活動を遊びだけに限定せず、作品作りや、お互いの成長を認め合うような場の設定、清掃活動など、様々な場面で行うことや1～6年までの大きな集団だけでなく、ペア学年での異学年交流を行うことで、より効果的にねらいに迫れると考えており、来年度に向け計画して行きたい。



## 他校へのアドバイス『 遊び は 学び 』

子どもたちにとって、遊びも勉強。遊びから学ぶことはたくさんあると思います。校長先生のリーダーシップのもと、忙しい学校生活の中で少しずつ時間を確保し、子どもも教員も楽しい活動を、一緒に仕組んでいきましょう。

指定校番号	28026	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立上温品小学校	校長	山名 朋子	生徒指導主事	木村 文美
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『縦割り活動』

**取組のねらい** 『キーワード 異年齢集団で遊ぶことにより人との関わりについて学ぶ』

・1年生～6年生までの異年齢集団（たてわり）を作り，活動することで，人との関わり方を学ばせ，コミュニケーション能力を育てたり，思いやりの心を育てたりする。

**取組の具体的内容** 『キーワード 思いやり・協力』

○上温っ子タイム

・第3金曜日の昼休憩から掃除時間にかけて，6年生を中心に遊びを考えてたてわり班で遊ぶ。

○たてわり読書

・読書タイムの時間に6年生が1年生に，5年生が2年生に，4年生が3年生に絵本の読み聞かせをする。

○たてわり石拾い

・年に4回，掃除時間にたてわり班でグラウンドの石拾いをする。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 児童同士の主体的な関わりを増やす』

○たてわり班1つにつき，教諭も1名配属することで，より細かい見取りができた。

○上温っ子タイムについて

・グラウンドを4分割することで，狭い範囲になり，6年生を中心に，どの学年でも遊べる遊びを考え遊ぶことができた。（写真①）

・反省は「仲良くできたか。」「困ったことはあったか。」の2点で話し合っており，11月は「よくできている」グループがほとんどであるが，時々トラブルなどもあるため，教師が仲裁することもあった。

・6年生が1グループに1，2名なので，最初の頃は教師の力を借りないと下級生の意見をまとめられないグループもあったが，今ではグループだけで話し合いができるようになった。（写真②）



(写真①)



(写真②)

### ○たてわり読書（写真③）

- ・高学年は、たてわり班の下級生を思いながら絵本を選び、読む練習を重ねて本番にいかすことできた。
- ・下学年の児童も、静かに楽しそうに聞くことができた。1年に数回するのが理想であるが、今年は年度途中の提案になったため、1回しかできなかった。

### ○たてわり石拾い（写真④）

- ・本来ならば、全校たてわり清掃が目標であるが、まずは、クラスごとにしてきた石拾いをたてわり班で実施した。私語をしてはいけないので、石がある所をジェスチャーで伝えることができた。また、ゲーム感覚で石拾いをするので、クラスごとの石拾いよりもたくさん小石を集めることができた。
- ・各教諭が担当の班の児童の様子を「協力していたか」、「だまって活動できたか」、「たくさん石を拾えたか」という項目でチェックをし、結果を集計し、高得点だったベスト3を放送で発表した。



（写真③）



（写真④）

### 取組の成果（効果）『キーワード 心にブレーキをかける』

- ・1年間に4回、学校生活についてのふり返り「心のブレーキふり返りカード」（10項目）を実施し、クラスごとや学校全体の集計を掲示し、生活に生かせるようにすることで、「きちんとできた」と回答する児童が増加している。

#### ○ 正しい言葉づかいについて

- ・「正しいことばづかいで話す。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月は64%→11月は70%で6%向上した。

#### ○ 人のいやがることをしないについて

- ・「人のいやがることをしない。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月は67%→11月は76%で9%向上した。

### 今後の展開『底上げ』

- ・心のブレーキふり返りカードでは、「できた」から「きちんとできた」と言える児童が増加しているが、一方では、「あまりできなかった」「できなかった」という児童も10%見られるので、改善できるような取組を進めていく必要がある。

### 他校へのアドバイス『キーワード 意識付け』

- ・児童を意欲的に活動させるには、計画、実行、ふり返りを意識づけることが大切だと感じている。また、「長幼の序」⇒「①高学年は低学年を敬い、低学年のモデルになる様に。」「②低学年は高学年を敬う様に。」を図ることが望ましい人間関係の向上につながると考えている。

指定校番号	28027	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立温品小学校	校長	上田 盛之	生徒指導主事	兼重 聖美
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『温品なかよしオリエンテーリング』

**取組のねらい** 『キーワード 縦割り活動』

- ・ 縦割り班で活動をすることで、学年や学級の異なる友達や地域の方々、教職員と豊かなかかわりを持ち、望ましい人間関係を育むとともに、感謝の気持ちを持たせる。
- ・ 集団の一員として、自分の役割を果たし、協力して解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 豊かなかかわり合い』

(事前)

- ・ 簡単なゲームをしたり、平和集会で折り鶴を一緒に折ったりするなど縦割り班活動を定期的に行う。
- ・ 「温品なかよしオリエンテーリング」前に、児童朝会を使って、縦割り班で集まり、回っていく順番とか、班の決め事など、6年生が中心となって作戦会議をする。



<作戦会議>

※その際、6年生のリーダーにメンバー一人一人の思いや願いを聞き取るよう助言する。

(当日)

- ・ 地域の方々がお世話してくださる「ふれあいゲーム」コーナーと、教職員が担当するゲームのコーナーを数箇所ずつ設け、縦割り班で相談しながら、6年生のリーダーシップのもと、児童だけで回っていく。
- ・ 学年や先生たちからのクイズを解きながら回っていく。

※ゲームコーナーを決める際には、グループで自然に協力し合えるようなゲームに取り組ませる。



<グラウンドゴルフ>



<竹馬>

(事後)

- ・ 「温品なかよしオリエンテーリング」でお世話になった地域の方々に、6年生が感謝の手紙を書く。

- ・ 運営委員会の児童が、縦割り班ごとの得点を計算し、児童朝会で上位3チームの表彰を行う。
- ※チームで協力して取り組むゲームの配点を高くする。また、表彰式では、協力し合って取り組んでいたことを評価する。

### 取組の課題・創意工夫 『キーワード 創意工夫』

- ・ 今年度は、運営委員会の児童がステージ上を飾る看板を進んで作成し、会を盛り上げた。
- ・ 創意工夫があまりできなかったという昨年度の反省を受けて、運営委員会で話し合い、今年度は看板を作ることを決め、休憩時間に児童会室に自主的に集まって、少しずつ作製し、完成させた。



<開会式の様子>

### 取組の成果（効果） 『キーワード 思いやりのある関わり合い』

- ・ 6年生が中心となり、優しく関わり合いながら、みんなで活動を楽しんでいた。
- ・ 上学年の児童は、下学年のお手本となるように、思いやりの気持ちをもって関わり合うことができた。
- ・ 下学年の児童は上学年の児童に協力し、楽しく活動していた。

☆学校生活アンケート（12月）の結果・・・7月より肯定的な評価が増えた。

「学校は楽しいですか」 94%→95%

「友達がいますか」 97%→99%

「友達に助けてもらったことがありますか」 91%→94%

### 今後の展開 『キーワード 継続』

- ・ オリエンテーリング後に、縦割り班で昼休憩に遊ぶ機会を設け(今年度は百人一首・縄跳び)、縦割りのつながりを継続していく。
- ・ 3月に卒業を迎える6年生と関わった経験や、楽しかった思い出を振り返らせ、心のこもったお別れができるようにしていく。

### 他校へのアドバイス 『キーワード 計画的に』

- ・ 年度初めから、6年生がリーダーとしての意識を高めるように常に声かけし、6年生が中心となって活動する取組を計画的に入れていくことで、最高学年としての自覚と責任が育っていくと考えられる。

指定校番号	28031	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	比治山小学校	校長	関 和典	生徒指導主事	佐藤 勝司
-----	--------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『比治山ビッグゲーム』**

**取組のねらい『たて割り班で活動』**

異学年集団によるグループ活動を通して、異学年交流の楽しさを体験し、協力して問題を解いたり目的地まで決められた時間内でゴールしたりする喜びを体験する。

**取組の具体的内容『低学年～高学年がチームの一員として参加する』**

- ① たて割り班で協力しながら、ポイント（15箇所）にある問題に答えたり、ゲームをしたりしながら歩く。問題への取組は得点として加算されていく。
- ② 決められた時間内にゴールする。
  - まんがグループ(1～24班) まんが図書館前スタート→さくら広場ゴール
  - さくらグループ(25～48班) さくら広場スタート→まんが図書館前ゴール



- 9月 9日(金) たて割り班名簿の完成（9月5日（月）～）
- 10月21日(金) 代表委員会へ提案
- 10月31日(月) 問題用紙締め切り(放課後までに児童会室へ提出)
- 11月 1日(火) 問題掲示用画用紙配付
- 11月 1日(火) 比治山公園へ下見に行く。(担当教職員)  
コース・危険箇所・トイレの確認
- 11月 4日(金) 6年生リーダー研修会（6年生担任）  
コースの説明や下級生に注意することなどを確認する。
- 11月 4日(金) 問題掲示用画用紙提出
- 11月 8日(火) 児童朝会(運動場)…たて割り班ごとに作戦会議 ※雨天時は体育館で行う。  
リーダーを中心に自己紹介や当日の注意点を話し合う。

○後日成績優秀チームの表彰を行う（計画委員会の手作り賞状）

## 取組の課題・創意工夫『やさしさいっぱいの問題や活動を考える』

(創意工夫)

○3択問題で、全員で参加できるもの。

- ・これまで各教科や総合の時間に学んできたことをもとに問題を作る。
- ・特定の学級にしか分からない問題は避ける。
- ・どの子も読めるように、問題文にはふり仮名を付ける。
- ・6年生は1～4年生専用の問題を作成する。(6年生で分担を決める。)

○ゲームコーナーも全員で参加できるもので、なおかつ低学年も活躍できるものを考える。

## 取組の成果(効果) 児童の声『来年もやりたいの声いっぱい』

○保護者や地域の方々にも協力をして頂く全校で取り組むイベントは、子どもたちにはとても楽しみにしている。代表委員会における各クラスからの反省にも、

「どの学年も協力してできた」

「6年生が優しくしてくれた」

「低学年だから解ける問題があってよかった」

等のプラスの意見が多く出た。(代表委員会では100%の学級)

また、5年生の中には、「来年は、自分がリーダーとなって、低学年をリードしていきたい」という意見もあり、意欲を感じられる。

## 今後の展開『存続か改善か』

1～4校時を使っての、名前の通り「比治山ビッグゲーム」である。授業時間数確保のため、内容や時間を縮小してはどうかという意見がある。また、多くの行事が秋頃にあり(運動会、音楽発表会、修学旅行等)、特に6年生の負担は非常に大きいという意見もある。

しかし、異学年交流の大切さや楽しさ、地域にある「比治山」の自然(秋)を感じる学びは、この活動以外には考えにくいという意見も多い。

子どもたちが自主的に取り組み、達成感を味わえる全校的な取組について、校務分掌を中心に代案を考えるが、なかなかいい案が出ない。

結局、計画～準備～実施まで時間を相当費やすという欠点はあるが、「比治山ビッグゲーム」は来年度も他行事との兼ね合いを考えながら継続したい。

## 他校へのアドバイスではないけれど『いつまでも心に残る行事』

多くの小学校では、たて割り班で、校舎内をウォークラリー形式で問題を解いたり、店のようなものを出してゲームをしたりする等の活動をするに取り組んでいる。上記のような活動は、本校のように1学年4クラス以上になると、校舎内あるいは運動場だけの活動が困難である。

しかし、比治山公園まで800人弱の児童・教職員が歩き活動を行う場合、保護者や地域の方に往復の交通指導や比治山公園内の見守りに協力してもらうなど、安全面での心配が伴う。大きな協力の下で実施していることは教職員も子どもたちも心に留めている。

「行事の精選」という言葉の元、この行事を縮小・削除することはたやすい。しかし、大きくなって母校の思い出の1つとしてしっかりと覚えてい続ける行事はそう多くはない。実際、教育実習に来る大学生が一番心に残る行事だったと話している。

地域の特性を生かした行事は必要ではないかと思う。

指定校番号	28032	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立宇品小学校	校長氏名	森川 康男	生徒指導主事氏名	原 幸子
-----	-----------	------	-------	----------	------

**取組事例名** 『宇品っ子集会』

**取組のねらい**

- ・ 上学年と下学年がペアでグループになり、交流を深め、よりよい人間関係を形成する。
- ・ 集団の一員として自分の役割を果たし、協力してよりよい学校づくりに取り組む自主的・実践的な態度を育成する。

**取組の具体的内容** 『自主・実践』

- 日時 平成 28 年 11 月 16 日 (水) 宇品タイムと第 5・6 校時
- 場所 各教室及び体育館
- 内容
  - (1) 学年で統一したテーマのものを準備する。
  - (2) 2 学年が同じ内容にならないように、学年間で相談しておく。
  - (3) 教育活動に合った創造的なものを考える。
  - (4) 事前準備で、学習内容に合うものは、国語、生活、総合、図画工作科などの、シラバスにある時数でカウントをする。

学年	テーマ	具体例(内容)【当日までの時数例】
1・2 年生	「おもちゃであそぼう」	やまのぼりかめさん、ぶんぶんゴマ、ほか手持ちおもちゃを作って紹介する。【時数：生活科、図画工作科、国語科、学級活動など】
3・4 年生	「チャレンジランキングゲーム」	空き缶積み、傘バランス、漢字パズル、ほか、タイムを計って競うゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動、国語科など】
5・6 年生	「スポーツゲーム」	ストラックアウト、ボーリングなど、体を使って取り組めるゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動、図画工作科など】
わかば学級	学級児童の実態に応じて	担任で相談する

- (5) 混雑しないように、1 グループ(6・7 人)が一斉に楽しめて、5 分以内で次の学級へ行けるように内容を考慮する。
- (6) 教室ごとの準備・片付け・運営は、学級児童ですばやくできるように役割分担を細かく考えておく。
- (7) 開始の放送までに学級でお店の準備をしておく。
- (8) ごみを出さないことを前提とし、リサイクルできるものを利用するなど、材料を集める。学校で処分できるものは各教室ダンボール 2 個までとし、持ってきた材料や作成したものは、各自持ち帰る。
- (9) 学級でスタンプを用意しておく、スタンプ係も決めておく。
- 4 役割分担
  - (1) 全体の司会進行は、児童運営委員会が行う。
  - (2) 各学級のお店は、どの学年の人も楽しめる内容で、学年で話し合った上、学年の実態に応じたものを決定する。担任がお店の内容を児童運営委員会へ知らせる。(10 月 14 日(金)まで)
  - (3) 学級担任は学級内と担当場所(付近の廊下階段)の安全指導を行う。
- 5 進め方
  - (1) 開会式を自分の教室で行う。
  - (2) 開会式終了後、スタート放送で移動を開始する。
  - (3) 各教室でスタンプをもらって、地図を見ながら次の教室に進む。
  - (4) 放送を聞いて、前半・後半でお店の当番の人と回る人を替える。
  - (5) 放送は児童運営委員会児童が行う。
- 6 ルール
  - (1) グループで行動する。
  - (2) 他のグループと合体したり混じったりしない。
  - (3) 校舎内では右側を歩き、走らない。体育館周りは一方通行にする。
  - (4) 移動は、順路を守り逆走しない。
  - (5) 放送をよく聞いて行動する。
  - (6) 前半 45 分後半 45 分とし、前半後半の間 5 分で交代をする。(放送の合図で開始、終了)
  - (7) 終了 10 分前に学級の受付を終了する。
  - (8) 準備・片付けは児童全員で協力して行う。

(9) 出入り口は全学年で揃えて、混乱を少なくする。

## 7 「字品っ子集会」当日の教員の役割

- (1) 教室移動のタイミング、前後半の移動の呼びかけをする。
- (2) 各学級担任は、定刻に終了できるように、10分前には受付を終了することを指導する。
- (3) 教室内や付近廊下の児童管理・安全指導をする。
- (4) 放送・進行は、児童運営委員会担当職員が指導する。
- (5) 担任外教員は、体育館周りや北校舎西出入り口周りを巡視する。
- (6) 各学級担任は、5分以内で次の学級へ行けるように指導する。(渋滞すると全て回れないグループ出る。)



## 取組の課題・創意工夫 『ピア・サポート的交流活動』

### 【仲よく交流できるように】

#### 事前指導

##### (1) グループ作り

○遠足のペアを活用してグループを作る。(遠足・平和の折鶴作りなどペア行動はしている。)

- ① ペア学年で仲よく回ることができるようにメンバーを確認しておく。

※わかば学級は個別の支援に応じて交流学級に入る。

② 各学級の児童を、前半に回るグループと後半に回るグループの2つに分けておく。(上学年)

③ 2つか3つのペアで一緒に回るメンバー(6・7人)を決め、メンバー表を作成する。

④ 4・5・6年生の一緒に回るグループ毎に、事前打ち合わせ会までに班長と副班長を決めておく。

##### (2) 事前打ち合わせ会

○ペア学年毎に担任間で相談して10 / 17(月)～11 / 4(金)の間で、期日を決めて行う。

① グループの自己紹介をする。

② スタンプカードにメンバー全員の名前を書く。

③ 行くコースを確認する。(混雑を考慮し、同じ学級数字の教室を回るようにする。児童運営委員が順路を指定する。「例 6-1→1-1→3-1→4-1→2-1→5-1の順番で行く」など)

#### 事後指導

○集会後もグループ同士で仲よく交流できるように指導する。

## 取組の成果(効果)『よりよいつながり』

・他の児童とコミュニケーションを図ることが苦手な児童が、興味・関心のある活動を実践することによって、学級の中での存在感や連帯感を持つことができた。

・上級生が下級生を思いやる気持ちを持つことができた。約1300名の児童が整然と行動している。

上学年と下学年が交流を深め、仲良く回ることができたか。98%以上

【アンケートより】

自分の役割を果たし、協力して取り組むことができたか。98%以上

## 今後の展開『人間関係づくり』

・「子どもの人間関係づくり推進プログラム」について教職員が連携し、計画的な取組の推進を図る。

・協同学習の取り入れ方や方法を学年で研修し、実践内容を深める。

・行事取組の場面においてグループコミュニケーション活動を実施する。

## 他校へのアドバイス 『全校的指針』

・ピア・サポートを活性化するために、協力の価値を一人一人が認めて実践するといった全校的指針を持ち、相互性・信頼性に基づく人間関係を築くことが大切である。

指定校番号	28046	学級活動		児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	-----------------------	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立友和小学校	校長	熊谷 裕之	生徒指導主事	田邊 由貴子
-----	------------	----	-------	--------	--------

**取組事例名 『縦割り班そうじ』**

**取組のねらい『キーワード 縦のつながり』**

縦のつながりを作っていくために、本校は6年生から1年生までの縦割り班でそうじを行っている。異年齢で力を合わせることに力を入れている。6年生のリーダー性を育てることもねらいとしている。

**取組の具体的内容『キーワード ㊟・㊞・㊟でより良いそうじに』**

縦割り班そうじをより充実させるために、そうじをする時のキーワードを美化・掲示委員会が考えた。そのキーワードは「㊟：小声で注意，㊞：OKサインでほめよう，㊟：リーダーの言うことが一番」である。美化・掲示委員会が委員会朝会で呼びかけてくれ、ポスターなども作成し、子どもたちが自主的に取り組めるようにしていった。先生やリーダーも小声で助言したり，OKサインでほめるようにしており，しだいに定着してきている。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 花丸カードで承認』**

6年生のリーダー性を育てていくために、学級担任をはじめ全職員がいろいろな場面で児童の指導にあたっている。一つ一つ誉めて育てることを大切にしている。

そうじを，特に一生懸命にがんばった児童に対して，そうじの終わりに担当場所の先生が花丸カードをわたして誉めるようにしている。花丸カードには，具体的にどんなことをがんばったのか書いてわたすようにしている。この花丸カードは教室に帰って担任の先生に見せて誉めてもらう材料にしている。その後は連絡帳にはり，保護者にもわかるようにしている。花丸カードを集めてうれしそうにしている児童もたくさんいる。

縦割り班そうじでは，学級の児童がどのようにそうじをしているか見えにくいので，花丸カードにより，少しでもそうじの時の様子がわかるようにしている。

**取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感が育つ』**

縦割り班そうじでは，リーダーである6年生の役割が大きい。6年生が班をまとめていくことが，大変なことは事実であるが，他者から認められているという自己有用感を育てることに役立っている。6年生の1学期末の自己有用感を感じている児童の割合は77%，2学期末の割合は78%である。5年生末の数値が64%だったので，自己有用感を感じている児童の割合が増えている。

また，秋の学習発表会後に他学年の児童に学習発表会の出し物を見た感想などのメッセージを送った際に，縦割り班が同じ児童に対してメッセージを送っている児童がたくさんいた。縦のつながりができていることを再認識した。

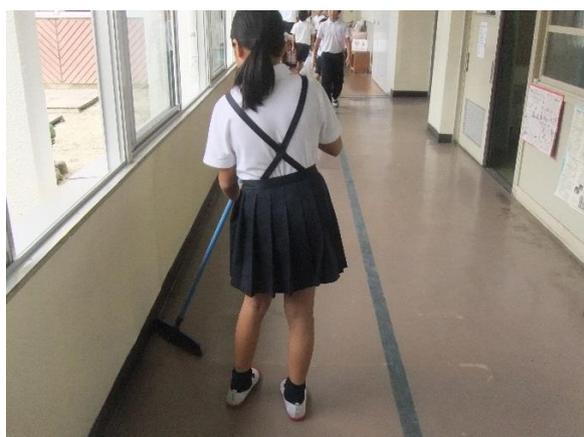
**今後の展開『キーワード そうじ始まりのあいさつ』**

今は，昼休憩の後，ばらばらにそうじ場所に来て，そうじがいつのまにか始まっている状態である。来年度にむけて，2月28日から，そうじの始まりのあいさつを取り入れ，全員そろってそうじが始まっているか確認しやすくしていく予定である。現在行っているそうじの終わりの反省会もより充実させていけるように考えている。

**他校へのアドバイス『キーワード 縦のつながりから学校のまとまりに』**

先生が，児童の良いところをふせんに書き，職員室前に掲示している承認ボード（つながる友和っ子）にも，縦割り班そうじで縦のつながりができていることがたくさん書かれている。縦のつながりができると，運動会や学習発表会にも良い効果を生み出し，学校全体がまとまることにつながっている。

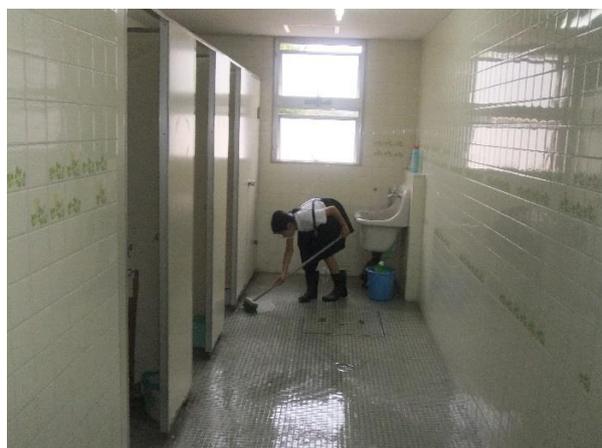
## 縦割り班でのそうじの様子



ほうきではいています。



直角ぶきでふいています。



トイレそうじをしています。



そうじの終わりの反省会です。



花丸カードです。



先生が花丸カードをわたしています。

指定校番号	28047	学級活動		児童会・生徒会活動	○	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	---	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長	松江都志美	生徒指導主事	永山英治
-----	-------------	----	-------	--------	------

<b>取組事例名</b>	『たて班掃除』
<b>取組のねらい</b>	『高学年の自己有用感を高める』
<p>全学年の児童で構成した異年齢集団による掃除を通して、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、集団への所属感を深めながら好ましい人間関係を育て自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。</p> <p>とくに、6年生が5年生以下の児童らを、「たて班掃除」の活動を通して指導し評価することで、6年生の自己有用感を高める。</p>	
<b>取組の具体的内容</b>	『日常的な異年齢集団活動の設定』
<p>既存の掃除場所と掃除内容と指導担当者の割り当てについて見直しを行った。その後、組会（同じ組の担任6名ずつで構成）を通して、特に配慮の必要な児童を担当する教職員をそれらの児童との相性などに考慮し優先して決定するなどして全児童を80班にわけた。</p> <p>運営委員会（児童会）により、たて班掃除のオリエンテーションの計画と運営を行った。</p> <p>掃除の時間は、開始時に点呼し、10分間掃除を行った後、班毎に集合し、5分間で掃除の状況について自己評価を行わせた。各班の班長（6年生児童）が班員を指導し、毎日の掃除に対する班員の取組状況について評価する。毎週末に、班長はMVPを1名選定する。</p> <p>美化委員会が、各班の2ヶ月間（掃除場所は2ヶ月間固定する。）の掃除の取組状況の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、児童朝会で表彰した。</p>	
<b>取組の課題・創意工夫</b>	『意図的な肯定的評価（適切に計画的に褒める）』
<p>各班の構成員の自尊感情を高めるために、教職員が肯定的な評価を意図的計画的に行う。まず、評価する児童を決め、よく観察し、具体的な好ましい言動に対して適切なタイミングで周囲に分かるように褒める。</p> <p>6年生の自己有用感を高めるために、5年生以下の児童が、6年生に憧れを抱いたり、尊敬したりすることができるように6年生や他の班員に対する肯定的な言葉のかけ方を工夫した。</p>	
<b>取組の成果（効果）</b>	『異年齢集団活動（たて班掃除）で6年生の自己有用感が高まる。』
<p>学校評価アンケート（平成28年12月実施）の結果</p> <p>質問「みんなのためになることをすすんで行う」についての6学年児童の肯定的な評価が89%</p> <p>同じ組の担任で構成した組会を組織し、協議する体制をとることで、各班の構成の最適化に努めた。また、今後の縦割り班によるレクリエーション等の多様な活動を展開する素地ができた。</p> <p>各教職員が担当する学年以外の児童を指導する機会を持つことで、他学年の児童の様子を知ることができ、児童理解が深まった。また、教職員が協力して全児童を指導しようとする機運が高まった。</p> <p>特に配慮の必要な児童を担当する教職員を児童と教職員との信頼関係の深さなどを考慮し優先して決定することで、問題行動をある程度予防する体制を整えることができた。</p> <p>運営委員会（児童会）のメンバーに、たて班掃除の意義と目標を理解させる時間を十分に確保することで、児童が自主的な指導・判断に基づく集団活動が展開できるように適切な支援をすることができたと考える。その結果、たて班掃除について、全児童に対するオリエンテーションの計画と運営を運営委員会が主導し、運営委員会のメンバーが運営に対して成就感・充実感・満足感を持つことができたと考えられる。</p>	

掃除の時間には、まず10分間掃除を行った後、班毎に集合し、残り5分間で各班の掃除の取組について自己評価した。各班の班長（6年生児童）が班員を指導したり、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価したり、週末に、班長がMVPを1名選定したりすることで、班長の自己有用感を高める機会を設定することができた。さらに、美化委員会が、各班の2ヶ月間の掃除の取組状況に関する評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、児童朝会で表彰することで、美化委員会のメンバーの自己有用感を高めたり、児童らの掃除に対する意欲を高めたり、所属するたて班における豊かな人間関係の構築につながったりしたと考える。

### 【運営委員会によるオリエンテーション】



### 【掃除】



### 【評価】



### 【表彰】



## 今後の展開『異年齢集団活動の多様化』

たて班（異年齢集団）活動を掃除だけでなく、レクリエーション活動等、多様に展開することで、さらに異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあう場面を多く設定したい。そして、より好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養いたい。

6年生が5年生以下の児童をレクリエーション活動等の多様な「たて班」活動を通して評価し、指導することで、6年生の自己有用感を日常的に高める機会を設定する。

## 他校へのアドバイス『新たな活動を立ち上げる際はデメリットも丁寧に語る』

たて班掃除（異年齢集団による掃除活動）を平成27年度に導入した。

たて班掃除を計画し実施するまでに1学期間を費やした。学級掃除からたて班掃除へと既存の枠組が変化することに対して教職員に不安を払拭しながら立案するのに時間を要したためである。

新規の活動を立ち上げるためには、デメリットについても丁寧に説明した上で、最終的にはメリットがデメリットを上回ることをしっかり提示することと、丁寧な説明が大切だと改めて実感した。

指定校番号	28050	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中央小学校	校長	埜田武浩	生徒指導主事	南角明
-----	-------------	----	------	--------	-----

**取組事例名** 『たてわり活動』

**取組のねらい** 『キーワード：高学年リーダーとしての主体性の育成』

たてわり活動を通して、5・6年生のリーダーが班をまとめるためにはどのようにするとよいのか考えたり、実践したりしながら主体性を育成し、あこがれのリーダーとして学校全体に主体的な姿を示すことができる。

**取組の具体的内容** 『キーワード：活動の場や機会の確保』

たてわり活動を3つに分類し実施。

①学校愛・奉仕の心の育成，掃除の仕方の定着のための「たてわり掃除」  
※毎日の掃除時間に実施

②居場所づくり・規範意識向上のための「たてわり遊び」  
※月に一度，学校行事として実施。たてわり班ごとに遊びを計画し，遊ぶ。

③地域社会への貢献・中学校との行動連携のための「クリーンキャンペーン」  
※年に一度，中学校生徒会が企画・運営する地域のボランティア（清掃）活動にたてわり班で参加。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：うまくいかないリーダーへの指導・助言』

**【課題】**  
一人の教員が3～4班・40人程度の児童を担当するため，効果的なタイミングで適切な指導や助言を行うことに難しさがある。行き詰まり感を感じて自ら相談に来る児童もいるが，適宜・適切な助言を行うことができる環境づくりが必要であると考える。

**【創意工夫】**  
リーダーに対する事前の指導を充実させる。新しい取組を始める前には必ず取組の実施方法や各学年に応じた目的，リーダーに求められること等について5・6年生を対象に話をしたり，計画を立てさせたりする時間を確保し，リーダー自身が見通しをもち，自信をもった状態で取組を実施できる状態を作る。

**取組の成果（効果）** 『キーワード：リーダーの主体性の育成・下学年のリーダーに対するあこがれ』

全ての活動において，活動中の問題発生に対し下学年児童が担当教員ではなく，リーダーに相談する姿が見られるようになった。

①たてわり掃除  
リーダーが担当教員の指示や確認をしなくても，掃除の分担を計画したり，班のメンバーの実態に合わせて分担を変更したりするようになった。

②たてわり遊び  
「活動は楽しかったですか。」という振り返りの質問項目に対し，肯定的にとらえる児童の割合が98%であった。ほとんど全児童がたてわり遊びを肯定的に捉え，楽しむことができている。また，高学年リーダーに対して「下学年に対して分かりやすく，説明や指示をすることができましたか。」という振り返りの質問項目に対して96%と下学年を意識した声かけをしていることが分かる。

③クリーンキャンペーン  
中学校生徒会が児童の前で堂々と活動の企画・運営をする姿を見ることができ，中学生へのあこがれをもったり，中学校生活にも見通しをもったりすることができた。

### たてわり活動事前指導



たてわり活動の目的等真剣に話を聞いて活動をイメージしています。



そうじマニュアルをもとに掃除の分担を考えています。

### クリーンキャンペーン



中学生の挨拶です。中学生の堂々とした姿にあこがれをもつことができました。

### たてわり遊び



班で仲良くカードゲームを楽しんでいます。

### たてわり掃除



高学年が掃除の仕方の手本となっています。



リーダーを中心に振りまき掃除を返してリを掃ります。

## 今後の展開

### 『キーワード：さらなるリーダー性の育成のための児童会執行部によるたてわり活動の運営』

今年度活動中は全て高学年リーダーが班をまとめていたが、事前の計画や事前のリーダーへの指示・説明等は教員が行っていた。さらなるリーダー性の育成を目的に事前～事後までの企画・運営を児童会執行部に任せ、その姿を執行部以外の高学年リーダーに示すことで、高学年リーダー全体がよりリーダー性をアップすることができるような仕掛けをする必要がある。また、成功事例だけでなく、失敗やうまくいかなかった事例を交流し、解決策を自ら考えるというようなリーダー会を仕組むことも大きな次のステップにつながるものと考えられる。

### 他校へのアドバイス『キーワード：事前指導の充実』

今年度初めての取組であったが、初めての活動の前には必ず5・6年生全員を対象に事前指導を行った。その際、「リーダーとはどんな人か」「リーダーに求められるもの」「3つの間（仲間・空間・時間）を大切にすること」「班をまとめる際の留意点」「活動の内容」「各学年のねらい」「実際に計画を立てる」等について話をしたり、考えさせたりすることでリーダー自身がしっかりと見通しと自信をもつことができるようにした。そうすることで、リーダーの指示や説明で活動を進めることができた。

うまく活動できることだけでなく、全ての活動にはそれぞれの学年に個別の目的があり、ただ楽しんだり、仲良くなったりするだけでなく、目的を達成し、全員が成長するための活動であるという価値付けをしっかりと行うことが大切だと感じた。

指定校番号	28051	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長	奥 金実	生徒指導主事	林 寛
-----	-----------	----	------	--------	-----

**取組事例名** 『縦割り活動～なかよし給食・なかよし遊び』

**取組のねらい** 『キーワード・・・集団』

- ・異年齢の集団で一緒に食事をしたり遊んだりすることを通して、他学年の児童との交流を深める。
- ・自発的、自治的に学校生活に関する諸問題を解決していくことにより、全校・学年・学級集団への所属感や連帯感を深めさせる。
- ・指導者は、担当学級や担当教科以外の児童との活動を通し、より多くの児童理解につなげる。

**取組の具体的内容** 『キーワード・・・連帯』

- 本校ではいろいろな場面で縦割り班を取り入れた活動を行っている。主なものは以下の通りである。
- ・縦割りそうじ・・・メンバーへの清掃場所の指示から反省会までの活動をリーダーが率いて行う。
  - ・1年生歓迎遠足・・・全校児童が班ごとに並んで歩く。現地では児童会執行部が全体レクを実施する。
  - ・縦割り挨拶運動・・・校門と児童玄関の計4ヶ所に1班ずつ交替で立ち、元気な声を響かせている。
  - ・6年生を送る会・・・縦割り班でお世話になったリーダーにお礼の気持ちをこめた感謝状を贈る。
- これらの活動のうち、今回は「なかよし給食・なかよし遊び」という取組について紹介する。
- ・なかよし遊び・・・年2回、お弁当給食を持ち、グループごとに昼食をとる。その後、校庭・体育館・教室に別れ、班ごとに企画したなかよし遊びを実施する。詳細は以下の通り。

実施計画

- ① 会食場所や遊びの内容を考える。
  - ・13：35から、みんなで「遊びの内容」を相談して決定する。
  - ・原案は、6年生のリーダーを中心に5・6年生で考えておく。
- ② 会食場所と遊び場所の検討

安全面を考慮し、屋外で遊ぶ班を前期後期で交替する。

  - ・赤グループ、黄グループ→遊びは屋内 → 体育館か各教室で
  - ・青グループ、緑グループ→遊びは屋外 → 校庭で（雨天の場合は教室とする）



③ 遊びの内容

1年生から6年生までが一緒に遊べるもの（だれもが参加できるもの）にする。  
他のグループのことも考えて、遊びを決定する。  
安全面を考慮して、おにごっこ（ケイドロ）は行わない。  
決定した会食場所は調整するので、掃除担当者より生徒指導部に知らせる。

④ あとしまつに関する注意

残菜とわりばし、弁当容器は決められた袋に入れ、5年生が給食室に持っていく。

⑤ 指導担当者も計画から共に参加し、適切なタイミングで助言を行う。

### 取組の課題・創意工夫『キーワード・・・調整』

縦割り活動は、赤・青・黄・緑の4色に、それぞれ1～15・16の班を作って活動する。班の人数は、10～15人とする。それぞれの班には2・3名の6年生がリーダーとして配置されている。しかし、責任感が希薄なリーダーや積極的な声かけが苦手なリーダーのもとでは、元気がありあまっている低学年の児童を上手にリードしきれていないケースも見られた。そこで、グループ確定前の連絡会において指導者がおたがいの担当する児童の情報を共有し、それぞれのグループで円滑な活動が実施されるようメンバーの調整を行っている。また、班編成は前期（4～10月）と後期（11～3月）の2期制として、いろいろな児童との触れ合いの機会が増やすとともに、活動が停滞しがちな班のメンバー構成を刷新して、グループの活性化を図れるようにした。

### 取組の成果（効果）『キーワード・・・協働』

- ・楽しい会にするために、いろいろな遊びを企画したり、賞状や宝探しの宝物を手作りしたりと、準備段階から6年生のリーダーは大活躍だった。
- ・計画や準備には6年生だけでなく5年生も積極的に参加し、協働の姿勢で下級生のために活動することができた。これらの活動の中で、高学年としての自覚も芽生えた。
- ・さまざまな個性の児童が集まる異年齢集団での活動を通して、自分本位の行動をおさえて周囲の人々に対する配慮ができるようになるとともに、集団への帰属意識を高めることができた。
- ・相手の気持ちを理解しようとする態度が育ちつつある。やさしい態度で人に接する場面が増えた。
- ・「自分のことをわかってくれる友だちがいますか？」という道徳アンケートに、77%の児童が「そう思う。」16%の児童が「だいたいそう思う。」と回答していることから、いろいろな集団の中に安心できる居場所を見つけることができている児童が多いのではないかとと思われる。

### 今後の展開『キーワード・・・継承』

児童会執行部の引継ぎとともに、縦割り班におけるリーダーを交代する。縦割りそうじも5年生が実質的なリーダーとなり、6年生が果してきた役割を担う。これまでの6年生の働きを肯定的に評価し、成果を明らかにすることで、4・5年生の心に「次は自分達がんばる番だ。」という自覚をもたせ、次期リーダーとしての責任感を高める。

### 他校へのアドバイス『キーワード・・・支援』

指導者には、5・6年生の児童がリーダーとして集団の中で輝けるように、それぞれがもつ個性を見抜き、適切なタイミングで助言を行うなどの舵取りが求められると考えるが、楽しい会を共に作り上げる喜びを体感できる取組になっていると思う。

指定校番号	28061	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長	本藤 展康	生徒指導主事	利田 政美
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『児童主体の縦割り活動による自己肯定感の醸成』**

**取組のねらい『キーワード：自己肯定感の醸成』**

・本校の児童には、友人のちょっとした言動から暴力行為を生起させたり、人間関係を崩したりする傾向が見られる。また、集団になじめず、集団内で自己の能力を十分に発揮できていない児童も少なくない。その主要因として、自己に対する評価を肯定的に捉え切れていないといった自己肯定感の低さが挙げられる。そこで児童一人一人の自己肯定感を意図的、計画的に育てていくこととした。

**取組の具体的内容『キーワード：児童主体の縦割り活動による自己肯定感の醸成』**

**【ねらい】**

- ・上学年児童は下学年児童をリード、サポートし、上学年としての意識や自己肯定感を醸成する。  
(主体性、有用感、達成感等の醸成による自己評価の向上)
- ・下学年児童は上学年児童からのサポートを受け、上学年をモデルとして良い言動を身につける。  
(親和性、有用感、受容感等の醸成による自己評価の向上)

**【内容】**

- ・縦割り活動
  - ・1年生を迎える会、体力テスト、縦割り掃除、縦割り遊び等。  
縦割り班16班がリーダー(6年生)の指示のもと、協力して活動を行う。  
開始時の挨拶や仕事内容の確認、終了後のふり返りを徹底する。  
班の頑張りを掲示するとともに、表彰する。
- ・異学年交流
  - ・遠足、合同授業、児童相互の授業参観、絵本の読み聞かせ、全員遊び等。  
上学年が下学年をリード、サポートしながら、複数学年が一緒に活動をする。  
相互評価を行い、その評価内容を見える化する。



**児童の感想より**

○私は縦割り活動のリーダーとなって、グループをまとめることができるか心配だった。1年生の子に、「ほうきの先が悪くならないように、優しくスーとはいってね。」と言うと、1年生の子が、「うん、わかった。ありがとう。」と言ってくれた。その子はとても上手に掃除をすることができるようになった。私は、他の学年と協力をして、毎日学校がきれいになることで、幸せを感じている。(6年児童)

○僕は同じ班の2年生の子にどう接してよいのかわからなかった。指示を出しても言うことを聞いてくれなかったので、いつもけんかになっていた。ある時、優しく声をかけて、側で掃除をして見せ



ると、2年生の子から、「ありがとう。僕、リーダーのことが好きだよ。」という言葉が返ってきた。相手の気持ちを考えて接すれば良かったんだと思った。(6年児童)

○僕は、6年生が低学年の子に優しく教えてあげたり、みんなが嫌がるような仕事を進んでしたりしている姿を見て、「6年生はすてきな。かっこいいな。」と思う。僕も同じ班の6年生のような人になりたい。(5年児童)

○私は大縄跳びが苦手だ。入るのがとてもこわい。でも、いつも6年生の人が側に来て、手をつないでくれる。他の学年の人が声をかけてくれる。頑張ってみようかなと元気が出る。(1年児童)



### 取組の課題・創意工夫『キーワード：異学年によるかかわり・評価の見える化』

<創意工夫>

- ・児童会委員を中心とした上学年が、各班長に指示を出し主体的な活動を促すことにより、上学年児童の有用感と達成感の醸成が図れるようにした。
- ・活動後の各班でのふり返りにおいて肯定的な評価を意識させることにより、上学年児童に受容的態度、相手意識等の他者に対する肯定的な意識の醸成を図った。また、下学年児童に上学年児童からしっかりと受容されているといった実感を持たせるよう努めた。
- ・他学年の児童からの多角的な視点による評価を行い、評価内容を掲示する等、評価の見える化を図った。

<課題>

- ・担当教職員による指導と支援が、リーダーとなる児童の特性を十分に捉えきれていない場面があった。
- ・上学年児童によるサポートが、下学年児童に十分に理解されない場面があった。
- ・上学年児童に、望ましい声かけや関わり方等、コミュニケーションの方法を身につけさせる必要がある。

### 取組の成果（効果）『キーワード：児童の主体性と肯定的な自己意識の向上』

- ・活動を重ねるごとに、6年生に、自分達が活動を運営していくといった自覚と責任感が高まってきた。
- ・縦割り班の各リーダーが、低学年児童の理解度を意識した声かけや指示が出せるようになった。
- ・上学年児童は、下学年児童のよきモデルとなるよう意識して行動するようになった。
- ・下学年児童は、上学年児童に対する親和性を強めるとともに、受け止められている、大切に思われているといった実感を育むことができた。

自己肯定感をもつ児童の割合

6月	12月
87%	93%

共感的人間関係をもつ児童の割合

6月	12月
90%	92%

### 今後の展開『キーワード：異学年活動の充実』

- ・これまでの既存の縦割り活動の改善、充実を図るとともに、児童会集会や学校行事等における縦割り活動の場面を増やし、より計画的、系統的な活動とする。
- ・校内における異学年活動や保育所、幼稚園、中学校等との交流活動にも取り組む。

### 他校へのアドバイス『キーワード：異学年活動の有効性』

- ・各校の児童や生徒の実態に応じた縦割り活動、異学年活動を日常の教育活動に取り入れることは、人間関係及び集団内における自己イメージの固定化した同学年では育むことが難しい主体性や有用感等の肯定的な自己意識を醸成することに有効である。

指定校番号	28066	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中小学校	校長	池田 哲哉	生徒指導主事	杉 知美
-----	-----------	----	-------	--------	------

**取組事例名** 『和を大切に，輪を広げよう～思いやりでつながり深まる学校へ～  
なかよし班活動』

**取組のねらい**『キーワード 人間関係づくり』

- 異年齢集団による交流を促し，年齢が異なる児童同士の間人間関係を築くことができるようにする。
- 異年齢集団活動を通して，高学年のリーダーシップや思いやり，問題解決力を高めるとともに，下級生からの信頼を得ることで自信をもたせる。
- 異年齢集団活動を通して，下級生の上級生に迫ろうとする努力や仲間をサポートする力を高めるとともに，上級生に対するあこがれをもたせる。

**取組の具体的内容**『キーワード 共感的人間関係の育成』

1年生から6年生でなかよし班（縦割り班）を作り，年間を通して一緒に遊んだり掃除を行ったりする。（各学年2人～3人ずつ，45班）

1. なかよし班朝会・・・班のプラカードを作ったり，なかよし班遊びの内容を考えたりする。



班のみんなで相談して，プラカードを作りました。

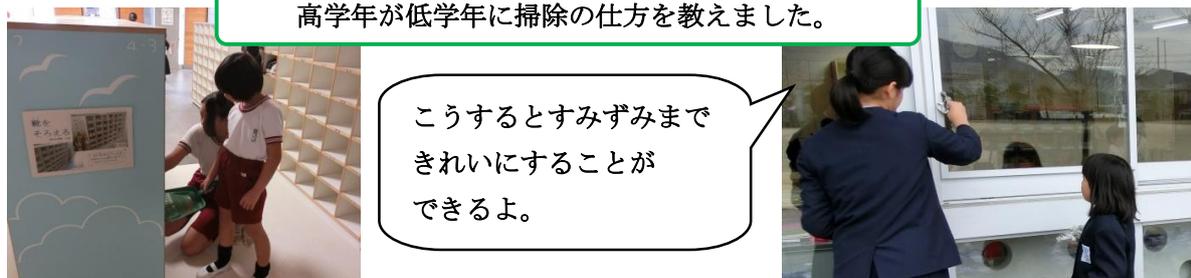
2. なかよし班遊び・・・休憩時間になかよし班で一緒に遊ぶ。

なかよし班朝会で決めた遊びを，みんなで楽しみました。



3. なかよし班掃除・・・班長を中心に役割分担を行い，掃除をする。

高学年が低学年に掃除の仕方を教えました。



こうするとすみずみまで  
きれいにすることが  
できるよ。

## 取組の課題・創意工夫『キーワード リーダー性の育成』

### 【取組の創意工夫】

- なかよし班（縦割り班）のメンバーを年間通して固定し，児童同士のかかわりが密なものになるようにする。
- リーダーである6年生の中に，上級生としての役割に不慣れな児童もいるが，教師のかかわりは必要最低限にし，リーダー性の育成を図る。

## 取組の成果（効果）『キーワード 自己存在感・自己有用感の高まり』

### 【児童の感想より】

- ・いろいろな学年の人と仲良くなれてうれしい。（1年生）
- ・他の学年の人と一緒に遊んだり掃除をしたりして，仲を深めることができた。（3年生）
- ・最初は話しかけても会話が続かなかったけれど，何度も一緒に活動していくうちに，いろいろな話ができるようになってきた。（5年生）
- ・今までは同級生とのかかわりが主だったけれど，他学年の友だちもできて，普段から交流できるようになった。（6年生）
- ・いつもは人に任せることが多かったけれど，リーダーを経験したことが自信になり，いろいろなことに自分から挑戦してみるようになった。（6年生）

### 【学校評価より】児童アンケートの自己肯定感に関する項目の肯定的評価

項目	5月	10月	差
自分にはよいところがありますか。	78.0%	84.9%	+6.9
自分の良さは周りの人から認められていると思いますか。	71.5%	76.9%	+5.4



- 年間を通してなかよし班のメンバーを固定したことで仲間意識が生まれ，校内で出会ったときに声を掛け合ったり，自発的に一緒に遊んだりするようになり，児童同士の密なかかわりがもてるようになった。
- リーダーとしての役割に不慣れな6年生児童がいたが，会の進行や遊び決めなど児童が中心に行えるように教師のかかわりを最小限にした。最初はうまくいかないこともあったが，何回か活動を経験するうちに，不慣れだった児童も普段見せない上級生としての姿を見せるようになり，児童の自発的な活動へとつなげることができた。

### 【学校評価より】児童アンケートの自己有用感に関する項目の肯定的評価

項目	5月	10月	差
みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがありますか。	85.9%	90.3%	+4.4



- なかよし班での掃除など，集団の一員としてそれぞれが役割を果たしていくことで，児童の自己有用感を高めることができた。

## 今後の展開『キーワード さらなる充実を』

【今年度】6年生ありがとうの会・・・2月に行う「6年生ありがとうの会」では，1年間活動を共にしたなかよし班でゲームを行う。それまでグループを引っ張りまとめてくれた6年生に対して，感謝の気持ちを伝えられるような機会にしていく。

【来年度】なかよし班活動の充実・・・継続的な取組となるように計画的に活動を進めたり，児童の自己肯定感や自己有用感を高めるために効果的な活動を取り入れたりして，より充実した取組となるように工夫していく。

## 他校へのアドバイス『キーワード つながり』

児童の自己肯定感や自己有用感を高めていくために，異学年交流は有効な手段であった。また，年間を通して異学年交流の取組を進めたことも，児童同士のつながりを深めていくためには，大変有効であった。

指定校番号	28078	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立大州中学校	校長	大下恵子	生徒指導主事	山田久司
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『体育祭や文化祭・生徒会活動を通じて』

**取組のねらい** 『キーワード 上級生から下級生へ』

縦割りブロックによる、上級生から下級生への指導を通じて、上級生のリーダー性や自尊感情の育成・向上を図る。

**取組の具体的内容** 『キーワード 生徒自身の自主性を育成』

- 体育祭では、応援団を通じて上級生が応援を行う内容や方法を考え計画を立てた。そして、下級生への指導・アドバイスを行いまとめた。また、応援歌の歌唱指導や応援時でのかけ声指導も団長を中心に上級生全員で指導した。
- 文化祭では、縦割りのクラスが体育館に集まり、それぞれのクラスの課題曲や自由曲を相互に鑑賞し、上級生のパートリーダーを中心に下級生に指導やアドバイスを行い、縦割り賞のダイヤモンド賞を目指した。
- MSV（ボランティア活動）は、生徒会を中心に声かけを行った。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 上級生の意識向上』

- 体育祭の応援団では、各色別のホワイトボードを用意し、練習での出来映えや次回への意気込みを全校生徒が見える場所へ掲示することで、上級生の意識向上につながった。
- 応援団長やパートリーダーに具体的な動きの確認（日程確認や動きの内容、音楽科による専門的アドバイス等）を行うことで、生徒自ら取組内容を理解することができ、仲間とともに下級生への指導・アドバイスができるようになった。



- MSVでの取組を生徒会だよりや生徒朝会、代議員会で報告・呼びかけを行った。

**取組の成果（効果）** 『キーワード 自己肯定感の高まり』

- 体育祭の応援団や文化祭の合唱で、下級生への指導・アドバイスを行うことで、自分たちでできたという自信につながり、自己肯定感や自尊感情が高まっていった。（学校評価アンケート結果より自己肯定感 1年生 1回目 59%・2回目 62% 2年生 1回目 67%・2回目 72% 3年生 1回目 72%・2回目 79% 自尊感情 1年生 1回目 56%・2回目 64% 2年生 1回目 64%・2回目 69% 3年生 1回目 71%・2回目 82%）

- MSV を行うことで、学校がきれいになっていく行程を実際に見ることができる。また、ボランティア手帳にチェックを受けることで、評価してもらえている場面ができた。



### 今後の展開『キーワード いつも通り』

- 行事のみの動きではなく、常日頃からどんな場面でも上級生から下級生による指導・アドバイスができるような場面を生徒会中心に考え、設定していく。例えば、月に1度の朝会で無言移動・無言集合の評価を見える位置に掲示するとともに、アドバイスも掲示する。

### 他校へのアドバイス『キーワード 年間を通して』

- 年間の学校行事を通して、上級生から下級生による指導・アドバイスができる場面を設定することで、上級生の自己肯定感が高まり、自信につながっていくと考える。

指定校番号	28098	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	左田 和幸	生徒指導主事	岡 真吾
-----	------------	----	-------	--------	------

**取組事例名** 『生徒の主体的な活動を通して生徒の自己指導能力を育成する』

**取組のねらい** 『キーワード 学校行事を通じた主体的な取組』

○ 昨年の体育大会では縦割り活動に取り組んだ。今年度は4月のスタートから学校行事における縦割り活動を計画し、1年を通して縦割り活動を行った。多くの活動の場で、上級生がリーダーとなり後輩を思いやり、後輩が先輩を尊敬しながら活動を進めていくことで、共感的な人間関係を育むとともに自己存在感を与え、自己指導能力の向上につなげた。

**取組の具体的内容** 『キーワード 主体的な縦割り活動』

○ 1年を通じた縦割り活動

- ・4月 各組団に別れ、1年間の目標、スローガンの決定
- ・5月 縦割りでの新入生歓迎遠足
  - ※ 雨天のため、遠足は中止になったが、体育館で団ごとにスローガンを発表したり生徒会主催のレクリエーション活動を行ったりした。スローガンの発表については、3年生のリーダーを中心に発表の仕方まで工夫し、それぞれの思いを表現した。生徒会レクリエーションでは、全生徒、全教職員が一緒に取り組んだことによって、学校全体の連帯感が高まった。
- ・7月 体育大会に向けて、縦割りでのダンス練習
- ・8、9月 縦割りでの体育大会の取組
- ・10月 縦割りでの文化祭の合唱練習
  - ※ 各組団で3年生が1、2年生の指導をしていくという流れができた。3年生が後輩の前に立って実際に歌ったり、助言していくことで、1年生は歌うことへの抵抗感をなくし、先輩と共に中央中の歌う伝統を守ろうとする気持ちが生まれた。



各組団のスローガン発表



生徒会レクリエーション



結団式



先輩から後輩への校歌指導



ダンス指導



体育大会

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 新たな取組』

- 昨年からスタートした縦割り活動を年間を通じて行う取組とした。
  - ・生徒会や3年生の団リーダーを中心に取り組み、教員はできるだけ指示を出さず、生徒が練習方法を考えることや教え合うことで行事への取組の意欲を向上させた。
  - ・体育大会や文化祭では団ごとに、その日の評価や振り返りを3年生の団リーダーがホワイトボードに記入し、生徒玄関で毎日伝達できるようにした。
- 課題は、リーダーの成長はいろいろな場面で感じることができるが、その他の生徒（フォロワー）の成長に向けて教員がどんなアドバイスをしていけば良いのか、どんな取組が必要なのかを考えていかなければならない。
- 生徒会が中心になって行った「新たな取組」として、5月に新入生歓迎遠足を計画した。どのように交流すれば、学年関係なく交流できるかなどを考え、全生徒と全教職員合同のレクリエーションを計画し、実施した。課題は、生徒も教員も一緒になって全体で活動できたのは、この1回だけだった。生徒の感想でも教員からの意見でも、こんな機会を増やすことができれば、生徒同士、生徒と教員の信頼関係も高まるのではないかと考えている。

### 取組の成果（効果）『キーワード 自己指導能力の向上』

- 4月から計画的に縦割り活動を取組に取り入れたことで、お互いの信頼関係も高まり、人間関係のトラブルが減少した。昨年、2件の暴力行為があったが、今年は0件で大きなトラブルがなくなった。毎年、部活での先輩後輩のトラブルがあるが、これも今年は0件である。お互いを大切にし、認め合える集団になってきたことで、問題行動の減少につながり、落ち着いた学校生活を送っている。
- 生徒意識アンケートにおける「学校行事・生徒会行事に満足している」という項目に対し、肯定的な回答が、5月時は79.5%であったが、12月には88.7%と向上した。行事後の生徒の感想においても、自分のためにも仲間のためにも良い行動をしようと考えている生徒も増え、自己指導能力の向上につながっている。
- 生徒自らが活動を企画したり、行事を運営していくことで、規範意識が高まり、自らルールや時間を守ろうとする生徒が増加した。生徒意識アンケートの「授業が始まる2分前には、自分の席に座り、次の授業の準備ができている」という項目に、93.8%の生徒が「できている」と肯定的に回答している。

### 今後の展開『キーワード PDCAサイクル』

- 生徒が主体的に参加していく取組を始めて2年が経った。定着し高まり続ける取組もあれば、改善していくことを考えなければならない取組もある。現状に満足せず、PDCAサイクルに基づいた取組み改善を組織的に行っていくことで、本物の文化になっていくのではないかと考えている。

### 他校へのアドバイス『キーワード 共通理解と行動の一元化』

- 生徒が行事に主体的に取り組んでいくためには、教職員の支援も重要になる。すべてが生徒任せになってしまうと間違った方向に行くことやトラブルになることもある。どのような支援が必要か、支援と指導の基準を明確にし、どこまで支援しどこから指導していくか、教職員で連携しておくことが大切である。

指定校番号	28101	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	山本 泰昌	生徒指導主事	山口 司
-----	-------------	----	-------	--------	------

<b>取組事例名</b>	『生徒同士の関わりを増やし、自主性を育てる生徒会活動』
<b>取組のねらい</b>	『キーワード 生徒会活動の活性化』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動，3年を中心とした縦割り集団活動，生徒会執行部や部活動を中心とした自主的な活動を仕組む中で，生徒の自己有用感を高め，授業や行事参加の意欲や態度及び豊かな心の育成を図る。</li> </ul>
<b>取組の具体的内容</b>	『キーワード 生徒主体の活動』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会では，生徒会執行部を中心に取組の企画を行い，準備・実施した（昼の放送「ハッピータイム」，図書委員会「ビブリオバトル」，保健委員会による生徒朝会での発表，3年生を送る会の飾り付け・お礼メッセージ等）。</li> <li>・体育祭を皮切りに縦割り集団による活動や関わりを仕組んだ（体育祭での応援団・行進練習，校歌練習の取組と成果発表，文化祭での合唱交流，3年生への御礼のメッセージ等）。</li> <li>・部活動による朝のあいさつ運動・下校放送，執行部による朝会等の時間厳守の整列の取組を行なった。</li> </ul>
<b>取組の課題・創意工夫</b>	『キーワード ピア・サポート的人間関係』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言われた事は素直にやる生徒が多いが自ら考えて創意工夫したり関わりあう取組が少なかった。また，「自分の良さはまわりの人から認められている。」という項目の評価は高くない。</li> <li>・そこで，上級生が自分たちの学校や自分自身に自信と誇りを持つとともに，友人や後輩へ思いやりをもって接することのできる心と力を育み，また後輩たちには1年後・2年後の自分の目指す姿をイメージできるように，生徒会執行部や3年生を中心とした活動を仕組んだ。</li> <li>・生徒会行事や学校行事等において，3学年のリーダーのみでなく2学年の中でリーダーを選出し，学年リーダーとして自ら考え行動させ，リーダー以外の生徒もフォロワーとしての意識を持たせた。</li> </ul>
<b>取組の成果（効果）</b>	『キーワード 生徒自らが考え行動できる』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩の一生懸命な姿に憧れを抱き，新年度の生徒会役員に立候補した生徒が多くいた。上級生は，学校のため・後輩のためという意識が向上し，生徒会執行部の生徒や部活動のリーダーなどを中心に，最上級生としての誇りを持って行動できる生徒が増えた。地域の方からも，道路に散乱していたゴミを拾っていた生徒や，気持ちの良いあいさつをする生徒の姿をほめていただいている。「校内で積極的にあいさつをしている。」という割合は9割を超えている。</li> </ul>
<b>今後の展開</b>	『キーワード 共感的人間関係による学習意欲の向上』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業，係活動，委員会活動，行事の取組み等すべてにおいて，同級生および先輩・後輩の関わりあいの中で支えたり支えられたり，励ましたり励まされたりする関係を築くことで，人と関わること・学びあえることが楽しいという前向きな心を育て，学習意欲の向上にもつなげていく。</li> </ul>
<b>他校へのアドバイス</b>	『キーワード 生徒の実態の把握と教職員の意識』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の良さや課題を教職員が共通認識し，日常の学校生活や授業・行事などにおいて，課題の改善を目指す工夫をするとともに，生徒の良さを生かした活動を仕組んでいく。</li> <li>・日ごろの小さな工夫が，大きな行事の成功や委員会活動等の活性化，生徒（学校）全体の変化へとつながっていく。</li> </ul>

★部長会～各部の挨拶運動



★体育祭～縦割り集団の取組



★図書委員会～ビブリオバトル



★生徒会の取組のまとめ

**大野東中 校訓：友あり声あり意気あり**

**学級委員会**

＜1-1-1＞  
 ・全曜日の午前中にチャームを止めて生活する。  
 ・着席点検  
 ⇒ 時間を意識し動く ⇒ 先に学習仲間への思いやり  
 ・学習環境づくり

＜容儀検査＞  
 ・全曜日の帰りのSHRに容儀検査を行う。  
 ・自分がどこを違反してほかを反省かめる。  
 ⇒ 自分が集団の中における意識を保持する。  
 ⇒ ルールを守って皆が安心して生活できる環境づくり

＜ハッピータイムリクエストミュージック＞  
 ・全曜日の昼食時に放送  
 ハッピータイム  
 心の温かいエピソードの募集  
 リクエストミュージック  
 学校で流れる曲の募集  
 ⇒ 学校にいる時間がもっと楽しくなれる工夫  
 ⇒ 学校が今より楽しく、安心して生活できるような環境づくり

**生徒会 スローガン**

**創造 一人一人が輝ける学校**

「命の大切さを考える日」の集会を中心に、「命の大切さ」や「お互いを大切にすること」について考え、活動している。  
 ・ハッピータイム  
 ⇒ お互いが認めあえる雰囲気づくり  
 ・行事や委員会活動  
 ⇒ 協力しあう学校

**命の大切さを考える日**

各クラスでのスローガン発表  
 ・いじめ撲滅宣言  
 ・いじめの体験談  
 生徒からの感想  
 これからの目標  
 いじめの問題を自分のこととして身近に考えよう

**＜今後の課題＞**

・ハッピータイムの活性化  
 行事後の感想・先生・生徒への呼びかけ  
 ・「命の大切さを考える日」の話し合いの深化  
 ・校歌⇒大きな声で自信を持って歌うこと  
 ・一人一人が自分のこととして考えられる話し合い  
 ・練習方法の工夫・声を出す雰囲気づくり。

**（生徒総会）**

学校全体が一つの  
 各クラスの良さを理解し、生徒会スローガンの決意  
 ・クラスアピール  
 生徒全員が生徒会の一員であることを自覚し行動しようと呼びかけた。疑問に思うことに一つ一つ答え、言葉も安心して生活できるようにした。

**保健 整美委員会**

＜保健委員会＞  
 ・ハローポイント互用した病気の予防や薬物乱用防止についての発表  
 ⇒ 生徒が健康に過ごせる学校づくり

＜整美委員会＞  
 ・花植え  
 ・掃除道具の整美  
 ・大掃除の際のワックスかけ

**体育文化・図書委員会**

＜体育文化委員会＞  
 ・体育祭や文化祭の運営  
 ・ボールの貸し出し

＜図書委員会＞  
 ・ビブリオバトル  
 ・おすすめ本の紹介  
 ・しおりの作成

**体育祭**

縦割り対抗で行われる。  
 ⇒ 上級生 しっかり教える  
 下級生 さっさと身はつける  
 団結して行動することができる。  
 （即）行進によく見える。

＜体育祭終了後＞  
 ・くやしかったことやうれしかったこと等を、共にわかちあう。

**生徒朝会**

・執行部及び学級委員を中心に整列  
 ・体育館廊下での執行部の呼びかけと放送  
 ・校歌の練習  
 ⇒ 自分たちの校歌を誇りをもて歌える学校づくり

指定校番号	28102	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立野坂中学校	校長	植松寛雄	生徒指導主事	川本 宏
-----	------------	----	------	--------	------

**取組事例名 『自己有用感を高める縦割り集団の取組』**

**取組のねらい『キーワード 自己有用感』**

行事（体育大会、文化祭）において、縦割り組集団の取組を仕組むことで、3年生や各クラスのリーダーを中心に取組を進め、クラスや組集団の役に立った、クラスや組集団がまとめることができたなどの自己有用感を高める。

**取組の具体的内容『キーワード リーダーの育成』**

○体育大会では、縦割り種目を増やし、組集団で練習する機会をつくり、練習のときから3年生がリーダーになって1・2年生を引っ張っていった。応援合戦では各クラスの応援団長が組集団の団長に協力して、独自の応援を考え、大変盛り上がった応援合戦をした。また、服装や態度、入場行進に至るまで、随所に3年生がリーダーシップを発揮して1・2年生を指導していった。

○文化祭では、各学年の合唱コンクールだけでなく、組集団でも行い、練習のときから3年生のパートリーダーを中心とした練習をしていった。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 日常生活につなげる』**

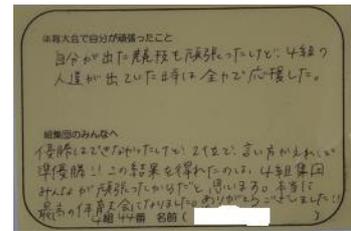
体育大会では、全体練習が始まる前に組集団の結団式を行った。応援団長が決意表明し、縦割り集団としての団結力を高める最初の取組である。体育大会終了後には解団式を行い、組集団の振り返りや応援団長のコメントなど、生徒それぞれの集団としての意識や、リーダーの自己有用感が高まる取組である。また、縦割りの取組を入れた行事ごとに、応援に来ていただいた方が誰でも書ける応援メッセージボードを設置したり、3年生やリーダーに対して全生徒がメッセージカードにコメントを書き、教室や掲示板に掲示したりしている。



課題としては、行事の時には生徒も大変盛り上がり取組むことができたが、これを日常生活にもつなげていく必要がある。日常生活の中でもリーダーが育ち、リーダーを中心としての集団づくりをしゅんでいけば、行事で高まってきた自己有用感が日常生活でもリンクしていくことにつながる。

## 取組の成果（効果）『キーワード 見える化』

行事だけでなく、生活のあらゆる場面のことを校内のあちこちに掲示している。生徒や保護者も立ち止まってみている光景がよく見られる。掲示されているものは生徒のものが多く、感謝の気持ちや、ほめることなどの内容がほとんどで、このような掲示物を通じて生徒の自己有用感が高まっている。



## 今後の展開『キーワード 新たな取組へ』

今後は日常生活の中に縦割りの取組を仕組んでいこうと考えている。縦割りそうじや縦割り挨拶運動など、できそうなところから少しずつ膨らましていきたい。生徒会活動の中にも縦割りの取組を随所に盛り込み、生徒自ら自治的活動を日常的にできるようにしていきたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード 掲示物の効果』

校内のあちこちに自分たちが認められている、役に立っている、ほめられているなどの掲示物が掲示されていると、生徒同士・生徒と教師の関係が良くなり、生徒の自己有用感も高まってくる。掲示する場所を工夫し、掲示物を工夫して、生徒の自己有用感を高めるひとつの取組として活用されたいかがだろうか。



指定校番号	28105	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野中学校	校長	米谷 剛	生徒指導主事	前田 大輔
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『心の交流会』**

**取組のねらい『キーワード おもてなしの心でつくる異年齢集団』**

- 熊野中学校の伝統を引き継ぐ。
- 3年生が職場体験学習や修学旅行等で学んだ接遇について、1・2年生に伝える。
- おもてなしの心を全校生徒と保護者が共有することで、集団として温かい雰囲気をつくる。

**取組の具体的内容『キーワード 生徒、保護者、教員が協力』**

- 年度当初の4月に行われるPTA総会の日、中学校のグラウンドで生徒、保護者、教員で協力して、昼食にバーベキューを行う。
- メンバー構成は、1年生は各クラスを9グループ、2・3年生は各クラスを6グループに分け、縦割りの異学年集団とし、それらの保護者と担当教員とする。
- PTA役員と3年生が2校時に準備をし、1・2年生は授業とする。
- 開会行事、閉会行事の運営は生徒会とし、各グループの運営は3年生とする。
- 後片付けは全員で行う。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 1年間を見据えた異学年集団』**

- 全校生徒でバーベキューを行うので、準備、片付けがとても大変であるが、生徒、保護者、教員が協力することで、心の交流会を成功させようと努力する。
- 心の交流会で編成したグループを活用して、全校遠足や体育祭など1年間の学校行事に取り組む。
- 3年生が前年度の職場体験学習、修学旅行で学んだ接遇やおもてなしの心を、1・2年生や保護者に表す。
- 1・2年生は3年生を見て、見本となるべき先輩の姿を明確にする。

**取組の成果（効果）『キーワード 3年生が引っ張る熊野中学校』**

- 10月に実施した生徒アンケートの「学校に行くのは楽しいです」の質問に85.3%、「学校でみんなと一緒に活動するのは楽しいです」の質問に92.6%が肯定的な回答をした。
- 10月に実施した保護者アンケートの「子どもを安心して学校に通わせている」の質問に92.3%、「学校教育に関心を持ち、協力したいと思っている」の質問に78.1%が肯定的な回答をした。
- 3年生はリーダーシップを発揮することで、最高学年としての自覚と責任が芽生えた。
- 1・2年生は3年生の姿を見て、手本となる最高学年の姿を明確にした。

- 生徒，保護者，教員が協力し，一つの行事を成功させることで，信頼関係を築くことができた。
- 今年度は学年により，学級数が異なっていたので，縦割り集団の編成について苦慮していたが，基本となる集団が出来上がった。
- 生徒主体で行事を成功させることで，特に3年生は自信をもち，企画，運営する力が身についた。
- 遠足，体育祭，文化祭等，学校行事すべてにおいて，3年生がリーダーシップを発揮している。

#### **今後の展開『キーワード 継続』**

- 卒業式は，1・2年生が3年生に対して感謝の気持ちを伝える。
- 3年生の手本となる姿を1・2年生が引き継いでいく。
- 次年度も心の交流会を3年生主体で進めていく。
- 3年生主体となるために，保護者・教員が全力で支援していく。

#### **他校へのアドバイス『キーワード 最初・準備が肝心』**

- 生徒主体と言えど，保護者や教員が指導や援助をしないと，行事は成功しない。事前に生徒と打ち合わせを行うなどしっかりと準備し，何をどのようにすればよいか，生徒に対する指示を明確にしておく。
- 年度当初に1年後の理想の姿をイメージさせることで，学校全体で良いスタートを切ることができる。
- 成功体験をもたせることが，生徒の自信につながっていく。

# 児童会・生徒会活動

児童・生徒の諸活動  
についての連絡調整

指定校番号	28070	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立庚午中学校	校長	原之園 和弘	生徒指導主事	藤井 麻里
-----	-----------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『無言清掃』

**取組のねらい** 『キーワード 予防的生徒指導』

学校の一員として、よりよい学校生活へ貢献するための役割や責任を果たし、学校生活全体の充実・向上を図ろうとする意欲や態度を育てる。

**取組の具体的内容** 『キーワード ユニバーサルデザイン』

学校全体で掃除の仕方を統一したことで、学年・学級の温度差をなくし、進級しても、生徒が混乱しない仕組みになるよう工夫した。役割や手順をはっきりさせ、どの生徒にとっても活動しやすく集中して取り組めるものになった。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 一生懸命、役割を果たす』

- ① 無言清掃をイメージ化するための「無言清掃DVD」を作成し、年度初めに全校生徒で視聴する。学校全体で、意識統一が図れ、どの先生も、どの学級も「揃える」ことができた。生徒が「まじめにするってかっこいい」「きれいになるのは気持ちいい」という意識づけを行うことに効果があった。
- ② 実践的な校内研修を実施する。  
導入に当たっては、事前に校内研修を行い、教師自身が生徒と同じ目線で清掃活動を体験した。
- ③ 校区内全小中学校で実施する。  
小中連携の一環で小学校と共に無言清掃を取り入れる事にし、お互いの交流を行った。
- ④ 役割を明確化し、3ヶ月間、掃除の分担を固定する。  
自分の役割がはっきりし、テキパキと集中してできる。また、掃除の手際がよくなり、自分の持ち分に誇りを持って掃除するようになった。
- ⑤ 音楽の効果（移動整列の「音楽A」、黙想の「音楽B」）を取り入れる。  
掃除時間が「静かな時間」を作り出した。無言で静かな環境の中で掃除することで『一生懸命掃除する』姿が生まれた。ひいては、しんどいことでも一生懸命に取り組む姿を育成することができた。
- ⑥ 毎日定例で掃除できるようにした。  
「今日は掃除がない」などの不定期では定着しない。毎日の積み重ねを大切にした。
- ⑦ 雑巾がけを基本にした。  
丁寧な拭き方「庚午ぶき」を示し、雑巾がけを全員で取り組むことで、道具の破損が激減すると同時に学校の隅々まできれいになった。
- ⑧ 生徒会委員会を活動の中心にし、校内美化を推進した。  
「掃除リーダー」会の運営、無言清掃の説明、アンケート集約など委員会が積極的に活動し、「無言清掃」を学校の中心に据えた。



### 取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感』

- ・ 無言清掃のアンケートでは、「無言で集中して行う習慣が身についた」「3ヶ月同じ仕事をやることで責任を持ち役割を果たすことができた」「『気づき清掃』までするので、やりきったという達成感が持てた」などの意見が聞かれた。
- ・ 昼食放送で「無言清掃」の肯定的評価を放送することで生徒の意欲を喚起した。
- ・ 生徒アンケートでは「一生懸命掃除をしている」の項目で、「良く当てはまる」と回答した生徒は、無言清掃の前の24,7%→71,4%と飛躍的に向上した。さらに「一生懸命掃除をする」ことで教室を大事にするようになった。3年生は模擬面接の回答で「庚午中学校の良いところは」を「無言清掃」と答える生徒が多かった。自分のがんばりに自信を持って答えられる活動となっている。

### 今後の展開『キーワード 無言の力 無言移動・無言集合』

- ・ 「朝読書」と「無言清掃」で静かな時間を持つことで、生徒全体の落ち着きを育てた。
- ・ 「無言清掃」の取組2年目となる今年は「無言移動・無言集合」を朝会に生徒会が取り入れた。「無言」集合することにより「しっかり聞く」ことができるようになってきている。修学旅行や野外活動などの行事でも「無言集合」することで指示が徹底するようになった。生徒会の「無言の力」「空気を読む」など安心安全な学校を生徒会が推進している。

### 他校へのアドバイス『キーワード ベクトルを揃える』

「無言清掃」を学校全体で取り組むことで、担任一人で学級をつくるのではなく、学年・学校で学級を作っていく取組の一つになっている。また、生徒は褒められることが多く、自己肯定感ももてる活動になっている。学校全体で学級づくりを支える活動になった。転勤者や初任者にとっても、学校全体が取り組んでいることで、指導が通りやすく、落ち着いた人間関係が作りやすい。当たり前前のレベルが高いことが、学級経営に好影響を与え、学習意欲の向上につながった。

指定校番号	28079	学級活動		児童会・生徒会活動	○	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	---	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立観音中学校	校長	中山 昭彦	生徒指導主事	森光 千佳
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『三無言プロジェクト・GGキャンペーン』**

**取組のねらい『キーワード 習慣 』**

**【三無言プロジェクト 無言読書・無言集合・無言清掃】**

- 無言読書・・静かに落ち着いて一日のスタートをされるようにする。
- 無言集合・・無言集合することによりその場の気配や空気を感じて行動する力をつける。
- 無言清掃・・一人ひとりに割り当てられた場所の清掃を無言で行うことで時間を守り、責任感を身につける。

「無言」の目的

- ① 集中力を高める（私語をせず、物事に真剣に取り組む力を高める）
- ② 感情のコントロール（相手のことを考えて感情をコントロールする。感情をコントロールすることで、お互いのことを理解し、つながることができる。また、お互いを気遣う事で思いやりの心を持つことができる）
- ③ 人に迷惑をかけない（人が集まる場所など、その場に合わせて静かにすることで周りに迷惑をかけない）

**【GGキャンペーン】(Good Greetingキャンペーン)**

あいさつの意味を考え、自ら進んで気持ちの良いあいさつをすることができる力をつける。

この2つの取組により、きれいな環境の中で落ち着いた生活を送り、けじめのある行動をとることができる。日々の習慣を通して、安定した自分を創ることができるということに気づかせる。

**取組の具体的内容『キーワード 実行 』**

**【三無言プロジェクトの実施】**

- 無言読書：定刻になったら無言で読書をはじめ。
- 無言集合：朝会や集会など人が大勢集まる時に無言で集合する。
- 無言清掃：清掃を無言で行う。

**【GGキャンペーン】(Good Greetingキャンペーン)**

- ① 教職員が「すばらしいあいさつ」をしてくれた生徒にGGシールを渡す。(同じ先生から1日1枚しかもらえない)
- ② そのシールをもらったら教室にあるGGポスターに貼る。GGシールが規定のポイント(50ポイント)貯まったらGGバッジが授与される。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 明確 』**

**【三無言プロジェクト】**

- 「無言」の状態を作る為の指示の出し方を明確にする。  
文化図書委員が定刻になったら読書の呼びかけをし、読書を静かに始めるための準備をさせる。
- 「無言集合」  
生徒会執行部と代議員で「無言」プラカードを作成し、朝会や全校集会、学年集会で執行部と代議員が「無言プラカード」掲げ、無言指示で無言集合をさせる。

- 「無言清掃」については定期的に生活環境委員で反省を行い、改善を図る。  
生徒会執行部と教員で協力して「無言清掃」の目的と行い方を示したDVDを作成し、全校集会で視聴し、実施した。(10月から継続中)
- 【GGキャンペーン】
- 「あいさつ」の基準を明確にし、判断をしやすいようにした。  
「すばらしいあいさつ」の基準
- ◎ 立ち止まって、会釈をそえて、大きな声であいさつをする。
- 最終的に授与されるバッジのデザインを体育委員会から生徒に募集し、デザインを決定した。

#### 取組の成果(効果)『キーワード 未来』

三無言プロジェクトは、各委員会の協力により定着しつつある。特に、無言読書と無言集合はほぼできつつある。無言清掃については、生徒も興味を持ち、新執行部も選挙のときにはこのプロジェクトを進めていきたいと公約をしてくれた。

GGキャンペーンの実施により、校内の「あいさつ」が増え、「あいさつ」を通して、生徒と生徒、生徒と教職員の会話も増えるなど、コミュニケーションを図れる場面が多くなった

この取組を続けることでいろいろな未来に繋がり、たくさんの可能性が広がると思う。

#### 今後の展開『キーワード 改善』

三無言プロジェクト、GGキャンペーンはやりっぱなしにせず、反省し改善する。改善するときには生徒の意見やアイデアを大切にし、生徒の思いが実現できるよう教師がアドバイスや手助けをする。

#### 他校へのアドバイス『キーワード 挑戦』

「とにかく挑戦」アイデアをある程度形にしてやってみる。やろうやろうと先延ばしにするとずっとできないのでやってみて改善し、さらに良いものにしていくという考えで取り組む。

指定校番号	28088	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立神辺中学校	校長	金田 耕治	生徒指導主事	山口 義哉
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『いじめSTOP集会』

取組のねらい キーワード『いじめカッコ悪い』

・“いじめ”について改めて考えるきっかけを与え、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を一人一人の生徒に徹底させる。

取組の具体的内容 キーワード『傍観者にならない』

- ・ 7月，1年生学活の授業で「こんな時あなたは，どうする？」（LINE上でA君がB君に「C君について悪口を書こう」と言われた時のB君の対処方法）についてロールプレイする。 → 実際に起こりうることを実感させる。
- ・ 7月，平和集会で生徒会がプレゼンテーションを行う。従来行ってきた戦争や核など生徒にとって大きいテーマから身近なことへ落とし込むことにより，「いじめ」について考える。



私の行動宣言

①NHK「わたしの行動宣言」に参加し，全校生徒がいじめを減らすために自分にできることを宣言文としてNHKに送付する。

②NHKのホームページにUPされる。

③校内に掲示する。

④10月にNHKから取材依頼があり，取組を取材してもらおう。

⑤10月29日NHKいじめをノックアウトスペシャルで放送される。



いじめSTOP集会

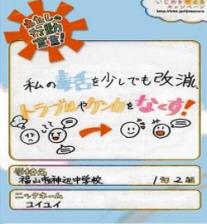
①8月，全校登校日に「いじめSTOP集会」を実施する。



②いじめの構図について学ぶ。



③「わたしの行動宣言」校内優秀作品を紹介する。



生徒会交流

①7月，夏休みに本校と他校の生徒会が取組を交流し，見聞を広め，深める。

【生徒会の感想】

「(他校の)取組がすごく驚いた。自分たちでも考えやってみよう。」

「やる気がみなぎってきた。」




## 夏休みの宿題で生徒の人権作文

～中略～ 傍観者とは、事件に直接関わろうとせず、見て見ぬふりをしている人のことです。傍観者の多くは、自分が行動すると、自分までその事件に巻き込まれてしまうことを恐れています。なので、何も行動に起こすことができません。私は、この行動したくてもできない傍観者に、行動を起こさせることが大切だと思います。

私がこのような考えを持つようになったのは、夏休みに行われたいじめSTOP集会の時です。集会では、生徒会本部の方々がいじめについて話してくれました。その中で出てきた言葉が、「傍観者」です。私はそこで初めて傍観者という言葉とその意味を知りました。そして、傍観者の行動の大切さに気付きました。

～中略～ とはいっても実際、私たちの生活の中で、傍観者になってしまっている人はたくさんいます。自分自身も傍観者になっている時があります。例えば授業中、私語が多くてざわざわしていても先生に注意されるまで誰も声をかけません。服装などのルールを破っている人を見ても、注意はせず見逃してしまいます。日常生活のちょっとした場面で、自分や周りの人が、傍観者になっています。この小さな出来事での傍観者をなくしていくことがまずは大切なのではないでしょうか。

しかし、傍観者が傍観者である理由は「事件に巻き込まれたくない」「行動しても変わらない」という思いがあるからです。このような考えをかき消して行動しようとするには、それなりの勇気も必要ですが、具体的な行動の仕方を知ることが必要です。当事者に直接声をかけることが最も有効ですが、なかなかそれはできません。大人の人に相談するなど、方法はたくさんあります。このような行動の仕方を一人一人が考えて話し合う場を作ってはどうか。そうすれば傍観者となる人は減っていき、普段の生活から悪事を見逃さない環境になっていくと思います。この小さな積み重ねがやがて日本、世界の人々の意識を高めることにつながると思います。「行動の仕方を知り、傍観者にならずに行動を起こす。」これを一人一人が実行していくことで、事件を起こさない、見逃さない、明るい社会を築くことができると思います。

## 取組の課題・創意工夫 キーワード『定着』

**課題** 取組を実施したが、その後生徒からの発信の機会が少なく、生徒に「いじめカッコ悪い」の定着が不十分である。

**創意工夫** ・授業でいじめについて扱った。・全校集会で訴えた。・生徒会交流会で他校の実践を学ぶことができた。

## 取組の成果（効果） キーワード『自己肯定感』

### 生活アンケート

項目	1学期	2学期	差
自分は誰に対しても相手の事を思って行動することができる	76.6%	77.5%	+0.9pt
自分にはよいところがあると思う	61.7%	62.3%	+0.6pt

### 生徒会本部生徒の感想

・生徒全員で真剣に考える場となり、集会を開いた生徒会本部も達成感を味わうことができた。今後も取組を続けることでいじめのない学校をめざしていきたい。

## 今後の展開 キーワード『機会を増やす』

- ・授業でいじめについて考える機会を増やす。
- ・いじめ防止キャンペーンを打ち出し、全校生徒がもう一度考えるきっかけを作り「いじめカッコ悪い」という風潮がスタンダードとなるようにしていく。

## 他校へのアドバイス キーワード『生徒発信』

・教員主導ではなく、生徒自身が考え、発信していくように仕掛けることでよりいじめについて考えられるようになると思います。

指定校番号	28097	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立向陽中学校	校長	大井博夫	生徒指導主事	二川義美
-----	------------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『生徒会を中心とした生徒の自主性を育てる部活前集合』

**取組のねらい** 『キーワード 自主性の育成』

部活前集合の取組を教師主導から生徒会主導にすることで生徒の自主性を伸ばす。

また、生徒自らが取組目標を設定し、達成する過程を通して、生徒に自信をつけさせる。

さらに、部活前集合において、「挨拶」、「時間を守ること」、「整理整頓」等を習慣化することを通して、学んだことを学校生活に生かす。



**取組の具体的内容** 『キーワード 経験』

- ・部活前集合が充実した自主活動になるように、生徒会執行部と各部活動の部長が事前の打ち合わせを行う。
- ・生徒会執行部と部長が協力して速やかな集合を促し、担当者が毎回時間を計り、目標時間達成を目指す。また、担当者が集合状態や行動の変化を評価したり、全体の前で活動状況や大会結果等を発表する経験を通して、リーダーとしての自覚を持たせる。
- ・生徒会執行部が中心となって毎日の活動の反省を行い、明らかになった課題を改善する。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 変えよう』

**課題**

- ・外部のスポーツクラブに所属している生徒は、学校での部活に所属しているが帰属意識が低いことから意欲的な活動につながらない。
- ・部活前集合の取組を学校生活の充実につなげていくための具体策の検討をする。



**創意工夫**

○学校生活の充実につなげる工夫

- ・取組を向陽三訓と関連付ける。
- ・生徒会を中心とした新しい伝統を作り上げようとする気運を高める。
- ・「目指せ向陽一、東広島一、県一、そして全国一へ」をスローガンに、部活前集合を生徒会・部活動の発表・交流・高め合う場とする。

○生徒に自信をつけさせる工夫

- ・生徒に全体で発表する機会を与える。
- ・「設定時間内に集合する」という目標を一人一人が意識して行動できるよう、生徒が中心となって声かけを行う。
- ・全員での取組を通して、連帯感を共有させる。

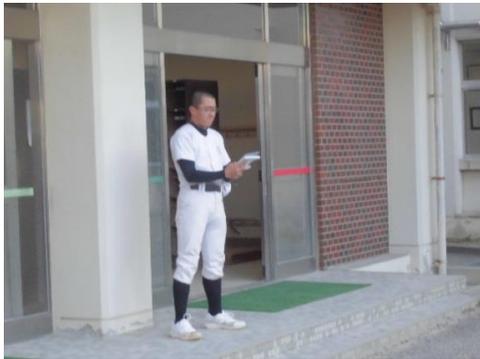
## 取組の成果（効果）『キーワード 自覚と自信』

- ・新生徒会執行部の新しい取組と各部長のやる気が、生徒全体に広がり、「自分たちの代で部活前集合から新しい向陽中学校の伝統を作り上げていこう」とする意欲につながっている。
- ・生徒会や各部長が部活前集合の司会を経験することで、落ちついて発言できるようになり、リーダーとして自信を持って行動できるようになってきている。
- ・気持ちのよいあいさつができる生徒、花いっぱい運動等のボランティア活動に参加する生徒が増えている。また、周囲に対する感謝の思いを伝えることができる生徒の姿も見られるようになってきた。



## 今後の展開『キーワード 楽しもう』

生徒会を中心に学校生活の向上（挨拶・時間・整理整頓・ルールとマナー等）に向けて取り組む。また、部活前集合において、生徒全員が活動に参加し、自分たちが主体的に行動することを楽しめるようにする。



- ・行事（卒業式・入学式など行事）を成功させるため、生徒会と部長による合唱団を結成し、モデルをみせる。  
→ 生徒全員で歌声を作る。
- ・「向陽三訓」（明るい挨拶・丁寧な言葉遣い・人を思いやる心）を徹底できるようにする。そして、東広島一、県一そして全国一を目指す。  
→ 生徒会や教師が評価する。

## 他校へのアドバイス『キーワード しくむ』

- ◎「自分たちがやる。自分たちで変えている。」という主体的な活動になったとき、生徒は一生懸命活動する。また、生徒自身が行ったことを通して、どう変わるか・どんなよいことがあるか実感したとき、集団自治能力は高まる。生徒の実態を見て、何をどう仕組んでいくかというビジョンを持つことが大切であると考えている。
- ◎活動の目的を教職員・生徒で共有する。
- ◎生徒のやる気を継続させるために取組内容をしっかり吟味する必要がある。



# 児童会・生徒会活動

学校行事への協力

指定校番号	28006	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立落合東小学校	校長	宅見 政子	生徒指導主事	穂山 和也
-----	------------	----	-------	--------	-------

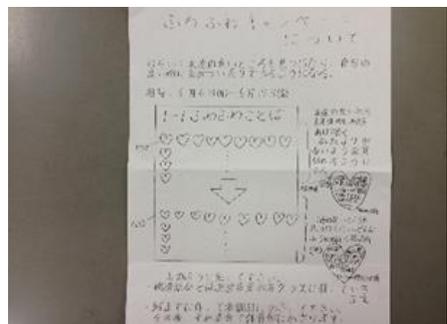
**取組事例名 『平和集会への取組 ～命を大切にしよう～』**

**取組のねらい『キーワード 自分たちができること』**

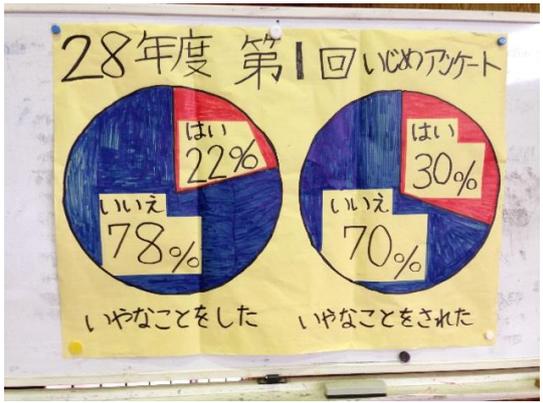
8月6日の原爆投下についてより深い認識をもつとともに、命を大切にするために自分たちができることを考え実践する。

**取組の具体的内容『キーワード ふわふわキャンペーン・いじめアンケートと平和集会』**

- ・ 6月6日～17日「ふわふわキャンペーン」
- ・ ねらいは「友達の良いところを見つけたり、自分の良いところに気がついたりできるようになる」で友達の良いところを具体的にピンクのハートに書き、それを読んでから自分の良いところを見つけてもらってどのような気持ちかオレンジのハートに書いて模造紙に貼り付けた。参観日まで学級内に掲示してその後平和集会で体育館にかざった。



- ・ 6月20日～24日「第1回いじめアンケート」
- ・ ねらいは「児童会のテーマの『安心・笑顔の落合東』にするために、友達への関わり方を振り返り改善する」で、無記名で実施した。内容はいやなことを言われたりされたりしたこと、いやなことを言ったりしたること、落合東小学校をどのような学校にしたいか、の3点。学級担任が目を通した後、児童会担当でまとめ、運営委員が平和集会で発表した。



- ・ 7月15日平和集会。「一人ひとりを大切にできる気持ちをもつ。みんなで命の大切さや平和について考える」というねらいで実施する。ふわふわキャンペーンの模造紙を体育館の壁面に掲示したり、いじめアンケートの結果の報告があったりして事前の活動が平和集会につながっていることを児童は実感した。また、学級ごとの平和の誓いでは、身近ないじめをなくそう等の、命を大切にするために自分

たちでできる内容を披露した。各学級の平和の誓いと千羽鶴は8月6日に運営委員会で平和公園に献納しに行った。



### 取組の課題・創意工夫『キーワード 認め合う人間関係を育む』

- ・全体的に学校は落ち着いているけれど、トラブルがなくなっているわけではないし、いじめがなくなったわけでもない。望ましい人間関係を育む一つ的手段として児童会活動は重要な役割を担っている。
- ・7月の平和集会に向けての「ふわふわキャンペーン」などの一連の取組を通じて、平和な世界の創造という大きなテーマにも、命を大切にするために今の自分たちにできることを考える身の丈にあった流れになっている。このことが好ましい結果につながっていると考えられる。
- ・「いじめアンケート」や「平和の誓い」作りを通して、学級内で互いに認め合う話合いや折り合いをつける話合いなどがなされ、特別活動のねらいに沿った活動内容となっている。

### 取組の成果（効果）『キーワード 落ち着いた学校の雰囲気』

- ・児童会の平和集会に向けての取組は数年続いており、児童の間では定着してきている。その流れの中で、運営委員を中心に毎年創意工夫を加え魅力的な取組となっている。先に見える取組なので児童も安心して参加している。その結果、児童が互いに認め合おうとして努力し、落ち着いた学校の雰囲気を育むことができていると考えられる。

### 今後の展開『キーワード 代表委員会で決めたキャンペーンの実施』

- ・児童会運営委員を中心に代表委員会で「あいさつキャンペーン」「言葉づかいを考えようキャンペーン」「身だしなみキャンペーン」「時間までにすわろうキャンペーン」を決めて実施していった。「言葉づかいを考えようキャンペーン」は、いじめアンケートの結果などから本校においては言葉づかいに課題があると考え本年度初めて実施した。友達を遊びに誘うときと友達と体がぶつかったときの正しい言葉の使い方の例をお昼の放送で流し、期間を決めてキャンペーンを実施した。このように、学校の実態から児童が自主的・実践的に取組を考えて行う中で児童が成長していき、学校の雰囲気もよりよくなっていくと考えている。

### 他校へのアドバイス『キーワード 児童へのフィードバックの工夫』

- ・「ふわふわキャンペーン」では校内の掲示板に模造紙を張り出しみんなが読めるようにした。
- ・「あいさつキャンペーン」「言葉づかいを考えようキャンペーン」「身だしなみキャンペーン」などで、運営委員からのお昼の放送を効果的に使った。例えば、「今日で言葉づかいを考えようキャンペーンが終わります。みなさん、自分の言葉づかいについて考え、良い言葉づかいができましたか。私は、教室で友達に遊べるか聞かれましたが『ごめんね。今日は用事があるから遊べないんだ』と言いました。けれど、『じゃあ、また遊ぼうね』とやさしく言ってもらいました。とてもうれしかったです。」など自分の経験を入れながらねらいを意識した話をした。

指定校番号	28008	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立可部南小学校	校長	加藤 繁	生徒指導主事	勘場 啓史
-----	------------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『可部っ子花いっぱい大作戦』

**取組のねらい** 『キーワード：地域貢献』

- ・可部中学校区の小中学校が連携して取り組むことで、すべての児童生徒の明るい町づくりに貢献していこうとする意識を高める。
- ・飼育・園芸委員会とわかたけ委員会（運営委員会）でプランターに植え替えをし、日々の世話を続けたパンジーの花を可部南小近隣の公共施設等に飾っていただく活動を通して、地域との交流を深めるとともに、住みよい環境づくりに取り組もうとする意欲を高める。

**取組の具体的内容** 『キーワード：連携と協力』

- ・ 5月…前年度に届けたプランターの回収を行う。（飼育・園芸委員会・わかたけ委員会の児童）
  - ・ 12月…飼育・園芸委員会とわかたけ委員会で協力して、パンジーの苗をプランターに植え替える。
- ↑  
飼育・園芸委員会の児童が日々の世話をを行う。
- ・ 1月…届け先の施設に依頼書を届ける。（担当教員）  
わかたけ委員会がプランターに添付するメッセージの作成を全クラスに依頼する。
  - ・ 2月…飼育・園芸委員会とわかたけ委員会の児童がプランターを持って各施設を訪れ、簡単な贈呈式のもとでパンジーの花の受け渡しを行う。  
可部中学校生徒会の生徒を迎え、プランターの交換を行う。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：子どもが主役』 ○創意工夫 ▲課題

- 飼育・園芸委員会のみで実施するのではなく、わかたけ委員会（運営委員会）と連携することで代表委員会を通じて、プランターに添付するメッセージの作成を全校に呼びかけることができた。
- パンジーの花の受け渡し式を児童が中心になって行うことで、主体的に取り組もうとする態度を育てることができた。
- ▲花を育てたり世話をしたりする期間が短く、作業も少ないため、自分達が育て上げた花という実感を児童が十分に持つことができていない。
- ▲委員会活動の日しか活動ができなため、日程や活動内容に幅をもたせることができにくく、活動時間も制限され、児童の考えを十分に取り入れるまでには至っていない。

**取組の成果（効果）** 『キーワード：地域とのつながりを創る』

・「可部っ子花いっぱい大作戦」が始まった当初は、小学校の児童と中学校の生徒と一緒にプランターへの植え替え作業を行ったり、学年で植え替え・水やり・プランターの設置を分担したりしていたが、特定の学年や教職員の負担が大きいためか活動がやや形骸化していた。そこで委員会活動、児童会活動として位置づけ、すべてのクラスにメッセージの作成を呼びかけることで、可部南小学校全体での取り組みであるという意識を高めること



に繋がった。

- ・届け先の施設の方に大変喜ばれ、贈呈式の様子を写した写真や児童からの手紙を掲示していただいたり、施設内を見学させていただいたりして、児童との交流を深めることができた。
- ・どのクラスにおいても、プランターの花を世話してくださる施設の方や花を見てくださる地域の方を意識してメッセージを考えることができた。



- ・プランターの花の贈呈後の児童の反応は、「可部っ子花いっぱい大作戦」をやってよかったと答えた児童が91%，来年もやった方がよいと答えた児童が86%であった。

#### 今後の展開『キーワード：広げる・深める』

- ・「可部っ子花いっぱい大作戦」の意義を学校全体に浸透させるために、学校放送を活用して、活動の意味や内容を伝える時間を設定する。
- ・花を植えたプランターを届けることで、「可部っ子花いっぱい大作戦」の活動が終わるのではなく、地域を明るくするために、この活動がどのように役立っているかを飾っていただいた施設への追跡取材を通して明らかにし、そのことを学校全体に知らせていく。
- ・「可部っ子花いっぱい大作戦」の活動をきっかけにして、多くの児童が地域にある施設への理解を深めるとともに、施設で働く人やそこを利用している人との交流を深めることができるような活動にしていきたい。

#### 他校へのアドバイス『キーワード：変化に対応できる特別活動』

活動の規模を大きくし過ぎたり、イベント化に走り過ぎたりすると、取り組みの形骸化を招き、過度な負担感ばかりが増大し、活動自体が長続きしません。児童の実態や地域の実情に対応できるような幅のある活動を考えることが必要です。児童・生徒にとって本当に意味のある活動なのか、地域全体に貢献できているのかなど常に振り返りながら、いつでも変えることができ、機動的に取り組める特別活動を創り上げていくことが大切です。

指定校番号	28028	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成28年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立中山小学校	校長	本家 太	生徒指導主事	猪野 康二
-----	-----------	----	------	--------	-------

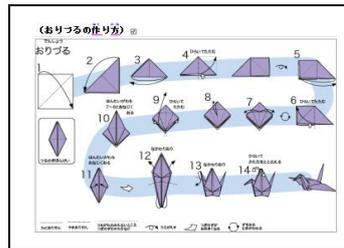
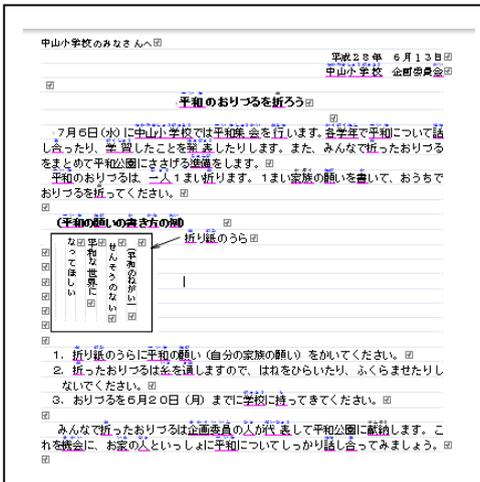
取組事例名 『平和集会』

取組のねらい『キーワード 協力』

- ・ 平和に関する歌を歌ったり、学習したことを発表したりして、平和を願う気持ちを育てる。
- ・ 児童が協力して、作り上げることを通して集団への所属感や連帯感を深める。

取組の具体的内容『キーワード 願い』

- ・ 学習発表
- ・ 千羽鶴の献納
- ・ 平和の歌



取組の課題・創意工夫『キーワード 共同』

課題

- ・ 児童会行事であり、教師主導で計画が進めつつも、児童の主体性をより引き出せるようにすること。(学習発表の部分の工夫が必要。)
- ・ 集会後の生活(児童の意欲)につながるようにすること。

創意工夫

- ・ 平和ノートなど、平和学習と関連させている。(知)
- ・ 千羽鶴づくりは、縦割り(1年と6年)のかかわりや保護者への啓発(家庭に持ち帰り、共同制作)、学級でのかかわりを意識している。(協力)
- ・ 平和の歌(全校合唱)・学習発表・千羽鶴づくり(家庭制作では、紙にメッセージを書く。学級でまとめたものにメッセージをつける。)・ピースキャンドルづくり(6年)等の取組の中で、平和へ願い(メッセージ)を発信する。(徳)

### 取組の成果（効果）『キーワード やさしさ』

- ・各学年の学習内容・様子がわかった。
- ・集会での態度や集まるときの態度がよくなってきた。
- ・全校合唱等で、所属感や連帯感が深まった。（今年度全体合唱曲「地球星歌」）

「学校評価」に係わるアンケート調査より

- ・チャイムの合図を守って生活できましたか。 88%
- ・気持ちのよいあいさつができましたか。 87%
- ・やさしい言葉をたくさん使うことができましたか。 81%

8割以上の児童ができたと回答した。

### 今後の展開『キーワード 継続』

- ・日常生活の中で、活かせるように、継続して取組・声掛けを行う。
- ・表面的な行為行動だけでなく、内面が成長していることを大切にする。

### 他校へのアドバイス『キーワード ヒロシマ』

- ・広島市の小学校に通う児童だということを忘れず、児童の実態に合わせた活動をしていきたい。

指定校番号	28035	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	上安小学校	校長	山本 伸生	生徒指導主事	保田 深雪
-----	-------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『平和集会』

**取組のねらい** 『キーワード 平和』

平和集会で、縦割りグループや地域・保護者の方も交えて、折り鶴作りをすることで、協力することの大切さや、平和の大切さについて考えることができるようにする。

**取組の具体的内容** 『キーワード みんなで』

6月14日の児童朝会と7月8日の平和集会の時に、縦割りグループ（全40班）で、折り鶴作りをした。その時に地域の方や保護者の方もグループに入ってもらい、作り方を教えていただいたり、一緒に作っていただいたりした。また、上学年の児童が下学年の児童に折り方を教えながら折っていった。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 関わり合い』

工夫①異学年交流をすることで、必然的に教えたり教えてもらったりするなどの関わり合いの活動ができるように仕組む。

②地域の方に一緒に活動していただくことで、平和への多くの人の願いが込められた取組であることを意識させる。

課題①折り方をスムーズに教えたり教えられたりできないグループがあるので担当教員が助言する。

②さらに関わりが深まるような他の取組について検討していく。

**取組の成果（効果）** 『キーワード 平和の実感』

縦割りグループでの活動を通して、異学年で教えたり教えられたりすることで、上学年の児童は自信を持つことができ、下学年の児童は、安心して折り鶴作りをすることができた。また、地域の方が一緒に折ってくださることで、交流も深まり児童全員が安心して取り組むことができた。異学年の児童や地域の方と協力して折り鶴を折る活動を行うことで、『平和』を体感することができる取組となった。

本校の学校評価アンケートで、学校が楽しいと感じている児童や保護者が9割となっているが、異学年での交流もその要因の一つであると考えられる。



## 今後の展開『キーワード なかよし』

縦割りグループでの体験を他の場面でも利用していくために、普段より20分程度長い昼休憩に、グループでの遊びを行うことにした。いろいろな活動で異学年交流を仕組むことにより、それぞれの児童が自己存在感を高めていくことにつなげていきたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード 気軽に』

縦割りグループの活動は、時間の確保や、事前準備などが大変で、取り組むのが困難なイメージがあるが、いろいろな行事に組み込むことにより、活動に要する時間や事前の準備を可能な限り押さえた上で、効果的にねらいを達成することができる。



指定校番号	28038	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立矢野小学校	校長	玉井 二郎	生徒指導主事	吉野 隆治
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『あいさついっぱい大作戦』**

**取組のねらい『キーワード 「あいさつ」で みんながなかよしの矢野小学校にしよう』**

いじめ防止強化月間の一環として、挨拶の意義を考え、進んで挨拶ができる児童を増やすことを目的に「あいさついっぱい大作戦」を実施し、いじめの未然防止に資する取組をしていくとともに、いじめのない学校風土を築く。

**取組の具体的内容『キーワード 「あいさつ」いっぱい』**

あいさついっぱい大作戦

① あいさつ運動

9月1日(木)・2日(金)・5日(月)・7日(水)・15日(木)の5日間、「あいさついっぱい大作戦」のタスキをつけ、執行委員や3学年以上の学級代表が分担して、靴箱や校門に立って挨拶する。

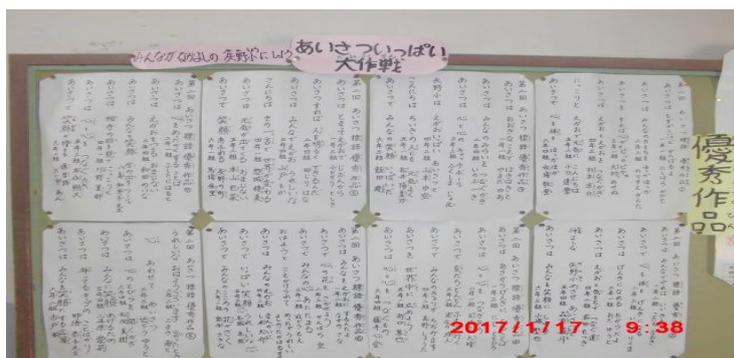


② あいさつ標語運動

挨拶標語を全校児童に募集する。(今年度は、1回目は、9月1日(木)～9月9日(金)。2回目は、9月20日(火)～9月30日(金)に実施した。)

募集ポストは、執行委員の児童が準備する。

応募されたものから優秀作品を選び、職員室前・北校舎1F西・中央・東の掲示板で紹介する。



③ その他

「あいさついっぱい大作戦」を始める前の全校朝会で、生徒指導担当の教員が、取組の意義「皆が安心して過ごせるいじめのない矢野小学校にしよう」や挨拶の仕方、挨拶標語募集について説明を行う。

教職員も意識して挨拶をして模範を示す。

各学級でも朝の会や帰りの会で挨拶のことを話題にして児童の意識を高める。

## 取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を広める』

### 創意工夫

#### ① 校内放送で優秀作品を放送

応募した標語から各担任の先生にクラスの優秀作品を選んでもらい、それを全校生徒に向け給食時間に執行委員の児童が読んで全校児童に知らせる。選ぶ作品については、担任の思いを大切にし、指導に生かせるよう、様々な視点から選ぶようにする。

#### ② 学校便りやHPで「いじめ防止取組強化月間」の取組を紹介し、地域や保護者に学校の取組を広め、理解と協力を得られるようにする。

(学校だより10月号より一部抜粋)

#### ○ あいさついっぱい大作戦

9月は広島市が制定した「いじめ防止取組強化月間」でした。本校では、その一環として、児童会が企画した「あいさついっぱい大作戦」を行いました。「あいさついっぱい大作戦」と書かれた水色のタスキを掛けた代表委員の児童が靴箱付近で元気な「おはようございます。」を響かせていました。また、あいさつ標語の募集では、たくさんの素敵な標語が集まりました。給食放送で紹介された標語の中からいくつかの作品を紹介します。

こんにちは	ひとりのえがお	みんなもえがお	(1年)
あいさつは	みんなの心が	きもちいい	(2年)
あいさつで	みんなの心に	花がさく	(3年)
あいさつは	心をみがく	あい言葉	(4年)
あいさつは	人と通じる	魔法の言葉	(5年)
顔上げて	あいさつすれば	笑顔咲く	(6年)



### 課題

教師が発案し始めた取組であるため、児童に発案を促したり、児童の発案を生かしたりすることが難しい。

## 取組の成果（効果）『キーワード 進んで挨拶』

児童に実施したアンケートの中で、「すすんであいさつをする」児童の割合が、6月の時点では全校児童の74パーセント（480人）であったが、取組を進めた9月には全校児童の78パーセン（506人）と高まった。また、多くの地域の方から「矢野小学校の子どもは、よく挨拶をする。」という話を聞くことができるようになった。

## 今後の展開『キーワード みんなで気持ちのよい挨拶ができる学校風土』

学校経営計画の重点指導事項に挨拶にかかわる指導を位置付けており、年間を通した取組が予定されている。執行委員の児童を中心とした「あいさつ運動」は年間を通して行っていく。児童に挨拶を励行する言葉掛けや指導を時機適切に行っていく。「あいさついっぱい大作戦」で取り組んだ標語を継続して掲示し、みんなで気持ちのよい挨拶ができる学校風土を培いたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード 児童とともに』

「安心して過ごせるいじめのない学校にしよう」は、どの児童も納得できると思う。

その実現には、児童の力なくして実現できない。児童の思いを生かしながら、児童に出番を用意しながら、児童とともに取組を進めていきましょう。

指定校番号	28059	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長	杉原 禎也	生徒指導主事	東 英治
-----	------------	----	-------	--------	------

**取組事例名 『ゼロ・プロジェクト そうじ時間おしゃべりゼロ』**

**取組のねらい『キーワード きれいな学校 三原ー』**

- ・掃除を徹底して行い、学校をきれいにする。
- ・集中して黙って物事に取り組む力をつける。

**取組の具体的内容『キーワード みんなで取り組む』**

- ・学級担任は、児童に掃除の仕方を事前に指導する。
- ・全教職員が率先して掃除を行い、範を示す。(教職員も一言もしゃべらず掃除をする。)
- ・「ゼロ・プロジェクト」週間に児童会役員が担当場所を点検し、がんばり表にシールを貼る。

**取組の課題・創意工夫 『キーワード 行動力につなげる評価』**

**(1) リアルタイムの評価**

- ・点検の方法は、児童会役員が前後半に分かれ、分担して行う。
- ・前後半ともに合格であれば、がんばり表にシールを貼る。
- ・掃除終了時に、点検した児童会役員が、特にがんばっていた学級を校内放送で紹介する。  
(例)「今日、特に掃除時間、集中してがんばっていた学級は、1年2組、2年1組、4年2組です。」
- ・掃除終了直後に、児童会役員が、がんばり表にシールを貼る。

**(2) 評価の見える化**

- ・できた掃除場所ごとにシールを貼り、児童のがんばりを評価する。
- ・最終日には、おしゃべりゼロの掃除場所に、シールを2枚貼ることを、前日と当日の掃除開始時に校内放送で伝え、やる気を促す。



今日もシールが貼ってあるよ。やったね。明日もこの調子でがんばろう。

これで7日間連続シールがあるよ。パーフェクトだ。

**(3) 全校朝会で表彰**

- ・がんばり表を集計し、第3位までの学級を紹介し、全校の前で紹介する。
- ・呼ばれた学級は、全員返事をして起立することで、達成感や満足感を味わわせる。
- ・1位から3位まで、シールの数が同数の場合でも、複数の学級を表彰することで、他の学級にも意欲をもたせる。



ゼロ・プロジェクト（12月の結果）

第1位…1年2組，2年1組，2年2組  
2年3組，ひまわり1組・2組

第2位…1年1組，1年3組

第3位…4年2組

※シールの数が同数のため複数の学級を表彰

【第3位までの学級を紹介】



【トロフィーを渡し表彰】



【学級全員で達成感を共有する】

※学級・学年通信で保護者にも周知し，  
家庭での評価につなげる。

### 取組の成果（効果）『キーワード 教職員・児童みんなで』

- ・学級の取組だけでなく，学年で黙って掃除することの目的を確認し，11月・12月は第1位・2位を，1年生・2年生の全学級が独占した。
- ・校内放送によるリアルタイムの評価と，がんばりシールを貼って評価の見える化を行ったことで，さらなる意欲や行動力につなげることができた。
- ・「くらしのスタンダード」に掲げている「黙って掃除している」項目において，4月のアンケート結果では，教職員と児童の肯定的評価の差が35%であったが，12月のアンケート結果では，差が2～3%になった。

※12月のアンケート結果：教職員（95.2%） 児童（92.5%） 意識の差（2.7%）

### 今後の展開『キーワード 学級から学年，学年から全校へ』

- ・児童会役員が努力を要する学級に行き，担任・児童に伝える。
- ・教職員もともに，掃除時間，隅々まで時間いっぱい集中して取り組む。
- ・「黙って掃除すること」を全校でやり切る。そのために，教職員が「やり切らせる指導」をやり切る。

### 他校へのアドバイス『キーワード 一点突破の取組』

- ・改善していく部分はあるが，ポイントを一つにしぼり，一点突破の取組を進めていく。
- ・児童も教職員もみんなで目標に向けて取り組んでいく。
- ・リアルタイムの評価で学級が固定化しないよう，校内放送の在り方を工夫し意欲や達成感をもたせる。

指定校番号	28090	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立加茂中学校	校長	藤田 岳士	生徒指導主事	馬屋原 浩之
-----	-----------	----	-------	--------	--------

取組事例名 『自律的活動を促す特別活動』

取組のねらい『キーワード 自律的活動』

「自律的活動」を促すことを通して、自己肯定感を高め、社会に貢献できる生徒を育成する。

取組の具体的内容『キーワード 関わり合い』

文化祭（学校行事）



花いっぱい運動（地域行事）



加茂川一斉清掃（地域行事）



敬老会での接待（地域行事）



取組の課題・創意工夫『キーワード 振り返る・伝え合う』

課題は、表の①②より、自己肯定感や所属・承認意識に係る肯定的評価が 80%に満たないことである。  
（学校評価アンケートより）

	項目	全体（3年生）5月
①	自分には、よいところがあります	79.7 (77.2)
②	自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。	68.6 (66.3)

工夫点 **文化祭の取組中の学活の授業で（3年生）**



**振り返り**  
振り返りの視点  
・自分や他の人が頑張っている点  
・さらに、取組（ミュージカル）の質をあげるためには、何をどのように改善すればよいか。

**伝える**  
・振り返った点を伝える。



取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感, 所属・承認意識 』

成果

(1) 下記の表より、5月と12月を比較すると、3年生の自己肯定感は、約11ポイント、所属・承認意識が約13ポイント増加した。(学校評価アンケート)

	項目	3年	
		5月	12月
①	自分には、よいところがあります	77.2	88.3
②	自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。	66.3	79.8

(2) 地域行事である「花いっぱい運動」では、行事当日に、生徒自ら、「集合の指示は、私がしましょうか」と言い、集合や作業場所等の指示を行った。

(3) 地域行事は、広島県中学校体育連盟の試合と重なる時もあったが、試合のない生徒が多く参加し、地域の方からも「試合があるのに、大勢の方に参加してもらって助かります」という声があった。



今後の展開『キーワード 振り返る・つなぐ 』

学校評価アンケートより

内容		5月	12月
校内や地域等でのボランティア活動の意義等を考えながら、積極的に参加している。	1年	61.5	58.5
	3年	65.9	69.9

・参加している1年生は、5月に比べ、11月の地域行事等では増加しているのに、項目に対する肯定的評価は下がっている。つまり、「ボランティア活動の意義等を考えながら」という点に課題がある。このことから、「行事だから参加する」という意識を変え、活動内容等の質をあげるために、ボランティア活動においても、その活動の意味を振り返るという場面を仕組み、より「自律的な活動」へと導いていく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード ねらい・振り返り・活動のつながり 』

①「振り返る・伝える」活動を仕組む。

そのためには、まず「目的に対して、振り返りの視点を具体化する」

次に、「活動内容を考える時には、目的が振り返りにつながるかをポイントにする」

②地域とつながるための校内の組織や仕組みをつくる。

地域に出向き、地域のニーズや活動を知る。そして、地域とタイアップできる校内組織や仕組みをつくる。

指定校番号	28104	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校

「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	津田和也	生徒指導主事	京谷隆宏
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『体育祭、文化祭に向けて』

取組のねらい『キーワード 規律ある集団としての行動』

- 各行事における取組を通して達成感・成就感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てるとともに、規律ある集団としての行動を体得させる。
- それぞれの取組を通して責任感や連帯感を育て、学級内での共感的な人間関係の構築、自己存在感を確立させる。

取組の具体的内容『キーワード 各々の存在感と責任感』

1 体育祭における取組

- (1) 学級を単位として多くの競技に取り組み、他の学級と競い合うことを通して、一人一人に学級の所属意識を持たせるとともに、責任感・存在感を持たせる。
- (2) 全学年を縦割りして組集団として取り組み、3年生をリーダーとして1・2年生を引っ張っていくことにより、3年生のリーダー性や1・2年生の集団に対する所属意識を育むとともに、人間的なふれあいの中で、自分を律する態度や能力を育てる。



2 文化祭における取組

- (1) 合唱コンクールの取組を通して、一人一人に役割や使命感を持たせ、「学級の一員」としての自覚を高めることで、規範意識の向上を図る。
- (2) モザイク画の作成を通して、学級内の人間的なふれあいの中で、生徒個々の存在感や責任感を育てる。



### 取組の課題・創意工夫『キーワード 課題を採点項目に』

学級や学年の取組により、課題を抱えている生徒の多くが行事に参加することができた。しかし、一部の生徒は容儀面や態度面で課題が改善されず、そういった面での指導に偏ることもしばしばあり、行事への参加自体が危ぶまれる状況もあった。

そこで、学校生活における理想的な姿を基準として服装の乱れを点数化し、採点することにした。学級の一員としての自覚に働きかけることを行い、自ら服装を正すことにつながるよう取り組んだ。



### 取組の成果（効果）『キーワード 生徒同士の自治能力向上』

自分の違反が所属学級の採点に影響を及ぼすといった意識が芽生えた生徒は、自ら服装を正し、意識しにくい生徒も学級内のお互いの声かけにより、概ね改善が見られた。服装面の改善に伴い、態度面にも、徐々に変容が見られた。

また、教職員の7割が取組に対する効果を実感しており、教職員の生徒指導に対する意識の向上に繋がった

### 今後の展開『キーワード 生徒からの発信』

各行事における生徒指導上の取組については、生徒の参加意欲が高いため、成果が顕著に表われる。これらの取組を日常的に仕組むことで、生徒相互の関わり合いから生徒指導上の課題が改善されるよう進めていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 教員のチームワーク』

- 短期集中型の取組において、なかなか成果の上がらない学校もあるが、生徒指導主事の取組に向けての「発信」に対して、本気で賛同し行動を共にできる教職員を一人でも多く増やしていくことが大きなポイントになる。これは生徒指導主事自身の働きかけの課題でもあるが、どんな取組でも「本気で動く教職員」の数を増やすことで成果も上がり、生徒自身の中にも善悪の判断ができるようになるなどの判断が見られると考える。
- 生徒が関心を持っていることをうまく活用して課題解決に向けた取組を進めることで、即効性は期待できないまでも、徐々に解決の糸口が見えてくると考える。粘り強く今後の成長を見据えて様々な取組を計画的に進めることが大切と考える。

指定校番号	28110	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	宮里 浩寧	生徒指導主事	高尾 真吾
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『行事における主体的な取組の場の設定』

**取組のねらい** 『キーワード 主体的で創造的な取組』

生徒が主体的に取り組む場を設定することにより、3年生のリーダーシップを育てる。また、新しいことに挑戦する意欲を持たせて成功体験をさせることにより、自己肯定感を高めるとともに、栗原中学校の新たな伝統を創造する。

**取組の具体的内容** 『キーワード 3年生のリーダーシップと協力』

- ・ 体育大会の縦割りチームの取組において、それぞれのチームのアピール時間（応援合戦）を設定した。昨年度よりも時間を延ばし、条件も広げて、より生徒たちの工夫が反映されるようにした。内容については各チームの3年生が中心となって考え、1・2年生に指導した。
- ・ 文化祭において、3年生が自分のクラスのアピールをする時間を設定し、この発表においても時間を昨年度より1分間伸ばし、より、自分たちの思いを表現できるようにした。
- ・ 文化祭で、栗原中学校創立70周年記念バッジをPTAと協力して作成し、全校生徒に配布した。



- ・ 文化祭において、初めて全校合唱を取り入れ、「Let's search for tomorrow」を合唱し、歌声を体育館に響かせた。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 条件の設定と教員のサポート』

課題

- ・ 取組に向けての時間の確保

創意工夫

- ・ 体育大会の応援合戦の取組においては、各チームのリーダーが集合する時間を毎日設定し、生徒会執行部と一緒に全体への指導や声かけをした。また、担当教員とともに進捗状況を確認し合い、時間・練習・内容についての条件を統一した。
- ・ 生徒に全てを任せて放任するのではなく、統一した条件の下、生徒が自分たちで創り上げたと思えるように、生徒の様子をしっかりと見ながら、トラブルが起きないようにサポートした。また、時間の確保や準備物のサポートなどをしながら自主的に活動させた。
- ・ 文化祭の表現活動については、あらかじめ時間や内容についての条件を設定し、その中で各学級の担任・生徒が創意工夫をし、取組を進めた。

**取組の成果（効果）** 『キーワード 一体感』

・体育大会の応援合戦の取組を通して、3年生が1・2年生を引っ張っていこうとする姿が見られた。1・2年生もその姿を見て、3年生への感謝の言葉や賞賛の言葉がアンケートから見られた。また、時間が延びて表現の条件も広がったことで、昨年度よりも良いものにしようとする姿勢が見られた。



・文化祭でのアピールタイムでは各学級の創意工夫が見られた。ここでも発表時間が延びたことで、「夢」をテーマにより多くのことを伝えようとする姿勢が見られた。どの学級も自分たちのカラーを十分に出して表現していた。また、それらの発表を1・2年生が真剣に見ていた。

・全校合唱では初めての取組であったが、見ている人すべてが感動に包まれるような一体感のある歌声を披露することができた。保護者アンケートでも全校合唱への良い評価が多かった。



・学校評価に係わる生徒アンケートでは「栗原中学校には生徒が自主的・主体的に活躍できる場面があります」という項目で1学期・2学期の平均が77.2%であった。

## 今後の展開『キーワード 創造と挑戦』

・これらの取組はほとんどが生徒会執行部の提案から実現したものである。自分たちが提案したことが認められて、生徒会執行部をはじめとする3年生はリーダーとして大きな達成感を得ることができた。これらの取組を新生徒会執行部が引き継ぎながら、新たなことにも挑戦させていきたいと思う。また、行事だけでなく、日頃の生活の場面においても、主体的な取組の場を設定していく。

## 他校へのアドバイス『キーワード 教職員の関わりと評価の仕方』

・生徒にすべて任せて何でも自由にさせるのではなく、条件を設定して、その中で考えさせることにより、生徒自身の創意工夫が生まれると考える。

・教員は、側面的支援（見守り、アドバイス）をし、共に頭を悩ますことにより、信頼関係が生まれると考える。

・生徒のがんばりに対する評価は、口頭だけではなく、目に見える形で評価したり、全体で紹介するなどして、自己肯定感が高まるように工夫することで、より主体的な行動が見られると考える。

# 児童会・生徒会活動

ボランティア活動などの社会参加

指定校番号	28054	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立小田東小学校	校長	信末 実智則	生徒指導主事	佐々木 祐司
-----	--------------	----	--------	--------	--------

**取組事例名** 『ボランティア清掃』

**取組のねらい** 『キーワード 自己肯定感』

地域の方々が利用される施設を感謝の気持ちを込めて清掃することを通して、地域の一員としての自覚ややり遂げることで自己肯定感を高める。

**取組の具体的内容** 『キーワード 必然性』

児童の「地域の役に立ちたい」という願いの中で、4月にボランティアクラブを結成した。「地域の方にゲストティーチャー等でお世話になっている。その感謝の気持ちを込めて、自分たちでできることは何か」と投げかけ、ボランティアクラブで活動内容を考えた。

話し合いを進める中で、総合的な学習で「甲立駅を活性化しよう」と学習を進めている4年生から、「甲立駅に取材にいった時、たばこやおかしの袋が落ちていた。甲立駅の清掃をしてはどうか」という意見が出された。

そこで、町の出入り口にもなっている「甲立駅」を清掃したいということになった。そして、児童会にも協力を求め、甲立駅を清掃することに決定した。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 主体性』

昨年度ボランティア清掃に参加した児童会役員やボランティアクラブの児童が体験を話し、全校（対象3年～6年）に参加を呼び掛けた。

「駅を利用する人から、あたたかい声をかけてもらい、やってよかった。」「きれいになったトイレを見て気持ちがすっきりした。」等の感想を聞いた他学年の児童が「やってみたい」と参加を希望し、予定を上回る児童が活動に参加することになった。

その後、児童会役員とボランティアクラブが清掃計画を立てた。駅の内外を掃除することや掃除道具の準備、人数配置、3年生の掃除場所への配慮等を主体的に考え、ボランティア清掃を実現していった。



**取組の成果（効果）** 『キーワード 貢献する意欲』

やらされる清掃ではなく、自発的な活動であり、懸命に清掃を頑張った児童の「楽しかった。」「きれいになった。」「やってよかった。」という感想を広めていくことで、自己肯定感の育成はもちろん、他の児童も「やってみよう。」という意欲をもちはじめた。

学校評価保護者アンケートの「子どもは、進んで自分の仕事や手伝いをしている。」という項目においても、肯定的評価が1学期 73.6%から2学期 77.9%と向上している。



## 今後の展開『キーワード 広げる 伝統』

平成 28 年度 4 月にクラブ活動の一つとしてボランティアクラブを結成した。このクラブは、学校内外のボランティア清掃や学校の遊び道具の片付け・整理を行っている。自分たちで活動計画を立て、主体的に活動を行っている。この活動を、より日常的な活動に広げていく。



平成 29 年度 3 月末で小田東小学校は統合され、甲田小学校になる。これまでのボランティア活動を他校にも広げ、統合された甲田小学校でも地域に貢献する活動を伝統にしていく。



## 他校へのアドバイス『キーワード 工夫』

児童の「ボランティア清掃をしよう」とする意欲や方向性を、クラブ担当者と児童会担当者が連携をし、見通しをもって、活動につなげていくように支援を行った。

全校朝会で全校児童に呼びかける機会を設けることで、ボランティアの輪が広がっていくなど活動内容の工夫を行った。

本校は「学びの変革」にかかわり、児童が「やってみよう。」「やらなければいけない。」等の意欲や必然性をもたせる課題設定の工夫を国語科、総合的な学習の時間を中心に行ってきた。この取組とつなげて、今年度のボランティア清掃では、地域への貢献や学習の中で気づいたことを課題にした。

課題解決の方法を児童に考えさせ、主体的な活動になるように仕組んでいった。これらの工夫が「自分たちでなんとかきれいにしたい。」という気持ちにつながっていったと考えている。

指定校番号	28073	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立可部中学校	校長	重森 雅穂	生徒指導主事	益田 幸始
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒会主体のボランティア活動』

**取組のねらい** 『キーワード：社会参加、居場所づくり、異年齢集団』

- ・ 地域で生徒が活動し、認められることによって自己肯定感をもつことができる。
- ・ 地域の方々に生徒と接してもらい、地域の子どもであることを認識していただくことで防犯活動にもなる。
- ・ 高齢者との交流をし、相手を気遣うという学校生活では体験できない貴重な時間とする。
- ・ 高齢者との接し方（コミュニケーション能力）や学校外でのあいさつ等のルール・マナーについて実践する場とする。

**取組の具体的内容** 『キーワード：豊かな人間性、地域貢献、あいさつ』

① ケアハウス 「かんべ村」訪問

- ・ 生徒会執行部が代議員会を通じてクラスに伝達し、ボランティアを募り、約100人で施設を訪問する。
- ・ 生徒会執行部が、「司会・進行」を行う。
- ・ 吹奏楽部の演奏発表や合唱伴奏を行う。
- ・ 執行部による劇を行う。
- ・ ゲームを考え、入居者の方々と生徒が一緒になって交流する。
- ・ 参加生徒全員と入居者の方々と一緒に歌を歌う。
- ・ 自己紹介カードを各個人で作成し、利用者の方々に話をしながら手渡す。



② あいさつ運動

- ・ PTAにご協力いただき、生徒会とも連携して登校時、校門付近にてあいさつ運動を実施する。
- ・ PTAからのあいさつ運動実施日に該当クラス生徒も参加する。
- ・ 生徒会からのあいさつ運動（スマイルキャンペーン）実施日に該当クラス生徒も参加する。
- ・ クラブでのあいさつ運動を実施する。
- ・ 生徒会執行部のあいさつ運動を実施する。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：生徒会執行部、学級単位』

取組の創意工夫

① ケアハウス 「かんべ村」訪問

- ・ 教員は、執行部のサポートに徹し、生徒主体の活動になるようにする。
- ・ 利用者との交流を行うため、自己紹介カードの作成や話をする話題、手遊びの方法などについて事前に参加者対象の説明会を開き、内容を検討するとともに準備を行う。
- ・ 高齢者の方にプレゼントするパンフレットの文字の大きさや自己紹介カードについて工夫した。

- ・ 劇を考え、使う小道具やシナリオを自分たちで作成した。
- ・ ボランティア活動として多くの生徒の参加を促すようにした。

## ② あいさつ運動

- ・ 学級単位で担任も一緒にあいさつ運動を行い、学級の所属感を醸成できるようにした。
- ・ P T Aと一緒にすることで、あいさつ運動への保護者の参加者増を期待できる。

### 取組の課題

#### ① ケアハウス 「かんべ村」 訪問

- ・ 事前の準備に十分な時間を取ることができない。

#### ② あいさつ運動

- ・ あいさつ運動へ参加できなかった生徒への配慮が必要な場合がある。
- ・ P T Aの参加数が少ない日がある。



### 取組の成果（効果）『キーワード：おもいやりの心、集団力、』

#### ① ケアハウス 「かんべ村」 訪問

- ・ 利用者の方との接し方、話し方、話すときの姿勢など相手の状況に合わせ、相手を思いやることを実践することができた。
- ・ 毎回、新たに参加する生徒が増えており、高齢者とのふれあいを楽しんで意欲的に活動している生徒が多い。
- ・ 学校で実施するボランティア活動にも参加する生徒が増えている。

#### ② あいさつ運動

- ・ あいさつをする生徒が増加し、クラス単位でのあいさつ運動にお互いが声を掛け合って、ほぼ全員が参加することができた。
- ・ 保護者や地域の方とも一緒に行うことで、学校の様子を感得し、理解してもらう事ができる。

### 今 後 の 展 開『キーワード：新生徒会執行部、学級のリーダー、任せる』

#### ① ケアハウス 「かんべ村」 訪問

- ・ 年2回の訪問開催以外に、本校の体育祭に利用者を招待するなど、様々な交流を行い、訪問への参加者を増やしていく。（職場体験でも受け入れていただいている。）
- ・ 交流内容を参加生徒や利用者が楽しめ、生徒が多くのことを感じられるようなものにする。
- ・ 行事的な取組ではなく、この体験から日常的にできる取組を増やしていく。

#### ② あいさつ運動

- ・ あいさつを「いつでも・どこでも・誰にでも」きちんとできるようにする。
- ・ この活動で旧生徒会執行部の任期が切れるので、新生徒会執行部への引き継ぎを行い、より良い活動ができるようにサポートする。

### 他校へのアドバイス『キーワード：生徒の力』

- ・ 生徒が自分たちで交流内容を工夫できるように時間の確保とアドバイスを行う。
- ・ 交流事業所との打ち合わせを入念に行う。
- ・ 担当教員だけでなく、あいさつ運動や登校指導に参加してくれる教員を増やして実施していくことが重要である。

指定校番号	28085	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立三和中学校	校長	出廣 久司	生徒指導主事	江島 太士
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『自主性を育むボランティア活動』**

**取組のねらい『キーワード 自己肯定感 自主的な活動』**

- ① 様々なボランティア活動を仕組むことで、生徒が主体的に貢献しようとする意識を高める。
- ② ボランティア活動を通して、生徒が自分で考え、判断し、行動できるような自主的な態度を育てる。
- ③ ボランティア活動を通して、達成感を味わうとともに、「認められる」ことを通して、自己肯定感を高めるとともに、自分たちの学校を自分たちで守り、日々の学校生活をよりよく過ごしていこうとする態度を育てる。

**取組の具体的内容『キーワード 生徒会を中心とした取組（生徒主体の取組）』**

<生徒会で計画している主なボランティア活動>

- 挨拶運動ボランティア…毎週1回早朝挨拶運動を石内門・河内門で行う。
- 早朝清掃ボランティア…毎週1回早朝清掃を行う
- 緑化ボランティア…プランターに花を植えて、校内を飾る。卒業式、入学式に飾れるようにする。
- 地域清掃ボランティア…地域に出て、ゴミ拾いや清掃をする。
- 校歌ボランティア…朝会するとき、校歌を執行部と一緒に歌う。
- 体育祭や文化祭などでもボランティアを募る。(例、文化祭における体育館椅子並べ等の会場設営など)

※ボランティアカードでの表彰をする。

※前期、後期の学期ごとにボランティアにもっともよく参加したクラスを表彰する。

<その他のボランティア活動>

- トイレ掃除ボランティア…「トイレ掃除に学ぶ会」の講師・保護者とともにトイレ掃除を行う。



あいさつ運動ボランティア



早朝清掃ボランティア



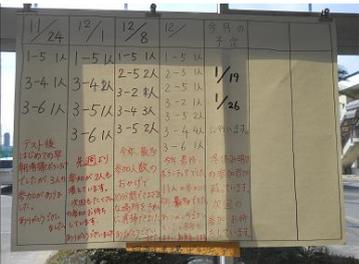
トイレ掃除に学ぶ会



地域清掃ボランティア



ボランティアカード



校内掲示（職員室前廊下）



緑化ボランティア

## 取組の課題・創意工夫『キーワード 仕組む 評価の工夫 成果の見える化 』

<取組の創意工夫>

①ボランティアカードを活用する。

自分の参加したボランティア活動を記録に残す。自分の足跡と達成感を持たせる。

②ボランティア活動参加の様子を全体に伝える。

参加人数や活動の様子を校内に掲示し、HPにも写真やコメントを載せる。また、朝会や昼の放送で全校生徒に公表するとともに、生徒の活動により学校が変わってきたこと(掃除を頑張るようになった姿など)を教員が生徒に紹介し、ボランティア活動に参加した生徒が頑張っていることを実感できるようにする。

校内掲示に執行部が参加生徒へのお礼と次回の呼びかけ等のコメントを書き、生徒が生徒にボランティア参加への意識付けをする。

③ 各分掌や部活動と連携し、取組を行う。

あいさつ運動ボランティアにおいて、生徒指導部の登校指導と一緒に行動するなど、各分掌の取組と活動を相互的、総合的、計画的に組み込んでいくことで各活動がより効果的に行うことができるようにする。

④活動をクラスにつなげる。(ペナント表彰)

ボランティアカードでの表彰だけでなく、ボランティアにもっともよく参加したクラスをペナントで表彰する。各クラスがペナントを目標にすることで個人の取組をクラスの取組に広げ、全校で達成感を持つことができるようにする。

(ペナント10枚で大ペナント1枚)



【ペナント】



【表彰の様子】

<取組の課題>

①点検活動やボランティア活動を生徒に伝えるだけの委員会にならないよう、リーダーを育てる委員会として機能させる指導の工夫が必要である。

②頑張った生徒が認められ、更に頑張りたいと思えるよう、評価活動を工夫していく必要がある。

③生徒の中に「(部活動などで)強制参加させられているのではないか。」という意識を持っている生徒もいる。ボランティア活動の取組の意義や目的を全教職員で共有し、生徒に指導していくとともに、取組を仕組んでいく必要がある。

## 取組の成果(効果)『キーワード 意識や意欲の向上 あたりまえの活動に 』

①朝会や集会でボランティア参加者や成果を報告することで、三和中学校の成長を生徒と教員が共有することができ、次の活動への意欲につながるとともに、行事間のつながりや分掌間の連携など、その後の生徒指導や分掌の取組に活かすことができるようになった。

②ボランティア活動に自主的に参加する生徒が増加するとともに、部活動や学級での参加が見られるようになり、生徒のボランティアに対する意識の高まりが見られるようになった。

(※10月のボランティア活動参加者が200名を超えた。)

③校内のゴミの減少や挨拶できる生徒が増加し、三和中学校のマナー向上が見られるようになった。

④校内に落ちているゴミを拾ってゴミ箱に捨てる生徒や落し物を拾って届けてくれる生徒が増え、校内の問題や課題に目を向ける生徒が増えた。

⑤決められたボランティアだけでなく、日ごろの学校生活や行事等でボランティアに参加してくれる生徒が増えた。褒められるからではなく『無償で』『あたりまえに』するものだという意識が生徒の姿から見られた。

## 今後の展開『キーワード 生徒主体の取組へ 』

①これまで教員側からの発案を受け、生徒会が動くという形で取り組んできた。清掃活動以外にも何かできないか、学校外(小学校や地域で)でも、できることはないか等、広く生徒からの意見を取り入れることにより、より主体性のある取組にしていく。

## 他校へのアドバイス『キーワード 組織的な取組 』

①「ボランティア活動をなぜ生徒会が取り組んでいるのか。」という活動の目的を生徒や教職員が確認し、取組を行う。

②ボランティア活動を生徒会の活動として丸投げするのではなく、分掌や部活動、学年、担任等と連携し、組織的に取り組む。

③ボランティア活動を通じて、生徒に「頑張ることによってこんな成果が出た。」「取り組むことによって学校が変わってきた。」ということを実感させ、次への意欲づけをさせる。

指定校番号	28099	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校

### 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	沼本慎二	生徒指導主事	吉岡知美
-----	-------------	----	------	--------	------

<b>取組事例名</b>	『無言清掃実施に向けて』
<b>取組のねらい</b> 『キーワード	目標に向かって行動を継続していく強い心の育成』
<p>○生徒一人ひとりが清掃を通して心を磨き、人間として成長すること  (補足)「心を磨く」とは、自分で目標を立て、目標を達成するための行動力をつけ、その行動を粘り強く継続し続ける強さを身につけていくことと捉える。</p> <p>○無言清掃を通して身につけたい5つの心  我慢する心 気づきの心 思いやりの心 感謝する心 正直な心</p>	
<b>取組の具体的内容</b> 『キーワード	リーダーの意識を高める』
<p>Step1 美化委員会にて、無言清掃の目的や意義について委員会のメンバーが理解をし、実施に向けての流れを把握する。</p> <p>Step2 生徒朝会で美化委員長が「無言清掃の目的」と「それを通してどのような力を身につけていこうとしているのか」と活動の流れを説明する。(各委員会からの報告のところで説明するのではなく、特別に「無言清掃実施に向けて」といった時間を設けて説明する。</p> <p>Step3 取組第1回目の日に、美化委員長が放送により、今日から無言で清掃を行う取組をすることを宣言し、いつも以上に早く掃除場所に行かせる。(5分前集合をめざす) 教員も集合場所にさらに早めに行き、担当掃除場所の生徒が来るのを待つ。集合後、掃除長が、メンバーの担当用具や担当場所を確認後、今日から本腰を入れて無言清掃に取り組んでいくことを説明するとともに、どこからどこまでが無言なのかを確認する。その後、掃除長が「無言清掃をはじめます」「礼」と号令をかけ、清掃を開始する。その後は一切、無言です。担当教員も無言で指導する。片付けの放送が入ったら、無言でもとの場所に集まり、掃除長が「無言清掃の振り返りを始めます」「礼」で振り返りを始める。評価を確認後、掃除長が「これで無言清掃を終わります」「礼」で終了する。担当教員は点検簿にサインをする。</p>	
<b>取組の課題・創意工夫</b> 『キーワード	生徒の生徒による生徒のための取組に発展させる』
<p>【実践するにあたっての留意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 掃除時間開始のチャイムが鳴る3分前までに掃除場所に行かせることを徹底。</li> <li>② 掃除長の開始の号令から、振り返りタイム開始の号令までは、無言で活動することを徹底。</li> <li>③ 指導に当たる教職員も無言の徹底。</li> <li>④ 全員に掃除道具を持たせることを徹底。</li> </ol> <p>【美化委員長の思いや願いを全校集会で伝える】～取組の形骸化を防ぐために～</p> <p>○本校の美化委員長が全校集会で以下のような思いを伝えてくれました。</p> <p>私が美化委員長になってから初めて皆さんの前で「無言そうじをしましょう。」と呼びかけたのは、まだ私が中学2年生のときでした。大きな不安を抱えながらも勇気を出して言</p>	

った次の日の掃除のときでした。学校内では本当に廿中の生徒全員がいるのかを疑ってしまいうらい、すごく静かになったことを今でも鮮明に覚えています。1年生の皆さんはまだ入学していなかった時のことですが、2・3年生の皆さんは覚えているでしょうか。私は、こらえないとすぐに涙が出てきてしまいうらいすごく嬉しくて、感謝の気持ちでいっぱいでした。これからも、みんなで頑張りたいと思っていました。

でも、時間がたつにつれてみんなの意識は、だんだんと低くなり、協力して無言そうじしてくれる人も少なくなり、少し前までは、私の顔を見ると「無言そうじをしなきゃ」と思ってくれていた人も、それさえもなくなり、平気で何も動かない人、中には「もう放送が流れるだろうからさっさとやめよう」と思ったことがある人もいます。

私たちが生徒会の活動をするのも残りわずかとなりましたが、私は今でもこのような状況を変えたいと思っているし、みんなと協力してやりたいと毎日のそうじ時間中に思っています。学校内にいる人全員で時間いっぱい協力してやってみませんか。共感してくれる人がひとりでも多くいると嬉しいです。よろしくお願いします。

#### 取組の成果（効果）『キーワード 掃除時間の振り返りは無言清掃達成に焦点化』

6月実施の第1回生徒アンケートの結果 第2回目は2月に実施予定

Q：あなたは無言そうじを実行していますか

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない

1：まったくあてはまらない

【4と3の割合】

1学年＝82.1% 2学年＝72.4% 3学年＝85.8%

#### 今後の展開『キーワード 他律から自立へ』

定期的に美化集会を全校や各学年集団で実施し、企画運営を全て生徒側で実行できるように主体的かつ自治的な活動へと転換していく。問題点や課題点を自らの力で発見し、改善したり質の高い清掃活動に変えていくための検討会やクラス協議の場を生徒会活動として設定していく。

#### 他校へのアドバイス『キーワード 教員の動きを揃える』

生徒が教員側が望むような動きにならない場合、次の3点についてチェックしていく必要があると考えています。

1. 生徒に取組の目標や具体的な動きや方法が明確に伝わっているかどうか  
(掃除のやり方を写真や動画で見える化する等)
2. リーダー的な役割を担っている生徒に取組の実態を把握させ、成果や課題を整理させているかどうか
3. 全教職員が、取組の具体を明確に把握し、動きを揃えることができているかどうか

指定校番号	28103	学級活動		児童会・生徒会活動	○	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	---	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中緑ヶ丘中学校	校長	谷川 清二	生徒指導主事	河本 春彦
-----	--------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『中学校区内小中連携におけるクリーンキャンペーン』

**取組のねらい** 『キーワード 望ましい集団活動』

・中学校区内の小，中学生及び教職員，保護者，地域，関係機関が一体となった体験活動を通して，児童生徒の自尊感情を高め，社会参加の意欲や態度などの豊かな心の育成を図る。

**取組の具体的内容** 『キーワード 自己存在感』

・中学校区内の町内各小学校周辺の清掃活動  
 ・各小，中学校の児童会，生徒会が中心となってお互い連携し，児童，生徒会議を通してクリーンキャンペーンの実施計画を行う。  
 ・中学校生徒会執行部が中心となり具体的な実施内容や清掃区域（コース）の設定を行い，小学校の児童会へ説明を行う。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 自己決定』

・児童，生徒会の会議の中で毎回クリーンキャンペーンの目的や目標を設定する。  
 ・児童，生徒会の会議の司会，挨拶，内容等の説明を行う。  
 ・計画に際し，コース決めや説明に必要な掲示物の準備や配布物，各グループ分けの人数調整などの決定  
 ・清掃活動当日の集合場所による司会進行や説明，グループ毎のチーフの引率による清掃活動の誘導等の実践。

**取組の成果（効果）** 『キーワード 共感的人間関係』

・「人とのかかわりあいの中で，夢や希望を持っている」生徒の割合(83.6%)  
 ・「社会や集団の中で自分の果たす役割を考えている」生徒の割合(85.7%)  
 この評価指標は，学校評価アンケートの1学期と2学期の平均を出したものである。この結果から，生徒の8割が自分の果たす役割や人と関わる中で夢や希望を持って生活していることがみられる。

**今後の展開** 『キーワード 社会的自立』

・上記のような集団による実際の体験活動を通して，より良い人間関係を築く力，主体的，実践的な態度，望ましい集団活動の方法などを身につけていくことを目標とし，社会的自立へと繋げたい。

**他校へのアドバイス** 『キーワード 生きる力の育成』

・生徒指導にとって，児童会や生徒会活動または部活動，学校行事などの最も重要な教育活動の場を通して，「知」，「徳」，「体」のバランスのとれた「生きる力」の育成を図る。

指定校番号	28113	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長	利田 亨次	生徒指導主事	得能 彩子
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒主体のボランティア活動』

**取組のねらい** 『キーワード 自己肯定感の向上』

本校の生徒の課題の1つに、自己肯定感が低いことが挙げられる（H28年7月生徒アンケート『自分には良いところがある』肯定的回答54.6%）。それを踏まえて、本校では、自己肯定感の向上を目指して主体的に学ぶ授業づくりや、生徒主体の生徒会活動を重視し取組を行っている。また、地域との交流を通して、生徒の活動に対する『外部からの評価』が重要であると考え、本校では地域でのボランティア活動や地域・保護者との交流に取り組んでいる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 生徒主体の取組』

■校区内高齢者施設「星の里」、校区内保育所「るり保育所」「北久保保育所」でのボランティア活動

- ①高齢者施設や保育所を生徒会執行部、担当教員が訪問し、活動内容について打ち合わせをする。
- ②生徒会執行部がボランティア参加者募集の呼びかけを行う。
- ③ボランティア活動に参加。その後、参加者が活動内容や感想を全校生徒に伝える。

**実施日** 7月9日(土) 9月10日(土) 10月8日(土) 12月10日(土) 2月11日(土)

<星の里での活動>

<保育所での活動>



車いすの介助の方法を職員の方から学ぶ



交流の様子 折り紙



ブラスバンド部による演奏



園児が遊ぶおもちゃづくり

■地域の清掃活動に参加

- ・2学期の土曜参観日後に地域の方、保護者と共に校区内の清掃活動を実施。
- ・7月31日(日)（尾道住吉花火祭りの翌日）朝7:00～9:00に尾道海岸通りの清掃活動を行う。  
今年度は、55名の生徒が参加。



清掃活動の様子

■尾道灯りまつりへの参加

- ①生徒会執行部が尾道市立大学美術学科と連携し、西郷寺境内での灯籠の並べ方のデザインを考える。
- ②当日に向けて、地面にデザインを下書きする練習を繰り返す。
- ④10月9日(日)西郷寺において、生徒会執行部と3年生有志でデザインの下書きをし、全校生徒が作成した灯籠を並べ点火する。



尾道市立大学との打ち合わせ



灯りまつり当日 下書きして、灯籠を並べます



■部活動による朝の清掃活動，挨拶運動

- ①毎朝 7:40～8:05，部活動ごとに清掃活動及び挨拶運動を実施する。
- ②登校してくる生徒だけでなく，地域の方にも挨拶を行う。



朝の清掃活動



お世話になっている地域の方へ挨拶

**取組の課題・創意工夫『キーワード 生徒に責任と自覚をもたせる』**

・生徒の主体性の尊重

企画，計画段階から生徒の参画を仕組み，生徒の意志や主体性を尊重し活動を実施している。さらに，ボランティア参加の呼びかけを生徒が行ったり，活動報告をしたりすることで，これまで参加したことのなかった生徒も活動に興味を持ち積極的に参加しようとする雰囲気づくりの工夫をしている。

・取組の継承と自覚

どの活動も息の長い活動となっている。これまでの生徒が取り組んできたことを生徒会執行部だけでなく全校生徒に紹介し，なぜこの活動が大切なのか伝えてきた。また，尾道灯りまつりの参加については，尾道市立大学と直接連携をとっているのは市内でも久保中学校だけである。この活動に誇りをもち，自分たちの手で地域の祭りを創りあげていくという意識を持たせている。

**取組の成果（効果）『キーワード 自発性や自主性の育成』**

生徒アンケートの結果

	H28.12月	H28.7月	7月比
	肯定	肯定	
地域や学校でしっかりと挨拶をするよう心がけている	85.9	85.9	0.0
朝のあいさつ運動(朝の掃除)に積極的に参加している	77.5	65.4	↑12.1
ボランティア活動に参加したことがある	75.9	46.4	↑29.5
異年齢交流(保育所・小学校・星の里)に満足している	73.6	72.7	↑0.9

<自己肯定感に関するアンケート結果の経年変化(現中3)>

	H28.12月	H28.7月	H27.12月
	肯定	肯定	肯定
自分にはよいところがあると思う	49.2	42.3	39.6

少しずつではあるが，取組を通して生徒が自分に自信をもち活動に参加していることが分かった。

**今後の展開『キーワード つながり』**

・教員が現状維持にとらわれるのではなく，『創造』する気持ちや雰囲気づくりを持ち続け，生徒が主体となった取組を継続させる。校内の様々な教育活動に加え地域の方との交流を図り，外部からの評価を生徒が実感できるようにする。そのことが，自己肯定感のさらなる向上につながることを教員が意識して取組を継続していく。

・外部との交流を単発で終わらせるのではなく，交流で築いた地域の方との関係や絆を学校生活や行事につなげていくことができるよう工夫していく。

**他校へのアドバイス『キーワード 地域の強みを生かす』**

・生徒実態や地域の強みなどを把握し，その学校に適した活動を実施していくことが大切である。外部の方からいただくエネルギーは非常に大きいということを教職員が理解し，共に生徒を育てていくという姿勢を大切にしていけることが重要である。

指定校番号	28117	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長	定宗讓二	生徒指導主事	小田昌滋
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『全校ボランティア』

**取組のねらい** 『キーワード 社会奉仕』

全校ボランティアで地域の清掃を行うことによって、私たちが毎日使っている通学路や生活している場所を、自分たちの手できれいにし、ゴミのないきれいな「庄原」にしていく意識を高めさせる。また、日ごろから私たちを支え、見守ってくださっている地域の方々に感謝の気持ちを表し、社会奉仕の意識を高めさせる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 主体性』

本校には運動系と文化系を合わせて13の部活動があり、ボランティア活動を部活動単位のグループで行っている。活動範囲は、学校周辺の通学路を中心にできるだけ広い範囲の清掃活動が行えるよう計画をしている。活動の回数は各学期1回の年間3回行い、美化委員会が中心となり企画・運営し、各部活動の部長が中心となり活動することによって、生徒の主体性を育てる活動になっている。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 異学年交流』

創意工夫としては、部活動単位での活動であるため異学年交流になり、上級生が下級生を指導しながら、学年の枠を超えて互いに協力し合いねらいを達成できるようにしている。課題としては、年3回実施しているが、残念ながら毎回多くのゴミを収集している。清掃活動だけでなく地域のゴミを増やさなため活動、美化委員会を中心に取り組むことができれば、更に地域社会への奉仕意識を高めることができると考えている。

**取組の成果（効果）** 『キーワード 地域貢献』

ボランティア活動は毎年行っているため、定例化した活動になっている。そのような中、生徒の社会奉仕の意識は高まっており、地域の祭りの後に生徒たちが自主的に清掃活動をし、地域の商工会からお礼の言葉を頂くなど、地域貢献にも繋がっている。

**今後の展開** 『キーワード 広がり』

今後も継続して美化委員会を中心にボランティア活動を行っていきたいと考えている。今後の展開としては、地域をきれいにするための啓発活動や、地域の方と一緒に活動できるような取組になればと考えている。また、現在行っているボランティア活動以外にも、生徒が自主的に参加するボランティア活動を今後計画していきたい。

**他校へのアドバイス** 『キーワード 自己肯定感の向上』

本校では継続してボランティアの取組を行う中で、生徒のボランティア意識が高まり、地域の中で自主的に活動できる生徒が増えてきている。また地域から肯定的な評価を頂くことで生徒の自己肯定感が高まり、それが普段の学校生活での落ち着きや地域で挨拶がしっかりできるなど行動面に表れている。



(清掃活動の様子①)



(清掃活動の様子②)



(1回の活動で集まったゴミ)

校番	031	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	-------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長	山垣内 俊行	生徒指導主事	石田 達生
-----	------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『月1（イチ）ボランティア』

**取組のねらい** 『自分たちの居場所は自分たちできれいにしよう』

生徒会長の思い「校舎をきれいにしたい」、副会長の選挙公約「学校をきれいにし、愛される学校にする」を基にボランティア清掃活動を行う。活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を養うとともに、活動の輪を拡げていく。

**取組の具体的内容** 『松高ピカピカ大作戦』

学校経営計画支援事業に「松高ピカピカ大作戦」で応募し、清掃用具（高圧洗浄機2台）を購入する。昇降口に「目安箱」を設置する。続いて、各クラスに「ドラえもんBOX」を設置し、広く意見を求める。

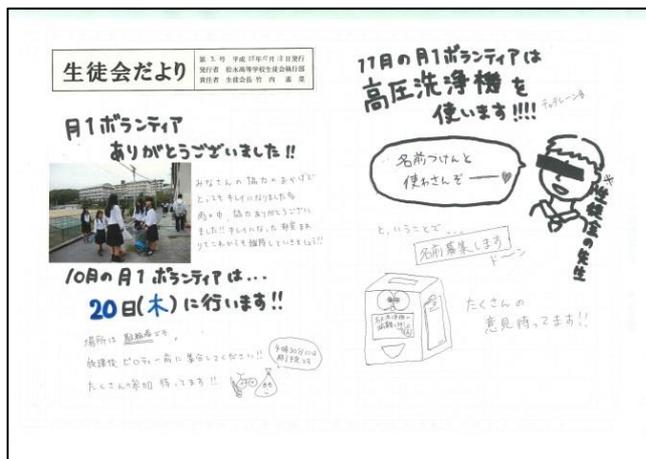
9月から「生徒会だより」を発行し、「月1（イチ）ボランティア」の情報などを生徒に広く周知する。月に1回「テーマ」を決めて、放課後に1時間程度清掃活動を行う。

「生徒会だより」を通して、成果報告と次回の案内を行う。



## 取組の課題・創意工夫『目安箱・ドラえもんBOX』

今月で5回目となる。少しずつではあるが、参加者は増加傾向にある。各クラスに「ドラえもんBOX」を置いたことや「生徒会だより」の発行が、生徒会執行部と他の生徒とのコミュニケーションツールとなり、情報の共有化が図られ、生徒会活動の活性化につながることを期待するものとなっている。情報共有をより深めていくために、「生徒会だより」等の内容の充実を図るとともに、情報を周知する方法を工夫していかなければならない。



## 取組の成果（効果）『生活環境・学習環境の維持向上』

参加人数はまだ少ないものの、参加した生徒は、自らの生活環境や学習環境を自分たちの手で整備したことで、達成感や充実感を味わい、仲間とともに協力し課題解決をめざす能力を身に付けることができたと考える。また、参加していない生徒も、汚れていた所が仲間たちの力できれいになっているのを見て、意識が変わり心が動かされていくのではと考えている。

## 今後の展開『小さな輪から大きな輪へ』

今後は、これまで参加してきた生徒たちがさらに友達を1人でも2人でも多く巻き込み、大きな輪へと広げていくこと。そして、校内での活動を充実させるとともに、校外での活動も企画・実施し、当たり前前のことが当たり前前にできる学校として、地域から頼りにされ、愛される存在になっていきたい。

## 他校へのアドバイス『継続、そして伝統へ』

これまでも「美化女子隊」などとして清掃活動等を行ってきたが、先輩から後輩へと十分繋がっているとは言えないのが課題である。しかし、松高生の取組として継続させていくことで今年度の活動が来年年再来年へと繋がり、「伝統」と呼べるものにまでなっていくのではないかと考える。

校番	065	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	-------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	校長	小迫 孝太郎	生徒指導主事	富島 俊宏
-----	-------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『鶺鴒駅の環境整備』

**取組のねらい** 『キーワード 規範意識, 帰属意識を育てる』

本校生徒が最寄駅として利用する鶺鴒駅（無人駅）が、タバコの吸い殻やゴミの放置などで汚れ、駐輪場も乱雑で自転車の盗難などもあり、大変荒れた状態となった。電車内のマナーや駅の利用など、本校生徒の状況を見られた方からの苦情も多かった。そのため、駅周辺の町内会などが中心となり、鶺鴒駅を清潔で安心して利用できるようにと平成 26 年度より「鶺鴒駅周辺を良くする会」が設立された経緯がある。

そこで、地域と一体となった清掃、植栽などの活動を通じて、地域に信頼される学校にしていきたい。また、生徒の規範意識や帰属意識の向上につなげていきたい。

**取組の具体的内容** 『キーワード 地域貢献』

- 生徒，P T A，教職員で，年 2 回の美化活動。
- 「鶺鴒駅周辺を良くする会」と生徒会での植栽。
- 教職員による月 2 回の早朝登校指導。
- 実習作品の展示。
- 駅名看板の改修。
- 花壇の整備。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 触れ合う』

- 人に見られることを意識して作品を制作する。
- 生徒の作品であることを周知し，物を大切にする気持ちを高める。
- 地域の人と触れ合うことで，帰属意識を高める。
- 本校の P R につながる。
- 一部の固定された生徒のみが活動している。

### 取組の成果（効果）『キーワード 信頼を取り戻す』

○地域住民（鶉飼駅周辺を良くする会）の意見

- ・タバコの吸い殻が減った。
- ・挨拶を返してくれる生徒が増えた。

○地域からの苦情が減った。

○美化活動に参加する生徒が増加した。

○参加生徒の意見

- ・地域の人からの期待を感じることができた。
- ・駅の状況が気になるようになった。



### 今後の展開『キーワード 継続・発展』

○定期的な整備，植栽を行い，きれいな環境を維持する。

○地域やP T Aとの連携を継続・発展させる。

○他の駅や公園など，整備する場所を拡大させる。

### 他校へのアドバイス『キーワード 体験』

○学校，地域の特長を生かしながら，校内での学習などの活動を校外につなげていく。

○さまざまな人と接すること，作品を制作する側，鑑賞する側という違う視点からものを見ることなど，さまざま体験を通して，人間性の向上につなげていく。

# 学校行事

儀式的行事

指定校番号	28063	学級活動		児童会・生徒会活動		学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	--	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	梶原 弘志	生徒指導主事	徳重 雄大
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『二分の一成人式』

**取組のねらい** 『キーワード 自立と自律』

- 厳かな機会を通して集団の場における規律・気品ある態度を育てる。
- 10年間の自分の成長の跡を振り返り、自分の成長を確かめ、自己存在感や自己有用感を高めさせる。
- 二分の一成人式の計画や実行を通して、児童の自主的・実践的な態度を育てる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 見通しを持った取組』

【目標の共有化】

4月

- 前年度の3学期に二分の一成人式が行われることを児童に伝え、二分の一成人式に向けて取組を進めていくことを示した。児童は3年生の段階で二分の一成人式に参加することで、式のイメージをもつことができていた。
- 二分の一成人式が行われる意義について話すことで、目標を共有化した。また、意欲の向上を図った。

【他行事との関連】

5月

- 運動会の入場行進や開閉会式の姿勢も、二分の一成人式との関連を図ることで、児童もより意識を高めて練習に取組むことができた。また、振り返りをしっかり行い、次の取組に繋いだ。

9・10・11月

- 音楽発表会に向けての取組を二分の一成人式との関連を図った。児童会のテーマをもとに練習や本番に挑む態度や姿勢をイメージし、意欲を向上させた。

【主体的な準備・活動】

- 児童が中心となって、二分の一成人式・第二部の計画、準備を主体的に進めさせた。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 計画・準備の充実』

【課題】

- 二分の一成人式のねらいや、各活動の意図を保護者に十分に伝えることができていなかった。
  - ・ 保護者の方々に活動の一環としてお願いすることが多くあったが、学校側のねらい等を十分に伝えることができていなかったため、保護者の負担感が大きかった。
- 小学校生活6年間を見通した取組に位置づけることができなかった。
  - ・ 二分の一成人式をもとにした一つのサイクルにおいては目標を達成することができたが、そこで得た力を他の行事で生かしたり、日常生活の中で生かしたりするための計画が不十分であった。

【創意工夫】

- 児童と教師の目標の共有化を図った。
- 二分の一成人式（第二部）の計画、準備を児童主体で行わせた。

### 取組の成果（効果）『キーワード 児童の主体性が自己存在感・有用感を高める』

- 運動会や音楽発表会などの行事，始業式などの儀式的行事において規律正しい態度で参加する力が身についた。（児童のふり返りより）
- 活動の計画段階から児童が主体的に取組み，各グループのリーダーは全体を見通し，指示を出すことができた。さらにリーダーを中心に全体がまとまり，それぞれが協力していく雰囲気は全体的につくられていった。
- 児童の自己存在感，自己有用感を高めることができた。
  - ・ASSESS（アセス 学校環境適応感尺度）による判定で，学校生活や友達とのかかわりについて，肯定的評価の児童の割合が高まった。  
4年生 6月・・・85.5％  
11月・・・87.8％（前回比2.3％増）

### 今後の展開『キーワード 広島版「学びの変革アクション・プラン」との関連』

- 特別活動の計画（学年間の系統性や関連）を見直していく。また，見直す際には，平成30年度から全県展開される広島県版「学びの変革アクション・プラン」をもとに工夫改善していく。

### 他校へのアドバイス『キーワード 学校と家庭が一体となって』

- 二分の一成人式の計画・実施に当たっては，家庭の協力が必須である。しかし，学校と家庭との認識のずれが生じると保護者は取組の負担感が大きくなったり，式実施に対する価値が下がったりする可能性がある。よって，計画段階から保護者との密な連携や丁寧な説明が大切であると考ええる。

校番	57	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成28年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立熊野高等学校	校長	山田 哲也	生徒指導主事	沖田 孝之
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『平成28年度 1年生スターティングウィーク』

**取組のねらい** 『育てたい生徒像を目指して』

新入生が入学して3日後からの一週間でスターティングウィークを実施した。その目的は、①高校生としての学習方法を習得し、自学自習の学習スタイルを確立する ②集団としての規律を遵守し、節度をもって学校生活を送る規範意識を高める ③積極的に一週間のメニューに参加し、やり遂げることで、熊野高校の一員としての帰属意識を高める の3点であった。この実現を目指すことが、本校の育てたい三つの生徒像（ルールとマナーを遵守し、相手の立場に立って自ら行動することができる生徒。学校行事に積極的に取り組み、メリハリのある学校生活を送ることができる生徒。進路目標を明確に持ち、その実現のため粘り強く努力することができる生徒。）の育成につながる。

**取組の具体的内容** 『生徒に自信を持たせるために』

平成28年4月8日～15日の一週間を、1年生のスターティングウィークとした。初日はオリエンテーション（マナトレなどの学習に関すること、シラバスや部活動の紹介など）や学年集会・校歌指導・集団行動を中心に行った。2日目は基礎力診断テストとLHR（役員決定・写真撮影・校内見学等）を中心に行った。3日目から最終日までは英語・数学・国語のマナトレと自学自習を中心に行い、そのなかで生徒全員の担任面接を設定して、担任との人間関係の構築と相互理解に努めた。また制服の着こなし方を学ぶマナー講習会や、家庭学習の大切さ・話を聞くことの大切さを学ぶ劇の鑑賞を取り入れた。以上の内容を実践していくことを通して、初めての不安な高校生活に対して、自信を持って何事にも積極的に取り組もうとする気持ちを持たせることを目指した。

**取組の課題・創意工夫** 『生徒指導の三機能を生かして』

本校のスターティングウィークは2年目になる。本年度新たに取り入れたものに、担任による生徒全員の面接がある。面接を通して担任と生徒の人間関係の構築ができ、その後の生徒指導もやりやすくなった。また相互理解が進み、早い段階で信頼関係ができた。また自学自習を全員で行うことで、自分自身にやればできるという自信が持てるようになり、集団のなかでの自己存在感を与え、共感的人間関係の育成も図ることができた。また観劇も初めて行った。「家庭学習の大切さ」と「聞くことは大事な力」というテーマを持った劇を鑑賞して、自分自身の将来を考えさせながら自己決定の場を与え、自分で決めて実行する能力の育成を図った。

**取組の成果（効果）** 『黄金の学習サイクル』

マナトレを行うことで学び直しができ、学習理解が深まった。スターティングウィーク中の学習活動は、実力アップの合理的な方法として、**予習** → **授業** → **質問** → **復習** → **定着・発展**の黄金の学習サイクルの確立を目指した。これにより自分の学習スタイルを見直して挑戦する姿勢を育むことができた。また学習の目標として、①高校における学習の進め方を習得する ②自学自習の学習スタイルを身につける ③勉強すれば問題は解けるようになることを理解する という3点を掲げ、基礎力診断テストで入学時の実力を確かめ、マナトレを活用して高校での学習の基礎となる内容の総復習を行った。これにより学習に対する自信を持つことができ、高校生活へスムーズにスタートができることとなった。学習の定着でいえば、定期考査前一週間の学習時間調査の数値を見ると、昨年度1学期の中間・期末考査前一週間の学習時間の一学年平均が151.3時間であったのに対し、本年度は152.4時間と僅かだが増加している。

## 今後の展開『更なる目標へ』

学習に向かう姿勢はきちんとできるようになった。また学習をあきらめないという姿勢も見られ、定期考査で伏せてしまう生徒が少なくなった。自己存在感が持てるようになって、前向きな気持ちが高まってきた結果であると考え。学習理解の点では、補習などを行って基礎学習の定着を図る取組を続けたい。規範意識を持たせる点では、1年生に問題行動が2学期末まで1件しか起こらなかったこと、遅刻指導や服装指導の数も昨年度より減少していること等、色々な面で前進が見られた。基礎基本の定着と規範意識の醸造を更に目指したい。担任による面接は大変効果的であったが、授業とともに面接も行うという担任の負担が大きかった。来年度は面接の時間を増やし、担任の授業を減らすなどの手立てを行うなど、担任と生徒との人間関係を更に築いていけるような工夫を講じたい。

## 他校へのアドバイス『達成感』

3年前まで実施していた江田島宿泊研修を取りやめて、2年前からスターティングウィークを実施している。1週間かけてじっくりと学校独自の学習メニューを考えて、まず高校生活に慣れさせていくこと、高校の学習方法を学ぶこと、集団としての規律の大切さを学ぶことを理解させることで、熊野高校の一員となったという達成感を持たせていくことが図られ、それが生徒のやればできるという自信にも繋がった。スターティングウィークは新入生にとって意義のある一週間であると考えている。

### [スターティングウィークの様子]



ルールブックの内容を確認しながら学習する



オリエンテーションで意欲的にメモを取る



部活動紹介での先輩の姿を熱心に見学する



校歌指導では全員で輪になって歌う



マナー講習会の話真剣に聞き入る



マナトレに真剣に取り組む

# 学校行事

文化的行事

指定校番号	28039	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立手城小学校	校長	宮本 加代子	生徒指導主事	澤田 実
-----	-----------	----	--------	--------	------

取組事例名 『学習発表会』

取組のねらい『キーワード 一点突破』

2学期の積極的生徒指導の取組として、学習発表会を選択し、教育資源を集中させた。下記のような資質・能力を向上させ、教育活動全体に展開していくことをねらった。

- (1) 自己肯定感
  - ①大人や上級生からほめられたり、下級生から認められたりする経験を通して、自尊感情を高める。
  - ②合奏など、一人一人が違う役割を分担する体験を通して、自己存在感を高める。
  - ③ねばり強く練習し、演奏技能が徐々に向上する経験を通して、自己効力感を高める。
- (2) 社会的資質
  - ①ルールに則って行動することの大切さを体験させることにより、規範意識を醸成する。
  - ②感性を豊かにすることにより、相手の気持ちを思いやったり、協調したりする力を育てる。
  - ③主体的・協働的に学ぶ経験を通して、コミュニケーション能力を伸長する。

取組の具体的内容『キーワード スマールステップ』

- (1) 目標
 

学年課題をもとにスローガンを設定した。児童の意欲が継続しやすいように、目標をスマールステップに細分化した。
- (2) 評価
 

自己指導能力を育成するため、授業の終末には、振り返りの時間を確保した。
- (3) 見える化
 

各学年の達成状況を図1のように体育館壁面に掲示し、系統性を持たせたり、お互いに参考にし合ったりして、組織的に取り組んだ。



図1 体育館掲示

取組の課題・創意工夫『キーワード 関わり』

- (1) 異学年交流
 

学習発表会のリハーサルとして、校内発表会を実施した。終了後は、1・6年、2・5年、3・4年の各兄弟学年に対して、良かった所を図2のように手紙形式で書いた。児童の自尊感情を高めるため、手紙を冊子として綴じ、お互いに贈り合った。児童は、休憩時間等に、熱心に手紙を読み、喜び合っていた。手紙の中に、同じ登校班やたてわり班の児童の名前を探し、会った時にお礼を言うなどして関わりを深めていった。
- (2) 保護者連携
 

学習発表会に向けて、リコーダー練習など、家庭学習に取り組んだ。信頼関係を築くため、連絡帳に書いたり、電話連絡したりして、児童のがんばりや成長を共有した。学習発表会終了後は、図3のように保護者アンケートを実施し、学級活動や特別の教科道徳で活用した。

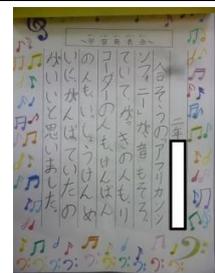


図2 児童の手紙

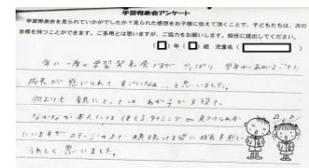


図3 保護者アンケート

## 取組の成果（効果）『キーワード 社会性』

図4は、アンケート「チャイム席を守っている」、「だまってそうじができています」について、肯定的回答をした児童の割合の変化を表したものである。

### (1) 時間を守る

学習発表会に向けて、体育館と音楽室の教室使用について各学年に割り振った。限られた貴重な練習時間のため、時間を大切にしようとする意欲が高まった。学年で練習するため、他学級に迷惑をかけるはいけないという意識も高まった。

### (2) 一生懸命掃除する

目標に向けて粘り強く努力したり自分の出番を黙って待ったりする体験を通して、耐える力が伸長した。また、集団行動を通して、学校や学年・学級への帰属意識も高まった。

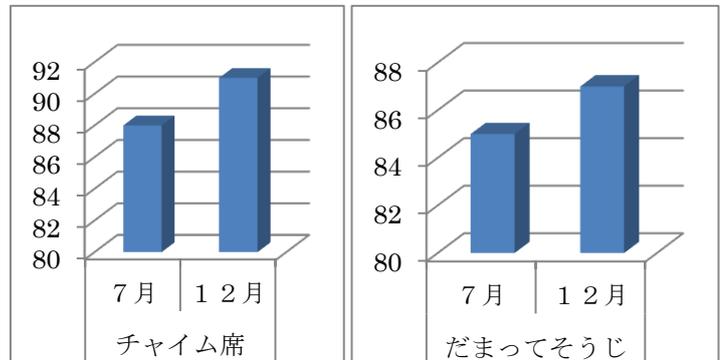


図4 児童アンケート結果

## 今後の展開『キーワード 広がり』

### (1) リーダー育成

児童が主体的に学べるように、活動意欲の高い児童を合唱・合奏リーダーとして指名し、教え合う取組を行った。児童の意欲は、ますます高まり、合唱クラブを結成するまでになった。

今後は、この成果をあいさつ運動などに生かしていく。あいさつリーダーを指名し、学校にあいさつをあふれさせることにより、支持的な学校風土を醸成していく。



図5 リーダーがつけるカード

### (2) 地域

学習発表会の成果を生かして、ふくやまジュニアミュージックフェスティバルに参加した。ふくやま芸術文化ホールの大観衆の前で演奏し、児童に大きな達成感を体験させることができた。表彰も受け、自尊感情が高まった。福山コーラスフェスティバルに出演することになり、テレビ局の取材を受けるまでになった。

今後は、活動をさらに広げ、地域の方々を招待する感謝祭で合奏を披露する。また、3学期の取組として、6年生を送る会で学年の出し物を発表し合ったり、卒業証書授与式で感動の歌声を響かせたりしていく。



図6 ミュージックフェスティバル

## 他校へのアドバイス『キーワード 組織』

本校学習発表会が成功した大きな要因は、学年団で取組んだところにある。それぞれの学級の良さを組み合わせることにより、大きな成果を上げることができた。学年単学級の小規模校においても、学年を組み合わせたり、全校合唱したりする等して、組織的に取り組むことが効果的であると考えられる。

指定校番号	28045	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	沖野 稔則	生徒指導主事	瀬尾 啓子
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『全校合唱』

取組のねらい『キーワード：自己肯定感を高める』

◎全校児童が歌声を合わせることの楽しさ、響き合いの美しさを共有する活動を通して、協調性、感性、自信感を育て、自己肯定感を高める。

取組の具体的内容『キーワード：自信をもたせる練習と披露の場の設定』

- (1) 「音楽朝会」を毎月1回（原則第4火曜日：10分間）実施…全校児童が体育館に集い全校合唱
  - ・年度初めに、「音楽朝会」の年間計画（曲目、ねらいと内容）を担当が提示…CDも一括配布
  - ・音楽委員会児童が学級用掲示歌詞カードを作成し配布
  - ・放送委員会児童が昼の放送時に曲を紹介
  - ・「音楽朝会」までに学級で練習し、歌詞を覚えるよう担任が指導
  - ・5・6年生から「音楽朝会」の『ステージメンバー』を募集



- (2) 「歌声タイム」を毎週月曜日の朝に設定し、担当が放送により「音楽朝会」で合唱する歌の指導…児童は各教室で合唱

- (3) 全校児童が「全校合唱」
  - ・歌声タイムや音楽朝会、全校音楽（音楽授業）で練習してきた曲を学習発表会で保護者や地域の方に披露



取組の課題・創意工夫『キーワード：さらなる自己肯定感の向上に向けて』

- 「音楽朝会」に向けて、5・6年生から、『ステージメンバー』を募集し事前に練習する。当日は、ステージで、歌い方の手本を示し、みんなからの称賛を受け、自己肯定感を高めることにつながる。
- 学習発表会の全校合唱に向けて、5・6年生から『ソロメンバー』を募集し事前に練習する。全校合唱の一部に、『ソロメンバー』だけで歌唱するパートを取り入れる。
- 「歌声タイム」のときも、各学級の合唱の様子を担当が見て回り、良かった点を放送で伝える。
- 学習発表会では、保護者や地域の方から、メッセージカードに感想を書いていただき掲示した。
- 「音楽朝会」「歌声タイム」「全校音楽」「ステージメンバー」「ソロメンバー」等、一連の活動を全校でバックアップしていることが、成功につながっている。



## 取組の成果（効果）『キーワード：自己肯定感・自己有用感の向上』

○保護者や地域の方から、「全校合唱」を聴いて感動したという声をたくさんいただいた。

<メッセージカードより>

全校のみなさんへ  
みなさんのもつ歌の力はすごいですね。  
心が洗われました。

全校児童のみなさんへ  
全校合唱とてもすてきでした。気持ちのこめられた歌声に感動して涙が出ました。

廿日市小学校のみなさんへ  
子どもたちの一生懸命がんばる姿、心をこめて歌う姿に感動して涙が出ました。  
すばらしかったです。



○『ステージメンバー』や『ソロメンバー』には、日頃、登校を渋ることのある児童や遅刻の多い児童、特別支援学級児童なども自分から進んで参加しており、事前に渡している練習日程を見て、遅れないように練習に参加している。本番もみんなからの称賛を受け、よい表情をしていた。

○他の取組とも合わせ、自己肯定感、自己有用感が高まった。

- ・ 6月基礎・基本定着状況調査…自己肯定感82％，自己有用感72％
- 1月学校評価児童アンケート…自己肯定感85％，自己有用感79％

## 今後の展開『キーワード：感謝と次の学年への準備』

- ・ 1・2月の「音楽朝会」は、卒業生やお世話になった方への感謝の気持ちをこめて、『さくら』を合唱する。3月は、6年生を送る会や卒業式、離退任式で、心をこめて合唱する。
- ・ 年度末に、「廿小アシスタント」の募集（現5年生）と紹介を行うことを通して、新6年生に上級生としての役割や責任を意識させ、自己肯定感、自己有用感をさらに高める。  
→ 教務部と生徒指導部との連携
- ※ 「廿小アシスタント」は始業式の朝、「廿小アシスタント」ネームホルダーをつけて、低学年児童のクラス替え名簿から名前探しを手伝ったり、新靴箱や新教室へ誘導したりする。

## 他校へのアドバイス『キーワード：全校での取組』

- ・ 年間通じて、継続して計画的に進めることが重要であるため、全校で協力体制を築き、取り組むことが必要である。

指定校番号	28048	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長	林 真由美	生徒指導主事	新居 美保
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『平良っ子まつり』

**取組のねらい** 『自ら考え、行動し、みんなで伸びる平良っ子』

- ふれあいの場とする。
- 練習や準備を通して、表現力やかかわり合う力を育てる。
- 児童の自主的な活動意欲を高める。

**取組の具体的内容** 『進んで、かかわり合い、学び合い』

- 交流の場の設定
  - ・ 委員会による体験コーナー  
異学年との交流（1～6年生）
  - ・ 来校された地域の方へのおもてなし（4年生）
- 児童が意欲的に活動し、自信をもてる場の設定
  - ・ 委員会活動に係る全校児童に向けての展示・発表・体験コーナー等担当での活躍
  - ・ 委員会コーナー参加の下学年の喜びや満足感
  - ・ 地域の方から頂いた温かい言葉
- 互いに学び合える場の設定（5・6年委員会活動，4年総合的な学習の時間）
  - ・ 話し合い活動の充実
  - ・ 準備での協力
  - ・ 本番での役割分担

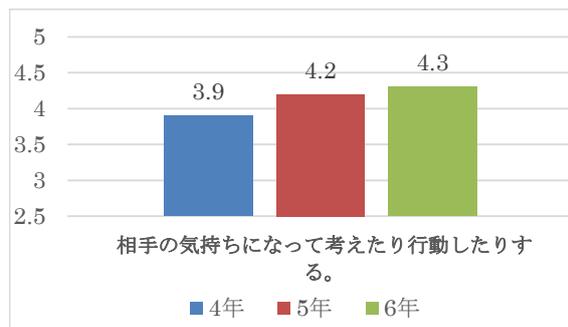
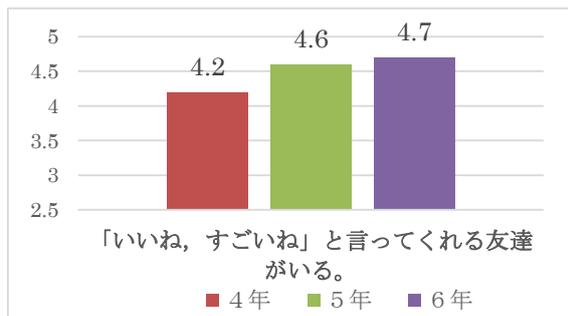
**取組の課題・創意工夫** 『生かす』

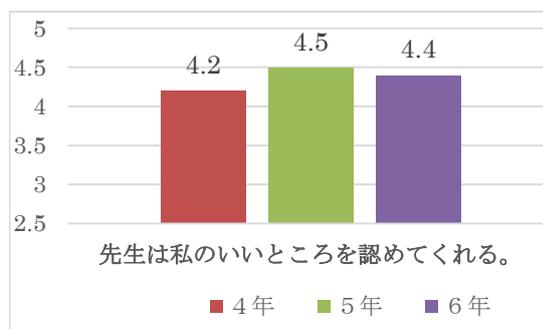
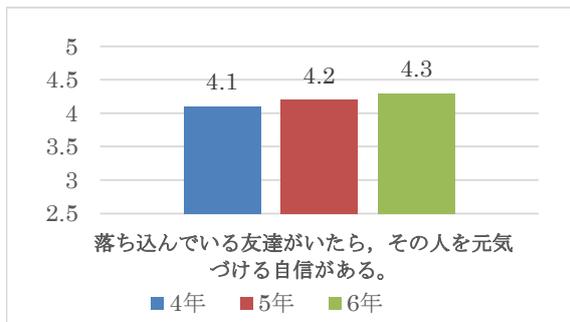
- 限られた時間
  - ・ ねらいの明確化，共通認識を図った「付けたい力」の設定
  - ・ 教職員の事前打ち合わせ，準備
  - ・ 児童の話し合い，準備時間の確保（5・6年委員会活動全3時間，4年総合的な学習の時間）
- 限られた材料
  - ・ 身近にあるもの，常時活動で使用するものの準備，収集
  - ・ 教職員の事前準備，打ち合わせ，時間
- 学びを生かす
  - ・ 計画に基づいた活動
  - ・ 教科での学習内容，方法を生かす。

**取組の成果（効果）** 『みんなと一緒になら、やればできる。』

第2回アセス（11月）の結果から、「他人（友達・教師）から自分は認められている。」と感じている児童が多いことが分かった。また、次のグラフから、「友達のことを考えて行動できる。」と感じている児童が学年が上がるごとに多くなっている。

これらの結果から、この取組を通して、自分のよさを認め、他者のことを考えながら行動できると感じている児童が多くなることが分かった。





<取組の様子>

「平良っ子まつり」  
委員会コーナー

話し合いながら、準備を進めています。



4年生は、総合的な学習の時間に、「ボランティア」について学習しました。学んだことを生かして、休憩に来られた方に、「どうぞ。」とお茶のおもてなしをしています。



5,6年生が作り方や遊び方を教えます。アナウンス体験や、しおり・学校掲示物、そうじ道具などを作る工作、豆つかみや運動など多彩なコーナーがありました。



**今後の展開『つなげる』**

- ・ 児童が主体的に取り組める機会や場の設定を計画的に行い、次の学びにつなげる。
- ・ 異学年、地域・保護者の方との関わり合いの場を設定する。
- ・ 学びを深め、学びをつなげる話し合い活動の充実を図る。

**他校へのアドバイス『きっかけづくり』**

- ・ 児童が自分達で考えて活動しようとする機会を日常的に仕組んでいく。
  - ・ ねらいを明確にし、児童の実態に即した活動計画を立てる。
  - ・ 指導することを明確にした上で、児童に任せる活動を設定する。
- これらを念頭に置いて、児童自らが「考えるきっかけ、動くきっかけ、関わるきっかけ」をつくり、主体的に活動する児童を育成していきたい。

指定校番号	28055	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長	佐々木 亮	生徒指導主事	細川 隆典
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『夏季マーチングバンド合宿』

**取組のねらい** 『キーワード 人間関係づくり・自主性』

- 集団生活を通して、規律や協力することの大切さを学び、協調性や連帯意識に基づくよりよい人間関係を育てる。
- 3泊4日の長期の合宿で行われる集団生活を通して、児童の自主性をはぐくむ。
- 普段できない活動を通して、合宿を支えてくださる人々に感謝の念を持たせることで、子供達の道徳性を高めていく。
- バンド練習を集中して行うことで演奏技術を高める。音楽活動を通して心を豊かにし、感動を味わう。

**取組の具体的内容** 『キーワード 集団活動による人間関係づくり』

平成 25 年度から始まったマーチングバンドの合宿は、翌 26 年度から山・海・島の体験活動として、5・6年生の参加によって行われてきた。今年も夏季休業中に3泊4日の日程で、校区内にある川・森・文化交流センターで合宿を行った。マーチングバンドの合宿は、児童の道徳性を育成するために、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動の豊かな体験活動を積極的に取り入れてきた。バンド練習に関しては、楽器のパートごとに分かれて切磋琢磨する演奏指導を行い、合宿の最終日には、地域の方や保護者の方に日頃の感謝の気持ちを伝える「ありがとうコンサート」を開催し、コンサートの中では練習の成果を発表するだけでなく、合宿を行うことができたことに感謝する気持ちを、多くの観客の前で自分の言葉で伝えている。コンサートは成功に終わり、子供達は満足感や達成感をもって本年度の合宿を終えることができた。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 様々な活動』

マーチング練習をメインとしながら様々な活動を仕組む

- 児童に関して
  - ・楽器のパートごとに分かれた楽器練習，大学生との演奏会
  - ・パートリーダーを中心にした話し合い活動，協力しての活動，規律ある生活
  - ・部屋での寝食を伴った集団生活
  - ・自然の中での川遊び，飯盒炊さん，星空観察
- 保護者・地域に関して
  - ・保護者と連携しての昼食づくり，保護者の演奏会の鑑賞
  - ・大学生による児童への楽器の指導，専門的な技術を持った指導者による演奏指導
  - ・地元施設を利用した合宿活動，地域の方々の演奏会の鑑賞



### 取組の成果（効果）『キーワード 満足感』

具体的に合宿後のアンケートから、「自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる。」という項目では、児童の100%が肯定的評価を行っている。「自分とちがう意見や考えを受け入れることができる。」も同様に100%の肯定的評価を行った。「責任を果たすこと」「人を受け入れること」は、人間関係づくりの基本でもあり、合宿の成果があったと言える。アンケートの自由記述の中には「いろいろ教えてもらったり、支えてもらったりした人に感謝したい。」という感謝の気持ちが出ているものが多くあり、子供達の道徳性も高まってきた。

4日間を通して、寝食を共にし、指導をしていただいたボランティアの大学生とは、心が通い合う人間関係になることができた。また合宿の生活から、普段の生活を多くの人々に支えてもらっていることに気付いた子供達が多かった。



### 今後の展開『キーワード 発展的な継続』

夏季マーチングバンド合宿に代わる他の活動も検討したが、来年度も今年度に引き続き、夏季マーチングバンド合宿を実施する予定である。次年度もマーチング練習をメインに据えながら、他の活動を充実させ、人間関係づくりや児童の自主性を高めていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 活動・保護者・地域』

本校ではマーチングバンドによる活動をメインの活動として合宿の中心にすえている。合宿の中心を充実させることによって、他の活動も活性化することができると考えている。また保護者や地域と関連した活動の工夫によって、子供達は夏季マーチングバンド合宿が多く身近な人々によって支えられていると実感できる。

指定校番号	28069	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立戸坂中学校	校長	丹 孝子	生徒指導主事	奥村 聡
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『生徒が輝く文化祭』

**取組のねらい** 『キーワード 文化祭を成功させよう』

生徒が主体的に活動できる活躍の場を様々な場面で設定することにより、自己有用感や達成感を得られるようにする。また、落ち着いた雰囲気の中で文化祭に臨み、他学年や他クラスの発表を静かに聞くことができる鑑賞態度を身につけさせる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 活躍の場の設定』

- 文化図書委員会を中心にして 2016 年度文化祭の『スローガン』決定。  
決定したスローガンを全クラスでポスターにし校内に掲示。



- 縦割り学級による合唱交流会。  
3年生の文化図書委員が司会進行をし、学年間での交流を行う。会場は体育館・第1音楽室・第2音楽室の3か所で行う。交流後は各クラスの指揮者が講評を述べる。



- 文化祭ステージ発表の行われる前、1週間にかけて着ベル・身だしなみの2点に関してチェックを行う。

着ベル点検 - 代議員会 (各クラスの代議員が点検する)

点検時間…1時間目開始時～6時間目開始時まで。文化祭のステージ発表の部においては、全3回の休憩終了後に行う。

集計方法…その日の着ベル点検結果は、その日の6時間目の終了直後に代議員が点検表(事務室前)に記入する。

身だしなみ点検 - 保健体育委員会 (各クラスの保健体育委員が点検する)

点検時間…朝学活。文化祭のステージ発表の日は、開会式の前に一斉に行う。

集計方法…その日の身だしなみ点検結果は、その日の6時間目の終了直後に保健体育委員が点検表（事務室前）に記入する。

### 取組の課題・創意工夫 『キーワード すべての委員会で文化祭をつくりあげる』

縦割りの合唱交流会を、司会進行を文化図書委員会、講評を学級の指揮者とし、交流会の運営全体を生徒主動で開催した。

また各委員会が文化祭にそれぞれ主体的に取り組めるように、役割の分担をした。「時間を守る」意図の着ベルは代議員会、「容儀を整える」意図の身だしなみは保健体育委員会、文化祭会場を含めた美化整備は美化委員会、というようにそれぞれの委員会ごとに分けた。

点検活動においては、概ね委員会の生徒が判断したが、いくつかのケースで判断をできないことがあり、担任や教科担任の手助けが必要であった。また、身だしなみの点検においては遅刻者の扱いで判断に迷う部分があったので、今後はそのあたりのところもあらかじめ明確にしておく必要がある。

### 取組の成果（効果） 『キーワード 生徒同士の働きかけ』

縦割りの合唱交流会では、文化図書委員の生徒だけではなく3年生が交流会をスムーズに進行するようにリードした。上級生は下級生の見本となるべく意識を高め、下級生は上級生の姿や歌声から学ぶべきものを見出すよい機会となった。

合唱コンクール当日、休憩後の集合・着席が委員会を中心とした生徒の声かけにより比較的スムーズにできた。ほとんどのクラスで代議員が中心となり生徒同士の積極的な働きかけができていたと思う。

「時間を守る」ということにおいては多くの生徒が意識をし、実行に向け努力していた。また、「容儀を整える」ことについては、最初の呼びかけから最終目標をステージ発表のステージ上であることを意識させ、クラスの中の生徒同士がお互いを点検し合い、できていない生徒に声をかけるといった生徒同士の働きかけができていた。

### 今後の展開 『キーワード 生徒主体での活動を増やす』

学校生活における様々な場面で取り組みが活かされるように生徒主体で活動する場を増やしていきたい。教員主導ではなく生徒のほうからの呼びかけで、今まで以上に全体が意識をして動いていけるようになればいいと思う。また、学年ごとに集まる機会も同様に、身だしなみを正すことも含めて生徒による呼びかけを中心にして進めていけるようしていきたい。そしてそういう機会を増やすことによって、リーダーシップのとれる生徒を育てていきたい。

3年生は卒業式を、1・2年生は修了式を今年度のゴールととらえ、何らかの形で達成感を感じることができるよう指導していきたい。

### 他校へのアドバイス 『キーワード ゴールを意識した取り組み』

他校にアドバイスできるようなことは特にないが、本校では自己有用感や達成感の向上を目指し、「文化祭の中で、どれだけ生徒が活躍できる場を設定できるか」という発想からこの取組が始まった。

縦割り合唱交流会では3年生がリーダーシップを発揮し自信を持つことができたし、1・2年生については自分たちが目標とすべき姿を目の当たりにできたこともよかったと思う。

文化祭というと、どうしても生徒の意識の中にお祭りの気分があるため、「時間を守る」ことや「容儀を整える」ことについて1週間前からの意識付けを目的に始めた。取組期間からすでにコンクールが始まっているという意識を持った生徒が多数いて、しっかりとゴールを意識させることができたのは良かったと思う。

指定校番号	28080	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立己斐中学校	校長	藤岡 博幸	生徒指導主事	坂本 祐資
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『文化祭』(ステージの部、展示の部)

**取組のねらい** 『キーワード 協力・交流・共感』

1. 全校生徒が目標に向かって協力して取り組み、地域との交流を深め、文化的な意識を高める。
2. 合唱の取組を通して、学級の仲間や他の学年のよさを認め合い、達成感をあじわう。
3. ステージ発表や展示発表を通して、豊かな表現力、また鑑賞する力を養う。

**取組の具体的内容** 『キーワード 団結・自己肯定』

1. ステージ発表の部<広島市西区民文化センター>

- |            |                           |          |          |
|------------|---------------------------|----------|----------|
| (1) クラス合唱  | (2) 学年合唱                  | (3) 全校合唱 | (4) 教員合唱 |
| (5) 吹奏楽部演奏 | (6) ワークショップ西風舎さんの合唱とメッセージ |          |          |



3年生 学年合唱



2年生 クラス合唱

2. 展示発表の部<本校体育館>

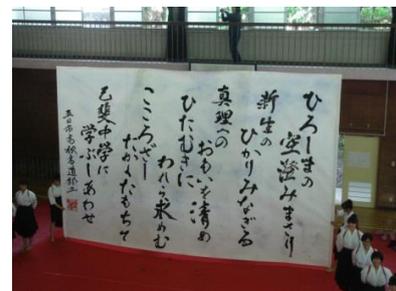
- |                    |         |                    |         |
|--------------------|---------|--------------------|---------|
| (1) 美術科            | (2) 国語科 | (3) 社会科            | (4) 家庭科 |
| (5) ルーム<特別支援学級>    | (6) 美術部 | (7) 生徒会～楽しい学校づくり標語 |         |
| (8) PTC (五日市高校書道部) |         |                    |         |



美術科



ルーム〈特別支援学級〉



PTC (五日市高校書道部)

## 取組の課題・創意工夫『キーワード 自主的な生徒の活動・交流』

### 【課題】

- ・ステージ発表において、昼食場所がないために午前中のみ開催にならざるを得ない。その結果、短い時間に多くの内容が盛り込まれ、時間調整のためにカットせざるを得ない部分が生じた。
- ・ステージの看板設置およびリハーサルが前日の午後からの開始になるため、リハーサルの終了が夕方遅くになってしまった。

### 【創意工夫】

- ・生徒会執行部の生徒によって企画及び運営をおこなった。
- ・クラス合唱の取組のなかで《縦割り交流会》や《学年交流会》を通して、他のクラスや他の学年と評価しあいお互いに高めあうようにした。
- ・あらたに教員合唱を取り入れ、教員集団ののんびりも見せるようにした。
- ・障害者就労支援施設「ワークショップ西風舎」の人たちの合唱を聴き、またメッセージを受けることを通して、障害者理解を進めた。

～生徒作文から～

- ♪西風舎さんの手紙（メッセージのこと）で感動して思わず泣いてしまいました。
- ♪最優秀賞は取れなかったけれど、クラスみんなでひとつになれて、とても楽しかった。
- ♪悔いはない。でも、もう練習せんかって思ったらいやだなあ。
- ♪時々、意見が合わず喧嘩のようになることもありましたが、この曲を歌うと元気が出ます。
- ♪クラスのみなどとここまでがんばってきて、本当によかったなあと思います。
- ♪音程をとるのが難しかったり、声が出なかったこともあったけれど、みんなで助け合ったことで乗り越えることができました。

## 取組の成果（効果）『キーワード 共感的な人間関係』

- ・保護者対象の学校評価アンケートのなかの「学校は、行事に生徒が主体的に取り組むように努めている」という設問に対して、「とてもあてはまる」と「だいたいあてはまる」という肯定的な評価が98%を上回った。
- ・どのクラスも、生徒どうしの関係がより深まり、協力して課題を解決していこうとするようになった。
- ・人の話を聞くという場面で、話をする人のほうをしっかりと向いて、聞けるようになった。

## 今後の展開『キーワード 当たり前のレベルアップ』

- ・「聴くときのマナー」とか「服装を正そう」といったことは、文化祭のときに限ったことではなく、平日頃からできているようにしなくてはならない。さらに、本校で進めている『あ・じ・み（あいさつ・じかん・みだしなみ）』の取組につなげ、本校の「当たり前のことが当たり前でできる己斐中」のレベルアップをはかっていきたい。
- ・教員間における共通理解を進め、日ごろの授業や他の行事においても、生徒自らが考えて、協力し、課題解決をしていく場面を設けていくことが必要である。

## 他校へのアドバイス『キーワード 基底に生徒指導』

- ・いくら内容のある話をして、生徒の方に「聞こう」という姿勢がなくては、生徒のものになっていかない。学習に取り組もうとする自主的な態度を培うことは、指導を進めていく前提ではないだろうか。生徒にとって学習しやすい環境を整えて、落ち着いた生活を送らせることに、生徒指導の意味があると思います。

指定校番号	28086	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

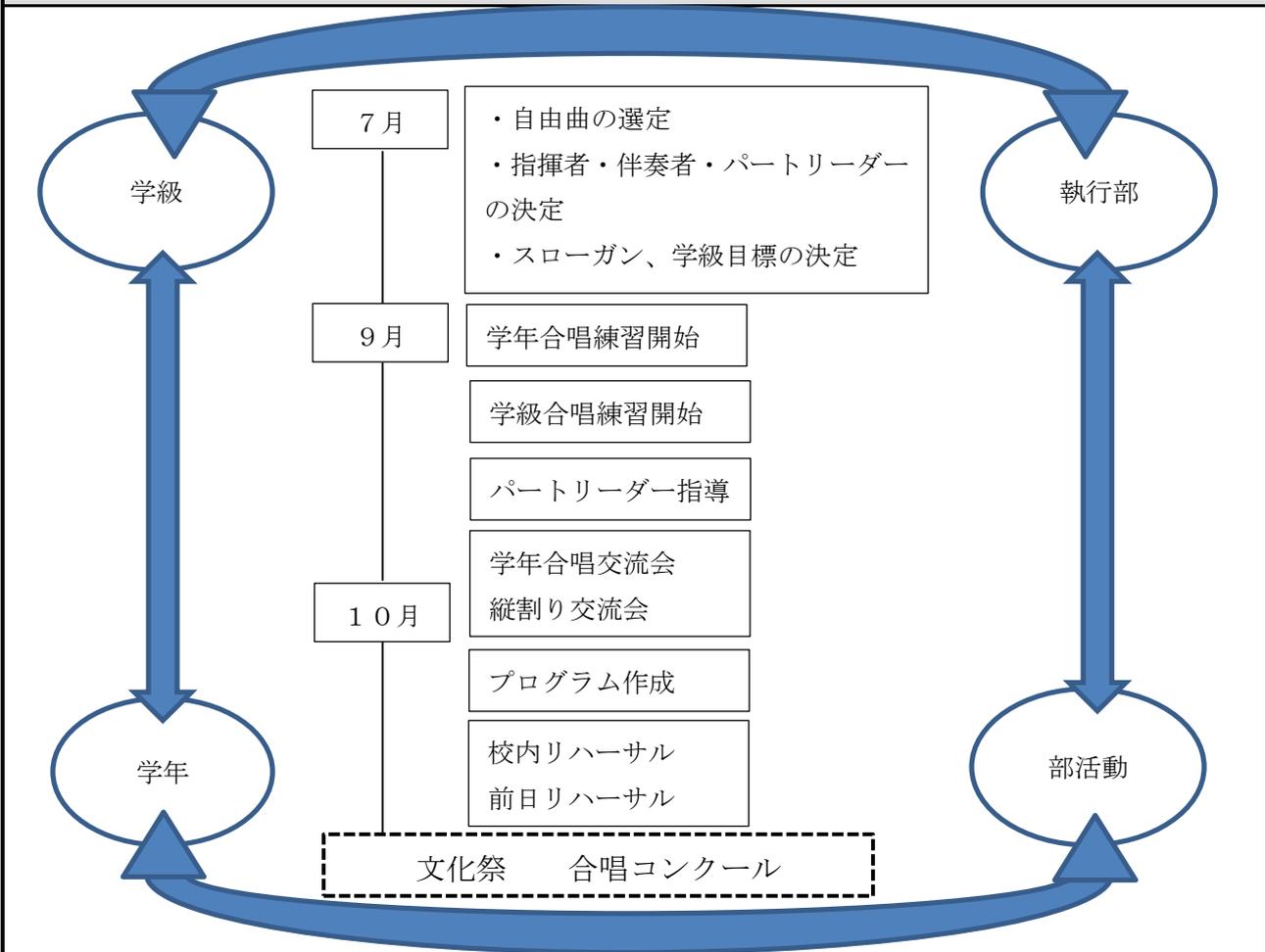
学校名	広島市立五日市観音中学校	校長	大下 茂	生徒指導主事	綿田 圭亮
-----	--------------	----	------	--------	-------

取組事例名 『文化祭 合唱コンクール』

取組のねらい『キーワード 努力の証～仲間の想いと共に～』

- 学級における合唱への取り組み、文化系クラブにおける活動を通して、生徒個々の積極性・独創性を引き出すとともに、生徒相互の協力する姿勢を養い、生徒の自治的能力の向上を図る。また、文化的行事への意識高揚を図る。
- 学年内、および学年を超えた交流を行い、互いに高まり合う生徒の育成を図る。

取組の具体的内容『キーワード 繋がる』



縦割り交流会



学級練習の様子



当日クラス発表 (上) 学年合唱 (下)



文化部の発表 家庭科部 (左) 吹奏楽部 (右)



## 取組の課題・創意工夫『キーワード 仕組む』

○生徒の自治能力を高めるための仕組

教員はリーダーと打ち合わせを行い（リーダー指導）、できるだけ全体への直接指導をしない。そのことによってリーダーを支える仲間作りへつなげる。

○世論づくり

日頃の何気ない会話や、生徒との個人ノート（生活ノートのようなもの）へのコメントなどから一人ひとりの考えを引き出し、雰囲気づくりをする。

## 取組の成果（効果）『キーワード 自尊感情』

○文化祭当日に行った保護者、地域の方のアンケートからは、生徒への激励や感謝などの声が多く寄せられ、「学校だより」に掲載した。

地域の方の声

色々な個性を持った子ども達がひとつになって歌いきる姿。こうして色々な困難、悩みを体験していく過程がとても大切な時期だと感じさせられました。一つ一つ乗り越えて成長して欲しいです。一生懸命な姿に感動！ありがとう！

○学校評価アンケートの結果より

「体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく参加している」

肯定的評価	生徒	保護者	教職員
平成28年度12月	86.4	90.5	97.0

3年生においては、H27年12月では、88.3%。H28年7月では89.7%。H28年12月では92.2%という変化が見られ、最上級生としての責任感や誇りが増してきているのではないかと考えられる。

「楽しく学校にかよっている」

肯定的評価	生徒	保護者	教職員
平成28年度12月	86.0	89.4	97.0

生徒の肯定的評価の内訳

1年生・・・87.8%

2年生・・・83.4%

3年生・・・87.8%

※3年生においては、H28年7月と比べ、5.2%も向上した。

アンケート結果より、いずれも高い数値を示した。3年生の生徒については、7月の結果より高い数値となり、自尊感情の高まる取組みにつながっているのではないかと考えられる。

## 今後の展開『キーワード 継続』

○生徒会活動やその他の行事においても、縦割り交流の取組みなどを意識し、生徒個々の積極性や生徒間の協力、生徒の自治的能力の向上を図ると共に、自尊感情を高める取組みを継続して行うこと。

○行事と日常生活を結び付けていく取組み（学級づくり）を担当が中心となり、学校全体で進めていく。

## 他校へのアドバイス『キーワード 伝統の力』

学年の枠を越えた縦割り交流会は、3年生のリーダーを中心に運営している。自分たちの手で行事を作り上げていく姿を、1・2年生が見ているため、各学年に応じた自治能力が養われている。同時に、自尊感情の高まりにもつながり、とても良い取組となっている。

指定校番号	28092	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立新市中央中学校	校長	門田 剛年	生徒指導主事	高地 浩司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『文化祭の向けての取組』

**取組のねらい** 『キーワード 最高の笑顔と思い出』

生徒が主体的に取り組むことで、達成感をもつことで最高の笑顔になり、思い出となるような行事にしていくことをねらいとした。

文化祭テーマ

**「青瞬～今この一瞬に最高の笑顔と思い出を」**

**取組の具体的内容** 『キーワード 責任をもつ』

3年生は、今までで最高の文化祭にしたいという願いから、ミュージカルに挑戦した。分担を細かくし、責任感をもたせることで、よりよい演技や準備を行うように仕組んだ。

2年生は、チャレンジウイーク（職場体験学習）の発表を生徒全員に分担することで、より責任感をもたせた。

1年生は、いじめを扱った劇を通して、仲間の大切さを学ばせるとともに、全員が参加できるように、分担をした。



大道具（絵）



衣装



台詞練習



ダンス練習

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 時間の確保』

すべての活動時間が放課後ということもあり、教員の負担が増えた。来年度以降、時間の確保をどうしていくかが課題である。その限られた時間の中で、教職員が細かに分担をし、計画をたてていくことで素晴らしい発表となった。

教員も分担をし、それぞれの部署で責任をもって取り組んだことで、生徒の達成感を高めることができた。

**取組の成果（効果）** 『キーワード 生徒指導の3機能』

自分の役割をきちんとはたすことで、自己肯定感を高めることができた。

自分のもたされた役割を責任をもって取り組むことで自己決定の場となった。

仲間と協力して取り組むことで、共感的人間関係を高めることができた。また、教職員も生徒と一緒に活動していくことで生徒との共感的人間関係も深まった。





	1 学期	2 学期
安心して生活できる学校である	64%	82% +18
学校に満足している	76%	82% +6
自分にはよいところがある	69%	69% ±0

生徒アンケートより

※「自分にはよいところがある」項目は、高まっていない。行事では、頑張りを見せているが、普段の学校生活の中で、生徒を頑張らせる取組が弱いと考えられる。

### 今後の展開『キーワード 行事から授業へ』

行事では、一致団結して素晴らしい発表を創ることができてきた。しかし、授業の中では受け身的な態度の生徒が多い。授業の中でも、生徒指導の3機能を生かした取組につなげていくことで、主体的に学ぶ生徒を増やす。そのことで、学力を高めていく。

授業づくり

1. 意欲・関心のもてる学習課題を設定する
2. 自分の考えや他者の考えを書かせる
3. わかりやすく伝えるために、ペア・グループ学習を設定する



	タイプ I	タイプ II	全体
国語	73.8 ( 2.0)	55.2 (-5.4)	70.3 ( 0.6)
数学	66.9 (-2.7)	50.9 (-6.4)	63.2 (-3.6)
理科	50.1 (-4.3)	45.1 (-3.2)	48.0 (-3.8)
英語	74.6 ( 2.0)	54.3 ( 1.3)	71.4 ( 1.8)

平成 28 年度広島県「基礎・基本」定着状況調査 県平均値差

### 他校へのアドバイス『共有』

行事を成功させようとする、莫大な時間がかかります。教育課程の限られた時間の中で、生徒たちに充実感をもたせるためには、事前の計画が大切だと思います。

達成感・充実感をもたせる→いつまでに何ができる→計画の見直し・変更は という流れで考えていけば良いと思います。

職員室の中で、子どものためにどんな話を我々教職員がしているか。会議がなくても、その場で教職員が共有できるように話をすることが前に向かって進んでいけることだと思います。

その潤滑油となるのが、生徒指導主事の役割の1つであると思います。

指定校番号	28111	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長	村田 聡之	生徒指導主事	濱原 光伸
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『吉中太鼓』

**取組のねらい**『キーワード 自己存在感を高める』

吉中太鼓は今から30年前、「荒れた学校の立て直しと居場所を無くした生徒の学校への定着」を念じて生まれたものです。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒たちを、どうやったら学校に位置付かせるか、課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生しました。その後、吉中太鼓を通じて自己存在感を高めることを目標に、全生徒を対象として、総合的な学習の時間を利用し、「心で打つ太鼓」を目指しています。



**取組の具体的内容**『キーワード 主体的な学び』

太鼓の練習は、総合的な時間を利用し、6月からスタートし、3月(12月は無し)まで、毎週学年に応じた練習を行っています。文化祭やバチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表しています。また、3年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加しています。

吉和こども祭り(8月)	運動会(9月)	吉和地区敬老会(9月)
尾道トラック祭り(9月)	吉和町民フェスティバル(11月)	文化祭(11月)
尾道青少年健全育成大会(11月)	バチの受け渡し式(3月)	



発表の場をいくつか設定することで、1・2年生は、3年生の太鼓を目標に、3年生は今回の演奏よりは次回の演奏と、録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り、曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを、自ら考え課題を持って練習に励んでいます。

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 継承』

現在の3年生が30期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっている。しかし、誰もが指導できるわけではなく、メインで指導している職員も本校の在職期間が長く、次の指導の後継者に毎年悩んでいる。

生徒については、毎年3月に「バチの受け渡し式」を通じ、儀式的に次の吉中太鼓のリーダーを育てる取組につながっている。



### 取組の成果（効果）『キーワード 太鼓が人を変える』

3年生になり、人前での発表が増える頃になると、3年生の意識が変わり、ルールを守らなかった生徒も、リーダーや周りの生徒の声かけにより、次第に集団の中に入って行っている。

更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけにとどまらず、吉和中学校を仕切っていくリーダーとして大きく成長し、吉和中学校に在籍するすべての生徒のあこがれのリーダーへと成長している。



### 今後の展開『キーワード 吉和中で学んで良かった』

ここ数年、本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感を高め、吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたい。



### 他校へのアドバイス『キーワード オリジナル』

ひとつの行事を継続することの大切さと、自分の学校にしかできない学びを大切にしたい。

校番	32	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成28年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	沼南高等学校	校長	沖井 信	生徒指導主事	櫻田隆紀
-----	--------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『平成28年度 沼南祭・体育祭』

**取組のねらい** 『キーワード 自己肯定感の醸成・挨拶の徹底』

「沼南生」としての自覚を持ち、集団の中でのルールを守り、規律ある集団行動や他者を尊重する態度を育てる。さわやかに挨拶できる沼南高校生となる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 自己存在感を確認する』

6月の沼南祭（文化祭）では、家政科は、3年間の集大成をファッションショーでアピールし盛り上げる。そのファッションショーに家政科の下級生が憧れる。そうして、目標とプライドが引き継がれていく。園芸デザイン科は、3年生の4つの課題研究班が、生徒それぞれの役割をステージで堂々と発表した。普通科は、1年生が英語劇「桃太郎」、2年生が英語劇「白雪姫」、3年生が創作演劇「シンデレラ」を熱演し、拍手喝采を浴びた。小・中学校の時に不登校だったり経験させてもらえなかった事にチャレンジさせ、鍛え、達成感を味わわせ、力と自信をつけさせる指導を行った。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 声を出して自己アピールする、他者を承認する』

最初に「集合・整列」「行進」「挨拶」で声を出す。  
各集会や授業の始まり終わり、心をつなげた挨拶を行っていく。

**取組の成果（効果）** 『キーワード 自己有用感、自己の所属の確認と他者の承認』

体育祭の入場行進を、今年は採点種目にした。各学年で行進の練習を行った。本番では、行進が始まる前に、3年生が全員で円陣を組んで「団結の雄叫び」をあげた。そして見事に行進も種目も優勝した。途中、地震で一時中断したが、1年生も2年生も、自分の学年の為に全力を出している姿と顔が輝いていた。ソーラン節では、有志が集まり団長の生徒会長をたて、練習を重ねるごとに規律ある集団になっていった。



### 今後の展開『キーワード 学習規律（授業の号令）の定着』

授業での号令を各学年で取り組み，全学年で徹底していく。

授業はもちろん，教育活動のあらゆる場面でしっかりした号令・挨拶をさらに定着させていく。

### 他校へのアドバイス『キーワード 成功体験の積み重ね，自己有用感，自己達成感』

すべての生徒に，自らが表現する場を意図的につくっていくことで成功体験を積み重ね，自己肯定感と自己有用感を高めていく。これは=為すことによって学ぶ=「学びの変革」の取組が目指すところと同じである。

ただ，学校組織としてこれらの取組を進めて効果を上げていくためには，教職員が一つのチームとなる必要がある。そのためには，タイムリーな研修会を継続的に行い教職員のスキルアップが重要である。

# 学校行事

健康安全・体育的行事

指定校番号	28003	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立庚午小学校	校長	藤川照彦	生徒指導主事	大下聡子
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『体力週間(長縄跳び)』

**取組のねらい** 『一人ひとりとみんなで伸びる』

- 心身の健全な発達についての関心を高め、運動に親しむ態度を育成し、連帯感を深める。

**取組の具体的内容** 『子どもも教師も一緒になって』

- 1 体育委員会から目的や計画を提案し、各学級で、学級目標、練習計画を決定し、役割分担等を行う。
- 2 休憩時間や体育の時間等を活用し、長縄の練習に取り組む。
- 3 学級活動、朝及び帰りの会を活用し、活動の成果や課題を話し合うとともに、課題の改善に向けた話し合いを行う。
- 4 大休憩・昼休憩を利用し、記録会を行う。記録会は3日間に分けて行い、1回ごと結果を廊下に掲示し、問題点や工夫点について話し合い、改善を図る。
- 5 結果を校内放送で発表し、取組の成果を評価する。
- 6 児童アンケートを行い、活動を振り返る。

**取組の課題・創意工夫** 『仲間とうまく跳ぶにはどうしたら良い?』

【児童の取組】

- 活動のねらいを学級で話し合い、集団の一員として、自主的・自立的に活動に取り組む。
- 各学級で決定したねらいを達成するための、練習計画、役割分担、練習方法等について話し合い、決定する。
- より多く跳べる方法について、適宜、学級で話し合う。(跳ぶ順番、跳び方、長縄が苦手な児童へのサポート方法、仲間への声かけ等)

【指導者の取組】

- 長縄跳びに意欲的に参加できていない児童に対し、頑張っていることを個別に褒めたり、認めたりし、当該児童が意欲的に参加できるようにする。
- 体育の時間等を活用し、児童がじっくりと練習に取り組むことができる時間を確保する。
- 国語科の時間等を活用し、よりよい話し合い活動を行うための指導を行う。

**取組の成果(効果)** 『私の成長・仲間の成長・学級の成長』

【子どもの感想から】

- ・ 長縄跳びが上手になりました。あと、長縄跳びが大好きになりました。
- ・ 1年生のときは、あまり外に出て遊んでいなかったけど、長縄跳び大会が近くなると、みんなで外で練習をしていたら、たくさん外で遊ぶようになって、体力がついてとても楽しかったです。
- ・ 最初は、後ろから押してもらっていたけど、跳べなかったです。でも練習をしてから3週間くらい押してもらって、今では、跳べるようになって、チームのみんなが「よくがんばったね」と声をかけてくれました。跳べるようになったのは、チームのおかげだったと思います。
- ・ M君が最後の大会の日、長縄を跳べるようになってすごいなと思いました。練習を一生懸命したら、できないこともできるようになるんだと思います。
- ・ 長縄に取り組んで学んだことは、人を思いやることです。跳べない子がいたら、後ろから押してあげたり、アドバイスをしてあげて皆で跳べるようにして、きずなを深めました。努力をして皆の心がわかり始めると、結果も一緒についてきてくれるのです。
- ・ 練習の時、いっぱい引っかけたけど、せめる声はなく、「ドンマイ」「だいじょうぶ。集中」という声が聞こえました。みんなのはげましの声は、勇気づけてくれる魔法の言葉だなと思いました。

**【教師の振り返りから】**

- 不登校児童を誘って参加させることができたり、足の不自由な児童が縄に入れるスピードを工夫したりするなど、学級や個々の児童の実態に応じて、工夫することができた。(6年)
- 長縄跳びが苦手だった児童が、できなかったことができるようになり、成功体験を味わうことができた。(1年)
- 学級で毎日練習し、記録が伸びていくことを通して、児童が達成感をもつことができた。(3年)
- 友達同士で教え合ったり、認めあったりすることを通して、学級内の仲間意識が高まり、学級のまとまりがでてきた。(3年, 5年)
- 休憩時間, うまく跳べない1年生を見た6年生が、1年生に跳び方をアドバイスしたり、体育の授業で4年生が上手に跳ぶ姿を3年生が見て、3年生から4年生に「教えてほしい。」と依頼したため、3年生からの依頼を受けた4年生が3年生に指導したりするなど、異年齢による交流が促進された。(1年)

**【アンケート結果】**

年	①長縄が上達した		②友だちのことが分かったり、仲良くなったりした		③外で遊ぶようになった	
	思う	思わない	思う	思わない	思う	思わない
1	94%	6%	91%	9%	87%	13%
2	94%	6%	88%	12%	70%	30%
3	97%	3%	86%	14%	80%	20%
4	91%	9%	82%	18%	76%	24%
5	98%	2%	91%	9%	67%	33%
6	95%	5%	86%	14%	51%	49%
全校	95%	5%	87%	13%	72%	28%



**今後の展開『達成度を評価』**

- アンケート結果「②友だちのことが分かったり、仲良くなったりした」の項目において、すべての児童が「思う」と回答できるための取組となるように検討を重ねる。
- 回数にこだわる傾向があるため、児童に対して、適宜、取組のねらいを確認する場面を設定する。
- 「個人は勿論、学級がどれだけ成長できたか。」ということを各学級で評価することができるように「振り返り」を充実する。

**他校へのアドバイス『毎年の積み重ね』**

- 成長段階によって、めあてを変えて取り組むと良い。
- 例) 低学年は長縄を跳べるようになること。学年が上がれば、クラスの目的を考え、達成することに焦点を当てる。
- 長縄跳びの長所は、少し難しいことに挑戦できること、1年生から6年生まで参加可能であること、子ども達が自ら作戦を立て、その工夫や努力が数値として短時間でフィードバックされることである。

指定校番号	28057	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立八重小学校	校長	神川 義紀	生徒指導主事	吉川 孝志
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『校内駅伝大会』**

**取組のねらい 『異学年交流』**

数年前まで、本校では体育の時間に行う持久走の練習成果を「マラソン大会」とし学校行事で行ってきた。ただ、マラソン大会は個人としての頑張りが評価される場面がほとんどで「みんなで喜ぶ」という場面が非常に少なかった。加えて、学年という垣根を飛びこえての交流、当日だけでなくその日に向けてのつながり、行事後にも生かせる望ましい人間関係づくりなどを考えいく中で、マラソン大会から駅伝大会へと変更することとした。「箱根駅伝」や「ひろしま男子駅伝」の影響もあってか、児童もたすきをつないでいく駅伝に非常に興味をもっており、マラソン大会から駅伝大会への移行はスムーズに行われ、これ以後 2 学期後半、全児童による校内駅伝大会を行うようにした。学校行事ではあるが、児童会（6 年生）を中心に事前・事後の取組を行っている。下学年にとっては「ぼくたち、わたしたちも大きくなったら、あんな風に走りたい（がんばりたい）」というあこがれの対象を具体化させ、なりたい自分をイメージさせるのに役立ち、上学年にとっては、「自分たちがチームみんなをまとめて引っ張っていくのだ。」という責任を自覚させ、取り組ませることで自己有用感や自己肯定感の向上につなげていく。

**取組の具体的内容 『学年をこえた絆づくり』**

チームはふだんの掃除などで使っている「やえっこ班」を活用。全部で 12 チーム、1 チーム 12 名から 13 名で、各学年 2 名（人数の多い 5 年だけが 3 名）といった人数編制だった。縦割り活動班の「やえっこ班」を活用し、12 チームを作る。全 14 区間を、高学年区間 0.9 km、中学年区間 0.7 km、低学年区間 0.6 km に分ける。校庭のトラックを使い、そこから校外に飛び出していく形でコースが設定してあり、区間によって折り返し地点などが遠くなったりしている。校庭のトラックでは、各チームの児童が自分のチームの応援をしており、学校の外では、保護者や地域の人たちがランナーに声援を送っている。各折り返し地点やコースの要所には職員を配置し選手の誘導や安全の確保、声かけなどを行う。「やえっこ班」は毎日の掃除にも活用しており、異学年であっても、顔と名前が一致する利点がある。チームを 12 に分けることで、ほとんどのチームに 6 年生（23 名）が 2 名入ることになり、6 年生全員がキャプテン、又は副キャプテンの責任を負うことになる。欠員が出た場合は、原則同じ区間を走る学年の児童が 2 回走るようになっている。

1 区（中学年）⇒ 2 区（高学年）⇒ 3 区（低学年）⇒ 4 区（中学年）⇒ 5 区（高学年）⇒

6 区（低学年）⇒ 7 区（中学年）⇒ 8 区（高学年）⇒ 9 区（低学年）⇒ 10 区（中学年）⇒

11 区（高学年）⇒ 12 区（低学年）⇒ 13 区（中学年）⇒ 14 区（高学年）

**取組の課題・創意工夫 『チームとしての結束力を高める』**

駅伝大会の本番まで 20 日くらい前に、チーム結団式を行う。これは、お互いの思いを伝え合い、確かめ合いながら、成功イメージを共有し、気持ちを一つにする活動である。この式に先立ち、6 年生は班の目標を決め、それにふさわしいイラストやデザインなど画用紙に描く。結団式では、6 年生が用意した画用紙にチーム全員がプラスの姿を書き込んでいき、書いたら自分のサインを入れる。こうすることで、自分はもちろん、全員が安心感をもって走れるようにする。最後に一人ずつ自分が書いたプラスの言葉を紹介する。こうして各チームでの話し合いが終わると、今度はチーム毎に全児童の前へ出て、チームの目標、この目標を設定した理由、チームのかけ声を紹介していく。この日以降、チームごとの練習がスタートする。



## 取組の成果（効果） 『なりたい自分（モデル）の発見と自己肯定感の向上』

駅伝当日、欠席者0名、足の怪我などによる見学者2名。運動が苦手な児童も多数完走。校庭では6年生を中心に懸命に走るチームメイトに大きな声で声援を送る。コースに立っている教職員はもちろん、沿道の保護者や地域の方々からも大きな声援をもらい、子供たちの頑張りは最高潮に。駅伝は、先頭以外はマラソンのように一斉スタートではなく、周回コースなので、個人順位も正確には分からず、自分のペースで走れるという利点もある。走りが得意な子はもちろん、走りが苦手な子も大きな拍手とともにチームメイトに迎えられ、みんないい笑顔に。その中でも高学年、特に6年生の頑張りは素晴らしい。病気やケガで走れなかったチームメイトのために、あるいは欠員補充のために、たとえ走るのが苦手であっても2区間走る姿は、下学年の児童の目に焼きつき「自分たちも大きくなったら、あんな風に走るんだ！」という絶好のモデルケースになる。また、6年生を中心とした高学年は自分たちの頑張りに対し、下学年や教職員、地域の方からもらった声援が自己有用感や自己肯定感を高め、新たな活動への自信と意欲づけになる。走り終わった後は、結団式で書いた紙を手に、チーム毎に記念撮影をし、駅伝大会を通しての反省会を行った。



※学期ごとに全校で実施している「今の気持ちアンケート」での肯定的割合

	1学期		2学期
6年生「自分のことが好き」	87%	⇒	96%
「自分のいい所は、みんなにわかってもらっている」	91%	⇒	91%
「学校生活が楽しい」	87%	⇒	96%

## 今後の展開 『継承』

駅伝大会後に撮影した写真は、6年生が卒業するとき、各班のメンバーが6年生に寄せ書きをする色紙の中心に貼る。この日以後、日々の掃除などでの縦割り班活動にいつそうまとまりが見られるようになる。今後は、6年生というモデルを胸に、各学年がよりよい自分、集団をめざして活動をしていく。特に、3学期の「6年生を送る会」に向けて、感謝の気持ちを込めた出し物を考え、本番では各学年が今後の学校生活における決意表明をしていく。

転校生で初めて駅伝を経験した児童は持久走が苦手だったが、「来年はもっと早く走れるようになりたい。みんなの声援がうれしかった。」と感想を書いた。また、ある4年生は「自分が1区で出遅れたけれど、チームのみんながあきらめずに走ってくれたのがうれしかった。今年最高の思い出になった。」と感想を書いていた。

## 他校へのアドバイス 『異学年交流のパワー』

異学年交流が学校の核になっていくと、素晴らしい伝統が築き上げられていく。先輩の頑張りを見て、後輩がその姿を見て頑張る。さらにその後輩が先輩の姿を見て頑張ることを繰り返していくうちに、先輩の壁も少しずつ高くなり、さらによいものをめざして取り組んでいくようになる。このプラスの連鎖が異学年交流のパワーの源であり、物事を前向きにとらえ、一生懸命に取り組む児童の育成に役立つものだとしている。

指定校番号	28074	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組例」

学校名	吉島中学校	校長氏名	高畑 伸穂	生徒指導主事氏名	後藤 貢
-----	-------	------	-------	----------	------

**取組事例名 『体育祭 縦割り活動』**

**取組のねらい『キーワード共感的人間関係づくり』**

体育祭の縦割り活動、吉中ソーラン、色別の集会・練習・応援等を生徒主体で展開し取り組める集団づくりをめざす。それにより学年を超えた生徒相互の良好な人間関係を育む。

**取組の具体的内容『キーワード上級生から下級生に継承』**

縦割り集団で、3年生のリードの下、当日までの取り組みや当日の応援を行うことで1，2年生に次年度は自分たちでやるという意識をもたせる。

本年度は下級生への指導を上級生に任せ、全校生徒による吉中ソーランの練習や種目の合同練習を実施した。また、各色の応援歌を考え練習したり、上級生が自発的に計画し、下級生の各教室を巡り、団結を呼びかけ、大会前の士気を高めるなど意欲的に取り組んだ。



【体育祭色別集会：縦割り活動開始】



【色別練習：3年生からの指示】



【2年生のソーラン練習】



【各色別の法被を着て士気を高める生徒達】



【色別の法被を着て踊る吉中ソーラン】



【閉会式での成績発表】



【色別集会：体育祭の縦割り活動終了】

### 取組の課題・創意工夫『キーワード事前の取り組みをしかける』

昨年度は事前に教師側でリーダーとなる学年を中心に指導を十分に行い、共に取り組んだが、本年度は上級生主体の下級生に継承する為の合同練習を実施した。各学年からリーダーを選出させ、各種目の上級生リーダーが下級生リーダーを指導し、そのリーダーが自身の学年の指導を行った。今後この縦割りの取り組みが体育祭だけでなく、文化祭の合唱発表やその他の活動にもつなげて行く。



【文化祭（合唱コンクール）の縦割り練習会の様子】

### 取組の成果（効果）『キーワード所属意識の高まり』

今までの学級単位の競技・競争から異学年での集団になったことで、より仲間意が高まりそれによってどの生徒もより一層応援や競技を頑張るようになった。

特に生徒主体にした本年度は上級生がよりリーダーシップを発揮し、当日も率先して競技を盛り上げていた。下級生もよく協力し積極的に取り組み、来年のリーダーシップに期待できそうである。



【体育祭当日3年生リードの応援合戦】

### 今後の展開『キーワード本校の伝統に』

今後も生徒主体の取り組みをより充実させ継承させていき、体育祭、合唱祭のみならず、様々な活動で行えるようになるよう展開していくにまだ課題があるが、仲間を大切に思いやる生徒の集団の育成を図り、共感的な人間関係を育む生徒の育成のために取り組んでいきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード全教員で取り組む』

生徒主体が生徒任せになり、中身のない取り組みにならないよう、全教員が共通認識の基しっかりと、充実した活動ができるようになるまでサポートし導く。

指定校番号	28076	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立江波中学校	校長	大本 司	生徒指導主事	望月 慶輔
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『小中部活動交流会』

**取組のねらい** 『キーワード：小学校から中学校へのスムーズな接続』

- ・小中連携行事を通して、小学生に中学校の良い面や頑張る生徒の姿を見せることで、小学6年生の中学校入学に対する希望と安心を与えるとともに、その取組を通して、中学生に自己有用感を持たせる。
- ・小学生同士の連携、交流に中学生が関ることを通して、中学生が、児童の人間関係を把握するとともに、自主的に児童に関わろうとする資質を高める。

**取組の具体的内容** 『キーワード：小学生をメインに』

- ・神崎小、舟入小、江波小の小学6年生が江波中で部活動体験に参加する中で、生徒が自主的に児童の活動を支援する。
- ・参加者は小学校で希望を取り、グループを振り分ける。それぞれのグループに中学生をリーダーとして据えることを想定し、どの様なことができるかを中学生が主体となって決める。
- ・教員は、中学生の活動の様子を観察し、基本的に、中学1・2年生が指導を行えるような支援に留める。また、中学生は、小学生に実際に活動をしてもらうことを重視し、児童へのサポートに徹する。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：生徒が主体となって』

- ・全体会の司会など、生徒会執行部や部長会が中心となり、中学生が運営を行った。
- ・各クラブの部長を中心に、どうすれば小学生に多くの体験をしてもらえるのか、各部でミーティングを開き、内容を考えた。また、顧問に相談し、内容の確認をもらうなど、事前に準備を進めた。
- ・多く的人数が参加する部活では、その中で更に小グループを作り、それぞれのグループに中学生が分かれてつくなど、きめ細やかな対応を心がけた。



### **取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感の向上』**

- ・部活動交流会の後に行ったアンケートから、95%の小学生が、中学生に教えてもらうことを喜んでいる。また中学校の雰囲気を知ることができ、安心することができたという回答も90%を越えている。
- ・中学生も、全体会の運営から、小学生の指導まで、全てを自分達で行うことで、達成感や、上級生としての自覚を深めることができた。また、部活動交流会後のアンケートから、85%の中学生が、小学生に頼られることで、自己有用感を感じているという結果だった。

### **今後の展開『キーワード：小学校から中学校へのスムーズな接続』**

- ・2月には、中学校の教員が各小学校で出前授業を行い、中学校の授業を体験してもらう。また、生徒指導主事、教務主任が中学校の生活のルールや授業の様子について小学生に説明することで、小学生が安心して中学校に入学してもらえるような取組を続けていく。

### **他校へのアドバイス『キーワード：準備の大切さ』**

- ・本番を中学生に任せるために、全体会を運営・進行する中学生の指導、リハーサル、部長会の指導など、事前の準備をしっかりと行ったことが、当日の成功につながった。また、小学校とも事前に連携し、希望通りの部活動に参加できるように人数調整を行ったり、身体的な配慮を要する児童の様子について、事前に打ち合わせを行うなど、小中での連携を密に行った。

指定校番号	28077	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立福木中学校	校長	笹田 清浩	生徒指導主事	平田 琢巳
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『縦割り活動を生かした体育祭』

**取組のねらい** 『キーワード 生徒同士の共感的な人間関係』

- ・縦割り活動（異学年交流）
- ・上級生が下級生の手本となり下級生を思いやり、下級生が上級生を尊敬しながらお互いの励みとする。
- ・3年のリーダーによるダンス練習計画や教室の管理、取組すべてを企画して当日では最上級生のダンスを演技する。

**取組の具体的内容** 『キーワード 縦割りでの協力』

- ・体育祭実行委員会、各係会で運営する。
- ・体育祭の予行準備や前日準備、片付けを部活動で割りあてる。
- ・学年を3色の色別の競技を行い、縦割りの意識を高めて合計点で総合順位を決定する。



吹奏楽部演奏【行進曲・君が代・校歌】



入場行進前全体集合



放送部アナウンス

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード もっと縦割り活動を』

- ・縦割り活動を工夫して予行後に上級生の活動の場を設ける。
- ・縦割り合同練習の時間を確保して作戦の交流、練習を仕組みで上級生の場を取り入れる。
- ・団長の活躍の場を設けて生徒自ら体育祭に打ち込める体験をさせるとともに1，2年生にも共感を持たせる。



3団選手前進



青組（1組）



赤組（3組）

## 取組の成果（効果）『キーワード 上級生のリーダーシップ』

・昨年度の学年集団ではどうなるかと不安な一面も見られたが、「去年より今年、自分たちの体育祭」を特に3年生は意識していた。今年度当初から「私たちが、俺たちがリードする」という意気込みが感じられた。

・体育祭では、生徒会により開会式と閉会式を運営し、団長を先頭に縦割り団での入場行進を引き続き取り入れた。



3年生徒によるダンス



閉会式 団集合



閉会式（表彰）

## 今後の展開『キーワード すごい福木中にしちゃおう』

- ・「今年の3年生に続け、追い越せ、新たな福木中学校をつくっていこう。」「すごい学校にしちゃおう。」
- ・生徒会の活性化と3年リーダーの育成と生徒同士で関わりを工夫して達成感を体験させていきたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード 達成感が味わえる体験を大切にしたい学校づくり』

・学級での係活動や生徒会を中心とした学校行事を通して、生徒同士のつながりを大切にさせて生徒たち自身の思いや意見を聞き入れる。その中で教職員自身がスモールステップと次の一手をしっかりと考えて仕組みで達成感が味わえる体験をさせていきたい。

指定校番号	28082	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀山中学校	校長	松田 裕二	生徒指導主事	今橋 正智
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『体育祭』

**取組のねらい** 『キーワード 生徒指導の3機能をいかした行事』

体育祭を通じて、生徒一人一人が自己存在感、共感的人間関係、自己決定を育めるようにする。また、規範意識や倫理観、他人への思いやりなど、集団や社会の一員としての自覚や豊かな人間性を育む。

**取組の具体的内容** 『キーワード 責任を持ち、自己存在感を育む』

- ・初めての集団行進演技
- ・生徒会執行部、実行委員、応援団からの服装指導
- ・生徒会執行部を中心としたオープニングダンスの取り組み
- ・実行委員を中心とし、生徒が立案したブロック練習
- ・応援団を中心とした応援練習
- ・生徒が主体となった当日の運営
- ・全員で責任を持って行う当日の後片づけ



【写真】生徒による応援演舞

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 教職員も一丸となって』

昨年度まで一部の教員に負担がかかっていた部分があったが、教職員で役割分担ができた。当日教職員が登場しなくても、生徒が主体となって行えるように、そこまでのサポートを各教職員で行った。また、当日は朝6時にはボランティアでほとんどの教員が学校に来ている状態であり、このことから教員が一丸となったことがうかがわれる。

課題として、不登校生徒など、全校生徒が参加できていないので、どのような形でもよいので、行事全員参加を目指したい。

**取組の成果（効果）** 『キーワード リーダーの育成 共感的人間関係の育成』

- ・全力で取り組むこと、妥協しないで取り組むこと、協力して取り組むこと。一つのことをみんなで取り組むことの大切さやすばらしさを生徒が体験することができた。
- ・自分の役割に責任を持ってやり切ることの大切さ、大変さを学ぶことができた。
- ・リーダーとしてまとめていくことの大変さ、またその経験を通して成長することができた。
- ・感想文や、学級通信、学年通信、学校便り、ホームページでフィードバックし、自己肯定感を高めた。



【写真】

生徒会執行部がリーダーシップをとり、最後に全校生徒が円陣を組んだ場面。

初めてのことであり、また、教員主導ではありません。

**今後の展開『キーワード 日常生活にいかす』**

- ・その後文化祭、PTC、教育研修旅行、新生徒会執行部といった行事が続くが、行事で学んだことを日常にいかしていけるように学校朝会や学年集会、学級で生徒に伝えていく。
- ・文化祭では体育祭よりも全員参加に近づけることができた。

**他校へのアドバイス『キーワード 教員は当日までの手助け』**

- ・当日はなるべく教員が登場せずに、生徒が主体的にいきいきと活動できるように、そこまでの手助けを教員が役割分担のもとしっかりとする。

指定校番号	28084	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立瀬野川東中学校	校長	小島 清資	生徒指導主事	澤井巳喜男
-----	-------------	----	-------	--------	-------

<b>取組事例名</b>	『第28回 体育祭』
<b>取組のねらい</b>	『キーワード 自覚 責任 自己表現 健康・安全』
<p>1 集団の一員としての自覚を持たせ、社会性と責任感を養う</p> <p>2 堂々と自己を発揮する力を養う</p> <p>3 心身の健全な発達を促進する</p> <p>4 健康・安全の習慣・態度を培う</p>	
<b>取組の具体的内容</b>	『キーワード 全力 主体性 協働 礼節』
<p>生徒指導の三機能を活かした、特別活動（体育祭）における生徒指導の推進</p> <p><b>1 生徒に自己決定の場を与える取組</b></p> <p>(1) 出場種目について、全体演技、個人競技（学年別・男女別）、団体競技（学年別・男女別）、選抜競技（全体・各学年）の中から、生徒一人一人に自分の出場種目を希望・決定させる。</p> <p><b>2 生徒に自己存在感をあたえる取組</b></p> <p>(1) 赤組・青組・黄組・組緑の縦割り学級群各組ごとに団長を選出・決定させ、各組内における指示・連絡や練習・応援時のリーダーシップをとらせる。</p> <p>(2) 各組別練習において、団長・生徒会執行部が中心となって練習計画を立てさせ、2・3年生全員に責任を持って1年生全員を指導させる。（ラジオ体操第2・長縄跳び）</p> <p>(3) 係分担に基づいて、各係生徒全員に責任を持って各係活動を行わせる。</p> <p><b>3 共感的関係を育成する取組</b></p> <p>(1) 縦割り学級群組別の活動において、自主的な声掛けや励まし合いを工夫させる。</p> <p>(2) 各係ごとの活動において、主体的な連携・協働による活動を意識させる。</p> <p>(3) 全力で競技・演技する生徒に対する自然発生的な拍手を促す等、正しい賞賛の方法を体感させる。</p>	
<b>取組の課題・創意工夫</b>	『キーワード 組織 連帯 団結 一体感 統一感』
<p><b>1 生徒に自己決定の場を与える取組</b></p> <p>(1) 全校生徒一斉の集団演技における指揮者への立候補を募り、各演技・競技内の役割分担についても、各学級・縦割り学級群各組内で希望に基づいて決定させる。</p> <p><b>2 生徒に自己存在感をあたえる取組</b></p> <p>(1) 練習時において模範演技の披露・見学場面を設定し、意欲喚起と自信・プライドの獲得を図る。</p> <p>(2) 生徒全員による統一感のある全体演技を反復練習し、集団の一員であることを実感させる。</p> <p>(3) 各学級対抗の集団競技練習時間を期間内の朝・昼休憩時に設定し、各学級の一体感を実感させる。</p> <p><b>3 共感的関係を育成する取組</b></p> <p>(1) 意欲を持ち、連帯・団結して演技・競技に取り組むことを意識しやすい雰囲気づくりのため、生徒間における自主的な声掛けや励まし合いを促すよう努める。</p> <p>(2) 温かい雰囲気を創出するよう、応援パターンの確認や自然発生的な拍手を促すよう指示を出す。</p> <p>(3) 振り返り時にアンケートを実施し、評価内容を個人・学級にフィードバックする。</p>	

## 取組の成果（効果） 『キーワード 充実感 信頼 地域ぐるみ』

生徒の感想文で、「目標を決め、係分担、各競技で自分の役割やがんばりを肯定的に捉え、仲間とともに精一杯やり遂げた充実感を感じた」という内容のものが多数あった。

また、今年も体育祭に多くの保護者・卒業生・地域の方々の来校があった。各方面から貴重な御意見をいただいた。保護者アンケートで、生徒の真剣な取組の様子に肯定的な意見が多数あった。

今後も、効果的な生徒指導の取組の一つとして体育祭を位置づけるとともに、充実・改善に努め、地域から信頼される学校づくり・地域ぐるみの教育に繋いでいきたい。

## 今後の展開 『キーワード 報告 連絡 相談 共感的理解』

体育祭終了後の反省会において、気付きをもとに、報告・連絡を行った。全教職員が、生徒一人一人の努力した点、がんばった点を共感的にとらえて声かけを実践し、多くの生徒との信頼関係の構築に努めることを確認した。

生徒一人一人が、今後の学校生活で体育祭の成果を肯定的に捉え、自尊感情を深めて何事にも前向きに取り組むことができるよう、指導・助言を重ねていくことを確認した。

今後も学校行事への取組を通じ、傾聴に重点を置いた教育相談を継続し、共感的理解・共感的実践に努めながら、生徒の規範意識・自尊感情の涵養を目指したい。

## 他校へのアドバイス 『全校指導体制』

学校行事を生徒指導の絶好の機会としてとらえ、「ねらい」を明確にして全教職員が共通認識を持ち、足並みを揃えての対応が最も重要であることを改めて確認することができた。

また、生徒との信頼関係構築を図ろうとした時、学校行事への取組を積極的に活用することは、ベクトルを揃えやすく、生徒一人一人の長所を把握し、努力やがんばりを認めてやることが比較的容易であることから、生徒理解・指導をすすめるうえで有効であると捉えている。



全校生徒による演技「ラジオ体操第2」



「みんなでジャンプ 2nd Stage」(長縄跳び)

指定校番号	28089	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東中学校	校長	高橋 延昌	生徒指導主事	山口 裕三
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒たちが自主的・協働的・実践的に創り上げる体育大会』

取組のねらい『キーワード すばらしい伝統の継承；すばらしい行事と歌声のある学校』

東中学校がめざす学校像には「東中学校4つの特色」があります。その1つが「すばらしい行事と歌声のある学校」の実現です。東中学校の年間行事の中で、「体育大会と文化祭」は重要な特別活動の内容として位置づけ、計画的に取り組む大きな行事となります。特に3年生にとっては中学校生活最後の行事となり、今までの特別活動・学校行事等を通して集団行動を学び、身に付けた3学年集団の力を発揮する舞台となります。東中学校の体育大会は伝統として、生徒たち自らの主体的・協働的な活動を中心に、3年生が学年の枠を超えた異年齢集団（1年・2年・3年それぞれの1クラスが1つの色集団になる）のリーダーとなり、最高学年の自覚をもって、1年生・2年生の最高のモデリングになるため、全力で取り組んできました。また、教職員も年間を通じて特別活動の主たる目標「望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養う」等を意識し、体育大会の取組の柱であると考え、さらに、この活動を通して自己指導能力を身に付けるための積極的生徒指導の実践に向け、すべての教職員で取り組んでいます。



取組の具体的内容『キーワード 過去最高の体育大会を創る』

特別活動の年間計画の中でも（学校行事；体育大会）は生徒指導にとっても重要な教育活動の場になっています。特別活動の指導において次の3点（生徒指導の三機能）を重視して取り組んでいます。まず1点目は「生徒に【自己決定】の場や機会をより多く用意し、生徒が自己実現の喜びを味わうことができるようにする」ことです。次に「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」ことです。3点目は



「生徒と教職員の信頼関係及び生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」ことです。東中学校の体育大会のテーマは「過去最高の体育大会」というものです。特に、3年生は過去の3年生の姿と自分たちの姿をだぶらせ歴代最高の3年生になることを目標に各色のリーダーとして頑張っていました。3年生は各色をまとめる応援団長と応援団を組織します。多くの生徒が応援団に立候補しますが、その他にも学級旗を作成するメンバー、色別の選手種目、学年の選手種目等の中から自分の役割を自己決定し、責任を持ち取組を進めていきます。この取組には「生徒に【自己決定】の場を与える」という要素があります。応援団からは応援団長が決められ、団長の強力なリーダーシップの基に応援団が団結し、応援合戦の内容を決定していきます。この活動では様々なトラブルが発生し、生徒自らその課題を解決しようと真剣に取り組んでいるときに「生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」感性が醸成され、お互いを励まし合い、自分の役割に責任を持ち活動する姿が生まれ、その結果が「望ましい集団の育成」への取組に繋がっています。また、多くの方が3年生の真摯に取り組む姿を「今までで最高の体育大会だった」と評価されたとき、「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」教育活動の場と

なり、その後の特別活動（学校行事；文化祭・卒業式）へ発展させることができたと考えています。

### 取組の課題・創意工夫『キーワード リーダーシップと異年齢集団』

体育大会は色別の異年齢集団で活動します。特に3年生は2年生・1年生に対し、指導することがたくさんあります。応援合戦の内容は3年生の応援団が自らで考え、自主的・創造的に「歌やダンス」を決定していきます。応援団が考えた「歌やダンス」を指導するとき、応援団長が強力なリーダーシップを発揮し、応援団の仲間がそれをサポートしていきます。3年生の活動に刺激され、2年生の応援団も協働し、1年生に対して丁寧に指導していきます。それらの活動を通じて、教職員が適切・適時に評価することから生徒たちの意欲を高揚させ、意識的に生徒を支援する言葉かけを工夫するようにしています。

### 取組の成果（効果）『キーワード 最高学年の自覚』

「今日は結団式がありました。すごくやる気の出る式でした。本当に私たちが『引く張って行くんだな』っていうのと、校歌・行進だけではなく、積極性や人間性において、後輩のお手本になるということが、すごくわかりました。全てにおいて観られているという自覚をもって、全力で頑張っていきます。」  
「私たち3年生にとって最後の体育大会だったので記憶に残る最高の体育大会にしたいという想いでいっぱいでした。黄組は3年生が2クラスで意見がバラバラになりぶつかることもたくさんあって、とても大変でした。でもみんなは、最後まであきらめず、応援団として行動できたと思うし、1年生も2年生も体育大会本番直前にかわるがあっても何も文句を言わずにしてくれてとてもうれしかったです。」 【3年生 生活記録の感想より】



「放課後応援団の練習がありました。まず校歌の練習をしました。大きくそり、大きな声で歌わなければいけないのできつかったです。次に行った行進も手をしっかり振り、足をしっかりあげないといけないのでこれもきつかったです。『先輩たちはすごいんだ』と感じた最初の練習でした。」

「応援団の結団式がありました。私は小学校のときにしたけれど、それとはレベルが違い3年生2年生の先輩たちの本気さが伝わってきて私も本気で全力で声も出していました。」

「今日結団式がありました。校歌と行進の練習をしました。練習をする前に先輩方が見本を示してくれました。パワフルな声とピシッとした行進がとてもカッコ良かったです先輩方を良く見て本番も練習もがんばります。」 【1年生・2年生 生活記録の感想より】

### 今後の展開『キーワード 文化祭と卒業式を意識する』

生徒に年間の学校行事を意識させることが重要と考えています。体育大会は色別の異年齢集団で歌声やダンスの取組と「全体行進」の成果を競うこと、文化祭は各学年が学年集団の力を合わせ、ステージで発表することから「全校合唱」へ発展させる取組につなげます。最終的にどんな卒業式にしたいか意識させることが重要だと考えています。

### 他校へのアドバイス『キーワード ほめるタイミングとしかるタイミング』

特別活動（学校行事）で生徒が真剣に活動するとき、「ほめるタイミングとしかるタイミング」が大切です。生徒が失敗し自信を失ったとき、それを「しかるタイミング」ではないと考えて指導します。逆に、生徒が自信にあふれているとき、「しかるタイミング」があると考えて指導します。「ほめるタイミング」を常に意識し、生徒が少しでも頑張れたとき「ほめるタイミング」だと考えています。

指定校番号	28091	学級活動		児童会・生徒会活動		学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	--	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立大門中学校	校長	二畑 芳信	生徒指導主事	尾山 健太
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『一年間を通しての縦割りの活動 ～体育祭から～ 』

**取組のねらい** 『キーワード : よりよい集団にするために 』

- ・一年間を通して縦割り集団による競い合いを仕組み、行事だけでなく日常生活の中から集団の一員としての意識を高め、協力することの重要性などを理解させる。
- ・縦割り集団による、競争や協働の経験を通して、充実感や達成感のみならず、公正に行動し、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなどの社会生活に必要な態度を養う。

**取組の具体的内容** 『キーワード : リーダー性を養う 』

- ・3年生の中から各クラス1名ずつの団長を決定し、男女1名ずつの副団長も決め、このリーダーを中心にして、クラス・縦割りの集団が活動をしていく。縦割り集団としての練習時間を多く設けて体育祭に臨ませる。このように生徒指導の三機能（自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する）を意識させながら集団としての力の向上につなげている。特に、最上級生である3年生にはリーダーとしての自覚と責任を意識させて行動するように指導を行った。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 課題に向き合う 』

- ・活動する中で、生徒の思いが他の生徒にうまく伝わらない場面も見られる。リーダーとして声かけの仕方やタイミングなどが課題である。その半面、教職員がサポートをしていけばリーダーだけではなく、集団として成長できる部分でもある。担当の教職員と団長を中心とした応援団の生徒で打ち合わせや練習後の反省をすることで失敗をしたときにはどうすればよかったのか、なぜ集団が上手く動くことができたのかなどを考え意見交流させた。その活動を通して、課題の解決に取り組んだ。

**取組の成果（効果）** 『キーワード : 他者への感謝 』

- ・多くの生徒が体育祭終了後の感想で充実感にあふれたコメントを記入していた。特に上級生へ指導してくれたこと・見本となり行動してくれたことへの感謝や下級生へ一生懸命にやってくれたこと・練習以上の行動で協力してくれたことへの感謝が多かった。

○黄組団長

優勝できた理由は2つあると思います。1つ目は、3年生が積極的に1, 2年生にダンスや移動の位置を教えてくれたことです。おかげで移動などをスムーズにすることが出来ました。2つ目は、3年生の説明を1, 2年生がよく聞いてくれたことです。ダンスリーダーを中心に、知っている人が知らない人へ教えることで、全員が理解することが出来ました。3年生はこれが最後の体育祭でした。みんなのおかげで優勝出来ました。練習通りの力を出せた人も、出せなかった人もいます。でも、一人ひとり頑張ったことで、全ての学年で学年優勝を取れたと思います。体育祭で見た団結力をこのまま、文化祭・マラソン大会で出し、年間の色別学年優勝を取りましょう。



○赤組団長

この体育祭は本当に達成感のある体育祭でした。全体練習が始まった時は、あまり話を聞いてくれなかったり、すぐに動いてくれなかったりで、全然やる気のない雰囲気でした。でも、体育祭が近づくにつれやる気も出てきて、よく話を聞いてくれたり、すぐに動いてくれたり、とてもまとまりのある赤組になりました。結果は2位だったけど、行進・応援で1位になれたのは嬉しかったです。これからも3年生が中心となって、1・2年生をまとめ、総合優勝できるように頑張ります。



### ○白組団長

体育祭を終えて、リーダーが中心となって動けば、1, 2年生も頑張ってくれるということが分かった。1年生は初めての体育祭で分からない事もあったと思うけど、3年生リーダーがみんな頑張ってくれたので、ちゃんと動いてくれました。2年生もよく動いてくれました。3年生は最後の体育祭だからみんな本気でやってくれたし、リーダーじゃない人も1, 2年生に指導をしてくれたのですごくうれしかったです。みんな一生懸命やってくれて感動しました。優勝できなかったのは悔しかったです。最初団長は大変だったけど、みんなのおかげでやってよかったです。笑顔で終わってよかったです。



### ○青組団長

体育祭を団長として終えてみて、みんなをまとめる力がつき、みんなの前で恥ずかしがらずに話せるようになったと思います。最初はちゃんとまとめられず、みんなの前で話すことが恥ずかしかったけど、クラスみんなや副団長が支えてくれたおかげでまとめられるようになり、恥ずかしさもなくなりました。短い間だったけど1, 2年生もちゃんとついてきてくれて、ダンスもちゃんと出来ました。結果は4位だったけど僕にとって、記憶に残る体育祭になりました。次の色別の大きな取組みは、文化祭なので、文化祭で1位をとって総合優勝できるように頑張ります。



生徒アンケートの「あなたは大門中学校に進学してよかったですか」、「あなたは理由なく学校を休みたいと思うことがありますか」という項目に対する生徒の回答は次のとおりである。どちらも微増であるが変化が見られる。これは、個ではなく集団として活動する中で、仲間意識・所属意識が高まってきたからと考える。



(生徒アンケートより抜粋)

	1学期	2学期
あなたは大門中学校に通学してよかったですか (はいの割合)	93%	95%
あなたは理由なく学校を休みたいと思うことがありますか (いいえの割合)	73%	77%

### 今後の展開『キーワード：継続する取組』

・体育祭では3年生がリーダーとして先頭に立ち1, 2年生を引っ張り体育祭の成功につなげた。3年生としての自覚が芽生え、自信へとつながっている。しかし、縦割り集団での取組は体育祭だけではなく、文化祭やマラソン大会、3年生が卒業するまでの年間通してやっている。そのため、体育祭での姿を継続させていかななくてはならない。また、行事ごとだけで終わらないようにしなくてはならない。普段の生活の中からよりよい集団になっていくために1つの取組が終わった後に評価をして、次へとつなげていく必要がある。生徒の気持ちを切らさないような教職員側の声かけ・働きかけを意識しなくてはならない。

### 他校へのアドバイス『キーワード：信頼関係の構築』

・生徒自身に考えさせて、行動させることが大切である。しかし、生徒だけの動きにならないように教職員が目指している方向へ生徒を進めていけるように前面に出ないようにしながらサポートを怠らないようにしなければならない。また、生徒の悩みを共に考えることでよりよい信頼関係を構築していかななくてはならない。

指定校番号	28093	学級活動		児童会・生徒会活動		学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	--	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀中学校	校長	矢野 秀樹	生徒指導主事	平岩 弘文
-----	----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『阿賀中学校ソーラン ～受け継ぐ本気の力～』

**取組のねらい** 『キーワード：クラスの団結力』

- 中学校区における小中一貫教育の取組として、昨年度は「伝統の継承」をテーマに取り組んできたが、本年度は「受け継ぐ本気の力」をテーマとして、様々な場面で人間関係の形成と、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ア 中学生はクラスのリーダーを中心に、合同練習や相互評価を通して、阿賀中学校の伝統を継承していく心構えと成長した自分の姿を確認させながら、当日の発表に結びつける。
- イ 1年生は、小学校6年生の時に、現2年生からソーランの指導を受け、アガデミア\*発表会に参加した。その時の生徒をリーダーとし、集団づくりの取組の中心にすえるとともに、上級生の迫力ある演技を見学することで、阿賀中ソーランの演技と情熱、心構えを継承させる。

\*「アガデミア」阿賀地区の7つの教育機関と地元自治会とで組織する「阿賀学園地域教育連携協議会」の愛称

**取組の具体的内容** 『キーワード：クラス及び縦割り活動』

- ア 体育館での練習（評価のポイントの提示、ビデオの活用、相互評価の実施）
- イ 体育大会当日の演技場所を決定するオーディションの実施（校長が審査）
- ウ 体育大会での演舞評価（学年対抗だけでなく縦割り評価をプラスし、学年を超えて応援させる。）
- エ 総踊り（部活動の先輩が後輩に踊り方を指導、部活動単位で楽しく踊る、地域の方や卒業生も加わっての活動）
- オ 体育大会後の取組（小中で連携した取組）
  - ・小学校の運動会での演舞（1年生有志）
  - ・アガデミア発表会における小学生とコラボした演舞発表

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：リーダーの育成』

- ア 演舞指導は伝統芸能部の生徒を中心とするが、男女の配置や隊形移動、演技のキレなどについて、相互評価をすることで、より良い演技となるようにしている。
- イ クラスや学年を超えて、教職員がリーダーへの指導を丁寧に行うことで、学校全体でリーダーを励まし、取組の充実を図っている。
- ウ 体育大会で中心となって取り組んだ生徒を、今後の学級活動や行事の中で活躍させることはもちろん、新たなリーダーを育成していかなければならない。

**取組の成果（効果）** 『キーワード：継続は力』

- ア 学年が上がるにつれ、上級生としてこれまでの最高の踊りを見せようという意識が高まり、アドバイスが素直に聞き入れることができるようになる。そのことがより良い演技や、発表できたという自信につながっている。下級生も「来年は自分たちの番だ」という意識を強くしている。
- イ 小学校の運動会やアガデミア文化発表会での活動を通して、小学生も中学校に上がったなら、ソーランを頑張っって踊りたいという意識が芽生えている。

## 今後の展開『キーワード：自分たちで』

- ア 中学生は3学期後半に、来年度の体育大会発表に向けて、2年生の演技「お漕ぎ船伝説」、3年生の演技「YAMATO魂」の練習に取り組むが、阿賀中ソーランの先駆者「YAMATOくれびと」の指導者に頼るだけでなく、卒業する3年生が高校入学までの間、後輩の指導に協力してくれている。
- イ 現6年生は、今回、アガデミア発表会に出演した児童を中心として、体育大会のクラス発表に向け、4月1日の入学受付（入学通知書を提出したり、入学式の心得や作法の練習等を行ったりする）後、希望する生徒に対して、上級生が数回ソーラン講習会を開き、より多くの生徒に踊りを指導し、講習会に参加した生徒を中心に、学年練習や集団行動を含めたクラスづくりに結びつけている。

## 他校へのアドバイス『キーワード：交流の場の設定』

本校は小学校と隣接しているため、「受け継ぐ本気の力」というキーワードの核となるソーランだけでなく、行事の中で、比較的小中の交流の場を設定しやすい。小学校と隣接している中学校については、この強みをしっかり活かしていくとよい。

（例）生徒会の挨拶指導

小中合同挨拶運動

小学校陸上記録会参加に向け、中学校陸上部の生徒が指導

小学校の運動会での中学校吹奏楽部の演奏

合唱コンクール最優秀賞受賞クラスが小学校で合唱を発表

オープンスクールでの部活体験等

指定校番号	28094	学級活動		児童会・生徒会活動		学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	--	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立昭和北中学校	校長	松田 恭尚	生徒指導主事	東風 剛
-----	-----------	----	-------	--------	------

**取組事例名 『体育大会』**

**取組のねらい『キーワード…クラスの団結』**

- ア 学級集団の輪を広める中で、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。㊦㊧
- イ お互いの健康と安全に留意し、粘り強くやり抜く力を育てる。㊧

※㊦㊧㊨は、生徒指導の三機能である。

**取組の具体的内容『キーワード：one for all all for one』**

- 各学年学級対抗方式を採用し、団結力を高める。
  - 本校の体育大会は、学級開きから1か月後の5月に計画されており、級友同士の結びつきがまだまだ薄いため、学級対抗方式をとり、同じ目標に向かって団結していくことで、級友の良いところを発見し結びつきを強くする場とする。㊦
  - 団体種目の練習は体育の授業の時だけでなく、始業前や昼休憩、放課後に行ってもよいこととする。㊦㊧
- 競技はもちろん、行進の評価も行う。
  - 入場行進の状況について全学級を評価し、予行演習（校長・保健体育科）と本番（校長・保健体育科・PTA役員・来賓）において、「元気よく歩いたで賞」をそれぞれ授与する。㊧

**取組の課題・創意工夫『キーワード：自己有用感，所属感』**

- 取組の課題
 

運動が苦手な生徒のやる気をいかに高めるか、また、その生徒に対する級友たちへの指導・助言をいかに行うかが課題である。
- 取組の創意工夫（生徒会の活躍の場を確保し、生徒が主体的に動くような体育大会にする。）
  - 体育大会のスローガンやプログラムの表紙図案を全校生徒から募集し、生徒会が決定した。決定したものはプログラムや懸垂幕に活用した。㊦㊧
  - 個人種目を決める時に、運動が苦手な生徒から優先して決めさせるように指導した。
  - 全員リレーでは、走順やテークオーバーゾーンの工夫などについて、各クラスで検討を繰り返させた。㊦㊧㊨

**取組の成果（効果）『キーワード：達成感』**

11月にとったアンケートによると、「自分の良さがまわりから認められている」と肯定的に回答した生徒の割合が98%、「学校に来るのが楽しい」については97%であった。体育大会では、生徒同士が励まし合い、協力し合い、時には意見をたたかわせながら優勝に向かって心をついにしようと練習に取り組み、本番ではクラスの一員として全力を出し切ろうとする姿が見られた。また、入賞できなかったクラスも達成感に満ちた表情が見られた。

## 今後の展開『キーワード：団結』

生徒の意欲を高めるために、生徒同士が協力しながら目標に向かって取り組めるものを様々な場面に取り入れていく。

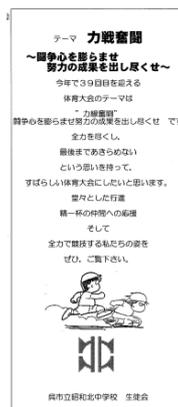
## 他校へのアドバイス『キーワード：生徒同士の絆を信じる』

生徒は、我々教職員よりも同級生からどう思われているかについて敏感に感じ取るし、結びつきも強い。大人から押し付けられたことには反発することもあるが、自分たちで決めたことはやろうと努力する。各教育活動を生徒の自主性や主体性をより尊重するものに改善し続けていきたい。

### 【本校体育大会の様子】



体育大会プログラム



懸垂幕



黒板に書かれたメッセージ



入場行進



台風の日



6人7脚



長縄



全員リレー

指定校番号	28095	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長	住元 康男	生徒指導主事	島 博明
-----	-----------	----	-------	--------	------

**取組事例名** 『縦割りでの運動会』

**取組のねらい** 『キーワード：生徒の力で』

- ・今年度から全学年が3クラスとなり，縦割りで行うことができた。そこで生徒自身が生徒の前に立ち，自分たちの力で練習，本番を進めることで達成感や自己肯定感の向上を図った。

**取組の具体的内容** 『キーワード：リーダーを中心に』

- ・これまでも男子の組体操，女子のソーランは，3年生のリーダーが中心となり，技や構成の決定，練習内容の検討等を行ってきた。
- ・入場行進での良き姿勢を全体練習の3年生の実行委員を中心に各クラスが協力して，1・2年生に見せた。また，真剣に取り組むことの大切さを伝えた。
- ・全学年共通の種目で学年ごとに争う種目について3年生の実行委員が中心となり，練習方法やアドバイスを1，2年生に指導をした。



各団の結団式の様子

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：丁寧に』

- ・各クラスの実態やリーダーの力量をもとに担当部会の教員が事前に練習の取組み方や練習で予想されること等の打ち合わせを行った。また，この事前打ち合わせをもとに3年生の教員が中心となって実行委員の生徒と打ち合わせを行った。
- ・生徒の取組の様子を教員が丁寧に観察を行い，日々の練習後に教員が生徒の様子について連携を行い，翌日の練習の取組み方等について検討を行った。
- ・3年生が1・2年生にアドバイスをを行っていること等を教員が共有し，様々な教員が生徒に肯定的な評価を積極的に行った。



2, 3年生合同の練習風景

## 取組の成果（効果）『キーワード：引き継ぐ』

- ・ これまでも男子の組体操，女子のソーランの実行委員を希望する生徒はいたが，今年度の運動会終了後には，2年生の中から来年の団長を希望する声や来年度の運動会をどの様に成功させるかの具体的な意見が出されていた。
- ・ 1月に行われた文化祭での合唱練習では3年生が1年生に合唱を聞かせる等の取組を行い，めざす生徒像を先輩から学ぶことができた。
- ・ 1月に生徒会執行部が2年生に移行したが，今年度の行事での体験を生かして，2年生がリーダー性を発揮し，日頃の委員会活動を積極的に取組む準備ができている。



## 今後の展開『キーワード：生徒会活動』

- ・ 運動会の経験を生かして，2年生がリーダーとなり日々の生徒会各種委員会の活動を充実させて，新たな伝統を創っていく。
- ・ これまでも検討はされてきた清掃活動の縦割り班の導入や文化祭での合唱を縦割りで行う等，生徒会活動の一環として年間を通して，縦割り班を導入していく。

## 他校へのアドバイス『キーワード：積み重ね』

- ・ 教員による仕掛けを日頃から行い，リーダーを育成しつつ，生徒による生徒のための活動の成功体験を積み重ねていくことが重要と考えます。

指定校番号	28108	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第二中学校	校長	岡田 康浩	生徒指導主事	池田 義和
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『体育大会での取組』

**取組のねらい** 『キーワード：本気の感動』

・生徒 1 人 1 人の役割に責任を持たせ、練習から全力で取り組む姿を生徒自身が作り出すなど、本気で取り組むことで、「本気の感動」を味わうことにより、主体性を育て、自己有用感を持たせる。

**取組の具体的内容** 『キーワード：教員主体から生徒主体へ』

・縦割りによるチーム編成  
 ・体育大会の取組に至るまでの生徒会活動の充実  
   問題の発見・確認、議題の設定⇒解決に向けての話合い⇒解決方法の決定  
   ⇒決めたことの実践⇒振り返り⇒次の課題解決へ  
 ・リーダー（団長）を中心としたチームづくり

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：言いたいけれど…』

・「待つ」「我慢」の指導  
 →チームづくりにぎこちなさが見られるが、教職員が敢えて口を挟まず、最後まで生徒自身にやらせきる指導体制を大切するよう全職員が共通認識を持って指導する。  
 ・リーダーをサポートする態勢  
 →継続的なリーダーの育成とそれを支える集団づくりが課題である。

**取組の成果（効果）** 『キーワード：スタートライン』

・3年ぶりの「縦割り」による体育大会だったが、取組初年度としては、立派にやりきった。  
 ・所属するチームや自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたり、人間関係をよりよく構築したりするなかで、特別活動における自主的・実践的な活動を果たすことができた。  
 ・モデルがない中で、最初はどのよう引っ張っていくか試行錯誤したが、3学年担当教諭や体育科教諭が、生徒の主体性を促し、少しずつ機能していった。  
 ・3年生の凄さが、その後の行事でも見られ、最高学年としての「良きモデル」が出来つつある。



**今後の展開** 『キーワード：繋ぐ』

・今年度の取組を基準に、次年度に向けて、更にバージョンアップしていけるよう、現2年生にリーダーとしての自覚を如何に持たせるか、具体的な取組やその手立てを検討し、生徒主体の活動を推進する。  
 ・生徒主体の活動を多く仕組むが、我々教職員が本校の生徒指導体制にどのようなビジョンを持って臨むか、全教職員で共通認識を図り、ベクトルを揃えた取組を行う。

## 他校へのアドバイス『キーワード：他校に比べれば、まだまだ…』

- ・生徒の主体性を育む取組として課題や改善すべき点はあるが、毅然とした生徒指導のもとで、生徒に「自主」「協働」「創造」を3年間で意識させて取組を進める中で、3年生のリーダーとしての頑張りが全校生徒や地域・保護者に伝わり、素晴らしい感動を創り上げられると感じた1年であった。
- ・安易に学校行事を進めるのではなく、目的や目標、めざす生徒の姿を求め、生徒理解や学校全体の現状把握を丁寧に行うとともに、明確なビジョンや計画性を持って全教職員がベクトルを揃えて取り組むことが重要である。



指定校番号	28112	学級活動		児童会・生徒会活動		学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	--	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長	西田 俊徳	生徒指導主事	土生 和之
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒の自己指導能力を育成する体育大会』

**取組のねらい**『キーワード：リーダー育成』

- (1) 体育大会で縦割りを取り入れ、生徒の主体性を育成する。
  - ① 異年齢の集団の中で、上級生が下級生の見本となり引っ張っていく。
  - ② リーダーを育成していく。
- (2) 生活習慣「時を守り 場を淨め 礼を正す」を身につけさせる。
  - ① 練習の集合時間に遅れない。
  - ② 教室内の整理整頓をし、服は畳んで机上には物を置かない。
  - ③ 元気なあいさつができる。
- (3) 「チーム高西」の意識をもって、全員の力で行事をつくる。
  - ① 縦割りのチームや全校が、1つになって取り組んでいく。
  - ② 教職員が役割分担を明確にし、同じ方向を向いて指導を行う。

**取組の具体的内容**『キーワード：やり直し』

- (1) 生徒会執行部、実行委員、各種目リーダーを中心とした練習をさせる。
  - ① 練習では「始めの会」と「終わりの会」を行い、生徒会があいさつや指示・評価をする。  
(あいさつなど充分でない場合は、やり直しをさせる)
  - ② 練習は、縦組みや学年、種目のリーダーを中心に指示や指導を行う。  
(リーダーがやり直しの指示をする)
  - ③ 練習後は、リーダーによる反省会を行う。  
(よかったところと直すところを確認し、明日の練習に繋げていく)
- (2) 練習始めの集合までを大切にす。
  - ① 教室は、整理整頓し服を畳んでグラウンドに集合する。  
(学年の教員で見て回って、できていなかったら呼んでやり直しをさせる)
  - ② 立腰・黙想・あいさつを徹底する。  
(きちんとできていなかったら、やり直しをさせる)

**取組の課題・創意工夫**『キーワード：待つ』

- (1) 今まで、教員主導・学年対抗でやってきただけに、どう動いたらいいか生徒にイメージがなく、リーダーは戸惑いもあり、練習がはかどらなかつた。
- (2) リーダーが大勢の前で、大きな声を出して堂々と指示・指導ができない。
- (3) 練習の初期は、集合や指示まで時間がかかり、スムーズに練習ができなかつたが、すぐに教員が出て行くのではなく、できるだけ『見守る姿勢』を心がけることにした。
- (4) 教員とリーダーが、細かい打ち合わせをする時間が必要である。
- (5) 教員の意識を変えるために、繰り返し話し合いを行った。

### 取組の成果（効果）『キーワード：徹底』

- (1) 3日目から、整理整頓ができ集合がスムーズにいくようになった。
- (2) 練習の後期では、リーダーが大きな声で指示・指導するようになった。
- (3) 教員の意識が同じ方向を向き、同じ指導ができた。
- (4) 生徒の事後のアンケートによる満足度82%
- (5) 保護者のアンケートによる肯定的な評価93%と高かった。

### 今後の展開『キーワード：場を作る』

- (1) 生徒会や学級委員などが、活躍できる場を増やしていく。
  - ① 学年朝会や学年行事などで、生徒が発表する場面、指示・指導する場面をつくっていく。
  - ② 生徒会活動を、活性化させていく。
- (2) 生徒が意欲的に取り組めるようにさせる。
  - ① 肯定的な評価を積極的にしていくことで、自信をつけて意欲を引き出す。
  - ② 準備に時間をかけて、みんなの前でやるときに恥をかかせない。

### 他校へのアドバイス『キーワード：自己存在感』

- (1) 生徒と打ち合わせをすることによって、意識も変わっていく。
- (2) あせらず「待つ」ことにより、生徒に「自分たちでやろう」とする意識が芽生える。
- (3) できたこと・頑張ったことは、しっかりほめ、評価する。

指定校番号	28114	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中中学校	校長	池田 哲哉	生徒指導主事	有永 昌樹
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『第2回運動会』

**取組のねらい** 『キーワード：自主・自律・自治』

- ・各行事を通して、生徒一人一人が府中中学校の生徒の一員としての自覚と責任をもつ。さらに仲間とともに自主・自律・自治能力の向上を目指し、安全・安心して生活できる学校につなげる。

**取組の具体的内容** 『キーワード：集団力の向上』

◇リーダー育成

- ・リーダーを決定する際に、一人一人面談を実施し、決意を確認した。
- ・リーダーとしての自覚と責任をもち集団を動かすために、リーダーとしての在り方などについて繰り返し指導した。

◇フォロワーの育成（リーダーに孤立感をもたせることなく、全員が安心して活動できる環境づくり）

- ・リーダーの活動を生徒全員がフォロワーとなり、サポートする体制づくりを徹底した。



◇規律の徹底

- ・組織的な生徒指導体制の確立を図り、生徒一人一人が安全に、安心して活動できる環境の整備に努めた。
- ・自分勝手な行動をさせない、わがままを許さない、皆が同じ方向を向き、全力を出し切れる指導の徹底を行った。⇒自分勝手な行動が  $100 - 1 = 99$  ではなく、0になることをあらゆる場面で伝えた。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード：生徒主体型活動』

◇生徒が自ら考え活動できる集団へ

- ・リーダーの活動を活性化し、リーダーを中心に主体的に活動できる集団を目指す。
- ・リーダーが中心となり活動計画を立案し、目標達成に向け生徒全員が同じ方向に向き取り組む。
- ・生徒が自己決定をし、主体的に取り組んでいる活動を肯定的に評価しながら集団力の向上へと繋げる。



## 取組の成果（効果）『キーワード：何事も全力を出し切れる集団へ』

### ☆生活アンケートより

項目	肯定的評価 5月	肯定的評価 10月
①自分のよさはまわりの人から認められていると思いますか。	73.9%	74.7%
②学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	85.5%	90.3%

### 【生徒の感想より】

- ・全員が一丸となり目標を達成できたことがとても嬉しかった。
- ・しんどいとき、友だちが声をかけてくれたから最後までがんばれた。

### ◇取組の成果（効果）

- ・府中中学校生徒の一員としての所属感と責任感が高まっている。
- ・行事を通して、「一生懸命はかっこいい」・「全力の先に感動がある」ことを実感することができた。
- ・行事でつけた力を生活に生かす⇒当たり前前の行動が普段の生活でもできる集団へ。  
⇒さらに、当たり前前の一步先の行動を考える集団への成長に繋がっている。
- ・リーダーと、リーダーを支えるフォロワーの意識がこれまでより高まり、これまでよりも一人一人が集団のことを考え行動することができている。
- ・規範意識が高まり、問題行動の減少に繋がっている。

## 今後の展開『キーワード：より高みを目指し』

### ◇授業改善

- ・授業改善が最大の生徒指導と言われているように、「主体的な学び」の創造に向けた授業改善に取り組む。特に課題発見・解決学習の工夫に力を入れ、校内外の研修に積極的に参加し、全教員が同じ方向を向き、生徒が基点となる学びに繋げていく。

### ◇生徒主体型活動の充実

- ・継続して生徒主体型活動をより一層充実させる。一人一人の自己肯定感を高める指導の工夫・改善を徹底して行う。



### ★考動★

～当たり前前のレベルを上げ  
一歩先のステージへ～  
来年度、義務教育学校への  
移行を視野に入れた集団に成長できるように。

## 他校へのアドバイス『キーワード：生徒指導体制の確立』

### ◇生徒指導規程の徹底

- ・生徒指導規程に沿った、ぶれない指導とやりきらせる指導を教職員が共通認識のもと徹底して行う。

### ◇報告・連絡・相談・確認体制の徹底

- ・週1での生徒指導部会と日々の報告・連絡・相談体制を徹底する。さらに生徒指導主事が確認を徹底して行うことにより、縦と横の連携体制を確立させる。

校番	44	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	黒瀬高等学校	校長	馬屋原幸孝	生徒指導主事	三村勝彦
-----	--------	----	-------	--------	------

**取組事例名** 『体育祭準備』

**取組のねらい** 『リーダー育成』

黒瀬高校は、「荒れ」と言われていた時代を持ち直し、近年は問題行動も極端に少ない落ち着いた高校へと変化していった。今後は、地域社会の問題解決や発展のために尽力する人材を多く輩出する学校へと進化していかなくてはならない、そのためにはあらゆる機会を通じて人をまとめることの出来るリーダーを育成していくことが必要と考えた。

**取組の具体的内容** 『生徒会の自立』

生徒による主体的な活動を発信する場所はやはり生徒会であろう。この発信元が「やらされている」感を持つと、学校全体がそのような雰囲気になりかねないので、生徒会会議を重ね意識の変化を促し自立へとつなげた。



☆生徒会会議の様子

**取組の課題・創意工夫** 『黒高レンジャーを活かす』

本校では、「黒高レンジャー」というボランティアグループがある。挨拶・美化・掲示・地域・花・旗掲揚など仕事別にグループ化されており、約 100 名が参加している。

この活動内容は生徒自らが企画・立案し、実践、振り返りを行っており、そうしたノウハウを生徒会が学び取り入れた。



☆レンジャー光景

## 取組の成果（効果）『主体性の向上』

体育祭は学年対抗という変則的な形をとっている。まずは、各学年を取りまとめるリーダー育成を目的としている。各学年を学年リーダーがまとめ、最終的に全校を生徒会がまとめていくことによって、役割分担が明確になった。また、係りにおいてもリーダーを生徒会が任命することで、より主体性が向上した。

その結果、体育祭前日には生徒自らが行進練習を提案し実行したり、リーダーからの講話も行われた。こういった変化は本校においてはとても革新的であり、生徒が自ら学校の変化を促している証と考える。



☆リーダーを先頭にした行進練習

## 今後の展開『リーダー育成の発展』

本校においては「リーダー育成」ということは非常に難しい問題である。成功体験をあまり持ちえない生徒が多いため、自信を持って誰かに語りかける、大きな声を出すといったことが苦手な生徒が多い。そういったことから、成功体験への導きが今後の課題となる。また、フォロワーとしての役割なども理解させ、一つの目標に向かってリーダーを中心として、個々が役割を果たし充実感や自己存在感を獲得させることを考えていきたい。

## 他校へのアドバイス『信じてやらせる』

このキーワードは昨年からのものですが、黒高レンジャー、学校行事等において、随分チャレンジする姿勢が見られていたように感じます。生徒には、『当たり前のこと+1をした時に人は多きく成長する。その結果については素直に受け入れる。』講話の機会を捉えて常に伝えていきます。このことは、進学にも大きな変化を見せて、進路に対してチャレンジする姿勢が見られるようになりました。放課後も暗くなっても学習する三年生が増え、その結果、国公立大学へ2名が合格しました。そういったリーダーとしての姿が下級生への何よりのメッセージとなっています。

# 学校行事

旅行・集团宿泊の行事

指定校番号	28020	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀山小学校	校長	宮本 眞弥子	生徒指導主事	長尾 圭一郎
-----	-----------	----	--------	--------	--------

**取組事例名** 5年生『力を合わせて、全員で（福王寺）遠足をクリアしよう！！』

**取組のねらい**『キーワード 現状把握 + 一步踏み出す』

第5学年は、学年目標を『5（5分前行動）go（自ら行動する）合（力を合わせる）』と決めて、全ての行事の根底にそれを当てはめながら、様々な活動をクリアしてきた。その中で、5月上旬の「福王寺遠足」では、7月の中旬に行われる野外活動での「男三瓶登山」を意識させ、「全員で登山をクリアするための一歩である」と位置づけた。そのために、それぞれが、去年からの自分を振り返り、あと一歩足りないところを考えた。**（現状把握）**その後、それをふまえて、この遠足でどう頑張るか、参加の仕方も含めて、一步踏み出すための「チャレンジ遠足」とした。

**取組の具体的内容**『キーワード 違いを知る + 全員でクリア』

5月上旬の「福王寺遠足」は、7月の中旬に行われる野外活動での「男三瓶登山をクリアするための一歩である」と考え、①自分の力（現状把握）を見つめ直し、②一步踏み出す遠足（チャレンジ）という位置づけとなった。さらに、それらを発表する中で、登ることや登校すらもしんどい児童（仲間）がいることを知り（違いを知る）、③力を合わせて、クラス全員で福王寺遠足をクリアしようということとなった。

**取組の課題・創意工夫**『キーワード 綿密な事前連携（保護者、ふれあいほか）』

第5学年の中には、教室に入れず、（去年は「ふれあい教室」すら入れなかったが）「ふれあい教室」で授業を受けている児童もいた。そこで、担任や学年団、生徒指導主事は、その児童も含めて、いかに全員でクリアできるかを当該児童及びその保護者、ふれあいの先生たちと何度も連携を行った。そして、当該児童に様々なプランを提示し、スモールステップで目標をクリアしていきつつ、「本人が何とか自分で頑張る」というよい雰囲気の中で遠足前日を終えることができた。

**取組の成果（効果）**『キーワード 限界を超える』

ところが「遠足当日」になると、当該児童は、お腹が痛くなり、何度もトイレに行き、「お母さんと行く」と言い出した。しかし、事前にそのような事態も想定しておいたので、母親と作戦通り、当該児童を頑張らせることができ、「しんどい」「はく」を連発しながらもなんとか福王寺登頂を達成することができた。本人曰く、「人生で一番しんどかった。」「限界を5回以上超えた。」と言っていたが、帰りの歩きや母親と会った時には、とてもいい顔をし、達成感に満ちあふれていた。



また、当該児童のがんばりの影響で他の「ふれあい教室」の児童も遠足に参加できるなど、学年団の教員が上手に広報してくれたことで

第5学年の他の児童にもよい影響（それぞれの限界を超える）があった。

## 今後の展開『キーワード 個のがんばり→集団での助け合い』

第5学年の学年団の教員は、厳しく「個のがんばり」を要求し、それに児童たちもしっかりと応えてきた。そして、次の「野外活動の男三瓶登山」では、それにプラスして、「集団での助け合い」の必要性を説き、学年全体で頑張ることができた。結果的には、全員が山頂達成という訳ではないが、それぞれの目標を何とか達成し、それに対する他の児童の助け合いなども見られるようになってきた。

10月に実施した運動会の集団演技などでもその成果が見られ、学年団としての成長も感じることができた。



## 他校へのアドバイス『キーワード 様々な特別活動を仕組む』

小学校の良い所は、様々な行事や活動がたくさんある所だと思う。クラスには、不登校だけでなく、様々な状況の児童が在籍しているが、その様々な児童をその活動のどこで生かすことができるかという視点で見ることができれば、普通の遠足でも、本人にとっては大きな達成感をもつことができると感じる。(実際に、その当該児童は、昨年、観客席からの参加であった運動会にも、児童席で参加し、いくらかの種目と係活動に参加することができた。) また、様々な児童に「できた」という達成感を持たせるために、我々教員は、より積極的に様々な特別活動を仕組んでいくという視点がとても大切であり、そのステップこそがセンスであり、だからこそ、日頃の子どもの見取りや保護者との連携が大切になってくるのではないかと感じる。

校番	50	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立河内高等学校	校長	西山 光人	生徒指導主事	井上 健二
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『遠足を通じた仲間づくり』

**取組のねらい** 『キーワード 協力と自己の責任』

遠足(2年生校外学習)のプログラムに「野外炊さん」と「プロジェクトアドベンチャー(課題解決ゲーム 以下P A)」を取入れ、他を思いやり、助け合う気持ちの大切さを醸成するとともに、自己責任感を育成する。

**取組の具体的内容** 『キーワード 課題と取組の一致』

本校では、年度初めに各学年がそれぞれ校外学習を実施している。実施場所は、1年生は禅寺、2年生は備北丘陵公園、3年生はしまね海洋館(アクアス)が数年来定着していた。

しかし、2年生の場所は天候に左右されやすく、移動距離や現地での活動内容等に課題があった。そこで3年前に、場所にこだわることなく、天候に左右されずかつ研修内容が生徒の学校生活に生かされるものとする方向で検討した結果、福山青少年自然の家でのプログラムを活用することとなった。

「P A」では、複数人で手をつないだ状態で座り、互いの足先をつけ、いかに立ち上がるかを競う『トラストアップ』やフープを1つ入れて全員で手をつなぎ、全員がフープをくぐり抜けて同じ輪にする『魔法の鏡』など、チームでの協力や話し合いが必要なゲームを行った。生徒は知恵を出し合い、また上手くいかないときはさらに考え、成功したときは大きな歓声が上げていた。

「野外炊さん」ではカレーを作った。薪運び、食器の準備等を班内で分担しながらの作業となった。薪に火をつけることはもちろん、飯盒で米を炊くことが初めての生徒も多く、貴重な体験となった。皆で作ったカレーは屋外で食べることで一層美味しかったようだ。



みんなで相談中



「せーの」



「うまく炊けるかな？」



美味しそうなカレーの出来上がり

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 協同と仲間作り』

本校生徒の学校生活のつまずきには、人間関係のトラブルによるものが決して少なくない。相手の気持ちを读まない、読めないことに加えて表現力の不十分さから人間関係が上手く作れない生徒が多く、これは本校の課題の一つである。校外学習の目的は一言でいうなら『協同』を通しての仲間作りである。PAは互いに課題を解決していこうとする協力の意識がなくしてはできず、野外炊さんも準備・片付けなど、助け合いや自己責任の態度が必要であり、このプログラムは人間関係を作る上で非常に大きな意義があった。

### 取組の成果（効果）『キーワード 楽しいが基本』

遠足終了後、生徒にPAとカレー作りに分けて感想を書かせた。PAに関しては「協力し合えた」「できて楽しかった」「面白かった」などの肯定的な感想が約68.8%で、カレー作りに関しては「協力して楽しくできた」「火おこしが楽しかった」「なかなかできない体験だった」などの肯定的な感想が83.3%であり、数値的には取組の成果はあったと言える。

### 今後の展開『キーワード 非日常の経験と仕組むこと』

カレー作りの感想の中に「今度はカレー以外の料理を作ってみたい」というものがあった。これは屋外でのカレー作りを通して、仲間意識や連帯感が生まれたことに対する達成感や充実感の表れであろう。

校内の調理教室を活用して班ごとで何か料理するという活動も考えられる。しかし、「屋外」「薪」「飯盒」などの非日常的な要素に生徒が魅力を感じていることを考慮して、できれば3年間うちにもう一度、いわゆる野外活動を経験させてやりたいと考えている。

PAでは、ファシリテーターの存在が非常に大きい。PAの進行には集団の把握、声かけ、的確な指示など瞬時の判断と対応力が求められる。本校はリーダーシップを取れる生徒が少なく、どちらかと言えば受動的な態度の生徒が多い。しかし、そういう集団だからこそ、協力してできたときの喜びが大きく、発言や自分の考えを出せるチャンスがあり、またそれを引き出すのがファシリテーターであると言える。

社会や生徒の多様化に伴って、教職員には益々生徒対応力が求められる。生徒指導や個別指導に対してはカウンセリングの技法も必要であるし、集団作りではファシリテーターとしての技術も求められる。またその技術の発揮が、リーダーの育成にもつながると思う。

### 他校へのアドバイス『キーワード 「例年通り」からの脱却』

遠足は、学校から離れる解放感、貸し切りバスでの移動や景勝地での観光など、生徒にとって楽しい学校行事の一つである。観光の要素は否定しないが、その目的地や内容については、学校の創意や教育的識見を生かして計画立案することが必要である。

従前の本校では「例年通り」で場所が決定されていた。しかし、安易に例年通りとすることは、行事を行事化することになる。候補地の選定や経費等の検討などを新たに行うことは多少の煩わしさがあるが、行事の意義・目的を学校や生徒の課題と照らし合わせて常に見直し、進化や改善を伴うものにすべきである。

# 学校行事

勤劳生産・奉仕の行事

指定校番号	28049	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台西小学校	校長	市川 洋	生徒指導主事	大久保 真人
-----	--------------	----	------	--------	--------

**取組事例名** 『阿品台クリーン活動』

**取組のねらい** 『キーワード人間関係作りと自己有用感』

- ・数年後の中学校生活を踏まえ、他校種の児童生徒との人間関係づくりを図る。
- ・奉仕の心や自己有用感を育てる。
- ・自分たちが生活している地域に愛着を持たせる。

**取組の具体的内容** 『キーワード地域に愛着を』

事前指導

- ・小学生はクリーン活動のねらいと活動について知り、どのような気持ちで臨むかを考え、活動の準備をする。小学生の代表はあいさつの内容を考える。
- ・中学生は開会式・閉会式の進行、グループ活動の進行の仕方を学び、小学生とどのように活動していくかを考える。

クリーン活動

- ・小学校に集合し同じグループで顔合わせをする。簡単なオリエンテーションをしてお互いの顔と名前を覚える。
- ・それぞれの掃除場所へ移動して、中学生のリーダーシップのもとに清掃活動をする。

事後指導

- ・3つのねらいをもとに活動の振り返りをして、お互いの感想文や手紙などで交流する。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード中学生が主体となって』

創意工夫

・会の運営は中学生が主体的に行う。開・閉会式の司会進行は中学生がする。グループ活動では、中学生のリーダー、副リーダーがグループをまとめ、オリエンテーションをしたり清掃活動の指示をしたりする。中学生はグループでオリエンテーションをするときに、どのように自己紹介するとお互いのことが分かり合えるかを考えたり、清掃も中学生と小学生のペアやグループを作ったりと工夫した。



- ・クリーン活動は1学期に1回、2学期に1

回あるが、最初は中学2年生と小学6年生が行い、2回目は中学1年生と小学5年生が行う。このペアは来年、再来年に中学1年生と3年生として同じ中学で生活することになる。しかし、今年度は1学期のクリーン活動が雨のために中止となり1回しかできていない。

取組の課題

- ・3校の児童が集まる機会を年に何度も設定するのが難しい。1回の活動も阿品台西小学校が少し離れたところにあるので、移動時間がかかりかかるため活動時間が正味1時間くらいしか取ることができない。

### 取組の成果（効果）『キーワード自己有用感』

・中学生が出身小学校に来て、後輩と一緒に掃除をしたり、掃除を教えたり、リーダーシップを発揮することで、自分の成長を感じ、自己有用感を高めている。活動後に後輩からありがとうのメッセージや手紙を受け取り、さらに自己有用感を高め、自信をつけている。

・中学2年生と小学6年生と一緒に活動する中で、入学後の部活勧誘の話をする中学生がいたり、誘われた小学生も中学での知り合いが一人増えて、入学後の安心感にもつながったりということが例年よく見られる。小学生からも中学校の疑問なども聞くことができる。



### 今後の展開『キーワード活動の広がり』

・中学生が主体となって、小学生と一緒にできる活動を工夫して、さらに広げていきたいと考えている。9月に中学3年生が出身小学校に出向き、掃除と一緒にして、掃除の仕方を教える出前掃除を実施した。オープンスクールでは、小学6年生に中学生が部活の体験をさせてくれている。2月の入学説明会では生徒会が中学校生活について話をしてくれる予定になっている。以前は授業の交流も実施したことがあるのでそのことも今後検討していきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード定例の活動にする』

・阿品台クリーン活動は阿品台3校が不登校対策指定校になってからずっと続けられている。10年間の積み重ねは大きく、毎年必ず行う行事として定着している。児童・生徒も行うことが当然と思っている。ここ数年は地域の方や保護者も参加し（今年度は10名）、活動の幅が広がっている。

指定校番号	28071	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立古田中学校	校長	福本隆寿	生徒指導主事	龍田将登
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『ふれあい地域清掃活動』の取組

**取組のねらい** 『地域交流で豊かな心を育む』

- 清掃活動を通して、生徒・保護者・教職員・地域指導者等の相互の交流を図る。
- 美化意識の高揚を図るとともに、勤労・奉仕の精神を培い、豊かな心を育む教育活動の一環とする。

**取組の具体的内容** 『小中連携・地域連携』

- 中学校の生徒、保護者に呼びかけてボランティアを募り、校区の4小学校において行われる地域清掃活動に参加した。
- 昨年度までは、古田中学校において行う「ふれあい地域清掃活動」を、古田小学校と合同で行い、清掃活動を通して、小中連携、地域連携を行っていた。本年度は、昨年度と同様の活動と合わせて、生徒が自分の出身小学校に帰り、地域清掃活動を行う取組に広げて実施した。
- 実施については、広島市環境局業務第一課美化係のクリーンボランティア支援事業に申し込み、清掃用の軍手・ゴミ袋の提供、ごみの収集について支援を受けた。  
この取り組み方法は、生徒指導主事が各小学校に情報提供し、校区の4小学校区のうち、高須小学校区取組において、同じ方法で支援を受けている。
- 清掃ボランティアは、文書で生徒、保護者に呼びかけ、古田中・古田小学校区では197名、古田台小学校区では50名、山田小学校区では17名、高須小学校では56名の生徒・保護者が参加した。



**取組の課題・創意工夫** 『ふるさとをきれいに』

- 出身の小学校区に帰って活動することについて、生徒には、「ふるさとをきれいにする」という意識を持たせるようにした。
- 生徒の活動の様子については、すぐにホームページに掲載し、地域や家庭で評価してもらえるように工夫した。

**各地域清掃に参加させていただきました！**  
12月6日

今年度の各小学校区の「ふれあい地域清掃」が終了しました。

(古田台小学校区 10月2日(日) 古田学区 10月29日(土)  
山田小学校区 11月19日(土) 高須小学校区 11月26日(土))

今年度初めて全学区において、本校生徒の参加募集をお願いしましたが、多くの生徒が参加してくれ、どの地域清掃も一生懸命がんばってくれたとおほめの言葉をいただきました。また、4地区全てに参加してくれた生徒もいて、本当に感心しました。  
これからも中学校として、地域貢献できる機会を増やしていきたいと思えます。  
地域・団体の皆様、お世話になりました。これからもご指導・ご助言のほど、よろしくお願いたします。

参加してくれた生徒のみなさん、本当にありがとう！！  
すばらしい気持ち・行動に心から感謝します！！

【学校生活】 2016-12-06 12:32 up!

### 取組の成果（効果）『自己肯定感の高まりと学校生活での活躍』

- 古田小学校区以外の小学校での清掃活動には初めて参加したが、地域の方から、「このようにたくさん子どもたちが参加してくれたのは初めてだ。ありがとう。」「地域が盛り上がってうれしい。」などの言葉を生徒にかけていただき、評価していただいた。一部の生徒は、自分の出身小学校区以外の地域清掃にも参加をしている。また、全ての地域の活動に参加した生徒もいた。
- このような生徒が学校生活の中でも中心となり、自ら進んで奉仕活動をする雰囲気を作っている。全校生徒対象の学校評価アンケートでは、「清掃活動において、自分の分担を落ち着いた態度で行うことができた。」の項目において肯定的な評価をした生徒が、7月には76.7%であったが、11月には83.7%に増えている。
- このことが、基本的な生活習慣に関わる項目において、肯定的評価をした生徒が、時間を守ることに6.4%、教室環境整備について0.5%、身だしなみを整えることについて3.0%増加したことにつながっていると考える。
- さらに、わずかではあるが、「古田中は生徒がつくる学校であると思う」の項目の肯定的評価が0.4%、「学校に来ることが楽しいと思う」の項目の肯定的評価が2.2%増加したことにも、つながっていると考える。
- 生徒が自ら進んで参加の意思決定をし、仲間とふれあい夢中になって清掃活動に参加したことが、地域で評価された。このことが参加生徒の自己肯定感を高め、学校生活での活躍につながっていると考える。

### 今後の展開『関係づくり』

- 本年度の取組は、中学校での単独の清掃活動を、校区の4小学校区に広げるものであった。生徒の積極的な参加を評価していただくことにより、生徒の豊かな心を耕すという観点で一定の成果があった。
- 今後は、地域との交流、小中の交流をより深められるような手立てを考え、さらに生徒が地域を愛し、地域からは頼りにされるような関係づくりを進めていきたい。

### 他校へのアドバイス『清掃活動の良さ』

- 清掃活動は、どの生徒もやり方が分かっている、「きれいになる」という成果が目に見えてわかりやすいという特性がある。
- 地域や小中の交流を深め、生徒の豊かな心を育むために、清掃活動は非常に有効な活動であると感じている。

指定校番号	28072	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立落合中学校	校長	小島 健作	生徒指導主事	高橋 秀昌
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『スーパーキラキラ大作戦』**

**取組のねらい『共感的人間関係の構築』**

- ・小中学生と一緒に活動しふれあいと心の交流を深める。【共感的人間関係】
- ・中3には小学生をリードする行為で自己有用感が高まることを期待する。
- ・小学生は中学生のサポートに感謝と親近感を抱くことを期待する。

**取組の具体的内容『小中連携プロジェクト、地域清掃活動』**

- ・中3と小3・4が小グループをつくり、地域のゴミ拾いをする。
- ・事前に小中各校でグループをつくり、組み合わせる。  
(真亀小 10 グループ 落合東小 18 グループ 落合中 28 グループ)
- ・事前に考えたゴミ拾いルートが中学生がリーダーシップをとって引率する。
- ・集合・解散は、各小学校グラウンドで行う。
- ・安全面での配慮をする。(教員の巡回、保護者への協力依頼など)



**取組の創意工夫『笑顔キラキラ町はピカピカ』**

- ・このスーパーキラキラ大作戦は、9年前に真亀小の子が町をきれいにするために「落合中学校のお兄ちゃんお姉ちゃんたちの力を貸してほしい」と頼みにきたことから始まりました。一緒にゴミ拾いや一緒に遊ぶことが、とても楽しかったと小学校の子ども達が喜んでくれました。今年で8回目ですが、小学生がとても楽しみにしてくる一大イベントとなっています。
- ・両小学校の子どもたちと一緒にする唯一の行事となりました。
- ・児童に中学校入学後のビジョンを持たせることで、いわゆる中1ギャップを解消し、円滑に中学校生活に移行できるようにするため、児童と生徒の交流を深めるように仕組む。
- ・町をきれいにするを通じて、勤労・奉仕の態度を養うとともに、中学生が、小学生の見本となることで、自己存在感を感じることが期待される。



**取組の成果（効果）『小学生も中学生も安心感をもてるように！』**



- ・地域の美化ボランティア活動として、落合中学校区にアピールすることができた。
- ・スーパーキラキラ大作戦の目的と清掃計画を知り、生徒自ら地域清掃活動計画を考えることができた。
- ・スーパーキラキラ大作戦で小学生と仲良くする術（コミュニケーションスキル）を身に付けることができた。
- ・事前に小学生が挨拶に来て、事後には、関わった小中学生が書いた「感謝の手紙」の交流ができた。

感謝の手紙」の交流ができた。

## 今後の展開『色々な行事で小中交流を推進する！』

スーパーキラキラ大作戦を皮切りに、毎年ではあるが地域のフレンドリーコンサート（落合中学校区の保育園から高校までの音楽発表会）・落合中学校合唱祭に行う3年生全体合唱の小学校での出前合唱などを行い、交流している。また、夏休みに小学生1・2年生の宿題のお手伝いとして、「サマースタディーサポート」のボランティアを行っている。今後もこれらの取り組みを推進していき、共感的な人間関係の確立と中学生の自己有用感を持つことのできる取組を進めていきたい。

## 他校へのアドバイス『小学校との事前打ち合わせをしっかりと！』

- ・スーパーキラキラ大作戦は、小学生と共に地域に出向いて清掃活動をするので、安全面を考慮して事前に打ち合わせを丁寧に行うことが大切です。また時間設定も無理のないように、小学生が集中して取り組めるように授業時間と合わせて行動できるように配慮することも大切です。



指定校番号	28075	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立国泰寺中学校	校長	三浦 義之	生徒指導主事	小田 実
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『あいさつ運動～ふれあい地域美化活動』

取組のねらい『小学生に安心感をあたえる』

「あいさつ運動」

- ・中学生が小学校に出向いてあいさつをする姿を見せることを通して、小学生に中学校入学に対する希望と安心感をあたえる。
- ・中学生に、学区の一員として生活を正しているという自覚と責任感を持たせる。

「ふれあい地域美化活動」

- ・児童生徒、保護者、地域住民が一つになって地域の美化活動を通し、ふれあいを深めるとともに、美しい環境を大切にする心を育てる。

取組の具体的内容『一つになって』

- ・中学生が4小学校に出向いて、朝のあいさつ運動に参加する。



- ・学区4小学校・1中学校にて、「あいさつ運動の標語」を募り、各校での最優秀賞を決定する。
- ・各校では、5名の最優秀標語をラミネートし、校内数カ所に掲示する。
- ・児童生徒、保護者、地域住民が一つになって、地域の美化清掃を行う。空き缶やゴミ拾い、危険な場所などの把握を行う。



国泰寺中学校区あいさつ運動

平成28年11月1日(火)～11月10日(木)

あいさつの輪を学校・地域に広げよう!

児童生徒の「あいさつ標語」の優秀作品

さあ開けよう 心のトビラ 一言で	少しだけ 勇気を出して 自分から	あいさつは 地域をつなぐ かけ橋だ	あいさつで みんなの心が ほっこりと	あいさつで つながる人の輪 元気の輪
国泰寺中学校 三年 梅垣 凌雅	本川小学校 六年 綾岡 栄喜	千田小学校 六年 歌谷 智葉	竹屋小学校 六年 中川 一志	森町小学校 五年 吉家 里々夜

### 取組の課題・創意工夫『地域が一つになって』

「あいさつ運動の標語」の最優秀賞を受賞した児童・生徒を「ふれあい地域美化活動」の閉会式にて表彰する。閉会式には、児童生徒、保護者、地域住民、教職員が参加する。



### 取組の成果（効果）『希望と安心感』

- ・小学生とともに活動することで、小学生にとって中学校への入学に対する希望と安心感をあたえることができた。
- ・中学生には、先輩としての自覚ある行動、リーダーシップを発揮する場となり、自己存在感を高める機会となった。

### 今後の展開『仕組む』

- ・中学校で行う小学生の部活体験や出前授業（中学生が小学校に出向き、中学校紹介を行う）など、小学生との関わりをどんどん仕組んでいき、中学校を身近に感じさせていくとともに、中学校への入学に対する希望と安心感をあたえる。
- ・地域、保護者が中学生を見かけたときに、声をかけて頂ききっかけづくりと捉え、生徒が今後も地域の行事等に積極的に参加していける仕組み作りを進めていく。

### 他校へのアドバイス『生徒の自主性』

地域ぐるみの様々な行事での準備や打ち合わせ等は、地域の方・保護者・教員が中心となって行うが、当日の進行は、中学生に任せている。

そのため、中学生は生徒会が中心となって、自分たちの手で運営が出来るよう、自分たちの言葉で司会台本を作成したり、清掃用具の準備をしたり、当日の進行もしっかりこなすなど、自主的に動けるようになっていた。当日の進行は、とても立派なものであった。



指定校番号	28107	学級活動		児童会・生徒会活動		学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	--	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立高宮中学校	校長	佐々木 生祐	生徒指導主事	北村 清
-----	-------------	----	--------	--------	------

**取組事例名** 『お年寄り訪問』

**取組のねらい** 『キーワード 優しさ』

- 1 ボランティア活動を通して、「自分のしたことで人が喜んでくれた」「人の役に立つことができた」という喜びや達成感を持たせる。
- 2 お年寄りとのふれあいから、豊かな経験や生き方を学びよりよく生きていこうとする生徒を育てる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 知る』

- 総合的な学習の時間の学習課題に沿った内容でボランティア活動を行う。
- (1年…地域の高齢者に係る課題 2年…地域の活性化に係る課題 3年…地域の福祉に係る課題)
- 1 開催要項の作成
  - 2 生徒及び職員実行委員会結成・計画への周知
  - 3 社会福祉協議会との連携
  - 4 75歳以上の1人暮らしのお年寄り訪問希望者を募る(往復葉書きを活用)
  - 5 第1回グループ会議(訪問計画の作成・訪問先へのはがき・留守宅用の手紙を書く)
  - 6 掃除用具・プレゼント等の準備
  - 7 前日の準備(準備物の確認)
  - 8 出発式
  - 9 訪問先での活動
  - 10 第2回グループ会議(振り返り…感想文, 掲示用の感想文, お礼のはがき)
  - 11 定時

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 配慮』

- 取組の課題
- 1 年々、訪問する家が減少傾向にある。
  - 2 受け入れる側(お年寄り)の気持ちの中に、掃除や中学生との会話は楽しみであるが、訪問されるという緊張感、気遣い等の精神的な負担により、訪問希望が減少傾向にある。
- 取組の創意工夫
- 1 総合的な学習の時間で学んだことをお年寄り訪問の体験で生かしている。
  - 2 社会福祉協議会の職員や民生児童委員さんのアドバイス、サポートにより、中学生が活動しやすくなっている。

**取組の成果(効果)** 『キーワード 感謝』

- 1 中学生にとってお年寄りと接する機会が少ない中で高宮町の高齢者の実態を知り、訪問を通してお年寄りとの接し方やコミュニケーションのとり方を深く学ぶことができた。
- 2 人と優しく接することを身につけた。
- 3 お年寄りのニーズを理解して活動をしていた。
- 4 生徒の感想文より90%を越える生徒の満足度、感謝の気持ち等、学習の成果をみることができた。

**今後の展開** 『キーワード 工夫改善と継続』

- 1 現在の実施方法を改善しつつ、継続して行う。
- 2 各教科、領域との関連を整理し、学校生活全般の中で、人との接し方、優しさを考え、身につけさせる。

**他校へのアドバイス** 『キーワード 高齢者とのふれあい』

機会をとらえて、高齢者とのふれあいがもてる活動を仕組んだらよい。

# 平成 28 年度 高宮中学校「お年寄り訪問」 活動の様子

## 民生児童委員さんを迎えての出発式



## お年寄り訪問による活動（清掃活動）



## お年寄りとのひととき



訪問させていただいたお家から  
お手紙をいただきました！

まとめを掲示・振り返り

### 生徒作文 一部抜粋（『お年寄り訪問を終えて』）

お年寄りの方のお話を聞く中で感じたことが2つあります。1つは、お年寄りの方は、とても元気だということです。声も大きく、笑顔が絶えず、お話の絶えない方でした。お話を聞いて私も元気をもらうことができました。もう1つは、私達は周りに支えられていることを実感しました。それは、親戚の方が心配をして様子を見に来られたり、ヘルパーの方が、ご飯を作っているのを見ました。

今回感じたことを、今後の生活に活かし、周りの方々を大切にしていきたいと思います。



指定校番号	28109	学級活動		児童会・生徒会活動		学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	--	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷中学校	校長	原 克幸	生徒指導主事	赤松 智樹
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『本郷中校区クリーン活動』

**取組のねらい** 『キーワード 地域貢献』

- ・奉仕活動を通し、自分たちが住んでいる地域を理解することや感謝の心を育む。
- ・地域の方に気持ちのよい挨拶をし、ゴミ拾いや掃除をすることで、地域の一員であることを再確認する。
- ・ゴミ拾いや掃除をすることで、環境を守ろうとする気持ちや、「できることをしよう」というボランティアの気持ちへの理解を深める。

**取組の具体的内容** 『キーワード 主体的活動』

- ・本郷中学校校区、各地域の公園等の施設に拠点を置き、公園等の施設およびその周辺を清掃する。
- ・生徒の住所をもとに全校生徒を12の縦割り班にし、リーダーと担当教員を決める。
- ・リーダー会を行い、それぞれの班の中で小グループをリーダーが決め、清掃ルートを決める。
- ・前日に各地域で事前ミーティングをし、清掃グループのメンバー・清掃ルートの確認を行う。
- ・当日はリーダーの司会で運営を行う。
- ・ゴミを生徒自身が分別する。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 地域との連携』

(課題)

- ・道徳の地域公開と同じ日に行うので地域貢献と関連した授業内容ができれば良かった。
- ・リーダーの中に異学年を入れて取組を行う。
- ・活動を発表する場面設定。

(創意工夫)

- ・掃除道具(ひばさみ)を生徒全員分用意し、清掃したことで積極的にゴミを拾うことができた。
- ・主体的な活動となるよう、班の中での小グループや清掃ルートをリーダーに決めさせた。

**取組の成果(効果)** 『キーワード 奉仕の心の育成』

- ・地域貢献の意識が高まった。
- ・地域の方から、お礼の言葉を頂いた場所もあり、地域の方とコミュニケーションが図れた。
- ・道徳地域公開と兼ねて取り組むことができた。

【学校評価アンケート結果(全学年)】

- ・誰かのために役立っていると感じるときがある。または、将来、誰かの役に立つことができると思う。  
72% (7月実施) ⇒ 76% (12月実施)
- ・地域の行事やボランティア活動に参加している。  
50% (7月実施) ⇒ 62% (12月実施)

以上のアンケート結果から、肯定的評価を上げることができたと言える。また、地域のボランティア活動に自主的に参加する生徒も現れ、学校での活動が生活に生かすことができている。

来年度は、保護者・地域の方と共に活動を行うことにより、より一層生徒の充実した活動になるように取り組んでいく。

## 今後の展開『キーワード 創意工夫』

- ・生徒の意見を取り入れ、より一層主体的な活動になるようにしていく。
- ・保護者や「本郷中学校を支える会」など地域の方々と連携し、地域協働を意識した活動となるよう工夫する。
- ・地域貢献と関連した授業内容（教材）の開発を研究する。
- ・活動の回数を増やすことを検討する。
- ・小中合同で開催を検討する。
- ・活動の発表の場を設定する。

## 他校へのアドバイス『キーワード 細かい指導』

- ・事前計画、打ち合わせなど細かい指導を行う。
- ・校外で生徒が頑張っている様子を見てもらうことで、地域の方からの信頼を得る。

## 活動の様子



校番	95	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立福山商業高等学校	校長	中原 朗	生徒指導主事	高橋 利宜
-----	--------------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『インターンシップ』**

**取組のねらい『社会人基礎力の向上』**

2 学年の全生徒がインターンシップに参加することにより、様々な業種における就労体験等をおし、進路意識を向上させるとともに、望ましい職業観を養い、勤労観の醸成を図る。

**取組の具体的内容『生徒の自主性、主体性を育む』**

7 月上旬の 3 日間、福山市内の 100 以上の事業所等においてインターンシップを実施している。就労体験先を決定するに当たっては、生徒が自らの進路希望と照らし合わせ、希望する分野の事業所等を自分で探し、自ら電話等により連携をとることで、生徒の自主性・主体性を育むことを目指している。

実際に、進路意識の高い生徒に対してはもちろん、進路意識が比較的希薄な生徒についても、自分自身を深く見つめ直し、将来のなりたい自分について考え、自分自身で行動する機会となっている。



### 取組の課題・創意工夫『生徒の自己開拓と教師の支援』

生徒が実習先と連携するための事前指導として、相手先に失礼等がないよう、言葉遣いやメモ等について十分に指導するとともに、連携の際には、必ず教職員が傍に付き添い、生徒に連携をとらせている。

また、実習中は、教職員で分担し、全事業所を訪問し、生徒の様子について把握するとともに、今後の求人状況についても連携をとり、就職先の新規開拓にもつなげている。実習後の事後指導として、礼状の作成、成果発表会等を実施している。

課題としては、行事計画等の見直しを進め、他の学校行事等とのをさらに深め、教育効果をさらに高めていくことが挙げられる。

### 取組の成果（効果）『進路意識の向上』

生徒の資格取得率が向上し、今年度は3年生の全生徒が何らかの資格を取得することができている。また、高度資格取得や全国商業高等学校協会主催の検定試験1級を複数取得している生徒も年々増加してきている。

就職内定率も向上しており、早期に就職内定を受ける生徒の数も増加している。就職希望者は、早くから就職に向けての行動をとり、今年度は、9月16日からの就職試験に98.7%(昨年度95.28%)の生徒が受験し、内定率は84.0%(昨年度69.5%)であった。

### 今後の展開『文化祭等の学校行事のさらなる充実』

インターンシップを充実させることにより、生徒が校外で活躍する場を提供し、その姿を地域社会にアピールすることができている。今後は、文化祭等で販売実習を実施するなど、地域の方々を積極的に校内に招き入れる場を設け、本校が地域からより愛される存在となるよう、教育活動の有機的なつながりを深めたい。

### 他校へのアドバイス『全員参加』

数年前は、インターンシップは全員参加体制をとっておらず、多くの生徒が実習に参加せず、学校に残って自主学習をせざるを得ない状況があった。実習に積極的に取り組む生徒より、実習に消極的で、学校に残る生徒への指導に多大なエネルギーが必要であり、また自主学習中に問題行動が発生することさえあった。

全員参加体制を整えることにより、上記の事象がなくなるとともに、生徒同士の絆が深まったり、進路意識や所属感が高まるなど、学校生活をさらに大切にしようとする気運が高まっている。